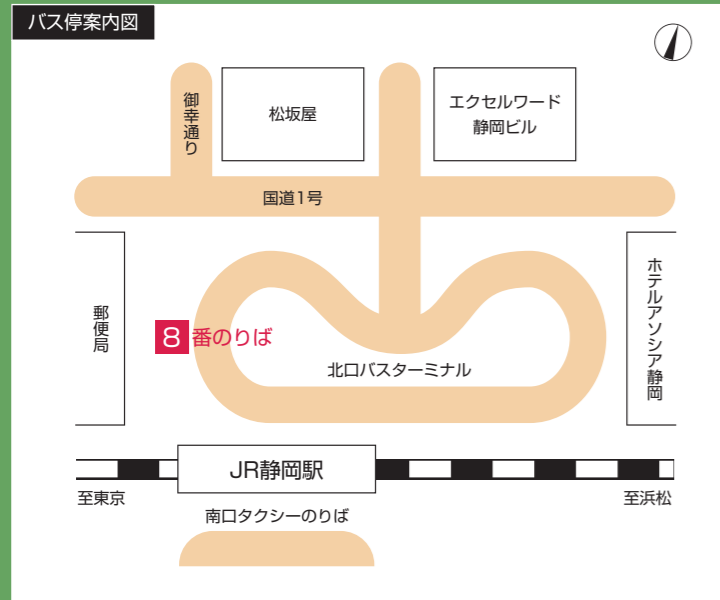
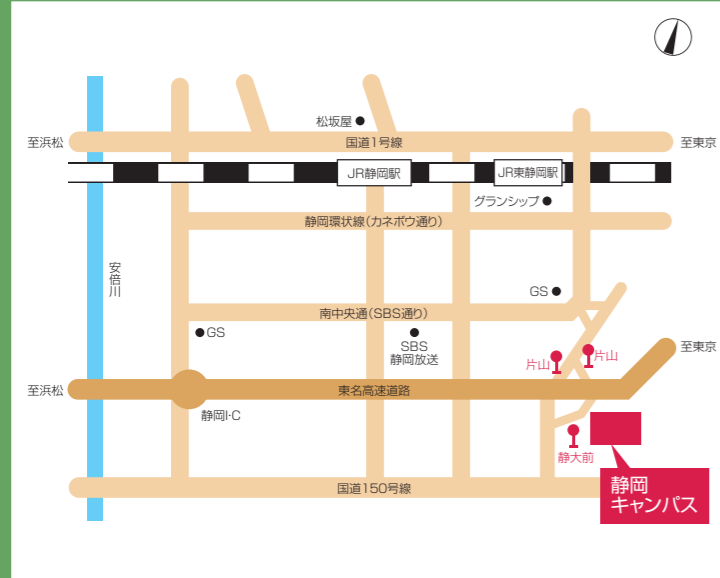


■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



1. JR静岡駅北口しずてつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静大前」または「片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5～7本運行)。※静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静大前」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」バス停は2ヶ所ありますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。

2012年度前期

静岡大学市民開放授業

授業内容(シラバス)

2012年度前期 静岡大学市民開放授業 授業内容(シラバス)

授業内容の見方

- 1 項～1 1 項 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
- 1 2 項～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られたものをそのまま掲載しています。

難易度
授業内容に応じて、A・B・C・Dの4段階に区分しています。詳しくは2ページを参照ください。

授業の目標
学習内容
授業計画
これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のこと。
会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号。
受講申込書や払込取扱書などに記す番号です。

授業科目	ドイツ語A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟422	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	後期	必修選択区分	選必
対象学年	1年,2年	● 難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法の基礎				
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
● 学習内容	教科書に沿って行う。				
● 授業計画	1回 話法の助動詞 2回 話法の助動詞 3回 動詞の3基本形 4回 動詞の3基本形 5回 動詞の3基本形 6回 時制 7回 時制 8回 形容詞 9回 形容詞 10回 形容詞 11回 関係代名詞 12回 受動 13回 受動 14回 接続法 15回 接続法				
● 受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法18歩				
参考書	無し				
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
● オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。				
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票などにもこの番号を記入します。

■学部等

◇授業実施の主体となる部局を指します。

■前期・後期の別

◇この欄に「前期（前半）」「前期（後半）」と記載された授業については、前期をさらに半分に分けて開講されます。「前期（後半）」の開始時期は募集要項の前学期スケジュール（P33）でご確認ください。

■曜日・時限

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育、人＝人文社会科学部、教＝教育学部、理＝理学部、農＝農学部の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、機＝機械工学科棟、総＝総合研究棟、電＝電気電子工学科棟、化＝物質工学科棟、合＝合同棟、A＝システム工学科棟の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認して下さい。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人数を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当します〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当します〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当します〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当します〉

◇演習については、専門的な知識が必要であり、かつ、担当教員と面談を行うため、応募者が少ない場合でも、受講できないことがあります。

■受講料

◇半期全14回で9,200円が基本となっていますが、週2回開講の場合は13,200円、「前期（前半）」「前期（後半）」の場合は6,200円です。

2012年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈前期〉

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
1	教養	ドイツ語A-1	エゲンベルグ・トーマス	前期	月3・4	共P101	若干名	A	9,200円
2	教養	ドイツ語A-1	諏訪田 清	前期	月3・4	共A106	若干名	A	9,200円
3	教養	フランス語A-1	安永 愛	前期	月3・4	共A405	若干名	A	9,200円
4	教養	フランス語A-1	浅野 幸生	前期	月3・4	共P202	若干名	A	9,200円
5	教養	スペイン語A-1	大原 志麻	前期	月3・4	共A105	若干名	A	9,200円
6	教養	現代韓国語A-1	南 富鎮	前期	月3・4	共A305	若干名	A	9,200円
7	教養	フランス語 I -a	安永 愛	前期	月5・6	共A405	若干名	A	9,200円
8	教養	スペイン語 I -a	大原 志麻	前期	月5・6	共A105	若干名	A	9,200円
9	教養	法と社会	中村 和夫	前期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
10	教養	自然と物理	鈴木 淳史	前期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
11	教養	化学の世界	小堀 康博	前期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
12	教養	生物と環境	向井 啓雄	前期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
13	教養	進化と地球環境	延原 尊美	前期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
14	教養	数学Ⅳ(線形代数B)	久村 裕憲	前期	月7・8	共A202	若干名	A	9,200円
15	教養	化学Ⅰ(物理化学A)	関根 理香	前期	火1・2	共B301	若干名	A	9,200円
16	教養	哲学	堂園 俊彦	前期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
17	教養	日本国憲法	恒川 隆生	前期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
18	教養	経済と社会	布川 日佐史	前期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
19	教養	心理学	須藤 智	前期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
20	教養	数理の構造	鈴木 信行	前期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
21	教養	化学の世界	山中 正道	前期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
22	教養	生命科学	塩尻 信義	前期	火3・4	未定	若干名	A	9,200円
23	教養	化学Ⅲ(有機化学)	山本 歩	前期	水1・2	共A201	若干名	A	9,200円
24	教養	教育の原理	藤井 基貴	前期	水3・4	教B111	若干名	A	9,200円
25	教養	発達と学習	小林 敬一	前期	水3・4	教B110	若干名	A	9,200円
26	教養	ドイツ語Ⅰ-b	エゲンベルグ・トーマス	前期	水5・6	共P101	若干名	A	9,200円
27	教養	フランス語Ⅰ-b	浅野 幸生	前期	水5・6	共P202	若干名	A	9,200円
28	教養	物理学概論A	渡邊 拓	前期	水7・8	共C406	若干名	A	9,200円
29	教養	現代韓国語B	南 富鎮	前期	木1・2	共A305	若干名	※B	9,200円

※印の科目は、履修登録にあたり担当教員に相談が必要です。

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
30	教養	生物学Ⅰ(基礎A)	藤原 健智	前期	木1・2	理B202	若干名	A	9,200円
31	教養	生物学Ⅰ(基礎A)	徳元 俊伸	前期	木1・2	共D2	若干名	A	9,200円
32	教養	数学Ⅰ(微分積分A)	清水 扇丈	前期	木3・4	共A202	若干名	A	9,200円
33	教養	化学概論A	轟 泰司	前期	木3・4	共A201	若干名	A	9,200円
34	教養	生物学概論A(基礎)	鳥山 優	前期	金1・2	共D2	若干名	A	9,200円
35	教養	体のために何を食べたらよいか	衛藤 英男	前期	金3・4	未定	若干名	A	9,200円
36	教養	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	前期	金3・4	未定	若干名	A	9,200円
37	教養	暮らしの中の新素材	澤渡 千枝	前期	金3・4	未定	若干名	A	9,200円
38	人文社会科学部	アジア史概説Ⅱ	戸部 健	前期	月3・4	人B301	若干名	B	9,200円
39	人文社会科学部	芸術文化思想	上利 博規	前期	月9・10	人B301	若干名	B	9,200円
40	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅰ	田中 伸司	前期	火5・6	人B302	若干名	B	9,200円
41	人文社会科学部	日本中世社会史	湯之上 隆	前期	火5・6	人B401	若干名	C	9,200円
42	人文社会科学部	教育現象の社会学	荻野 達史	前期	火7・8	人B402	若干名	B	9,200円
43	人文社会科学部	発達心理学Ⅰ	畠垣 智恵	前期	火7・8	人B302	若干名	B	9,200円
44	人文社会科学部	考古学研究法Ⅱ	篠原 和大	前期	水5・6	人B302	若干名	B	9,200円
45	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅱ	松田 純	前期	水7・8	人B403	若干名	B	9,200円
46	人文社会科学部	臨床心理学Ⅱ	笠井 仁	前期	水7・8	人B402	若干名	B	9,200円
47	人文社会科学部	西洋社会史Ⅰ	岩井 淳	前期	水9・10	人B402	若干名	C	9,200円
48	人文社会科学部	社会心理学Ⅰ	橋本 剛	前期	木3・4	人B402	若干名	B	9,200円
49	人文社会科学部	社会調査論	平岡 義和	前期	金3・4	人B301	若干名	B	9,200円
50	人文社会科学部	ラテン語Ⅰ	田中 伸司	前期	金7・8	人B402	若干名	B	9,200円
51	人文社会科学部	フランス事情Ⅰ	コルベイ・ステューブ	前期	月1・2	人B207	若干名	B	9,200円
52	人文社会科学部	フランス語コミュニケーション論Ⅱ	コルベイ・ステューブ	前期	月3・4	人B303	若干名	B	9,200円
53	人文社会科学部	中国文学概論Ⅰ	埋田 重夫	前期	月3・4	人B302	若干名	B	9,200円
54	人文社会科学部	フランス言語文化演習Ⅵ	浅野 幸生	前期	月5・6	人B207	若干名	D	9,200円
55	人文社会科学部	日本文学史Ⅱ	酒井 英行	前期	火5・6	人B303	若干名	B	9,200円
56	人文社会科学部	日本文学概論Ⅱ	森本 隆子	前期	火7・8	人B303	若干名	B	9,200円
57	人文社会科学部	英語学概論Ⅰ	服部 義弘	前期	火7・8	人B403	若干名	B	9,200円
58	人文社会科学部	日本語学概論Ⅰ	勝山 幸人	前期	水3・4	人B403	若干名	A	9,200円
59	人文社会科学部	言語学原書講読Ⅲ	熊谷 滋子	前期	水3・4	人B301	若干名	B	9,200円
60	人文社会科学部	比較文化各論Ⅴ	花方 寿行	前期	水7・8	人B302	若干名	B	9,200円
61	人文社会科学部	中国事情	桑島 道夫	前期	水9・10	人B303	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
62	人文社会科学部	比較文学概論 I	田村 充正	前期	水9・10	人B401	若干名	B	9,200円
63	人文社会科学部	言語学各論Ⅲ	森口 恒一	前期	木1・2	人B304	若干名	C	9,200円
64	人文社会科学部	英米言語文化基礎論	服部義弘・山内功一郎	前期	木3・4	人B403	若干名	A	9,200円
65	人文社会科学部	英語学各論 I	大村 光弘	前期	木3・4	人B303	若干名	C	9,200円
66	人文社会科学部	イギリス文学文化各論 I	鈴木 実佳	前期	金1・2	人B303	若干名	C	9,200円
67	人文社会科学部	フランス文学概論 I	安永 愛	前期	金3・4	人B206	若干名	B	9,200円
68	人文社会科学部	会社法	西川 義晃	前期	月3・4	人E201	若干名	B	13,200円
					木3・4				
69	人文社会科学部	法学入門	横濱 竜也	前期	月7・8	人B301	若干名	B	9,200円
70	人文社会科学部	刑法各論	山本 雅昭	前期	火1・2	人大講	若干名	B	9,200円
71	人文社会科学部	行政学	日詰 一幸	前期	火1・2	人B401	若干名	B	13,200円
					水1・2				
72	人文社会科学部	法律系特殊講義Ⅱ	横濱 竜也	前期	火3・4	人B402	若干名	B	9,200円
73	人文社会科学部	物権総論	田中 克志	前期	火5・6	人B401	若干名	B	9,200円
74	人文社会科学部	行政救済法	高橋 正人	前期	火5・6	人B401	若干名	C	9,200円
75	人文社会科学部	刑法総論 I	神馬 幸一	前期	水3・4	人大講	若干名	B	9,200円
76	人文社会科学部	法哲学	横濱 竜也	前期	水3・4	人B401	若干名	B	9,200円
77	人文社会科学部	法制史 I	橋本 誠一	前期	水5・6	共B301	若干名	B	9,200円
78	人文社会科学部	憲法総論・統治機構	小谷 順子	前期	木1・2	共B501	若干名	B	9,200円
79	人文社会科学部	手形小切手法	小林 道生	前期	木1・2	人B301	若干名	B	9,200円
80	人文社会科学部	刑事政策	神馬 幸一	前期	木3・4	人B401	若干名	B	9,200円
81	人文社会科学部	行政法総論	高橋 正人	前期	金3・4	人B402	若干名	B	9,200円
82	人文社会科学部	国際経済法	板倉 美奈子	前期	金9・10	人B401	若干名	C	9,200円
83	人文社会科学部	マクロ経済学Ⅱ	浅利 一郎	前期	火3・4	人E101	若干名	C	13,200円
					木3・4				
84	人文社会科学部	地域政策	太田 隆之	前期	月3・4	共L306	若干名	B	13,200円
					水3・4				
85	人文社会科学部	経済政策 I	寺村 泰	前期	月5・6	人大講	2名	B	9,200円
86	人文社会科学部	労働経済論	布川 日佐史	前期	月5・6	人E201	若干名	B	13,200円
					金9・10	共B401			
87	人文社会科学部	世界経済論	安藤 研一	前期	水1・2	共L306	若干名	C	13,200円
					金1・2				

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
88	人文社会科学部	会計学Ⅰ	永田 守男	前期	水3・4	共B401	若干名	B	9,200円
89	人文社会科学部	経済統計学	上藤 一郎	前期	水3・4	人E201	若干名	C	13,200円
					金5・6				
90	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅰ	山下 隆之	前期	木3・4	人大講	若干名	A	9,200円
91	人文社会科学部	統計学Ⅰ	上藤 一郎	前期	金3・4	人E201	若干名	A	9,200円
92	教育学部	微分積分学基礎(B組)	大田 春外	前期	月1・2	教G202	若干名	A	9,200円
93	教育学部	代数学Ⅰ	谷本 龍二	前期	月1・2	教G201	若干名	B	9,200円
94	教育学部	基礎生物学	伊藤 富夫	前期	月1・2	教C309	若干名	A	9,200円
95	教育学部	幾何学Ⅰ	山田 耕三	前期	月9・10	教G201	若干名	B	9,200円
96	教育学部	集合と論理基礎	大田 春外	前期	火9・10	教G201	若干名	A	9,200円
97	教育学部	解析学Ⅰ	大和田 智義	前期	火9・10	教B214	若干名	B	9,200円
98	教育学部	欧米学校史	菅野 文彦	前期	水5・6	教L101	若干名	B	9,200円
99	教育学部	書写基礎	杉崎 哲子	前期	水9・10	教A601	5名程度	A	9,200円
100	教育学部	線形代数学基礎(B組)	山田 耕三	前期	金9・10	教G201	若干名	A	9,200円
101	理学部	離散数学Ⅰ	保坂 哲也	前期	月1・2	理B203	若干名	B	9,200円
102	理学部	統計学	板津 誠一	前期	月3・4	共D1	若干名	C	9,200円
103	理学部	幾何学	保坂 哲也	前期	月5・6	理B204	若干名	C	9,200円
104	理学部	シミュレーション数理科学Ⅰ	田中 直樹	前期	月7・8	理B204	若干名	C	9,200円
105	理学部	解析学	田中 直樹	前期	火1・2	理B204	若干名	C	9,200円
106	理学部	線型代数学Ⅲ	久村 裕憲	前期	火5・6	理B204	若干名	C	9,200円
107	理学部	微分積分学Ⅲ	清水 扇丈	前期	火7・8	理B204	若干名	C	9,200円
108	理学部	複素解析学	奥村 善英	前期	水1・2	理B204	若干名	C	9,200円
109	理学部	代数学	浅芝 秀人	前期	水5・6	理B204	若干名	C	9,200円
110	理学部	数理論理学	鈴木 信行	前期	木1・2	理B204	若干名	C	9,200円
111	理学部	線型代数学Ⅰ	毛利 出	前期	木3・4	理B204	若干名	B	9,200円
112	理学部	集合・位相	横山 美佐子	前期	金3・4	理B213	若干名	B	9,200円
113	理学部	物理数学Ⅰ	鈴木 淳史	前期	月3・4	理B203	若干名	B	9,200円
114	理学部	基礎物理学Ⅰ	溜渕 継博	前期(前半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,200円
					水5・6				
115	理学部	基礎物理学Ⅱ	溜渕 継博	前期(後半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,200円
					水5・6				
116	理学部	物理数学Ⅱ	土屋 麻人	前期	水1・2	理B203	若干名	C	9,200円

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
117	理学部	電磁気学Ⅰ	冨田 誠	前期	水3・4	理B203	若干名	B	9,200円
118	理学部	電磁気学Ⅲ	鈴木 淳史	前期	水3・4	理B211	若干名	C	9,200円
119	理学部	統計力学Ⅰ	青山 昭五	前期	木3・4	理B203	若干名	C	9,200円
120	理学部	放射線物理学概論	奥野 健二	前期	木5・6	理B202	若干名	B	9,200円
121	理学部	量子力学Ⅰ	松本 正茂	前期	金1・2	理B203	若干名	C	9,200円
122	理学部	量子力学Ⅲ	嘉規 香織	前期	金3・4	理B203	若干名	C	9,200円
123	理学部	物理実験学Ⅱ	三重野 哲	前期	金5・6	理B204	若干名	C	9,200円
124	理学部	物理実験学Ⅰ	三重野 哲	前期	金7・8	理B203	若干名	B	9,200円
125	理学部	放射線計測・管理学概論	大矢 恭久	前期	月1・2	理B202	若干名	C	9,200円
126	理学部	構造有機化学	山中 正道	前期	月3・4	理B213	若干名	B	9,200円
127	理学部	情報生化学	瓜谷 眞裕	前期	月3・4	理B211	若干名	C	9,200円
128	理学部	熱化学Ⅰ	小堀 康博	前期	火1・2	理B213	若干名	B	9,200円
129	理学部	放射化学Ⅱ	矢永 誠人	前期	火1・2	理B202	若干名	C	9,200円
130	理学部	基礎量子化学	村井 久雄	前期	火5・6	理B213	若干名	A	9,200円
131	理学部	基礎有機化学Ⅰ	塚田 直史	前期	水1・2	理B202	若干名	A	9,200円
132	理学部	基礎生化学	大吉 崇文	前期	水1・2	共D1	若干名	B	9,200円
133	理学部	有機反応論	坂本 健吉	前期	水1・2	理B213	若干名	C	9,200円
134	理学部	量子化学Ⅱ	三井 正明	前期	水3・4	理B213	若干名	C	9,200円
135	理学部	溶液化学	加藤 知香	前期	水3・4	共D2	若干名	B	9,200円
136	理学部	構造錯体化学	菅野 秀明	前期	木3・4	理B213	若干名	C	9,200円
137	理学部	無機化学Ⅱ	近藤 満	前期	金1・2	理B213	若干名	C	9,200円
138	理学部	発生生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前期	月3・4	理B202	若干名	B	9,200円
139	理学部	植物生理学	塩井 祐三	前期	月3・4	理B212	若干名	C	9,200円
140	理学部	生物学Ⅰ	野口 基子	前期	月7・8	理B212	若干名	A	9,200円
141	理学部	生化学	天野 豊己	前期	火1・2	理B203	若干名	C	9,200円
142	理学部	基礎生物学Ⅰ	丑丸 敬史	前期	火5・6	理B212	若干名	A	9,200円
143	理学部	内分泌学	鈴木 雅一	前期	水1・2	理B212	若干名	C	9,200円
144	理学部	細胞生物学	丑丸 敬史	前期	水3・4	理B212	若干名	C	9,200円
145	理学部	植物系統分類学	徳岡 徹	前期	木3・4	理B212	若干名	C	9,200円
146	理学部	分子遺伝学	山内 清志	前期	金1・2	理B212	若干名	C	9,200円
147	理学部	生物環境科学概論Ⅰ	生形貴男・塚越哲	前期	月3・4	理B201	若干名	B	9,200円
148	理学部	多様性生物学	塚越 哲	前期(前半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,200円

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
149	理学部	層序学	北村晃寿・生形貴男	前期	火1・2	理B201	若干名	C	9,200円
150	理学部	地球科学入門 I	和田秀樹・増田俊明	前期	火5・6	理B201	若干名	A	9,200円
151	理学部	地球環境学	鈴木 款	前期	水1・2	理B201	若干名	C	9,200円
152	理学部	地球ダイナミクス概論 I	里村幹夫・道林克禎	前期	水3・4	理B201	若干名	B	9,200円
153	理学部	堆積学	北村 晃寿	前期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,200円
154	理学部	地球環境微生物学	加藤 憲二	前期(後半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,200円
155	理学部	地球物理学	里村 幹夫	前期	木1・2	理B201	若干名	C	9,200円
156	理学部	地球変動学	林愛明・道林克禎	前期	金1・2	理B201	若干名	C	9,200円
157	農学部	遺伝学	大村 三男	前期	月1・2	農B201	若干名	B	9,200円
158	農学部	植物繁殖学	原田 久	前期	月1・2	農B205	若干名	B	9,200円
159	農学部	植物病理学	平田 久笑	前期	月3・4	農B201	若干名	B	9,200円
160	農学部	栄養化学	杉山 公男	前期	月3・4	農B207	若干名	B	9,200円
161	農学部	森林土木工学	近藤 恵市	前期	月3・4	農B203	若干名	B	9,200円
162	農学部	育種学	大村 三男	前期	月5・6	農B201	若干名	B	9,200円
163	農学部	測量学	近藤 恵市	前期	月5・6	農A537	若干名	B	9,200円
164	農学部	生化学概論	村田 健臣	前期	火1・2	農B208	若干名	A	9,200円
165	農学部	応用微生物学	徳山 真治	前期	火1・2	農B205	若干名	B	9,200円
166	農学部	植物バイオサイエンス入門	切岩 祥和	前期	火5・6	農B201	若干名	A	9,200円
167	農学部	保全生物学	山下 雅幸	前期	火5・6	農B208	若干名	A	9,200円
168	農学部	室内環境学	渡邊 拓	前期	火5・6	農B210	若干名	B	9,200円
169	農学部	人間環境科学論	鈴木 恭治	前期	火7・8	農B210	若干名	A	9,200円
170	農学部	園芸生産学	向井 啓雄	前期	火7・8	農B201	若干名	A	9,200円
171	農学部	細胞生物学	笹浪 知宏	前期	水1・2	農B208	若干名	B	9,200円
172	農学部	バイオマス利用論	鈴木 恭治	前期	水1・2	農B205	若干名	B	9,200円
173	農学部	生物工学	朴 龍洙	前期	水1・2	農B207	若干名	C	9,200円
174	農学部	森林生態管理学	水永 博己	前期	水1・2	農B210	若干名	C	9,200円
175	農学部	山地保全学	逢坂 興宏	前期	水1・2	農B203	若干名	B	9,200円
176	農学部	収穫後生理学	加藤 雅也	前期	水3・4	農B201	若干名	B	9,200円
177	農学部	基礎微生物学	瀧川 雄一	前期	水5・6	農B208	若干名	A	9,200円
178	農学部	基礎微生物学	徳山 真治	前期	水5・6	農B201	若干名	A	9,200円
179	農学部	花卉園芸学	大野 始	前期	木1・2	農B201	若干名	B	9,200円
180	農学部	食品分析化学	河岸 洋和	前期	木1・2	農B201	若干名	C	9,200円

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
181	農学部	木材接着学	山田 雅章	前期	木1・2	農B203	若干名	B	9,200円
182	農学部	基礎生態学	澤田 均	前期	木3・4	農B201	若干名	B	9,200円
183	農学部	環境微生物学	小川 直人	前期	木3・4	農B203	若干名	B-C	9,200円
184	農学部	動物生命科学	高坂 哲也	前期	木3・4	農B210	若干名	B	9,200円
185	農学部	木質材料学	鈴木 滋彦	前期	木3・4	農B205	若干名	B	9,200円
186	農学部	木質利用化学	西田 友昭	前期	木3・4	農B206	若干名	C	9,200円
187	農学部	造園学	藤本 征司	前期	木3・4	農B207	若干名	B	9,200円
188	農学部	食料経済学	柴垣 裕司	前期	金1・2	農B201	若干名	A	9,200円
189	農学部	植物栄養学	森田 明雄	前期	金1・2	農B208	若干名	B	9,200円
190	農学部	材料力学	安村 基	前期	金1・2	農B203	若干名	B	9,200円
191	農学部	一般昆虫学	田上 陽介	前期	金3・4	農B208	若干名	A	9,200円
192	農学部	生物有機化学1	渡辺 修治	前期	金3・4	農B201	若干名	B	9,200円
193	農学部	樹木生化学	西田 友昭	前期	金3・4	農B205	若干名	B	9,200円
194	農学部	樹木・組織学	小島 陽一	前期	金5・6	農B203	若干名	A	9,200円

〈通年〉

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
195	人文社会科学部	フランス語学概論	浅野 幸生	通年	火9・10	人B403	若干名	B	13,200円
196	人文社会科学部	比較文化概論Ⅲ	今野 喜和人	通年	水3・4	人B303	若干名	B	13,200円
197	人文社会科学部	一般音声学	森口 恒一	通年	水9・10	人B301	若干名	B-C	13,200円
198	人文社会科学部	民法総論	米谷 壽代	通年	金3・4	人大講	若干名	B	13,200円
199	人文社会科学部	労働法	本庄 淳志	通年	月3・4	人B401	若干名	C	13,200円
200	人文社会科学部	社会保障法	国京 則幸	通年	月5・6	人B301	若干名	B	13,200円
201	人文社会科学部	財政学	櫻井 良治	通年	水5・6	共L306	若干名	B	13,200円

2012年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈前期〉

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
202	教養	電磁気学	藤間 信久	前期	月1・2	総34	若干名	A	9,200円
203	教養	工学基礎化学 I	梅本 宏信	前期	月3・4	総24	若干名	A	9,200円
204	教養	工学基礎化学 I	平川 和貴	前期	月3・4	合11	若干名	A	9,200円
205	教養	微分積分学 I	赤堀 公史	前期	月5・6	共22	若干名	A	9,200円
206	教養	力学・波動 I	藤間 信久	前期	月5・6	総24	若干名	A	9,200円
207	教養	哲学	吉田 寛	前期	火1・2	総34	若干名	A	9,200円
208	教養	国際社会と日本	杉山 茂	前期	火1・2	情11	若干名	A	9,200円
209	教養	地域と文化	西原 純	前期	火1・2	化31	若干名	A	9,200円
210	教養	数理の構造	赤堀 公史	前期	火1・2	総32	若干名	A	9,200円
211	教養	化学の世界	梅本 宏信	前期	火1・2	総21	若干名	A	9,200円
212	教養	生命科学	杉浦 敏文	前期	火1・2	合21	若干名	A	9,200円
213	教養	電磁気学	岡部 拓也	前期	火1・2	合11	若干名	B	9,200円
214	教養	哲学	芳賀 直哉	前期	火3・4	合11	若干名	A	9,200円
215	教養	ことばと表現	森本 隆子	前期	火3・4	合21	若干名	A	9,200円
216	教養	国際社会と日本	杉山 茂	前期	火3・4	情11	若干名	A	9,200円
217	教養	地球科学	岩崎 一孝	前期	火3・4	化31	若干名	A	9,200円
218	教養	科学と技術	平田 邦夫	前期	火3・4	総24	若干名	A	9,200円
219	教養	ドイツ語B-a	中尾 健二	前期	火5・6	情23	若干名	A	9,200円
220	教養	線形代数学 I および演習	中島 徹	前期	火5・6	総24	若干名	A	13,200円
					火7・8				
221	教養	日本国憲法	原田 伸一郎	前期	水3・4	総24	若干名	A	9,200円
222	教養	歴史と文化	伊藤 宏二	前期	水3・4	合21	若干名	A	9,200円
223	教養	経済と社会	高口 鉄平	前期	水3・4	A24	若干名	A	9,200円
224	教養	現代の社会	中 正樹	前期	水3・4	情11	若干名	A	9,200円
225	教養	心理学	漁田 武雄	前期	水3・4	情21	若干名	A	9,200円
226	教養	数学の世界	白井 靖人	前期	水3・4	情14	若干名	A	9,200円
227	教養	線形代数学 I および演習	中島 徹	前期	水5・6	合21	若干名	A	13,200円
					水7・8				
228	教養	工学基礎化学 I	梅本 宏信	前期	木1・2	A24	若干名	A	9,200円

No.	学部等	授業科目名	担当教員名	前期・後期の別	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
229	教養	工学基礎化学 I	植田 一正	前期	木1・2	総24	若干名	A	9,200円
230	教養	工学基礎化学 I	植田 一正	前期	木3・4	総24	若干名	A	9,200円
231	教養	電磁気学	岡部 拓也	前期	金1・2	合11	若干名	B	9,200円
232	教養	離散数学	中谷 広正	前期	金1・2	情11	若干名	A	9,200円
233	教養	こころの深層	太田 裕一	前期	金3・4	化31	若干名	A	9,200円
234	教養	エネルギーと環境	大矢 恭久	前期	金3・4	合11	若干名	A	9,200円
235	教養	ことば	近藤 真	前期	金3・4	総22	若干名	A	9,200円
236	教養	浜松市の交通を考える	戸田 三津夫	前期	金3・4	総31	若干名	A	9,200円
237	教養	異文化と出会う	許山 秀樹	前期	金3・4	共21	若干名	A	9,200円
238	教養	地震防災	前田 恭伸	前期	金3・4	合21	若干名	A	9,200円
239	教養	ドイツ語A-1	中尾 健二	前期	金5・6	情25	若干名	A	9,200円
240	工学部	電気電子材料	喜多 隆介	前期	月3・4	未定	若干名	C	9,200円
241	工学部	リスク分析(※1)	前田 恭伸	前期	月3・4	未定	若干名	C	9,200円
242	工学部	制御工学 I	伊藤 友孝	前期	月5・6	未定	若干名	C	9,200円
243	工学部	宇宙工学	山極 芳樹	前期	木5・6	未定	若干名	C	9,200円
244	情報学部	博物館概論	高松 良幸	前期	月1・2	情22	若干名	A	9,200円
245	情報学部	博物館資料論	高松 良幸	前期	火1・2	情22	若干名	B	9,200円
246	情報学部	ジェンダー論	笹原 恵	前期	火9・10	情22	若干名	B	9,200円
247	情報学部	情報学概論	渡辺 尚 他	前期	水1・2	情13	若干名	A	9,200円

※1: パソコンを持参

授業科目名	ドイツ語A-1				
担当教員名	エゲンベルグトーマス		所属等	大学教育センター	
			研究室	人文学部A棟 225	
分担教員名					
クラス	学部共通3	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！				
授業の目標	日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。				
学習内容	この、少し変わったワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、落ち着ける雰囲気の中で聞く、読む、話す、書く技能をバランスよく学び、語彙や文法は自分で推測したり調べたり発見したりすることで主体的に学習に取り組むことができるように工夫します。初めから、易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！ 補足： 無論、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>S Sprachhandlung（言語行動） L Landeskunde（ドイツ事情） Kennenlernen（人と知り合う） S 様々な挨拶、スモールトーク L 相手によって話し方が変わる、ドイツ語と日本語、ヨーロッパのドイツ語圏 Mein Tag（私の一日） S 時間表現、日常の行動、用事や希望、昨日（過去）のことを言う L 色々な人の一日 Essen und Trinken（食事） S 買い物する、レストランで注文する・支払う L ドイツの食卓、食習慣 Wohnen, Lifestyle（住まい、ライフスタイル） S 家や部屋の様子を説明する L 学生の住居シェアリング、建築、国際社会 Familie, Freundschaft, Liebe（家族、友人、恋愛） S 日常会話、告白、明日（未来）のことを言う L 家族暮らし、恋愛・婚姻の形態 Schule und Studium（学校、大学） S 議論・反論 L 個人を重んじ、個性を育つ教育 Freizeit und Arbeit（余暇、仕事） S 一週間の予定、約束する、お願い・命令、もしも（仮定）のことを言う L 自由時間の過ごし方、環境意識、就職活動、ワーク・ライフ・バランス Reisen（旅行） S 旅行の計画をたてる、予約する、旅先での色々な話 L ヨーロッパ、異文化経験 その他（様々なゲーム、ビデオ、スライド、歌）</p>				
受講要件	なし				
テキスト	様々です。				
参考書	この授業に欠かせない学習ツール： - Seino Tomoaki: Meine Deutschstunde、朝日出版社、ISBN 978-4-255-25319-0 - 独和辞書（4000円程度のペーパー辞書はお勧めです。電子辞書はお勧めしません。）				
予習・復習について	各授業にあたって1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）を出します。				
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtimeテスト（20%）、期末テスト（30%）。 ただし、3回以上欠席する場合は単位不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。				
オフィスアワー	月・水曜日の昼休み 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegg@ipc.shizuoka.ac.jp				

担当教員か
らのメッセ
ージ

授業科目名	ドイツ語A-1				
担当教員名	諏訪田 清	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟422		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 選必,選択
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法の基礎				
授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学ぶ。				
学習内容	教科書に沿って行う。				
授業計画	1回 発音 2回 発音 3回 発音 4回 動詞の現在人称変化 5回 動詞の現在人称変化 6回 動詞の現在人称変化 7回 定冠詞類と名詞の格変化 8回 定冠詞類と名詞の格変化 9回 不定冠詞類 10回 名詞の複数形 11回 不規則動詞 12回 不規則動詞 13回 定形の位置 14回 定形の位置 15回 代名詞・再帰動詞				
受講要件	問わない				
テキスト	ドイツ文法18歩				
参考書	無し				
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。事前にメール連絡を。				
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

授業科目名	フランス語A-1				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟525		
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	フランス語初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏に開かれた窓				
授業の目標	フランス語の音とリズムに慣れる。フランス語の基礎を身に付けるとともに、フランス語圏の文化に興味を向ける。				
学習内容	聴く、読む、書く、話すの作業を繰り返しながらフランス語の初歩を身に付けていきます。ビデオ教材も活用しつつ、フランス語圏の文化にも少しずつ触れていきます。				
授業計画	<p>内容</p> <p>第1講 フランス語はどんな言葉？フランス語の話されている地域は？</p> <p>第2講 フランス語の綴り字と音の関係</p> <p>第3講 教科書第1課前半</p> <p>第4講 教科書第1課後半</p> <p>第5講 教科書第2課前半</p> <p>第6講 教科書第2課後半</p> <p>第7講 教科書第3課前半</p> <p>第8講 教科書第3課後半</p> <p>第9講 教科書第4課前半</p> <p>第10講 教科書第4課後半</p> <p>第11講 教科書第5課前半</p> <p>第12講 教科書第5課後半</p> <p>第13講 教科書第6課前半</p> <p>第14講 教科書第6課後半</p> <p>第15講 復習</p>				
受講要件					
テキスト	Elle est gourmande!(朝日出版社)				
参考書	仏和辞書				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り・書き取りを含む）の成績（80%）授業中のオーラルを含む小テスト（20%）				
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	せっかくフランス語を勉強するのですから、何かフランス語圏にかかわることに興味を持つとモチベーションが上がると思います。				

授業科目名	フランス語A-1				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	基本、文法				
授業の目標	フランス語の基本を身につけること				
学習内容	音声・文法・文化研究				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 名詞の性と数 2. 不定冠詞・定冠詞・部分冠詞 3. avoir と etre 4. 第一群規則変化動詞 5. 形容詞の変化と用法 6. 第二群規則変化動詞 7. 指示形容詞・所有形容詞 8. 否定文と疑問文・答え方 9. aller と venir 10. いくつかの不規則動詞 				
受講要件	1～2年生				
テキスト	静岡大学生生活協同組合の教科書売り場で入手しておくこと。				
参考書	辞書は絶対必要。一回目の授業で紹介するが、すでにもっている人はそれで可。				
予習・復習について	予習が必要。成績は予習で決まるといって過言ではない。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験。遅刻欠席が目立つ場合は単位は認められない。				
オフィスアワー	月 14:20～15:30				
担当教員からのメッセージ	こつこつまじめに努力してください。				

授業科目名	スペイン語A-1				
担当教員名	大原 志麻		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟522	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前期		必修選択区分 選必,選択
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	スペイン、スペイン語、ラテンアメリカ、国際理解、資格、比較文化				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、教科書の練習問題やオーラル・プラクティスを通じて、それをしっかり身につけること。				
学習内容	まず動詞の活用や性数一致といった、日本語や英語とは異なるスペイン語の仕組みに慣れることに始まり、現在形・過去形・未来形といった時制や、再帰動詞、gustar 形の動詞といった、スペイン語独特の文法事項を学んでいきます。				
授業計画	<p>スペイン語Aは、1・2の必修2科目で、スペイン語文法の基礎を学びます。この2科目は、単位上は別個の科目ですが、週1回1年間、一貫した授業として進められてゆきます。用いるテキストは各クラスとも共通ですが、担当教員によって進行の仕方や成績評価基準が変わることがあります。最初の授業で説明がされますので、注意して聞いて準備してください。</p> <p>なお、教育・理学部の1年生は事前にクラス指定がされます。農学部の2年生は原則として自由にクラスが選べますが、前期後期共に原則として同じ教員のクラスに属してもらいます。また人数が極端に偏った場合は、別のクラスに移ってもらうこともあります。調整は授業に差し支えがないよう、4月の早い時点で行います。</p>				
受講要件	教育・理学部の1年生（選択必修）、及び農学部の2年生。				
テキスト	西川喬『さあ、始めよう！ スペイン語』同学社、2,500円。				
参考書	『西和中辞典』小学館、1990年。もしくはスペイン語電子辞書などを必ず授業に持ってくること。				
予習・復習について	外国語を初めて学ぶときは、授業時間内での活動以上に、単語の暗記をはじめとする予習復習が重要です。宿題や単語調べはもちろん、最低要求された課題は、確実に行ってください。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・授業への参加）・小テスト・期末テストなどを、総合的に評価します。				
オフィスアワー	月曜日の7・8限に大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	スペイン語は母語としている数が世界一位、また国際的なコミュニケーションとしては第二位の有用性が高い言語です。国際競争力が問われることが当たり前となった昨今、語学力やそれを通じての国際理解は必要なスキルです。この授業が広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを願っています。				

授業科目名	現代韓国語A-1				
担当教員名	南 富鎮	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟527		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分 選必,選択
対象学年	1年,2年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	韓国語、韓国語文法				
授業の目標	現代韓国語の基礎的な文法を覚え、自立的に勉強する土台を作る。				
学習内容	現代韓国語の基礎的な文法を覚える。				
授業計画	1回 韓国語の紹介 2回 母音の発音 3回 母音の発音 4回 子音の発音 5回 子音の発音 6回 子音と母音の組み合わせ 7回 複母音の発音 8回 です、ます的な表現 9回 指示代名詞 10回 助詞 11回 否定文 12回 動詞の連用形 13回 形容詞の連用形 14回 連体形 15回 総復習				
受講要件	教育学部1年・理学部1年、農学部2年（選択）				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼうー初級』朝日出版社、2006年				
参考書	とくになし				
予習・復習について	その都度教員が指示する。				
成績評価の方法・基準	出席40%、試験60%				
オフィスアワー	最初の時間に知らせる				
担当教員からのメッセージ	難易度B				

授業科目名	フランス語 I - a				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード					
授業の目標	フランス語の音とリズムに慣れる。フランス語の基礎を身に付けるとともに、フランス語圏の文化に興味を向ける。				
学習内容	聴く、読む、書く、話すの作業を繰り返しながらフランス語の初歩を身に付けていきます。ビデオ教材も活用しつつ、フランス語圏の文化にも少しずつ触れていきます。				
授業計画	<p>内容</p> <p>第 1 講 フランス語はどんな言葉？フランス語の話されている地域は？</p> <p>第 2 講 フランス語の綴り字と音の関係</p> <p>第 3 講 教科書第 1 課前半</p> <p>第 4 講 教科書第 1 課後半</p> <p>第 5 講 教科書第 2 課前半</p> <p>第 6 講 教科書第 2 課後半</p> <p>第 7 講 教科書第 3 課前半</p> <p>第 8 講 教科書第 3 課後半</p> <p>第 9 講 教科書第 4 課前半</p> <p>第 10 講 教科書第 4 課後半</p> <p>第 11 講 教科書第 5 課前半</p> <p>第 12 講 教科書第 5 課後半</p> <p>第 13 講 教科書第 6 課前半</p> <p>第 14 講 教科書第 6 課後半</p> <p>第 15 講 復習</p>				
受講要件					
テキスト	Elle est gourmande!(朝日出版社)				
参考書	仏和辞書				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り・書き取りを含む）の成績（80%）授業中のオーラルを含む小テスト（20%）				
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	せっかくフランス語を勉強するのですから、何かフランス語圏にかかわることに興味を持つとモチベーションが上がると思います。				

授業科目名	スペイン語 I - a				
担当教員名	大原 志麻	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 522		
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	スペイン語、ラテン・アメリカ、比較文化、グローバリゼーション				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、授業中のオーラル・プラクティスを通じて、実践力を身につけること。語学を通じて、国際理解を深めること。また資格試験を目指す。				
学習内容	動詞の活用や性数一致といった、日本語や英語と異なるスペイン語の仕組みと規則性に慣れることに始まり、現在形、過去形といった時制や、再帰動詞、 gustar 型動詞といった、スペイン語独特の文法事項を学ぶ。				
授業計画	スペイン語 I は、a,b,c,d の必修 4 科目で、プリントを使用し、スペイン語文法の基礎を学びます。これらの 4 科目は、単位上は別個の科目ですが、週 2 回、通年で、全ての授業が連携して進められていきます。この授業では、文法や新しい事項の説明と練習問題、また幅広い会話練習を忠臣に進めます。				
受講要件	一年生についてはクラス指定あり。				
テキスト	文法事項と練習問題をまとめたプリントを配布します。				
参考書	『西和中辞典』小学館、1990 年。もしくはその他のスペイン語の辞書を必ず授業に持ってくること。				
予習・復習について	初修外国語は独習が難しいので、必ず授業に出席すること。また単語や動詞の活用形の暗記など、授業時間外の予習復習が不可欠です。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・授業態度）、小テスト、期末テストなどから総合的に判断します。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 限 大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	スペイン語は母語としている数が世界一位、また国際的なコミュニケーションとしては第二位の有用性が高い言語です。国際競争力が問われることが当たり前となった昨今、語学力やそれを通じての国際理解は必要なスキルです。この授業が広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを願っています。				

授業科目名	法と社会				
担当教員名	中村 和夫	所属等	法務研究科		
		研究室	人文学部 A 棟 5 2 8		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	法、均等法、労働と法、婚姻、家族、ライフステージ				
授業の目標	この講義は、私たちが生活をしていくうえで身近に遭遇する法的な問題について、具体的な事例を検証しながら理解することによって、法的な思考方法について身につけることを目標とします。				
学習内容	下記の予定で、事例をあげつつ授業を行います。これらの問題について必要な基本的な法的知識や法学の概念等は、授業のなかで指摘をしていくので、予備知識は必要ではありません。この講義を通じて、法と社会の関わりについて鳥瞰することができるようになることを期待します。				
授業計画	1 回 はじめに、社会と法に関する考え方 2 回 女性と法―男女共同参画と均等法 3 回 働きかたとルール ①労働契約・就業規則 4 回 働き方とルール ②労働条件 5 回 働き方とルール ③パートタイマー・派遣労働 6 回 働き方とルール ④労働者の健康と安全 7 回 消費生活と法 8 回 婚姻生活と法 9 回 家族生活と法 10 回 離婚と法 11 回 介護と法 12 回 相続と法 13 回 国際社会と法 14 回 法的紛争と解決方法 15 回 ライフスタイルと法				
受講要件	特に指定はしない。				
テキスト	副田隆重他『ライフステージと法第6版』（有斐閣）				
参考書	授業の都度関係する図書類を指摘する。				
予習・復習について	毎回のテーマに関して教科書を読んで予習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	レポート30%、試験70%で成績評価する。				
オフィスアワー	毎週金曜日 5・6 限研究室。				
担当教員からのメッセージ	具体的な問題に関して学生の皆さんの法的関心を引き起こすような授業を進めたいと思っています。				

授業科目名	自然と物理				
担当教員名	鈴木 淳史	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A棟 502		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期	必修選択区分	選択,選必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ニュートン力学、量子力学、マクロの物理学、ミクロの物理学				
授業の目標	現代科学の基礎である物理学がいかなる紆余曲折を経て発展してきたかについて学ぶ				
学習内容	前半は、古典物理学的世界観の形成についてマクロな視点から学ぶ。後半はその世界観の崩壊とミクロな世界観の成立について学ぶ。				
授業計画	1. 天体の運動について(2回) 2. ガリレイの力学 3. ニュートンによる古典物理像の完成(2回) 4. 時空概念 5. ミクロな世界観 6. ラボアジェによる科学革命 7. 気体運動論の形成 8. 熱の学問の形成 (2回) 9. 波と粒子 10. 量子力学の形成(3回)				
受講要件	高校で物理 1,2 または理科基礎、理科総合 A 等を学習してきたことが望ましいが、必須条件ではない。				
テキスト	朝永振一郎著、『物理学とは何だろうか 上下』, 岩波新書 ただし高校までのいわゆる「教科書」として使用する訳ではありません。				
参考書					
予習・復習について	十分な復習を行なう事。				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー	月曜日 16時-17時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	小堀 康博		所属等	理学部	
			研究室	総合研究棟 513 室	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード					
授業の目標	日常の身近な事象を題材として、それを切り口とした化学の話題を提供する。無機化学、環境化学、有機化学、生物化学に関する化学の基本コンセプトを学ぶ				
学習内容	無機化学、環境化学、有機化学、生物化学に関する化学の基本コンセプトと関連する化学の最新情報				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 銅と文明 3 回 鉄と生活 4 回 周期律と元素 5 回 電気と化学 6 回 触媒と反応 7 回 水と生命 8 回 地球環境と化学 9 回 エネルギーと化学 10 回 燃焼と火災 11 回 セッケンと洗剤 12 回 視覚と色素 13 回 プラスチックと生命 14 回 栄養とアミノ酸 15 回 その他				
受講要件	高校で化学 I か理科総合 A を履修していることを前提に授業を行う。				
テキスト	芝 哲夫 著 「化学物語 2 5 講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席とレポート 4 回				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物と環境				
担当教員名	向井 啓雄	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 412 研究室		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	植物、環境、生理				
授業の目標	生命体（主に植物）が自らを維持する（生きる）ための様々な機能（生理）を持ち、それが外部（物理的、化学的、生物的、社会的）環境とどのような関わりを持っているかを理解する。				
学習内容	外部環境に関連する植物の機能について、植物生理学のテキストに沿って学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 生物と環境について（植物生理学とは） 2. 光合成と代謝 1 光合成 3. 光合成と代謝 2 光による反応 4. 光合成と代謝 3 呼吸とエネルギー利用 5. 栄養 1 無機物質 6. 栄養 2 窒素代謝 7. 生長 1 植物の発生と生長 8. 生長 2 水ポテンシャル、細胞壁の構造と細胞壁伸展、運動 9. 生長 3 植物ホルモン 10. 生長 4 開花 11. 環境 1 光 12. 環境 2 水 13. 環境 3 温度 14. 植物の遺伝子 15. まとめ 生物と環境ストレス 				
受講要件	特にないが、高校の生物 I を履修していれば内容を理解しやすいと思われる。				
テキスト	<p>増田芳雄監修，山本良一・桜井直樹共著、『絵とき植物生理学入門』，オーム社，2007 年，978-4-274-20356-5，3400 円</p> <p>テキストの購入を義務付けないが，授業はテキストに沿って進める．また試験はテキストの文章を用いて出題される．</p>				
参考書	<p>石川統ら編、『ダイナミックワイド図説生物』東京書籍，2004 年，9784487367863，880 円</p> <p>この参考書は高校生物の教材であり，すでに同様のものを持っている人はそれを利用するとよい．</p>				
予習・復習について	<p>予習：教科書あるいは参考書を読んでその内容を理解する．</p> <p>復習：授業等で発生した疑問について調べる．</p>				
成績評価の方法・基準	<p>定期試験により 100% 評価する．</p> <p>試験：5 択 50 問のマークシート方式．1 問 1 点で 50 点満点．教科書の記述から出題される．出題箇所は授業支援システム等で示される．</p> <p>評価点：（試験の得点から求められる）偏差値 + 30 評価点の上限を 100 点とする． 試験を受けなかった人の評価点を 0 点とする．</p>				
オフィスアワー	<p>毎週火曜日 16:00～20:00 研究室（農学部 A412）</p> <p>電子メールでの質問は随時（メール返信あるいは次の講義において回答する） abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp</p>				
担当教員からのメッセージ	<p>この授業は生物学の一分野です。他分野についても様々な本を読んで理解を深めることを勧めます。高校で生物 I を履修していない人は参考書『ダイナミックワイド図説生物』を見て学習することを勧めます。</p> <p>2009～11 年度の『生物と環境』（向井担当）に関して試験結果・授業アンケート結果等が果樹園芸学研究室オリジナル HP に記載されているので参考にしてください。 http://www.agr.shizuoka.ac.jp/b/pomology/index.html</p>				

授業科目名	進化と地球環境				
担当教員名	延原 尊美	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部K棟501		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月5・6
キーワード	生物進化、地球環境、化石、地層、岩石、地球惑星科学				
授業の目標	自らが生存基盤としている地球という惑星の歴史について興味を深めること、そしてその歴史を解明するための科学についての基本的な考え方・手法を理解することを目標とする。また、作業仮説の考え方、提唱の背景、その検証方法を意識する習慣を身につける。				
学習内容	46億年におよぶ惑星「地球」の形成と変化の歴史を、化石記録、地層、岩石等に残された証拠をもとに概観してゆく。とくに生命と地球環境の相互作用の視点を重視する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地球史の年表はいかにして作られたか？ 化石記録や地層から情報を読み取る方法。 2 宇宙のなかの地球：「惑星」としての地球の出発点。 3 生命の起源と初期地球の環境。 4 太古代から原生代へ：地球システムの一大転換点。 5 カンブリア紀における生物の爆発的進化。 6 古生代におきた生物たちの上陸（植物編）。 7 古生代におきた生物たちの上陸（四肢動物編）。 8 古生代末に起きた地球史上最大規模の絶滅事件。 9 中生代の地球環境と恐竜像の理解。 10 変わりゆく恐竜像と復元の科学。 11 中生代末の絶滅事件：コスミック・カタストロフィーと地球環境との関係。 12 新生代における冷えてゆく地球システム。 13 新生代におけるほ乳類の進化史。 14 人類の進化と未来。 15 地球史カレンダーを読み直す。 				
受講要件	特にありません				
テキスト	特にありません。毎回、授業プリントを配布し、参考となる文献を紹介します。				
参考書	地球生物学 地球と生命の進化、池谷仙之・北里 洋、東京大学出版会、2004年、ISBN4-13-062711-2				
予習・復習について	三色ボールペン方式の地球史年表を少しずつ完成させてゆく（授業途中で提出・チェックします）。				
成績評価の方法・基準	定められた出席要件を満たしていることが必要条件。各自が作成した地球史年表を30点、試験を70点で配点して、総計で成績を評価します。地球史を解読するにあたっての、基礎概念が説明ができるか、それらの用語等を論理的に使う、地球史の重要なイベントを自分で論述できることを目標とします。				
オフィスアワー	毎週水曜日の昼休み。メール (etnobuh@ipc.shizuoka.ac.jp) であらかじめ連絡をお願いします。メールの場合は、タイトルに「授業連絡」とつけてください。				
担当教員からのメッセージ	地球史の解明については、近年さまざまな新しい手法や考え方が取り入れられるようになってきました。提示された歴史のシナリオを鵜呑みにするのではなく、仮説の提唱にいたった考え方や論拠、検証について意識してみましよう				

授業科目名	数学IV (線形代数B)				
担当教員名	久村 裕憲		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	理PC	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月 7・8
キーワード	ベクトル空間、線型写像、固有空間、行列の対角化、内積空間				
授業の目標	「ベクトル空間」と「線形写像」を学びます。行列が線形写像の表現であること、「行列」の対角化を学び、さらに「内積空間」では高次元空間の幾何について学ぶことを目標とします。				
学習内容	数学 II (線形代数A) および本講義は、線形代数を学びます。空間の図形を考えると単なる空間の点の集まりとして見るのではなく、点と点との関係 (ベクトル) を考えることが数学の対象であり、線形代数ではベクトルとベクトルの関係を扱います。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトル空間 ベクトル空間一次独立と一次従属 ベクトルの1次独立な最大個数 ベクトル空間の基と次元 2. 線形写像 線形写像 線形写像の表現行列 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 3. 内積空間 内積 正規直交化と直交行列 対称行列の対角化 				
受講要件	数学 II (線形代数A) を受講していること。				
テキスト	三宅敏恒 著「入門線形代数」(培風館)				
参考書					
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	レポートおよび試験によります。試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	最初の授業時間に述べます。				
担当教員からのメッセージ	予習復習は効果的な勉強法です。自宅での自発的かつ積極的な勉強なくしては、身に付くものも少ないです。大学の講義は、これを前提にしています。しっかり予習復習しましょう。				

授業科目名	化学 I (物理化学 A)				
担当教員名	関根 理香		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A 棟 3 階 302 号室	
分担教員名					
クラス	理 B G	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	原子構造、周期表、化学結合、気体の状態方程式、結晶構造、状態図、束一的性質				
授業の目標	基礎的化学として、原子の構造、化学結合、気体の性質、物質の状態変化、溶液中のイオンを理解する。				
学習内容	化学は、私たちの身の回りの世界において常に重要な現象として生活に関わりあっている。この学問は、物質の性質・構造・変化を対象としている。化学現象を統一的に理解するには、その根底にある原理・法則を学ぶことが重要である。この講義では原子の構造、原子構成粒子である電子の軌道、その軌道による化学結合形成の原理を学び、化学結合で形成される分子の構造と形状について学習する。次に、分子の集合によって生じる液体・固体の性質・構造を学び、気体・液体・固体間の状態変化と状態表示法についても学習する。さらに、純粋な物質の混合によって生じる混合物・溶液についても学ぶ。				
授業計画	授業計画 (シラバス) テキストの章を以下の順序で講義する。(カッコ内は授業予定回数) 1. 原子の内部 有核原子・周期表・原子とスペクトル・化学と原子核 (第 1～3 回) 2. 化合物の内部 化学結合の原理と関連する問題 (第 4、5 回) 3. 分子を調べる 質量分析法・分子分光法・X 線回折法 (第 6 回) 4. 自由な粒子 (第 7、8 回) 気体の性質と諸法則・実在気体 5. 固体の内部 (第 9、10 回) 凝集力・結晶構造 6. 物の状態変化 (第 11 回) 液体の構造・状態図・相 7. 混合物中の物 (第 12、13 回) 状態図・束一的性質 8. 溶液中のイオン (第 14 回) 電解質溶液・イオン性溶液の性質・イオン伝導率 まとめ (第 15 回)				
受講要件	高校レベルの化学の知識				
テキスト	P. W. Atkins, M. J. Clugston 「物理化学の基礎」千原・稲葉 訳 (東京化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習：授業関連分野に関して、高校の化学の教科書を読みなおしておくこと。 復習：毎回宿題を課すので、提出すること。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト(10%)、レポート(20%)、期末試験(70%)				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	自分でよく考えても分からないことがあれば質問してください。				

授業科目名	哲学			
担当教員名	堂園 俊彦	所属等	人文社会科学部	
		研究室	人文 A417	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限
キーワード				
授業の目標	「哲学」という言葉は、往々にして「こむずかしい」「わけのわからない」ということを意味します。しかし本当にそうでしょうか。この講義では、哲学が、本来はとても身近な疑問——だれもが一度は抱いたことのある疑問——に答えようとする知的な営みであることを、みなさんと一緒に確かめたいと思います。			
学習内容	キーワードに記したような哲学の根本問題について講義します。			
授業計画	1回 哲学について 2回 外的世界の存在 3回 他人の心 4回 心と身体 5回 人格の同一性 6回 自由と決定 7回 中間のまとめ 8回 なぜ道徳的であるべきか 9回 道徳の理論 10回 分配と正義 11回 帰納の正当性 12回 意味の理論 13回 相対主義 14回 芸術とは何か 15回 神の存在			
受講要件	ありません。			
テキスト	特に指定しません。			
参考書	・スティーブン・ロー『フィロソフィー・ジム 「考える脳」をつくる 19 の扉』、ランダムハウス講談社、2003 ・トマス・ネーゲル『哲学ってどんなこと？—とっても短い哲学入門—』、昭和堂、1993 ・麻生博之・城戸淳『哲学の問題群』、ナカニシヤ出版、2006 ・山本信『哲学の基礎』、北樹出版、1988 ・ブレンダン・ウィルソン『自分で考えてみる哲学』、東京大学出版、2004			
予習・復習について	毎回、問題を考える上で重要な哲学者の著作を紹介します。より深く考えたいと思う人は、図書館で探してみてください。			
成績評価の方法・基準	2/3 以上の出席を条件として、中間テストおよび最終テストの得点によって決める。			
オフィスアワー	火曜 9・10 限。ただし、緊急の用件で不在にする場合がありますので、必ずアポイントメントをとって下さい。また、他の時間でも、相談してもらえれば、できるだけ対応します。			
担当教員からのメッセージ	哲学では、確立された理論を学ぶことよりも、自ら主体的に考えることが大切です。講義の中でもできるだけ皆さん自身が考え、議論し、質問する時間を作る予定ですので、受け身の講義では物足りないという方はどうぞ。			

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	恒川 隆生	所属等	法務研究科		
		研究室	人文学部 A 棟 607		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	憲法という言葉の意味、基本的人権、三権分立、民主主義（国民主権）、国会・内閣・裁判所、平和主義、国家と社会、国際協調				
授業の目標	<p>この授業は、日本国憲法の条文を覚えることを目的とするものではありません。憲法の条文に表現されている基本的人権や民主主義（国民主権）といった憲法的な価値や意義を、さまざまな素材を通して考えてみる機会として進めていきます。</p> <p>もちろん、憲法の条文を手がかりとしますので、基本的な用語や概念は理解しなければなりません。初回に日本国憲法の条文のコピーを配布しますので、参照してください。</p>				
学習内容	<p>基本的な視角は以下のとおりです。</p> <p>(1) 日本国憲法は施行されてから 65 年目を迎え、日本社会や日本国民の意識に定着したようにみえる。</p> <p>(2) しかし、他方では、憲法を現実の国際・国内状況に合わせて改正する必要があるという意見も強まっている。</p> <p>(3) したがって、憲法が現実にあっているかいないかを、いろいろ検討するべき時期に来ていると思われる。そのためには、「憲法（というもの）」と「現実」の関係がどうなっているのかをまず観察し、考察していかなければならない。</p> <p>(4) そもそも憲法（日本国憲法に限らない。）は、なぜ制定されてきたのか。</p> <p>(5) 憲法はそれが目指しているものために、現実に対して力を発揮できているのか。</p> <p>(6) もし、そうでないとすれば、憲法は現実にとって「不可欠」なものといえるのか。</p> <p>(7) それでもなお憲法が必要とされるとすれば、それはなぜなのか。</p> <p>できるだけ、様々な資料（例、与太話＝「たわいのないでたらめな話。ばかげた話（広辞苑第六版）」を含む。上品に言えば、世間話＝「世間の出来事などについての、気のおけない話（同上。））を使って、難しく考え過ぎないように進めていくつもりです。</p>				
授業計画	<p>1回 憲法と憲法典・憲法法律、日本国憲法の特徴と原則 憲法という法は多様な姿を持っています。また、日本国憲法の独特な性格についても、歴史的・比較法的な観点を含めつつ紹介します。</p> <p>2回 基本的人権総説（1） 時代により、国によって、憲法の人権保障のありようは様々です。そもそも人権自体に対する考え方も大きく変化してきました。どのような問題が起こったので憲法による人権保障が必要になったのかを考えます。</p> <p>3回 基本的人権総説（1） 人権を保障される「主体」は誰か。逆に、人権が制限されることは許されるのか。個人と法人、成年と未成年、女性と男性、日本国民と外国人など、現実の制度を例に見ていきます。</p> <p>4回 国籍 日本も江戸時代末期の開国以来、国際化が急激に進みました。日本国憲法や憲法法律が定める国籍の意義や要件と、社会に生じる「摩擦」「軋み」にも触れていきたいと思えます。</p> <p>5回 人格権 人格が尊重されるべきことについてはおそらく異論がないでしょう。それでは、憲法や民法の世界で使われる「人格権」とはどのようなものを指しているのか。意外に身近に感じられる問題があるかもしれません。</p> <p>6回 法の下での平等 自由社会・競争社会と平等原則とは「緊張関係」にあるのでしょうか。機会の平等、「悪しき」平等、実質的な平等、許されない差別と合理的な差別など、平等について考えると難しい議論が出てきそうです。</p> <p>7回 表現の自由（1） 大多数の国民は、表現者としてよりも表現の受け手であることが多い。しかし、表現することに強いあこがれを持つ人も多いのではないのでしょうか。公権力と表現の自由の関係を振り返ってみると、興味深い点が明らかになります。</p> <p>8回 表現の自由（2） 表現行為の種類や方法は無数にあるといえるでしょう。ときには沈黙すらある種の表現行為になるのですから。いろいろな表現媒体ごとに表現の自由の保障と制約をめぐる議論を紹介し、考えていきます。</p> <p>9回 信教の自由 宗教と個人・社会の関係は歴史的経緯や宗教の教義に応じて複雑な様相をみせます。日本においてもそのとおりです。宗教についての法律、行政、裁判所の姿勢、国民の法意識などを振り返ってみたいと思えます。</p> <p>10回 生存権 基本的人権の締めくくりは生存権です。現代日本の貧困問題について見聞きしたり考えてみたこと</p>				

	<p>がありませんか。生存権とは何かという問いが、あらためて発せられるいま、現場や実態から考えていく必要があるでしょう。</p> <p>11回 平和主義 憲法は、時として政治の領域と分ちがたい問題を扱うこととなります。平和（裏返せば、防衛、国防、戦争、安全保障等々）について憲法の分野で語られてきたことを「おさらい」したうえで、現状を紹介します。</p> <p>12回 国民主権と象徴天皇制（1） 大日本国憲法と現憲法が対比される点は多々ありますが、主権の所在に関する原則もそのひとつです。近年、中東ないしアフリカで政治体制の大きな変動が起きましたから、国民主権について再考するのよい機会と思います。</p> <p>13回 国民主権と象徴天皇制（2） タイトルのとおり、双方の関係はとくに第二次世界大戦後、特別な展開をみせていると考えられます。また、現在、皇位継承の制度についての議論も活発化しており、問題解決の困難さが予想されるところです。</p> <p>14回 国会 画像で見る国会議事堂が「国会」のイメージではないでしょうか。衆議院と参議院、本会議と委員会、国会議員、その選出方法（選挙の仕組み）、そして国会の果たしている役割を理解しておきましょう。</p> <p>15回 裁判所 国民の基本的な人権が最後に守られる（制限される）のは、裁判所においてです。裁判所制度全体、個々の裁判所の特色、裁判官、訴訟の起こし方（起こされたらどうする）などを学びます。</p>
受講要件	受講者数によっては出欠をとることもありえます。そうでない場合にも、授業には毎回出席してください。
テキスト	
参考書	指定しません。ただ、授業中、適宜、事項や事案に係る図書を紹介したり推薦したりすることがあります。
予習・復習について	日々の報道を漫然と見過ごしたり聞き過ごしたりすることがないよう。世間に関心をもち、注意していることが予復習に役立つ場合もある。
成績評価の方法・基準	時々、小テストやアンケートを行うつもりです（1、2回）。出欠の確認や成績評価のために実施するものではありませんが、そのときの問いに対する考えを書く練習になりますので、受けておくにこしたことはありません。
オフィスアワー	前期火曜日の午後1時から3時。
担当教員からのメッセージ	法的知識へのどん欲さや、論理的思考力を身につけてほしい…というよりは、「柔らかな感性」、好奇心、柔軟な考え方、寛容さ等を育て、伸ばしていただきたいと思っています。

授業科目名	経済と社会			
担当教員名	布川 日佐史	所属等	人文社会科学部	
		研究室	共通L棟407	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限
キーワード	雇用システム、不完備契約、役割等級制度			
授業の目標	日本の雇用システムが変化してきたプロセスを検討する。成果主義の導入がどのように進み、現状はどうなっているのか明らかにする。変容をもたらした背景に対する経済学の分析成果を学ぶ。			
学習内容	上記の目標を達成するために、県内企業の事例について学ぶ。その上で、賃金・人事制度改革に個別企業の関する実証研究の成果を学ぶ。また、雇用システムの変容を捉える経済理論について学ぶ。			
授業計画	1 日本の雇用システムとは？ 2 日本の雇用システムのメリット・デメリット 3 日本の雇用システムの社会的基礎 4 職能資格制度 5 日本の雇用システムの経済理論 6 能力主義から成果主義へ 7 成果主義の実態（1）－県内企業の事例 8 成果主義の実態（2）－役割等級制度 9 成果主義と労働時間管理 10 企業組織と中間管理職層の変容 11 正社員の多様化 12 非正規社員の正社員化 13 ワークライフバランス 14 ポジティブアクション 15 まとめ			
受講要件	特になし			
テキスト	特になし			
参考書	講義の進展にあわせて、紹介します。			
予習・復習について	前回の授業内容を復習しておくこと。			
成績評価の方法・基準	授業のまとめと小テストを行い、それをもとに評価します。			
オフィスアワー	水曜日 17:30-18:30			
担当教員からのメッセージ				

授業科目名	心理学				
担当教員名	須藤 智	所属等	大学教育センター		
		研究室	共 A513 (西)		
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年,3年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる(配布資料有)				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学 1 (脳の機能と役割を考える) 3.生理心理学 2 (脳の機能と役割を考える) 4.感覚・知覚 1 (外界と心の相互作用を考える) 5.感覚・知覚 2 (外界と心の相互作用を考える) 6.学習 (学ぶということ) 7.認知 1 (知のメカニズムを知る) 8.認知 2 (記憶と注意のメカニズムを知る) 9.発達 1 (乳児期から児童期までの発達を知る) 10.発達 2 (青年期から死までの発達を知る) 11.ここまでのまとめ 12.性格 (性格とは? 性格の測定について知る) 13.臨床心理学 (臨床心理学とは何か) 14.社会心理学 (人と社会の関わりにおける心の役割を知る) 15.まとめ (心理学の今後の展開について考える) 16.学期末試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	<p>授業で扱う内容は以下の参考書に準じる。予習・復習で利用すること。</p> <p>兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ (ナカニシヤ出版)、477950385X (生協で販売予定)</p>				
予習・復習について	<p>予習：参考書(テキスト)を一読してくること。</p> <p>復習：配布資料、ノートについて、1時間程度読み直しをすること。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>学期末試験(80%) + 課題(20%) + α (エクストラクレジット)</p> <p>学期末試験は、テキスト、レジュメ、自筆ノートの持ち込みは可とする。</p> <p>※エクストラクレジット制の導入：指定した心理学の実験、調査に参加した場合、体験学習に参加したと解釈し加点する。制度の詳細については、授業の初回時に説明資料を配付する。</p>				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通 A 棟 5F513 室 火曜日 5,6 限				
担当教員からのメッセージ	授業に関する情報は、以下の URL から取得できる(パソコン : http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定。				

授業科目名	数理の構造				
担当教員名	鈴木 信行		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年,3年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	いろいろな数、整数、論理的な証明、演繹的推論、微分・積分				
授業の目標	古典的な数学からの話題を通して、数理科学の一面に触れることを目的とする。また、数学を専攻としない学生の素養として、微分積分学や線形代数学の基礎事項にも簡単に触れる。				
学習内容	日常の身近なところにある数学的なもの（数、図形、自然現象の数理など）を題材に、数理科学への橋渡しをしようと思う。また、その過程で現れる様々な論証や証明方法を考察し、数学的なものの考え方や論理的な推論を議論する。 高校の数 I 数 A 程度の知識から出発し、諸君とともに、「大学レベルの数学」の見物に出かけたいと思う。				
授業計画	以下の各項目を解説していく予定であるが、学生諸君の理解の状況をみて適宜調節する。また、学生諸君の希望があれば、内容の一部変更の可能性もある。学生諸君と対話型形式をとり、議論に参加を求める場合もある。 1. いろいろな数 2. 整数の話 3. 論証の構造（数理論理学入門） 4. 微分と積分（微分積分学の基本定理） 5. 線形代数学の基礎				
受講要件	なし（高校の数 I 数 A 程度の知識は仮定しますが、復習しながら進めます。）				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	予習復習は古来より効果的な学習法です。この講義では、特に復習に力を入れてください。自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ないですよ。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってけると確実です。				
担当教員からのメッセージ	数学は「積み上げ」が大事といわれます。しかしこの講義では、再チャレンジが可能なように、いくつかのトピックスを数回ずつ話します。一度解らなくなっても諦めずに参加してください。予習復習は古来より効果的な学習法です。諸君の自宅での自発的かつ積極的な学習、特に復習を前提として講義します。大学の講義ですから、ただ出席して座っているだけで解るようなレベルの内容は講義しません。高校数学の復習ではなく、大学レベルの話をしていきます。「定理や公式を当てはめて練習問題を解く」という受験勉強のようなことは期待しないでください。				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	山中 正道		所属等	理学部	
			研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード					
授業の目標	日常の身近な事象を題材として、それを切り口とした化学の話題を提供する。無機化学、環境化学、有機化学、生物化学に関する化学の基本コンセプトを学ぶ				
学習内容	無機化学、環境化学、有機化学、生物化学に関する化学の基本コンセプトと関連する化学の最新情報				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 銅と文明 3 回 鉄と生活 4 回 周期律と元素 5 回 電気と化学 6 回 触媒と反応 7 回 水と生命 8 回 地球環境と化学 9 回 エネルギーと化学 10 回 燃焼と火災 11 回 セッケンと洗剤 12 回 視覚と色素 13 回 プラスチックと生命 14 回 栄養とアミノ酸 15 回 その他				
受講要件	高校で化学 I か理科総合 A を履修していることを前提に授業を行う。				
テキスト	芝 哲夫 著 「化学物語 2 5 講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポートにより評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生命科学				
担当教員名	塩尻 信義	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 611		
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	臓器移植、再生医療、万能細胞、癌、遺伝子、DNA、タンパク質、細胞、生命倫理				
授業の目標	最近の生命科学の進歩はめざましい。毎日とっていいほど、新聞紙上には関連記事が掲載されている。この授業では、新聞記事に話題をもとめながら、生命科学の基本的な事柄（遺伝、遺伝子、タンパク質、細胞、臓器、発生など）の理解をめざす。				
学習内容	基本的には高校の理科／生物の知識をもとに、生命科学関係の新聞記事を理解することをめざす。あわせて、一般常識としての生命科学と最近の生命科学の進歩についても理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. わたしたちの体のなりたち（肝臓移植） 3. 再生医学・再生医工学 4. 細胞とは 5. 細胞小器官 6. 生体をつくる物質 7. 細胞増殖のしくみ 8. 癌とは 9. 遺伝の話 10. 遺伝子とは 11. 遺伝子のはたらき 12. 遺伝子治療 13. 発生のしくみと内分泌攪乱物質 14. クローン動物と発生工学 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	<p>テキストは指定しないが、次の本のレベルを理解してほしいと考えている。</p> <p>武村政春他著(2010) 「生命科学～身近な話題から学ぶ」 実教出版</p>				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	できるだけ予習復習をしてほしい（特に復習）。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、期末テストを基準に成績評価をします。				
オフィスアワー	出張以外は大体研究室にいますので、質問のある方は研究室に来てください。				
担当教員からのメッセージ	ズルをせず、一緒に勉強しましょう。				

授業科目名	化学Ⅲ（有機化学）				
担当教員名	山本 歩		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水1・2
キーワード					
授業の目標	混成軌道の知識を基に、分子の構造について理解し、分子の名称と異性現象についても理解を深める。有機合成は簡単な分子から反応を通じて複雑な分子へと変換することである。種々の有機反応の基本をしっかりと学ぶ。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。有機化学は量子理論に基づいた構造論と、化学反応を支配する理論によって体系化されている。また、有機化学は物質を取り扱うので、化学全体の基礎となっている。本授業では、有機化合物の結合様式と分子の種類について、また、脂肪族化合物および芳香族化合物の基本骨格とその構造について学び、さらにこれらの化合物の基本原理に基づいた反応について学ぶ。				
授業計画	<p>教科書にそって、以下の項目を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の電子配置・・・・・・・・・・原子の電子配置、共有結合の成り立ち 2. 混成軌道と電子の隔たり・・・・混成軌道と分子の形、誘起効果と共鳴効果 3. 構造式と化合物の分類、命名・・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性と命名法 4. シス・トランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカンー環状炭化水素の形 5. キラル炭素と鏡像異性・・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 6. ベンゼンと芳香族化合物・・・・ベンゼンの安定共鳴構造、「芳香族性」と多様な化合物 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・・ラジカル反応のメカニズム、いろいろなラジカル反応 9. アルケンの求電子付加反応・・・・付加反応のメカニズム、カルボカチオンとハロゲンの付加 10. ベンゼンの求電子置換反応・・・・置換反応のメカニズム、置換基の配向性と反応性への影響 11. ハロアルカンの求核置換反応・・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 12. カルボニル化合物の求核付加反応・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』（化学同人）				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでもらうこと。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	教育の原理				
担当教員名	藤井 基貴	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 105		
分担教員名					
クラス	教 (B組)	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	学力問題、ゆとり教育、教育哲学、教育史、世界の教育制度				
授業の目標	教育学の基本的な考え方を身につけてもらうことを主な目的とする。教育に関する様々なテーマを取り扱い、それらを議論・検討する。受講者がみずからの教育観をより論理的・説得的なものへと発展させていく手がかかりとなるような講義としたい。				
学習内容	教育学の基礎知識（教育哲学、教育史など）について解説した上で、現代社会における学校教育の課題について検討します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー講義の説明・課題設定ー 2. 教育哲学①ー教育とは何かー 3. 教育哲学②ー教育の必要性ー 4. 教育史①ー古代から近代ー 5. 教育史②ー近代から現代ー 6. 教育社会学①ー戦後日本の教育改革ー 7. 教育社会学②ー近代教育への批判ー 8. 教育心理学①ー学習への動機付けー 9. 教育心理学②ー学校環境学ー 10. 現代の教育問題①ー教師教育ー 11. 現代の教育問題②ーエリート教育ー 12. 比較国際教育学①ーアジアの教育ー 13. 比較国際教育学②ーヨーロッパの教育ー 14. まとめ①ー公教育の光と陰ー 15. まとめ②ー教育 ESDー 16. 学期末試験 				
受講要件	なし				
テキスト	未定（初回講義において指定します）				
参考書	初回講義において参考文献一覧を配布します。				
予習・復習について	予習・復習については授業時間内に適宜指示します。				
成績評価の方法・基準	授業レポート 20% 中間レポート 20% 定期試験 60%				
オフィスアワー	木曜 5・6 限（事前にアポイントをとってもらえれば、質問などに答える時間を調整します）				
担当教員からのメッセージ	初回の授業において配布する授業案内を熟読し、計画的に学習を進めてください。				

授業科目名	発達と学習				
担当教員名	小林 敬一	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部K棟401		
分担教員名					
クラス	教(D組)	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	発達、学習、心理学、学校教員				
授業の目標	学校教員に必要な、心理学的な観点からの発達と学習に関する知識や考え方を学ぶ。				
学習内容	1.学習に関する心理学的な考え方と知識。 2.発達に関する心理学的な考え方と知識。				
授業計画	1.ガイダンス、記憶 2.知識の役割 3.誤りと失敗の意味 4.動機付けⅠ 5.動機付けⅡ 6.学習の環境 7.教育と文化 8.発達における遺伝と環境 9.母子関係と発達 10.発達におけるパラドクス 11.発達課題 12.社会性の発達 13.子どもの思考 14.発達の環境 15.障害の理解 16.試験				
受講要件					
テキスト	テキストは用いない。				
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	復習は必要、予習は不要。				
成績評価の方法・基準	1.授業への参加(単なる出席ではないので注意) 40% 2.試験の成績 60%				
オフィスアワー	適宜、ただし要予約(238-4709)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ドイツ語 I - b				
担当教員名	エゲンベルグトーマス	所属等	大学教育センター		
		研究室	人文学部 A 棟 225		
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード	実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！				
授業の目標	日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。				
学習内容	この、少し変わったワークショップ形式の授業では 4～6 人グループを作り、落ち着いた雰囲気の中で聞く、読む、話す、書く技能をバランスよく学び、語彙や文法は自分で推測したり調べたり発見したりすることで主体的に学習に取り組むことができるように工夫します。初めから、易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！ 補足： 無論、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>S Sprachhandlung（言語行動） L Landeskunde（ドイツ事情） Kennenlernen（人と知り合う） S 様々な挨拶、スモールトーク L 相手によって話し方が変わる、ドイツ語と日本語、ヨーロッパのドイツ語圏 Mein Tag（私の一日） S 時間表現、日常の行動、用事や希望、昨日（過去）のことを言う L 色々な人の一日 Essen und Trinken（食事） S 買い物する、レストランで注文する・支払う L ドイツの食卓、食習慣 Wohnen, Lifestyle（住まい、ライフスタイル） S 家や部屋の様子を説明する L 学生の住居シェアリング、建築、国際社会 Familie, Freundschaft, Liebe（家族、友人、恋愛） S 日常会話、告白、明日（未来）のことを言う L 家族暮らし、恋愛・婚姻の形態 Schule und Studium（学校、大学） S 議論・反論 L 個人を重んじ、個性を育つ教育 Freizeit und Arbeit（余暇、仕事） S 一週間の予定、約束する、お願い・命令、もしも（仮定）のことを言う L 自由時間の過ごし方、環境意識、就職活動、ワーク・ライフ・バランス Reisen（旅行） S 旅行の計画をたてる、予約する、旅先での色々な話 L ヨーロッパ、異文化経験 その他（様々なゲーム、ビデオ、スライド、歌）</p>				
受講要件	なし				
テキスト	様々です。				
参考書	この授業に欠かせない学習ツール： - Seino Tomoaki: Meine Deutschstunde、朝日出版社、ISBN 978-4-255-25319-0 - 独和辞書（4000 円程度のペーパー辞書はお勧めです。電子辞書はお勧めしません。）				
予習・復習について	各授業にあたって 1 時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）を出します。				
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて 20%）、小テスト（30%）、Showtime テスト（20%）、期末テスト（30%）。 ただし、3 回以上欠席する場合は単位不可（2 回の遅刻は 1 回の欠席扱い）。				
オフィスアワー	月・水曜日の昼休み 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegg@ipc.shizuoka.ac.jp				

担当教員か
らのメッセ
ージ

授業科目名	フランス語 I - b				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 408		
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード	基本、文法				
授業の目標	フランス語の基礎を作ること				
学習内容	文法・文化				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 名詞の数と性 2. avoir と etre 3. 不定冠詞と定冠詞 4. -er 動詞の活用 5. -ir 動詞の活用 6. 形容詞の変化と用法 7. 否定文と疑問文 8. aller と venir 9. 所有形容詞と指示形容詞 10. いくつかの不規則動詞 				
受講要件	指定学部の 1 年生				
テキスト	最初の授業までに必ず生協で購入のこと				
参考書	フランス語の辞書が必要（最初の授業で紹介しますが、すでにもっている人はそれで可）				
予習・復習について	予習が絶対必要				
成績評価の方法・基準	平常点と試験の成績。ちこく・欠席が目立つと単位は認定されない。				
オフィスアワー	月 14:20～15:30				
担当教員からのメッセージ	こつこつまじめに努力してください。				

授業科目名	物理学概論A				
担当教員名	渡邊 拓	所属等	農学部		
		研究室	共通教育 C 棟 307-2 号室、農学部 A 棟 506 号室		
分担教員名					
クラス	農 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 7・8
キーワード	力学				
授業の目標	力学の基礎を理解する。				
学習内容	<p>物理学は現代の科学技術の根幹をなしています。したがって、物理学は科学技術の世界を把握し、批判精神を養うためにも是非身につけて欲しい学問の一つです。しかも、バイオサイエンスに代表される農学での新しい潮流は、物理学的な考え方をもち、さまざまな測定技術を駆使できる人々を必要とするようになっています。</p> <p>この授業では、物理学の土台となる力学を教えます。高校時代に物理を選択しなかった学生を念頭に、基本から教えたいと思います。</p> <p>なお、クラス分けは別途掲示します。</p>				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 運動の表し方 3 回 運動の表し方 4 回 運動の法則 5 回 運動の法則 6 回 力と運動、単振動 7 回 力と運動、単振動 8 回 力と運動、単振動 9 回 仕事とエネルギー 10 回 仕事とエネルギー 11 回 角運動量と回転運動の法則 12 回 角運動量と回転運動の法則 13 回 質点系と剛体の運動 14 回 質点系と剛体の運動 15 回 総括				
受講要件					
テキスト	基礎物理学 (原 康夫) 学術図書出版				
参考書	高校の教科書など。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	定期試験により評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	現代韓国語B				
担当教員名	南 富鎮		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟527	
分担教員名					
クラス	教理	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	難易度	※B	曜日・時限	木1・2
キーワード	韓国語、韓国語文法				
授業の目標	韓国語をより高いレベルで理解する。				
学習内容	韓国語をより高いレベルで理解し、それぞれの分野で生かせるようにする。				
授業計画	1回 復習 2回 勧誘形 3回 音の脱落現象 4回 希望と理由の表現 5回 意志と命令の表現 6回 否定文の練習 7回 仮定形の表現 8回 補助動詞の表現 9回 意図、助言の表現 10回 同意、理由の表現 11回 約束の表現 12回 不規則活用 13回 不規則活用 14回 禁止と可能の表現 15回 総復習				
受講要件	基礎韓国語を4単位以上取得したことが必要				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼうー中級』朝日出版社、2007年				
参考書	とくになし				
予習・復習について	その都度教員が指示する。				
成績評価の方法・基準	出席40%、試験60%				
オフィスアワー	最初の授業で知らせる。				
担当教員からのメッセージ	難易度B				

授業科目名	生物学 I (基礎A)				
担当教員名	藤原 健智	所属等	理学部		
		研究室	総 614		
分担教員名					
クラス	理MP	学期	前期	必修選択区分	
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	微生物、生物の多様性、進化、環境				
授業の目標					
学習内容	微生物学の勉強をとおして、生命活動の仕組み、生物進化、自然環境と生物との相互作用等を理解する。教育ビデオや教材、プリントを用いる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の宇宙 2. 生命のつながり 3. 代謝 4. 生命の暗号を読む 5. 遺伝子の移動 6. 微生物の進化 7. 微生物の多様性 8. 微生物のエコロジー 9. 微生物のコントロール 10. 微生物の相互作用 11. 人体の防衛 12. 微生物と人間の病気 				
受講要件					
テキスト	随時資料プリントを配布する。				
参考書	一般的な生物学教科書。				
予習・復習について	要復習				
成績評価の方法・基準	試験のかわりにレポート提出を課します。出席回数が10回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。				
オフィスアワー	月-金曜日午後 (12:00-16:00)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物学 I (基礎A)				
担当教員名	徳元 俊伸	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 625 室		
分担教員名					
クラス	理CG	学期	前期	必修選択区分	
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	生きものとは、生命の起源、ダーウィン、細胞、細胞の生物学、進化論				
授業の目標	現代生物学の概略について理解する。				
学習内容	生物学は分子生物学的理解により急速に進歩し、複雑化してきている。その一方で、ゲノム情報を基盤とした分子レベルでの研究成果は生物の統合的な理解をもたらした。本講義では生物現象を進化論的に説明することを基本コンセプトに編集された下記の教科書を題材に現代生物学の概略を理解する。				
授業計画	1 インTRODakション 生物学とは 2 科学的探求 3 ダーウィンの進化論 4 生命の化学的基礎 1 5 生命の化学的基礎 2 6 生命の起源と初期の進化 7 細胞の構造 1 8 細胞の構造 2 9 細胞の構造 3 10 細胞はいかに分裂するか 1 11 細胞はいかに分裂するか 2 12 DNA : 遺伝物質 1 13 DNA : 遺伝物質 2 14 遺伝子とその働き 1 15 遺伝子とその働き 2 16 試験				
受講要件	「生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト	レーヴン/ジョンソン 生物学、培風館、 P.レーヴン/G.ジョンソン/J.ロソス/S.シンガー著 6,400 円 (生協で販売)				
参考書	特に指定しない。				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限 (2 時 25 分～3 時 55 分) を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより現代生物学の基礎が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	数学 I (微分積分 A)				
担当教員名	清水 扇丈		所属等	理学部	
			研究室	理 C510	
分担教員名					
クラス	理 P C B G 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	高等学校の数学 I, II B まで習得している学生 (クラス 3) と、高等学校の数学 III, C まで習得している学生 (クラス 1, 2) に分けて、3 クラスで講義を行います。 講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法 (解析) と統的手法 (代数、幾何) があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。 講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学 I, II, III は、各々 3 クラスに分けて講義をします。前期の数学 I の第 1 回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3 クラスの担当教員は、</p> <p>クラス 1 : 数学 I 清水教員 - 数学 II 久村教員 - 数学 III 清水教員 クラス 2 : 数学 I 奥村教員 - 数学 II 千葉教員 - 数学 III 奥村教員 クラス 3 : 数学 I 板津教員 - 数学 II 保坂教員 - 数学 III 田中 (直) 教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式 数と文字、文字式、平方根、2 次方程式 2. 実数の性質 1 次関数、2 次関数、不等式、三角比、三角関数、指数、対数 3. 極限 数列の極限、実数の連続性、和の記号 Σ と級数、優級数定理 4. 関数 関数の定義域と値域、関数の極限 5. 微分 整式の微分、導関数、積・商の微分、合成関数・逆関数の微分 6. 平均値の定理 平均値の定理、関数の増減、三角関数の微分、指数関数・対数関数の微分、ロピタルの定理 7. テイラーの定理 高階導関数、テイラーの定理 8. 積分 不定積分、置換積分、部分積分、定積分、広義積分、曲線の長さ、面積・体積 				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社), ISBN4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	「微分積分概論」, 越 昭三 監修, 高橋泰嗣, 加藤幹雄 著, (サイエンス社), 1998, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示されます。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	化学概論A				
担当教員名	轟 泰司	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 702 号室		
分担教員名					
クラス	農 (アドバンスト)	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	物質、原子、電子、周期表、共有結合、イオン結合、分子、極性、酸・塩基				
授業の目標	化学とは物質の性質、特性、変換を研究する学問である。私たちは化学物質に取り囲まれており、私たち自身も化学物質の集合体である！ 生物の生老病死もすべて化学反応の結果であり、この世に存在するものが化学物質と無関係であることなどできない。この講義では、化学の視点から自然現象や生命現象を俯瞰する能力を身につけることを目標とし、その基礎となる知識と考え方について学ぶ。				
学習内容	(1) 物質の性質と分類、特性、(2) 計量に関する単位と有効数字、(3) 原子構造と周期表および電子配置、(4) イオンとイオン結合、(5) 共有結合と分子のかたち、について学ぶ。				
授業計画	1 回 講義の概要説明 ; 物質と測定 (1) 2 回 物質と測定 (2) 3 回 原子の構造と安定性 (1) 4 回 原子の構造と安定性 (2) 5 回 原子の周期表と電子構造 (1) 6 回 原子の周期表と電子構造 (2) 7 回 原子の周期表と電子構造 (3) 8 回 原子の周期表と電子構造 (4) 9 回 原子の周期表と電子構造 (5) 10 回 原子の周期表と電子構造 (6) 11 回 イオン結合と主要族元素の化学 (1) 12 回 イオン結合と主要族元素の化学 (2) 13 回 共有結合と分子構造 (1) 14 回 共有結合と分子構造 (2) 15 回 まとめ、復習				
受講要件	特にないが、この講義が前期の化学実験及び後期の有機化学概論及び生化学概論の基礎となることに留意し、しっかりと履修すること。				
テキスト	「マクマリー一般化学」上・下 (荻野 博, 山本 学, 大野公一 訳, 東京化学同人, 各 3200 円+税)				
参考書	「第 2 版マクマリー生物有機化学 基礎化学編」(菅原二三男監訳, 丸善, 4800 円+税)				
予習・復習について	予習: 教科書にざっと目を通しておく。 復習: 教科書の例題を解き、わからない場合は質問して解決する。				
成績評価の方法・基準	小テスト (20%)と期末試験 (80%)により、 秀 (90 点以上)、優 (80 点以上 90 点未満)、良 (70 点以上—80 点未満)、可 (60 点以上—70 点未満)、不可 (60 点未満) で評価する。 なお、期末試験では基礎・アドバンスト共通問題を出題し、両クラス間で成績評価に不公平が生じないようにする。				
オフィスアワー	授業終了時、メール、居室 (農 A702, 金曜日の午後) にて質問を受けます。居室に来る場合には、事前にメール等で連絡していただくと助かります。				
担当教員からのメッセージ	化学の言葉と文法 (元素記号・単位・化学式・用語などなど) を知り、使えるようになることは最低限必要です。その上で、なぜそうなるのか? について考察し、その内容を化学の言葉で論理的に表現できるようにトレーニングを積むことがさらに重要です。				

授業科目名	生物学概論A				
担当教員名	鳥山 優	所属等	農学部		
		研究室	共通教育C棟509号室		
分担教員名	原田 久				
クラス	農(基礎)	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金1・2
キーワード					
授業の目標	教科書の第2章「分子から細胞へ」をそれぞれのクラスの進度に応じて理解する。				
学習内容	生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造、細胞小器官のはたらきを理解する。生体膜の構造と働き、細胞分裂を学習したのち、細胞内で行われている異化反応である好気呼吸、同化反応である光合成の基本を学ぶ。最後に、古典的なメンデルの法則を理解した後に、遺伝情報を担っているDNAの働きについて学習を進める。				
授業計画	1回 ガイダンスー生物学を勉強するにあたってー(ガイダンス後、すぐに本論に入る) 2回 生体を構成する分子ー生体元素と水ー 3回 生体を構成する分子ー核酸とタンパク質ー 4回 生体を構成する分子ー糖質と脂質ー 5回 細胞の構造と細胞小器官 6回 生体膜の働き 7回 体細胞分裂と細胞間情報伝達 8回 同化と異化・解糖系 9回 TCA回路と電子伝達系 10回 光合成 11回 メンデルの法則とセントラルドグマ 12回 DNAの複製 13回 転写とその制御 14回 タンパク質への翻訳 15回 質問日				
受講要件	なし				
テキスト	①生命科学のための基礎シリーズ 生物 大島泰郎監修 実教出版 ②ダイナミックワイド図説生物・総合版 石川統・辻英夫・水野丈夫監修 東京書籍				
参考書	必要な場合は授業中に適宜紹介する				
予習・復習について	予習：授業は①のテキストにしたがって進むので、次回の授業で取り上げる部分をあらかじめ読んでくること 復習：担当する教員によって、適宜復習のためのプリントを配布するので、それも活用すること				
成績評価の方法・基準	クラス分け：入学試験科目の選択状況ならびに高校での履修状況にしたがって、入学時に行われる。 成績：期末に行われる試験(100点満点)のうち40点を基礎・アドバンストクラス共通問題とし、その獲得点数に応じてクラスごとの評価の配分を行う。その基準は36点を秀、32点~35点を優、28点~31点を良、24点~27点を可、23点以下を不可とする。期末試験(レポートならびに出席点を加えることもある)の得点が多いものから順に評価をクラスごとに配分された各評価の数に基づき、秀、優、良、可、不可の順でつけ(同点の場合は上位の成績とする)、この科目の成績とする。				
オフィスアワー	個別の教員のオフィスアワーに関しては授業の際に紹介する。鳥山は月曜日授業ある日の午後。				
担当教員からのメッセージ	農学部で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭において学習してほしい。				

授業科目名	体のために何を食べたらよいか				
担当教員名	衛藤 英男		所属等	農学部	
			研究室	農学部 B 棟 309-2	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	食品の機能性、食品科学、食品化学、有機化学				
授業の目標	食品の製造法、歴史およびそこに含まれている成分の化学構造について理解し、体にとって何を食べたらよいかを考える力を得るのが目標である。				
学習内容	機能性が注目されている食品を選び、その製造法、歴史および成分の化学構造を説明し、その食品を摂ることが体にとってどのように良いのかを理解させながら講義する。				
授業計画	1回 1) 静岡県産のお茶とわさびについて (1-2回) 2回 2) コーヒー、チョコレートなどの嗜好品について (3-4回) 3回 3) サプリメントと野菜について (5-6回) 4回 4) 最近の食品加工技術と新製品の機能性について (7-8回) 5回 5) 食品のフレーバーとその役割について (9-10回) 6回 6) 乳製品の栄養価について (11-12回) 7回 7) 麦茶やこんにゃくなどの日本の伝統食品について (13-14回) 8回 8) 体にとって何を食べたらよいかのまとめ (15回) 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回				
受講要件	食品成分の機能性については有機化学との関連が深い				
テキスト	使用しない。必要な資料を配布する。				
参考書	「何を食べたらよいか」学会出版センター、「食品機能学への招待」三共出版、「ヒット食品開発の発想と技術」学会出版センター				
予習・復習について	インターネットの活用を薦めます。				
成績評価の方法・基準	決められた内容のレポートの提出によって単位を認定する。				
オフィスアワー	随時、事前にメールで問い合わせること。acheto@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	毎回、授業の最後に質問や疑問などを書いて提出してもらいます。				

授業科目名	静岡県の防災・減災と原子力				
担当教員名	大矢 恭久	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」実践的な科目である。座学のみではなく、参加学生による討論を交えることにより、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 討論（1） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. リスクを伝える（リスクコミュニケーション） 6. 浜岡原子力発電所と安全対策 7. 静岡県の原子力防災・減災体制 8. 静岡市の緊急時支援体制 9. 報道と原子力防災 10. 防災・減災教育 11. 原子力災害からの復興 12. 目で見える放射線とその防護（1） 13. 目で見える放射線とその防護（2） 14. 討論（2） 15. 討論（3） 				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、討論での発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	暮らしの中の新素材				
担当教員名	澤渡 千枝	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部C棟208		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード	機能性材料、バイオマス、生物材料、セルロース、繊維、プラスチック、生分解性材料、光、無機材料				
授業の目標	近年の科学技術の進歩は著しく、それらは気づかぬうちに私たちの生活のなかに活かされている。この講義では専門を異にする3名の教官が、暮らしの中で出会ういくつかの新技术や製品をとりあげ、その成り立ちやしくみ、開発の経緯などについて解説する。また、可能な限り、実物呈示やデモ実験等をおこなって視覚に訴える授業を心がける。				
学習内容	大別すれば、次の3つの分野の素材の現状を学習する。 1) 生物生産物とそれを利用した新素材、 2) 生物生産物を出発点とした新素材、 3) 無機材料からの新素材。				
授業計画	回	内容			
	1	授業の概要についてガイダンス (澤渡・近藤)			
	2	バイオマス (生物生産物) と私達の暮らし (鈴木)			
	3	森林バイオマスの新利用技術-1 (鈴木)			
	4	森林バイオマスの新利用技術-2 (鈴木)			
	5	農業及び海洋バイオマスの生物材料としての利用 (鈴木)			
	6	衣料用繊維材料：ファッション界、スポーツ界における新材料 (澤渡)			
	7	産業用繊維材料：高性能・高機能材料-1 (澤渡)			
	8	産業用繊維材料：高性能・高機能材料-2 (澤渡)			
	9	プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-1 (澤渡)			
	10	プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-2 (澤渡)			
	11	金属を含む機能材料：金属を含む素材が示す多様な構造と機能 (近藤)			
	12	地球温暖化対策を指向した素材：二酸化炭素の除去や太陽電池について (近藤)			
	13	電池について：携帯電話やパソコンの長時間使用は何故可能になったか (近藤)			
	14	色の化学：～色が出るしくみと素材 (近藤)			
	15	未来の材料：高温超伝導体や強力な磁石など夢の機能材料について (近藤)			
	16	テスト			
受講要件	学ぶ意欲があり、出席出来る学生なら、指定外の学部生も可。				
テキスト	授業の中で紹介する				
参考書	授業の中で紹介する				
予習・復習について	授業でとりあげる新素材は、多様な新素材の一部であり、それらの解説は授業者の視点からである。受講生は、授業を聞くだけでなく、各自で関連した素材や、異なる観点からの見解等に興味・関心を広げ、ものを観る目を養ってほしい。				
成績評価の方法・基準	出席状況とテスト (テストの得点と出席状況・受講態度を考慮して評価する。テストの点数が合格点に満たない場合、欠席が授業回数の1/3を上回る学生には、再試の資格を与えない。				
オフィスアワー	澤渡のオフィスアワーは毎週木曜 14:30～16:00、近藤のオフィスアワーは毎週水曜 11:30～12:30、鈴木はE-mailにて対応します(afksuzu@agr.shizuoka.ac.jp)。				
担当教員からのメッセージ	「理系」的な科目に対して苦手意識を持っている、自称文系の人にとってはつらい授業かもしれません。「興味ない」とか「わからない」とか、決め込んでしまわず、心のバリアを取り払って、生活に溶け込んでいる科学技術のタネを知ろう、という気持ちで受講する学生の期待に応えるような授業である、と自負しています。				

授業科目名	アジア史概説Ⅱ				
担当教員名	戸部 健	所属等	人文社会科学部		
		研究室	A221		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	中国、近現代史、伝統と近代				
授業の目標	(1) 近現代アジア史を学ぶ上で必要な基礎的知識を身に付ける (2) アジアにおける伝統社会の特質について学び、それが近代においてどのように変容したのか、中国を中心に大まかな状況を把握する				
学習内容	(1) アジアにおける伝統社会（16世紀～18世紀）の特質について学ぶ (2) アヘン戦争から1920年代までの政治状況について概説し、伝統・近代間の葛藤についても検討する (3) 当該時期のアジアにおいて日本が持った意味についても注意していく				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 アジアの近代についてのこれまでの議論 3回 アジアの伝統社会①：科挙 4回 アジアの伝統社会②：朝貢関係 5回 アジアの伝統社会③：「華」と「夷」をめぐって 6回 アジアの伝統社会④：人口増加とヒトの移動 7回 アジアの近代社会①：アヘン戦争と東アジアの変動 8回 アジアの近代社会②：太平天国・洋務運動・地方主義 9回 アジアの近代社会③：辺境危機・国境策定・日清戦争Ⅰ 10回 アジアの近代社会④：辺境危機・国境策定・日清戦争Ⅱ 11回 アジアの近代社会⑤：”西洋”との接触・義和団・”新政” 12回 アジアの近代社会⑥：辛亥革命 13回 アジアの近代社会⑦：”対立”の清末民初 14回 まとめ 15回				
受講要件					
テキスト	特になし。授業時にプリントを配布する。				
参考書	岸本美緒・宮嶋博史『明清と李朝の時代』（世界の歴史12）、中央公論新社、1998年。 並木頼寿・井上裕正『中華帝国の危機』（世界の歴史19）、中央公論新社、1997年。 菊池秀明『ラストエンペラーと近代中国』（中国の歴史10）講談社、2005年。 吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19世紀』岩波新書、2010年。 川島真『近代国家への模索 1894-1925』岩波新書、2010年。 以上、何か一冊でもよいので手にとってみてほしい。				
予習・復習について	授業後は、ノートに書いたことをもう一度見直し頭の中を整理すること。分からないことがあったら適宜質問すること。				
成績評価の方法・基準	テスト：平常点＝7：3とする。平常点とは出席点とレポート点を足したもの。				
オフィスアワー	金曜日 3・4時限（10時20分～11時50分）。事前アポが必要、連絡先メール（jktobe@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 現代のアジアと関わる上でアジア近代史の知識は必須である。自分の将来に役立てるつもりで、意欲的に取り組んで欲しい。				

授業科目名	芸術文化思想				
担当教員名	上利 博規		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 9・10
キーワード					
授業の目標	1 ヨーロッパの芸術文化史を理解すること 2 日本およびアジアの芸術文化史を理解すること 3 芸術文化の内容・形式に大きな影響を与えてきた宗教やメディアについて理解すること				
学習内容	前半でヨーロッパの芸術文化史をジャンルごとに総覧します。 次に、日本とアジアの芸術文化を総覧します。 そして、芸術と宗教の関係、近代ヨーロッパにおける芸術文化の近代化、19 世紀における労働者階級の誕生とマス・メディアによる芸術文化の変容、東西芸術文化交流などの視点から、芸術文化について理解します。				
授業計画	1回 1 芸術文化史の見取り図 2回 2 美術文化史 3回 3 音楽文化史 4回 4 演劇文化史 5回 5 舞踊文化史 6回 6 文学文化史 7回 7 写真文化史 8回 8 映画文化史 9回 9 日本芸術文化史 10回 10 アジア芸術文化史 11回 11 宗教と芸術 12回 12 芸術の近代化 13回 13 メディアと芸術 14回 14 文化交流からみた芸術 15回 15 まとめ				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて指示しますが、それぞれのジャンルに関するごく一般的なわかりやすい入門書があるとよいと思います。				
予習・復習について	講義で取り扱ったことについて、自分でより詳しく調べてみるのが最もよい方法だと思います。				
成績評価の方法・基準	試験を行います。				
オフィスアワー	前期月曜 15:00-16:00 人文 A421 後期月曜 11:45-12:45 共通 L3F アジア研究センター				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	哲学の歴史 I				
担当教員名	田中 伸司		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	哲学史、真理、倫理				
授業の目標	古代ギリシアから中世スコラ学へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を身につける。				
学習内容	古代ギリシアから古代ローマそして西欧中世における哲学を概観します。				
授業計画	1回 インTRODクシヨン：古代ギリシア語の読み方と書き方 2回 始原なるものと世界：存在への問い 3回 ギリシア哲学の端緒：パルメニデス 4回 最強のパラドクス：アキレスとカメ 5回 パルメニデスの衝撃を受けて：ピュタゴラス、エンペドクレス、デモクリトス 6回 プラトン（1）：「ソクラテス」と対話 7回 プラトン（2）：イデアへ 8回 プラトン（3）：イデア論再考 9回 アリストテレス（1）：真理を探究するための道具 10回 アリストテレス（2）：存在論と自然学 11回 アリストテレス（3）：形而上学と倫理学・政治学論と義務論：ストア派と懐疑主義 12回 古代ローマにおける哲学へ：懐疑主義、エピクロス、ストア 13回 ローマ期の哲学とヘブライズム：キケロ、帝政期の哲人、キリスト教の誕生 14回 二元論：新プラトン主義、アウグスティヌス、そしてスコラへ 15回 まとめ：哲学史という制度について				
受講要件	人間学概論および哲学概論を履修していること。				
テキスト	テキストは定めません。プリントを配布します。				
参考書	中央公論新社の『哲学の歴史』シリーズ、とくに第一巻から三巻は参考になると思います。				
予習・復習について	授業内での小テストは各回授業の初めに行います。復習をしてきましょう。レポートに向けては、じぶんで、きちんとしたノートを作成することが有益です。関心のある思想については、片っ端から図書館で本を借りて読んでください。				
成績評価の方法・基準	授業内での小テスト（60%：毎回の授業の最初に行います）と学期末のレポート（40%）で評価します。				
オフィスアワー	火曜お昼休み（11:50-12:45） まれに会議・出張等が入ることがあります。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 哲学は暗記物ではありません。唯一の正しい理解を目指すのではなく、（何らかの意味で）有益な理解を目指してください。				

授業科目名	日本中世社会史				
担当教員名	湯之上 隆	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 8		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード	旅、災害、紀行文、東海道、駿府				
授業の目標	歴史のなかのさまざまな旅を題材にして、旅の環境、旅人たちの感情の移りゆきなどを考え、それらの社会的・歴史的变化と要因を探るとともに、土地に刻み込まれた記憶についても検討する。				
学習内容	本講義のテーマは、「旅の記憶、土地の記憶」である。 さまざまな旅によって土地に残された記憶をたどりながら、旅の意味を考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 旅は人生ということ 2. 土地の記憶―史跡を巡る 3. 西行―いのちなりけり 4. 一遍の遊行 5. 都への旅、鄙への旅 6. 富士を見る旅 7. 湯治に訪れるひとびと 8. 災害の記憶 9. 備前法華門徒たちの旅 10. 山科言継の東海道紀行 11. 貝原益軒の目 12. 女たちの旅 13. 城下町駿府の景観 14. 異国人は語る 15. まとめと試験 				
受講要件	人間の歴史や生き方に関心をもち、考えようとする姿勢をもってほしい。				
テキスト	各回の講義のたびに、説明のための関連資料を配布する。				
参考書	講義のなかで、説明する。				
予習・復習について	わからないことがあれば、質問して理解を深めるとともに、人名・用語等については、日本史辞典で調べておくと、さらにわかりやすくなるはずである。授業で取り上げる時代の人間の生き方は過去のものであるのではなく、現代に通ずるものをもっているものであり、時には「もし自分であれば」と置き換えて考えてみることも興味をもつことにつながる。				
成績評価の方法・基準	出席、質問用紙(出欠確認を兼ねる)、期末の筆記試験によって評価する。特別な理由なく欠席が3分の1を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	水 5・6 時限、研究室 (人文 A 318) にて。jstyuno@ipc.shizuoka.ac.jp 他の時間も、メールで連絡すれば可能。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B) 隔年開講。毎回講義の終わりに、質問用紙に記入してもらい、複数のもや重要な質問には次回初めに答える。これは受講者もより良い授業を作る一員であることを自覚してもらい、さらに質問力の向上を目指すとともに、授業改善に資するねらいももっている。 特別な理由以外による遅刻入室と、携帯電話の使用は認めない。				

授業科目名	教育現象の社会学				
担当教員名	荻野 達史	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟403		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード					
授業の目標	青年年期移行問題とは、青年期から成人期への移行について生じる諸々の問題を指している。具体的には、一定年齢層の人々が学校から職業社会へ移行する際に生じる問題ともいえるが、個人個人のアイデンティティや家族をめぐる問題なども含まれ、より多角的・多面的に検討する必要がある。本講義ではこうした立場から、歴史的な視点も多く取り入れ、移行問題について現在の理解を深めることを目的とする。				
学習内容	「青年期」や「若者」というものは、そもそも自明な事柄でも存在でもない。歴史的・社会的な諸条件のなかで区画されるようになった、人生のある時期であり、その期間を生きる人々としがたいがない。実際、とりわけ近年、その社会的な存在の様式は多様化し、年齢上の幅も大きくなっていることが指摘されてきた。同時に、こうした議論には、そもそも成人期をそれたらしめる「成人」のイメージが揺らいでいることが含まれている。講義では、このように複雑化する移行問題について、学校・受験制度、労働社会、移行経路・移行システム、家族、若者文化といった諸局面から順を追って検討していく予定である。				
授業計画	1回 ガイダンス：青年期移行問題へのアプローチ 2回 「青年期」の出現と学校制度①欧米の経験 3回 「青年期」の出現と学校制度②日本の経験 4回 大衆教育社会の出現：戦後期における高学歴化 5回 受験と学歴①地位達成をめぐる問題 6回 受験と学歴②象徴的意味をめぐる問題 7回 「若者文化」①消費社会と歴史の変遷 8回 「若者文化」②移行に関わる意識の変化 9回 家族と若者①「教育家族」の歴史と現在 10回 家族と若者②ライフコース上の変化 11回 労働社会と若者①移行システムの歴史 12回 労働社会と若者②職能形成の社会史 13回 労働社会と若者③就労支援政策をめぐって 14回 労働社会と若者④就労支援の現場から 15回 まとめ：移行システムの包括的再構築に向けて				
受講要件	社会学概論を受講していることが望ましい。調査論や計量分析について一定の知識があると理解がより容易になる。専門性はやや高く、難易度は中程度である。				
テキスト	テキストは特に指定しないが、参考文献についてのリストを適宜配布する。				
参考書	以下のものなどが読みやすい。宮本みち子『若者が社会的弱者に転落する』羊泉社新書、本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書				
予習・復習について	復習に力を入れて欲しい。講義の後は必ずノートを電子ファイル化し、思いついた疑問や意見も含めて書き留めていくことが理解と思考力を高めるだろう。比較的読みやすい文献も紹介するので、ぜひ各自で読み進めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	50%は出欠の確認を兼ねたアンケート（感想・疑問についての自由記述）で、残り50%は期末レポートで評価する。				
オフィスアワー	初回にアナウンスする。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 毎回、授業の終わりにアンケートをとるが、次の講義で毎回10～15分を使って回答する。講義のまとめのような内容ではなく、疑問や質問をコンパクトに書いてもらいたい。また、参考文献や新聞などを読んで抱いた疑問などあれば、その回の授業内容に直接関係なくても書き込んでもらいたい。授業の流れの中で言及していく予定である。				

授業科目名	発達心理学 I				
担当教員名	畠垣 智恵		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文学部 C 棟 304-1	
分担教員名					
クラス		学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 7・8
キーワード					
授業の目標	発達心理学の基礎を学ぶ				
学習内容					
授業計画	1回 発達心理学とは？ 発達理論 2回 子どもの個性と個人差 3回 知覚と運動の発達 子どもの描画に見る発達 4回 認知発達 1 (誕生から学童期まで) 5回 認知発達 2 (青年期) 6回 情緒および感情の発達 1 情緒をはぐくむもの 7回 情緒および感情の発達 2 動機付けと自律性 8回 親子関係の発達 愛着の形成 9回 親子関係の発達 養育者の役割 10回 パーソナリティーの発達 1 パーソナリティーと対人関係の発達 11回 パーソナリティーの発達 2 友達関係・異性関係の発達 12回 現代の子どもを取り巻く環境 1 (少子高齢化、貧困、メディア) 13回 現代の子どもを取り巻く環境 2 (多文化、家庭、学校、地域) 14回 発達のかげと支援 児童期の子どものメンタルヘルス 15回 発達のかげと支援 虐待、不登校、いじめ、非行				
受講要件					
テキスト	初回の授業で、教科書と参考書を紹介する				
参考書	授業中に紹介する。必要に応じて、資料を配布する。				
予習・復習について	最低限、講義前に教科書の予習が求められる。				
成績評価の方法・基準	数回のコメントペーパーの提出、および試験により評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	考古学研究法Ⅱ				
担当教員名	篠原 和大	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	考古学の方法、弥生時代、遺物研究、土器編年、遺構研究、集落研究				
授業の目標	弥生時代の考古学的研究を具体例としながら、遺物、遺構、遺跡を分析して考古学的に社会や文化を復元する方法を学習することを目標とします。				
学習内容	考古学の研究は遺跡・遺構・遺物から、まず型式学や層位学など基本的な方法を用いて過去の情報を復元し、さらに分析を深めて過去の人々の生活や文化、社会、政治や宗教などに迫っていく。この授業では、弥生時代を具体的な事例として扱いながら、そのような考古学の研究方法について理解を深めていくことを学習の内容とします。				
授業計画	<p>ガイダンス-考古学の研究方法と弥生時代-</p> <p>I. 考古学の研究方法</p> <p>①考古資料分析の三基準／②機能・用途を探る／③年代を調べる</p> <p>④分布を探る／⑤さまざまな研究法／⑥弥生時代研究の課題</p> <p>II. 遺物の研究方法</p> <p>①遺物からわかること／②土器編年の方法と弥生土器の編年</p> <p>③石器・鉄器の研究法－弥生時代の物流を読み解く</p> <p>④青銅器の研究法－信仰と社会・政治</p> <p>III. 遺構の研究と集落・生産・墓</p> <p>①さまざまな遺構と集落／②弥生集落の研究と課題</p> <p>③生産遺構と生産の実態－水田と農耕文化複合</p> <p>④墓と人々－集団内外の関係・葬り送ることの意味を探る</p> <p>IV. 地域社会の形成と弥生集落</p> <p>①遺跡群の研究-弥生集落とは何か・環濠集落・拠点と周辺</p> <p>②集落と地域社会－交渉・共同・ネットワーク</p> <p>③弥生集落群の動的視点－地域社会の展開過程・開発と画期</p> <p>V. さまざまな研究方法</p> <p>①科学の目から考古資料を探る／②実験考古学の成果と展望</p> <p>まとめ</p>				
受講要件	考古学概論ⅠもしくはⅡを履修している程度の基礎知識があることを前提に講義を進めます。				
テキスト	特になし。プリントを配布しながら授業を進めます。				
参考書	必要な参考文献については適宜指示します。				
予習・復習について	資料（プリント）の多くは事前に配布します。ものを対象とする学問ですから、ノートだけではなく具体的なイメージを持つことが重要です。				
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（コメントペーパー・小テストなど）と期末の筆記試験とで評価します。				
オフィスアワー	水曜 3・4 限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jksino@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	<p>登呂遺跡公園が今年総合オープンします。新たな研究成果を踏まえて復元・展示が行われていますので必見です。また、各地の遺跡公園や博物館についても、機会があれば是非見学しておいてください。</p> <p>1. 県立大学単位互換（認めます） 2. 科目等履修生（認めます） 3. 難易度（B）</p>				

授業科目名	哲学の歴史Ⅱ				
担当教員名	松田 純	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 1 8		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 7・8
キーワード	哲学、西洋近代、自然観、世界観、社会観				
授業の目標	すべての学の根本にある哲学、その近現代の形成・展開のなかから、われわれが生きる社会と世界の本質に迫り、時代の課題と取り組む鍵を探索する。				
学習内容	西洋近現代哲学の形成と展開をたどり、自然観、世界観、社会観の大きな転換を理解し、現代世界の本質を理解する。				
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ルネサンス、宗教改革、啓蒙主義——西洋近代はどこから始まるか？ 科学革命と自然観の転換——ベイコン、ガリレオ、デカルト 超越神の削除——スピノザ哲学の衝撃 モノドと予定調和——ライプニッツの世界像 近代自然法・社会契約説と国民国家の成立——ホッブズ、ロック、ルソー 懐疑と経験——ヒューム ドイツ観念論とロマン主義——カント、シェリング、ヘーゲル 存在から生成へ——17世紀から19世紀にかけての自然観・歴史観の転換 近代の終焉——フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ、フロイト 生の哲学——ベルクソン、 解釈学——ディルタイ、ハイデガー、ガダマー 主体と構造——サルトル、メルロ＝ポンティ、ソシュール、レヴィ＝ストロース、 ポストモダン——フーコー、デリダ、ドゥルーズ 				
受講要件	哲学の歴史Ⅰ履修者、哲学概論履修者が望ましい				
テキスト	教室で資料配布				
参考書	教室で指示				
予習・復習について	配付されたプリントを予習・復習する。				
成績評価の方法・基準	小レポート3回程度。学期末試験。総合評価。				
オフィスアワー	水 16 - 17 時				
担当教員からのメッセージ	すべての学の根本にある哲学、その近現代の形成・展開のなかから、時代の課題と取り組む鍵をみつけてほしい。				

授業科目名	臨床心理学Ⅱ				
担当教員名	笠井 仁	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A420		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水7・8
キーワード	心理的援助、適応と不適応、実践				
授業の目標	人間援助の学問としての臨床心理学について基礎的な知識を得る。				
学習内容	臨床心理学は、人間の心に関わる諸問題の理解と援助に関する学問である。この授業では、臨床心理学の歴史的背景、基礎となる理論、領域と対象、援助の実際、研究の現状について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは何か 2. 歴史的背景 3. 基礎となる理論 4. 実践の領域 5. 心理アセスメント 6. 援助の対象（1）：発達臨床 7. 援助の対象（2）：疾患と障害 8. 援助の対象（3）：家族・コミュニティにおける諸問題 9. 援助の方法と過程（1）：源流としての催眠 10. 援助の方法と過程（2）：力動論的アプローチ 11. 援助の方法と過程（3）：行動論的アプローチ 12. 援助の方法と過程（4）：人間論的アプローチ 13. 援助の方法と過程（5）：システム論的アプローチ 14. 臨床心理学の研究 15. 臨床心理学の倫理 				
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。				
テキスト	とくに指定しない（資料を配布する）。				
参考書	下山晴彦（編）『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房）。下山晴彦・丹野義彦（編）『講座臨床心理学』（東京大学出版会）全6巻。その他、そのつど指示する。				
予習・復習について	各テーマについて、さらに発展的に参考書等により予習・復習することを期待する。				
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート（30%）と最後の筆記試験（70%）により評価する。				
オフィスアワー	火曜日7・8時限				
担当教員からのメッセージ	単なる知識の習得ではなく、その知識が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。				

授業科目名	西洋社会史 I				
担当教員名	岩井 淳	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 2 1 9		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水 9・10
キーワード	近世史、近代史、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、ブリテン国家、ピューリタン革命				
授業の目標	現在のイギリスの正式名称は、「グレート・ブリテンおよび北アイルランド連合王国」です。イギリスは、イングランドだけで説明できず、スコットランドやウェールズ、北アイルランドといったさまざまな地域から成り立っています。この授業では、多様な地域や民族を包括する連合国家が生まれてきたプロセスを、複合国家成立の歴史として、わけてもピューリタン革命期に焦点を絞って考察します。				
学習内容	この授業では、連合王国を構成してきたイングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドの特色を最初に概観します。続けて、それらの地域が、中世以来、独自のまとまりをもって成立したこと、同時に対立関係や協力関係を伴いつつ、征服や従属を繰り返してきたことを示します。 そうした関係は、16世紀以降に大きく変化します。イングランドが中心的な勢力として登場し、スコットランドと戦ったり、アイルランドへの入植を積極的に進めました。その中でウェールズでは、比較的順調にイングランド化が進みました。1640年に始まるピューリタン革命が、イングランド中心のブリテン連合国家が出現する過程で、重要な画期となったことを考察します。				
授業計画	1回 この授業の目的と計画 2回 「ピューリタン革命」とは何か 3回 複合国家とは何か 4回 ウェールズ概観 5回 アイルランド概観 6回 スコットランド概観 7回 イングランド概観 8回 宗教改革と複合国家 9回 初期ステュアート期における複合国家の危機 10回 ピューリタン革命とスコットランド 11回 ピューリタン革命とアイルランド 12回 クロムウェルのスコットランド征服とアイルランド征服 13回 複合国家体制の形成 14回 名誉革命と複合国家体制の確立 15回 まとめと展望				
受講要件	世界史やイギリス史について、基本的知識をもっていることが望ましい。				
テキスト	岩井淳『ピューリタン革命と複合国家』世界史リブレット、山川出版社、729円。				
参考書	岩井淳『千年王国を夢みた革命』講談社選書を参考書とします。その他は必要に応じて、指示します。				
予習・復習について	テキストや配布プリントを使って、予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。				
オフィスアワー	金曜日 3・4時限。				
担当教員からのメッセージ	この授業の難易度は、Bです。				

授業科目名	社会心理学 I				
担当教員名	橋本 剛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 1 1		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	社会心理学、社会的認知、社会的推論、社会的影響、集団力学				
授業の目標	社会心理学、特に社会的認知、社会的影響、集団力学に関する基礎的な知識を習得する。				
学習内容	人間の行動は、主体的要因のみならず社会環境的要因によっても規定されている。同時に、個人の社会的行動は、社会のあり方を大きく規定することにもなる。本講義では、この双方向的ダイナミクスを包括的に議論する学問である社会心理学の主要な知見を概観し、それらの機序が社会においてどのように体现されるかの理解を深めることを目指す。				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 社会心理学とは 3回 社会的認知 4回 社会的推論 5回 態度と説得 6回 同調と服従 7回 社会的促進と社会的手抜き 8回 集団意思決定とリーダーシップ 9回 ステレオタイプ、偏見、差別 10回 集団間関係と社会的アイデンティティ 11回 攻撃 12回 社会的公正 13回 社会的ジレンマと協力 14回 環境問題 15回 まとめ				
受講要件	心理学概論と基礎心理学 I を履修済みであることが望ましい。該当しない場合は自習で補うこと。				
テキスト	吉田俊和・元吉忠寛（編著）『体験で学ぶ社会心理学』ナカニシヤ出版				
参考書	山岸俊男（編）『社会心理学キーワード』有斐閣／浦光博・北村英哉（編著）『個人の中の社会』誠信書房／池田謙一他『社会心理学』有斐閣／池上知子・遠藤由美『グラフィック社会心理学 [第 2 版]』サイエンス社／潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房／その他随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。				
成績評価の方法・基準	試験成績（85%）と各回授業時の小レポート（15%）により評価する。				
オフィスアワー	火曜日 3・4 限を予定している。				
担当教員からのメッセージ	社会心理学の全体像を理解するために、後期開講の「社会心理学Ⅱ」、および来年開講予定の「臨床社会心理学Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。 難易度 B。				

授業科目名	社会調査論				
担当教員名	平岡 義和	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟402		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金3・4
キーワード	社会調査、調査票、質的調査、データ				
授業の目標	社会調査に関する基礎的なリテラシーを身につける。				
学習内容	この授業では、できるだけ実際の調査報告を題材にして、それぞれの調査の特徴、留意点などについて解説していく。なお、質的調査に関する授業が「社会学方法論演習Ⅰ」のみなので、質的調査に関してやや詳しく論じることにはしたい。また、基本的には講義形式で行うが、できるだけ実習の要素を取り入れたい。				
授業計画	1回 オリエンテーションー授業の目的、内容、日程 2回 社会調査の歴史 3回 社会調査の意義と限界 4回 社会調査のウソ問題のある調査例 5回 社会調査に取りかかる前に（１）ー社会調査と問題意識 6回 社会調査に取りかかる前に（２）ー概念、記述、説明、仮説 7回 社会調査の諸タイプー学術調査と実務調査 8回 質的調査の方法（１）ー参与観察 9回 質的調査の方法（２）ードキュメント分析 10回 質的調査の方法（３）ーインタビュー調査 11回 量的調査の方法 12回 二次データの利用 13回 調査報告の作成法と読み方 14回 社会調査と倫理 15回 試験				
受講要件	特段の専門知識を必要としない				
テキスト	大谷信介他『社会調査へのアプローチ 第2版』ミネルヴァ書房、2005年				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	授業ごとに指定したテキストの箇所の予習とともに、課題の提出を求める。				
成績評価の方法・基準	授業ごとの課題、中間レポートと試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	社会学コースの2年生は、必ず履修すること。また、社会調査士資格の基礎科目なので、受講生が多い場合は、資格取得希望者、社会学コースの学生を優先する。 1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	ラテン語 I				
担当教員名	田中 伸司		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード	西洋古典、人文学、ラテン語文法				
授業の目標	ラテン語の基本的な変化をマスターする。				
学習内容	西欧の人文学の基礎であるラテン語を理解するために、その文法を学びます。ラテン語についての講義ではなく、ラテン語の練習問題を解くことが中心です。毎回当たります。				
授業計画	<p>初回はイントロダクションおよび講義：「I 文字と発音」です。</p> <p>* 初回にはプリントを配布しますが、受講を決めている方は教科書をあらかじめ購入して、持参してください。</p> <p>二回目以降は、教科書の練習問題を解き、そしてつぎの文法事項の課へと進むこととなります。</p> <p>授業で使用する教科書は 5 1 課からなっています。「ラテン語 I」では 1 コマにつき 2 課、教科書のおおよそ半分を目標に進みます。授業は、この教科書の練習問題を解くことが中心になります。</p> <p>最初のうちは語形変化の暗記が必須です。というのも、ラテン語にはいくつかの変化のセットしかなく、それらを使いまわすことになるからです。初期の暗記を怠ると、後半につらい思いをします。</p> <p>* 辞書は必要ありません。</p>				
受講要件	とくにありません。まじめに予習をして授業に出席する人であればどなたでも。				
テキスト	田中利光『ラテン語初歩 改訂版』（岩波書店）				
参考書	逸身喜一郎『ラテン語のはなし：通読できるラテン語文法』（大修館書店）				
予習・復習について	予習が不可欠です。1 回分の予習に何時間かかるようです。また、上でも書きましたが、最初の数ヶ月は語形変化の暗記を完全におこななければ、中盤以降は苦しみの連続となります。				
成績評価の方法・基準	授業の平常点（課題・練習問題への回答：60%）と学期末の授業で行う試験（40%）で評価します。試験は、テキストノート類の持ち込みは認めませんが、ごく基本的な事柄を問うものを予定しています。合格点に達しなかった学生については、レポートを課すことがあります。				
オフィスアワー	火曜お昼休み（11:50-12:45） まれに会議・出張等がはいることがあります。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） 教科書は高価です（生協の 10% 引きなどを利用して購入してください。）が、教科書として高く評価されています。この教科書をきちんとやり終えたときには、ラテン語原文を十分読み解く力がついているはずですよ。				

授業科目名	フランス事情 I				
担当教員名	コルベイ・スティーブ	所属等	大学教育センター		
		研究室	人 A325		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	フランスの社会・文化、異文化理解				
授業の目標	言語と文化は切り離せないものである。目標言語を理解するためにはその背景となる文化を理解することは必須である。この授業では学生がまずフランス文化の基礎的な背景知識（地理的背景、歴史、社会の仕組み、生活習慣、文学など）を学ぶ。本授業ではフランス語のテキストを使用し、フランスの文化をフランス語で読むことによって、その思考過程や構造を理解する。さらに、フランス文化の概念を、具体的な形として認識できるようにテキスト上の情報のみならず、映像なども利用する。様々な活動を通して、最終的に、学生自身が総合的かつ多角的な視点を持って、フランス文化・社会を捉え、個々の事象について自分なりの意見を構築することを一つの目標とし、より高度で具体的なコミュニケーションができることを目指す。				
学習内容	授業の流れとして、まずテキストの内容把握をする。（学生は予習としてテキストを読んでくる）テキストに沿って内容を理解し、学生からの質問があればそれに答える。さらに関連してその話題についての補足的な説明も加える。特に各トピックのキーワードについては、その言葉の背景について説明をし、発音や使い方なども指導する。適宜映像も使用し、理解を深める。授業の最後には意見交換や小作文を課す。				
授業計画	1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席点、授業への参加（30%） 宿題（20%） 中間テスト（25%） 最終テスト（25%） 3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の14:30～16:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	フランス語コミュニケーション論Ⅱ				
担当教員名	コルベイ・スティーブ	所属等	大学教育センター		
		研究室	人 A325		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	会話、文学、文法、表現				
授業の目標	フランス語での簡単で短い文学作品（童話、絵本、詩、小説の抜粋など）を取り上げ、フランス文学についての理解を深めながら音読や会話練習、文法の学習を通してフランス語の総合的な能力を高める。				
学習内容	さまざまな文学作品を取り上げ、その中に含まれる重要な文法事項や語彙、表現などについて学習する。音読などの活動も行う。また、その作品が生まれた社会背景や文学史上の重要性、作者についても触れる。まとめとして、作品についての意見交換を行い、課題としてレポートなども課す。作品に関連する映像資料がある場合は適宜視聴し、理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. マルセル・ブルーストの「失われた時を求めて」 1 2. マルセル・ブルーストの「失われた時を求めて」 2 3. マルセル・ブルーストの「失われた時を求めて」 3 4. 超現実主義者の詩 1 5. 超現実主義者の詩 2 6. 超現実主義者の詩 3 7. アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリの「星の王子様」1 8. アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリの「星の王子様」2 9. アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリの「星の王子様」3 10. ボリス・ヴィアンの「うたかたの日々」1 11. ボリス・ヴィアンの「うたかたの日々」2 12. ボリス・ヴィアンの「うたかたの日々」3 13. ボリス・ヴィアンの「うたかたの日々」4 14. ボリス・ヴィアンの「うたかたの日々」5 15. まとめ／筆記テスト 				
受講要件					
テキスト	ボリス・ヴィアン 『うたかたの日々』野崎歓訳 光文社 2011年 ISBN 978-4-334-75220-0				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席、授業への参加 (30%) 宿題 (30%) ペーパーテスト (40%) 3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の14:30～16:00				
担当教員からのメッセージ	日本語訳と比較しながら原文を読むため、初中級のフランス語学習者の受講も可能である。				

授業科目名	中国文学概論 I				
担当教員名	埋田 重夫	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 1 8		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 世界文学における中国文学の独自性について認識を深める。 2 中国文学の原論的な諸問題を理解する。 3 中国文学における読書人階級の意味について考察する。 4 中国古典のさまざまな文献に親しむ。 				
学習内容	<p>中国の文学は 3000 年の歴史を有し、その分野も多種多様である。極めて古い文学史を有する中国において、文学はいかなる地位を持ち、どのように考えられてきたのであろうか。そしてまた、中国文学全般に認められる際立った特色とは、いかなるものであるのか。これらの素朴な疑問から出発して、この講義では中国文学全体にわたって認められる顕著な特徴と傾向について、各時代の散文・韻文などさまざまな文献を引用し紹介しながら、多角的に分析と検討を加えていきたいと思う。こうした問題を考えることは、中国人の世界観における人間の地位についても、当然言及することになる。</p>				
授業計画	<p>中国文学の特色と傾向 この講義で取り上げる具体的項目については、以下のものを予定している。個々のテーマは、それぞれ独立してあるのではなく、お互いに関連して存在している。それら全ての要素を統合したところに、世界文学における中国文学独自の性格があると考えられよう。「中国文学概論」なる講義題目の趣旨に沿って、全体的・統一的な視点を絶えず意識しながら、丁寧に説明していきたいと考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 時間 3 空間 4 宗教 5 倫理 5 政治 6 主題 7 描写 8 修辞 9 まとめ 				
受講要件	世界文学のなかにおける中国文学の位相について、強い関心と興味のある学生の受講を希望したい。				
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1 プリント（配布する資料は多数に及ぶ。各自がファイル化して整理・保存する必要がある） 2 参考書（吉川幸次郎・中国文学入門・講談社学術文庫）*ISBN4-06-158023-x 				
参考書	講義内容に関連する複数の参考書については、授業の折々に適宜紹介する予定。				
予習・復習について	完全な講義形式で行うが、受講生との質疑応答の積極的に取り入れる。授業では必要に応じて小課題を出すので、予習と復習が求められる。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1 試験（最終授業日に実施する予定・詳細は授業時に説明する） 2 その他（小課題の提出など） <p>*上述 2 点を総合して成績処理を行う。</p>				
オフィスアワー	月曜日の昼休み（12時から12時45分）を予定。事前に連絡が必要。 *連絡先はメールアドレスを参照。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 県立大学単位互換（認める） 2 科目等履修生（認める） 3 難易度（B） 4 教職国語（漢文）必修科目 <p>*授業の内容・方法については開講時に詳しく説明する。</p>				

授業科目名	フランス言語文化演習Ⅵ				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	D	曜日・時限	月 5・6
キーワード	読解力				
授業の目標	フランス語を読む能力をつける				
学習内容	フランス語のテキストを訳読する				
授業計画	予定としては「フランス人論」というエッセーを読みたい				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について	予習が必須				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本文学史Ⅱ				
担当教員名	酒井 英行		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 3 2 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	連想力、着眼力、愛すること				
授業の目標	日本近代・現代文学における《100パーセントの女の子》の系譜を理解する。				
学習内容	夏目漱石と村上春樹が描いた《100パーセントの女の子》を主軸にして、泉鏡花、谷崎潤一郎、川端康成などが描いた《100パーセントの女の子》の系譜をたどる。				
授業計画	<p>日本の近代・現代の男性作家たちが、自分の《100パーセントの女の子》をどのように描いてきたか？男性にとっての《100パーセントの女の子》像には、女性への夢と時代の女性規範が刻印されているはずである。</p> <p>A、《100パーセントの女の子》の規定 B、夏目漱石『趣味の遺伝』、『永日小品』、『明暗』など C、村上春樹『4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて』、『国境の南、太陽の西』など d、泉鏡花『外科室』 e、谷崎潤一郎『春琴抄』など f、川端康成『眠れる美女』</p>				
受講要件					
テキスト	プリントで配布する。				
参考書					
予習・復習について	配布されたプリントを熟読しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業時の4回の小テストの平均点で評価する。				
オフィスアワー	水曜日 9・10(16時05分～17時35分)				
担当教員からのメッセージ	1、県立大学単位互換(認める) 2、科目等履修生(認める) 3、難易度(b)				

授業科目名	日本文学概論Ⅱ			
担当教員名	森本 隆子	所属等	人文社会科学部	
		研究室	人文A棟520-2	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限
キーワード				
授業の目標	しばしば「近代文学は〈個〉の文学である」と言われるが、〈自我〉〈内面〉なるものは、どのように形成されてゆくのだろうか。作品読解に基づきながら、近代社会と相補的＝批判的に展開してゆく日本近代文学の系譜を辿りたい。			
学習内容	日本の近代小説が、漱石、鴎外を皮切りに、まずは男性の性的欲望を中心化した内面と恋と家族の物語として編成されながら、戦後サブカルチャー（裏文化）を画期に、その批判的展開として現代女性文学への水脈を開いてゆく系譜を辿る。			
授業計画	第1回 近代小説の誕生—性と告白と内面の成立 第2～6回 夏目漱石の登場——〈女〉への逃走・〈女〉からの逃走 ・『坊っちゃん』——「女みたいな赤シャツ」は漱石？・英文学と女の発見 ・『それから』——漢文帝国の崩壊と恋愛の発見 ・『こころ』へ——ホモソーシャル連続体としての「淋しい明治の精神」 第7～9回 森鴎外の場合——闘う家長と〈私的空間〉の構築 ・『舞姫』と『雁』——語りの虚構・過去への潜行 第10～12回 村上春樹の闘争——社会の消滅と純粋な私 ・『風の歌を聴け』から『ノルウェイの森』へ 第13、14回 女性作家の時代——〈近代〉の欠落を生きる ・よしもとばななの『キッチン・満月』と江国香織の『きらきらひかる』 第15回 サブカルが提起するもの——性・家族・ジェンダーの相対化			
受講要件	特にありません			
テキスト	主な小説を文庫本で（生協書籍部にて販売）			
参考書	テーマ・作品ごとに授業内で紹介			
予習・復習について	復習を予習へ繋げよう。講義最後の問題提起は次回への展望でもあります。復習に予習を兼ねて次回へ臨みましょう。			
成績評価の方法・基準	小課題＋最終大レポート			
オフィスアワー	水曜34限			
担当教員からのメッセージ	文学史の流れに沿いながら、日本近代文学のジェンダーやセクシュアリティの視点からの再編を迫りたいと思います。			

授業科目名	英語学概論 I				
担当教員名	服部 義弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 9		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 7・8
キーワード	音声学、音韻論、形態論、レキシコン				
授業の目標	英語の音声学・音韻論、形態論、レキシコンを中心に、英語学の基礎知識を学習する。				
学習内容	一様に言語学といっても様々な分析方法が存在する。英米言語文化コースで提供する言語学は、生成文法と呼ばれる分析方法である。授業は、生成文法の観点から、英語学の下位分野のそれぞれが解明しようとする言語学的トピックと、その方法論を学ぶ。				
授業計画	指定テキストに基づいて、生成文法の方法論を学習する。テキストは日本語と英語を対照分析するなかで、言語研究の基礎を段階的に示している。1.言語学とは何か 2.音声学・音韻論 3.形態論とレキシコン				
受講要件	後期の英語学概論 II と併せて履修することが望ましい。				
テキスト	西原哲雄編 日英対照言語学シリーズ第 1 巻『言語学入門』（朝倉書店）				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	予習を前提にして授業を行う。				
成績評価の方法・基準	期末試験（90%）、授業への参加度（10%）で評価する。欠席は3回まで。				
オフィスアワー	火曜日 5・6 時限（12：45—14：15）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	日本語学概論 I				
担当教員名	勝山 幸人	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 B 棟 519		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水 3・4
キーワード	日本語、国語学、音声、アクセント、文法、形態論、統語論、日本語教育、音声言語				
授業の目標	日本語における音声と文法の特色について学ぶ。				
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、日本語教育能力検定受験資格を取得するための必須科目です。旧カリキュラム(3、4 年生)で「日本語学概論」を履修する人は、次年度開講する「日本語学概論Ⅱ」と合わせて 4 単位が必要になります。				
授業計画	<p>概論 I で学ぶことは、おもに日本語の音声(前半)と日本語の文法(後半)の分野になります。言語研究の究極の目的は、音声言語の解明にあります。音声が一次的な言語コミュニケーションと呼ばれる所以です。まず、音と音声、音韻の違いについてそれぞれしっかり認識したうえで、現代日本語の母音、子音、半母音、モーラの各音素の特色について学びます。実際の音声を聞いて、国際音声字母 IPA で表記したり、子音の調音点、調音方法、声帯振動の有無について観察したりします。拍と音節の違い、アクセントの式と型、イントネーションやプロミネンスにも及びます。</p> <p>現代日本語の文法のうち、おもに「単語」とは何かということを扱う形態論と、述語のカテゴリーを中心に、「文」とは何かということの問題にする統語論について学びます。</p>				
受講要件	毎回きちんと出席できる自信のない人は、はじめから受講しないでください。				
テキスト	『日本語要説』(ひつじ書房)1,900 円+税				
参考書	適宜、紹介します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席点と定期試験				
オフィスアワー	火曜日 16:00 から 17:00				
担当教員からのメッセージ	初めて学ぶ人にもよくわかるように説明します。ただ、語学ですから、一回でも遅刻や欠席をすると、あつが何もわからず、つまらなくなります。教員を目指す人の必須科目でもありますから、そうとう厳しい授業になりますが、絶対にためになるので、がんばって勉強してください。				

授業科目名	言語学原書講読Ⅲ				
担当教員名	熊谷 滋子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 3 0		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	言語人類学、言語と認識、言語と文化、言語と社会、言語と思考、サピア・ウォーフの仮説				
授業の目標	関連文献の精読を通じて、人間の言語のもつ多様性、言語と言語外現実との関わりについて理解を深める。				
学習内容	人間の言語は、その使われる文化的・社会的環境と大きな関わりを有し、話者の思考や認識、世界観を形成するのに極めて重要な役割を果たすといわれる。その考え方の当否はともかく、一見したところ、その考えを支持すると思われるような事例がこれまで多く出されてきている。この授業では、そうした事例あるいは反証を示す文献の精読を行ない、言語の機能について深く考察していきたい。				
授業計画	<p>この授業は、主に、鈴木孝夫、E. サピア、B. ウォーフなどの著作、ならびに、言語人類学や社会言語学関係の基本的な文献を読み、各自がその内容をまとめて発表し、それをもとに議論を行なうことによって進めていく予定である。授業で取り上げる予定のトピックは次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語人類学と社会言語学の基礎 2. 言語と認識：サピア・ウォーフの仮説 3. 言語と社会：社会的要因による言語内の差異 4. 言語とアイデンティティ 				
受講要件	難しい文献を読もうという根性と気力。				
テキスト	開講時に紹介。また、受講生からの要望も取り入れたい。映像資料も用いる予定。				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	毎回の授業では指定された文献を必ず読んでくること（予め読んでいないことが明らかになった場合は、次回以降の出席を断ることがある）。また、復習として、各文献を読んだところで、小レポートを書いてもらう。				
成績評価の方法・基準	発表と数回の小レポート、ならびに最終レポートによって評価する。				
オフィスアワー	水曜日昼休み（11 時 50 分～12 時 45 分）。他の時間帯を希望する場合は相談に応じる。				
担当教員からのメッセージ	主体的に調べ、理解するという努力をしてください。難易度：B。				

授業科目名	比較文化各論V				
担当教員名	花方 寿行	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟515		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水7・8
キーワード	比較文学、比較文化、西洋史、欧米文学、映画				
授業の目標	比較文学の切り口で国境・ジャンル横断的な芸術作品群を論ずる方法を身につける。				
学習内容	「吸血鬼・ヴァンパイア」をテーマに、その民俗学的な伝承から、19世紀に西欧文学に取り入れられるようになってから現代に至るまでの文学・映画での変遷までを追い、そのヨーロッパおよび世界史的な背景がいかに表象に影響を及ぼしているかを学ぶ。				
授業計画	<p>最初の数回はスラヴ圏における民族伝承に現れる吸血鬼とその特性を紹介し、それを生み出す心性や「吸血鬼現象」の説明となる埋葬方法についてを論ずる。続いて19世紀西欧にそんな吸血鬼が紹介されるようになった経緯と、ロマン主義的な感性が結びついたことで生まれた新しい（現代に至る）吸血鬼像を、レ・ファニュの『カーミラ』やストーカーの『ドラキュラ』を論じながら紹介する。</p> <p>後半では20世紀に入ってから吸血鬼イメージの変化を、文学だけでなく映画、コミック作品も紹介しながら追う。題材としてはムルナウの『ノスフェラトゥ』、ブラウニングの『魔人ドラキュラ』、マシスの『アイ・アム・レジェンド』、萩尾望都の『ポーの一族』、ライスの『インタヴュー・ウィズ・ヴァンパイア』などを扱う。</p>				
受講要件	外国語能力などは特に要求しないが、積極的に自分から作品を読んだり見る心構えができていることが望ましい。				
テキスト	コピー配布				
参考書	授業で言及する。				
予習・復習について	比較的入手しやすい作品を扱う授業なので、事前に積極的に吸血鬼に関する小説や映画、コミックを読んだり見たりしておくこと。また授業で示された切り口が自分でも応用できるよう、復習もしっかり行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義ものなので出席は必須。加えてレポートで成績評価する。詳しくは授業でアナウンスする。				
オフィスアワー	授業でアナウンスする。				
担当教員からのメッセージ	授業を受け身で聞くのではなく、積極的に作品に取り組んでください。				

授業科目名	中国事情				
担当教員名	桑島 道夫	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 2 3		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	現代中国の社会と文化				
授業の目標	中国を理解するための基礎的知識・背景の習得。				
学習内容	歴史、地理、政治、経済、民俗、生活、文化その他、中国を多角的に理解する。				
授業計画	1回 プロローグ 2回 歴史（1）——中華世界とは何か 3回 歴史（2）——「近代」の諸相 4回 地理（1）——漢民族と少数民族 5回 地理（2）——人口政策 6回 政治（1）——20世紀中国政治史、そのパラダイムシフトをめぐって 7回 政治（2）——胡金涛政権以後、何が変わったのか 8回 経済——社会主義市場経済とは 9回 宗教（1）——儒教 10回 宗教（2）——仏教・道教 11回 民俗——風水の思想 12回 生活——家族・食文化 13回 文化（1）——言語と文芸 14回 文化（2）——映画、テレビ（ドラマ） 15回 プロローグ				
受講要件	中国語教職免許取得のための必修科目				
テキスト	プリントを配布、DVD教材も活用。				
参考書	授業中に随時紹介。				
予習・復習について	授業では各テーマの一端を紹介することしかできないので、授業中に紹介された本を読み込んでください。				
成績評価の方法・基準	期末テストを実施しますが、テストでは単なる知識を問うことはせず、小論文的な要素も入れます。現象の奥にある要因を把握すべく自分なりに熟考した答えは評価が高くなります。ただし、自分なりに、とは先行研究を使わず自分の頭一つで、ということではありません。				
オフィスアワー	火曜日 7・8時限 人文 A 棟 5 2 3				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A)				

授業科目名	比較文学概論 I				
担当教員名	田村 充正		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 3 2 0	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	比較文学、日本文学、海外受容				
授業の目標	1. 比較文学の基礎知識を学ぶ。 2. 日本の比較文学の諸問題を考える。 3. 海外の日本文学受容を調べる。				
学習内容	この講義ではまず欧米における比較文学の歴史と方法を概説した後、日本の比較文学がかかえる問題点を考える。明治期以降の日本文学は欧米文学を一方向的に受容することによって展開してきた歴史をもち、比較文学において影響研究や対比研究を実践するにしても、文学的国際交流の密な西欧とは基本的な土壌が異なることを自覚した上で、独自の方法を見い出す必要性に迫られている。				
授業計画	1. 比較文学の基本概念と歴史 (比較文学前史) 18世紀末のドイツで誕生した国文学研究という考え方が外国文学研究を経て、比較文学研究というジャンルを成立させるまでのプロセスをいくつかの焦点を設けて概説する。 (フランスの比較文学) フランスは国文学研究の一分野として比較文学を発展させてきたわけであるが、その文献学の理論と方法を駆使した実証主義研究としての比較文学の特徴を解説する。 (アメリカの比較文学) 第二次世界大戦以降、フランス学派に対する批判として生まれたアメリカ学派の対比研究について、その特徴と文学理論を考察する。 2. 日本の比較文学の歴史と問題点 日本の比較文学に対する関心は早く、明治期にまで遡れるのだが、日本の文学的土壌の個性を明確に自覚しない、欧米の研究手法の安易な輸入や適用が招いた混乱を整理したうえで、近年における日本の比較文学研究の成果ともういうべき優れた研究を紹介する。 3. 海外の日本文学受容 日本文学の海外受容ではなく、その逆の方向で生じた海外の文学現象を下記の三つの軸を設けて考察する。 ①19世紀後半のジャポニズムから派生した俳句への関心。 ②1920年代のA.ウェイリーによる英訳『源氏物語』の刊行。 ③1960年代の川端康成ノーベル文学賞受賞に端を発し、現代の村上春樹、よしもとばななまで続いている日本近現代文学への注目。				
受講要件					
テキスト	プリントして配布する。				
参考書	講義内容にあわせて教室で指示する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席状況と試験あるいはレポートによって判断する予定である。				
オフィスアワー	木曜日・昼休み 研究室：jjmtamu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	言語学各論Ⅲ			
担当教員名	森口 恒一	所属等	人文社会科学部	
		研究室	人文 A 棟 409	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限
キーワード	フィリピン、台湾、オーストロネシア語族、社会言語学、人類言語学			
授業の目標	フィリピンと台湾のオーストロネシア原住民の言語と文化を考察する			
学習内容	フィリピンと台湾のオーストロネシア原住民を言語と文化の両面から考察する。授業は、概説的な部分から始めて、個々のグループについて詳細に検討する。			
授業計画	第 1 回	—	2 回	オーストロネシア語族概説
	第 3 回	—	4 回	ポリネシアグループ研究
	第 5 回	—	6 回	メラネシアグループ研究
	第 7 回	—	8 回	インドネシアグループ研究
	第 9 回	—	10 回	フィリピン原住民研究
	第 11 回	—	12 回	台湾原住民研究
	第 13 回	—	14 回	フィリピン・台湾における多重言語使用
	第 15 回			フィリピン・台湾におけるピジンとクリオール
受講要件	言語学概論の一般的な知識を前提とする。			
テキスト	テキストその他は、授業時間に個々に指示する。			
参考書	授業時間に個々に指示する。			
予習・復習について	言語学的な基礎知識は、当然のことであるが、地理的な知識、人類学的な知識を必要とするので、個々に勉強しておくこと。			
成績評価の方法・基準	授業時間中の活動とレポート。			
オフィスアワー	随時。ただし、前もって連絡すること。			
担当教員からのメッセージ	出席を重要視する。			

授業科目名	英米言語文化基礎論				
担当教員名	山内 功一郎,服部 義弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 3 1		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	語形成、派生、複合、品詞転換、USA、詩、芸術、英米文化				
授業の目標	<p>(服部) 英語において単語がいかにして形成されるかということについて、日本語と対照しつつ学習する。</p> <p>(山内) 英米文化一般に関わる基礎知識に配慮しつつ、特に英語で書かれた詩およびその批評について学習する。</p>				
学習内容	<p>(服部) 派生、複合、品詞転換などのさまざまな語形成法を概観し、日英語の類似点・相違点を明らかにするとともに、語彙力の増強を目指す。</p> <p>(山内) 主にアメリカの詩を紹介しながら基礎的な分析能力を養う。その他、英米文化・芸術等の領域の紹介も適宜行う予定。講義形を基本とするが、学生の能動的な学習作業も促す。また必要に応じてディクテーション等も行う。</p>				
授業計画	<p>(服部) 1.単語の構造 (派生、複合、品詞転換) 2.単語の発音 (音節、アクセント、リズム) 3.単語の意味 (単純語の意味、合成語の意味)</p> <p>(山内) ・ Romeo and Juliet ・ E. E. Cummings ・ Visual Poetry ・ Concrete Poetry ・ Malcolm X ・ Seinfeld</p>				
受講要件	受講希望者数により制限を課す (言語文化学科の1年生を優先)。				
テキスト	<p>(服部) 竝木崇康『単語の構造の秘密—日英語の造語法を探る』(開拓社)</p> <p>(山内) ハンドアウト (配布方法は授業時に指定)</p>				
参考書	必要に応じて指定。				
予習・復習について	予習・復習共に欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	筆記試験、出席・参加状況により総合的に評価する。基本的に2教員の担当分を合わせて成績を定める。なお試験の実施方法等については、各教員が授業時に行う指示を確認すること。				
オフィスアワー	<p>(服部) 火曜日 12:45—14:15 *事前連絡が望ましい。</p> <p>(山内) 火曜 12:00—12:45 *事前連絡が望ましい。</p>				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (A)				

授業科目名	英語学各論 I				
担当教員名	大村 光弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 2 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	認知文法、意味論、語用論、メタファー				
授業の目標	認知言語学の基礎と応用例を学ぶとともに、2年次に英語学概論で学んだ生成文法と比較する。				
学習内容	1. 認知文法の基本的な見方を他の文法あるいは言語理論と比較することによって、その本質を明らかにする。 2. 認知文法の基本的な記述原理であるスキーマと事例の関係をみる。 3. メタファーに関わる近年の動向と成果を見る。				
授業計画	1. 認知文法の考え方 (1) 認知文法と認知言語学 (2) シンボルとは何か？ (3) 音と意味のシンボル 2. 認知文法の方法 (1) スキーマ (2) 意味の弾性 (3) 関係のプロファイル 3. 文 (1) 語 (2) テンスとアスペクト (3) 節 4. メタファー論				
受講要件	英語学概論 I & I I を既修得のもの				
テキスト	認知文法のエッセンス、ジョン・R・テイラー&瀬戸賢一（著）、大修館書店、¥2730。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	予習（テキストを読んでおく）が必要となる。数回（3～4）の小テストがあるので、小テストのための復習が必要となる。				
成績評価の方法・基準	小テストの結果に基づいて評価する。 5回の欠席で受講資格を失うものとし、30分以上の遅刻2回で欠席1回と見なす。				
オフィスアワー	火曜日（13:00-14:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可） 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（C）				

授業科目名	イギリス文学文化各論 I				
担当教員名	鈴木 実佳	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 1 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	18 世紀、 Hogarth、芸術、版画、民衆				
授業の目標	Hogarth の版画や絵画を題材にして、18 世紀の芸術家と社会について学ぶ				
学習内容	Hogarth の版画や絵画に描かれていることを参考文献を参照しながら読み解く				
授業計画	1 回 Introduction 2 回 Hogarth: a life 3 回 A Harlot's Progress 4 回 A Harlot's Progress 5 回 A Rake's Progress 6 回 A Rake's Progress 7 回 Gin Lane and Beer Street 8 回 Marriage a la Mode 9 回 March to Finchley 10 回 An Election 11 回 Captain Thomas Coram 12 回 conversation pieces 13 回 conversation pieces 14 回 a self-portrait 15 回 まとめ				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する				
参考書	Ronald Paulson, Hogarth I, II & III Rutgers UP				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業時の即レポおよび期末のレポート				
オフィスアワー	木曜日 2 コマ目				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	フランス文学概論 I				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化				
授業の目標	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。				
学習内容	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史をフライ帰りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。基本的に講義形式であるが、いくつかのフランス語作品の抜粋の講読や、関連の映像の鑑賞も取り入れる。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス文学の基盤 ・中世フランス文学の諸ジャンル ・フランス・ルネサンスの文学—ラブレーなど ・モラリストの系譜—モンテーニュなど ・17 世紀の思想家たち—デカルトとパスカル ・啓蒙の時代の思想家たち—モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロなど 				
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	義務としては特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみてほしい。				
成績評価の方法・基準	出席状況 (20%)、期末レポート (80%)				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。メールのアイコンにより随時対応します。アドレス jakurod@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	この講義が作家や作品と出会う機縁となることを願っています。				

授業科目名	会社法				
担当教員名	西川 義晃	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 階		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4, 木 3・4
キーワード	会社法、商法、コーポレート・ガバナンス、コーポレート・ファイナンス				
授業の目標	会社法制について基礎知識を得、理解を深める。				
学習内容	<p>会社法について、株式会社法を中心に講義する。</p> <p>現在の経済社会でその中心を担っているのは株式会社を始めとした企業である。平成 17 年に成立した会社法は非公開会社を想定した改正であり、上場会社は例外という位置づけにある。しかし、株式会社は本来、証券市場において資金を調達し、大規模な企業経営を行う仕組みであり、そうした株式会社の特質は、株式会社法全体に反映されている。本講義はそうした観点に留意しつつ、会社法について解説していく。</p>				
授業計画	<p>? 《授業の進め方》</p> <p>レジュメを配布し、レジュメを中心に講義するが、教科書も適宜参照するため毎回持参すること。教科書は特に、予習・復習に利用すること。</p> <p>なお、会社法は現在、法制審議会において改正が検討されている。シラバス執筆時点では「会社法制の見直しに関する中間試案」が公表され、パブリック・コメントの手続が開始されたところである。改正の内容については、議論の状況に応じて、随時、講義で取り上げる。</p> <p>《計画》</p> <p>講義期間の前半には、特に機関関係、すなわち取締役、監査役、株主総会などの企業組織に関する問題を扱う。企業形態や会社の種類に触れた後、株式会社とはいかなる制度であるのか、その内部組織はどのように構成されているのかについて考察する。</p> <p>後半には、特に企業の資金調達、会社の計算、設立、企業再編 (M&A) に関する問題を扱う。会社の資金調達の仕組み、会社の設立の際にその組織がどのように形成されるのか、企業買収がどのように行われるのか・その際利害関係者はどのように保護されるのかなどについて考察する。</p> <p>以下の項目を 1、2 回で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社の種類 2. 株式会社の特質 3. 証券市場と株主の地位 4. 株主総会の役割 5. 取締役と取締役会 6. 取締役の義務と責任 7. 委員会設置会社の意義と仕組み 8. 会計参与 9. 監査役・監査役会 10. 会計監査人 (ここまで講義したのち、レポートの提出、または中間試験を実施) 11. 株式 12. 募集株式の発行 13. 社債 14. 新株予約権・ストックオプション 15. 会社の計算 1: 開示規制 16. 会社の計算 2: 剰余金の分配規制 17. 株式会社の設立 18. 企業再編 (学期末にここまでを予定、学期末試験を実施) 				
受講要件	特になし。				
テキスト	落合誠一＝神田秀樹＝近藤光男『商法Ⅱ会社〔第 8 版〕有斐閣 S シリーズ』(有斐閣・2010)を使用する。最新の六法を持参すること(『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい)。				
参考書	初回の講義において紹介する。				
予習・復習について	随時レジュメを配布するので、レジュメに対応する教科書の該当ページに、事前に目を通していただくことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	講義内容の前半部分を終えた時点でレポートの提出を求めるか、または中間試験を実施する。学期末に筆記式の試験を実施し、総合評価する。出席点は設けない。				
オフィスアワー	水曜日の 5・6 時限をオフィスアワーとする。 これ以外は、事前にメールでアポイントを取ること。jynishi@ipc.shizuoka.ac.jp				

担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A) 難易度 A は、事前に当該分野について専門知識があることを前提としないレベルを意味する。 4. 会社法はそれのみで完結した分野ではなく、他の分野との関連も強い。特に民法 (「民法総論」など) と同時履修、または履修済みであることが望ましい。 注意：平成 22 年度以前の入学生は「企業法」(4 単位) に読替え。
--------------	---

授業科目名	法学入門				
担当教員名	横濱 竜也	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟619室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月7・8
キーワード	法と道徳				
授業の目標	実定法各分野の学習に先立ち、法の基本的性格を理解し、実定法学の基本概念を習得する。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>※以下の各項目はほぼ毎回の授業内容に対応する。但し授業の進捗状況や展開によって若干の変更があり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン（六法の選び方、判例の調べ方） 2 六法と判例の読み方 <p>【第1部 法学基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 法とは何か（1）（社会統制の手段としての法、法と道徳①：リーガル・モラリズム） 4 法とは何か（2）（法と道徳②：悪法問題） 5 裁判制度（司法制度、裁判官の独立、民事裁判、刑事裁判、司法制度改革） 6 法源（制定法、慣習、判例、条理、判例法主義と成文法主義、判例の拘束力） 7 法解釈の方法（事実認定と法適用、解釈方法の分類と方法、法的推論の客観性と論理性をめぐる諸問題） 8 法の歴史（西洋法制史：大陸法系とコモンロー法系、ローマ法とその継受、日本近代法史：明治期の法典編纂とくに民法制定過程をめぐって） <p>【第2部 実定法基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 日本国憲法の歴史（大日本帝国憲法の基本理念、日本国憲法制定過程、平和主義） 10 憲法の基本原理（1）（基本的人権の保障） 11 憲法の基本原理（2）（権力分立、立憲主義と民主主義） 12 民事法の基本原理（1）（所有権絶対の原則） 13 民事法の基本原理（2）（契約自由の原則、過失責任主義） 14 刑事法の基本原理（1）（罪刑法定主義、犯罪の成立要件、刑罰の目的） 15 刑事法の基本原理（2）（令状主義、起訴状一本主義、犯罪被害者への配慮） 				
受講要件					
テキスト	五十嵐清『法学入門〔第3版〕』（悠々社、2005年、9784946406935、2000円）、六法。				
参考書	毎回の授業時に詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。田島信威『法令入門－法令の体系とその仕組み』（法学書院、2008年）、市川和人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判〔第5版〕』（有斐閣アルマ、2008年）、中野次雄編『判例とその読み方〔三訂版〕』（有斐閣、2009年）、山本祐司『最高裁判物語（上）（下）』（講談社プラスα文庫、1997年）。				
予習・復習について	予習：教科書の該当箇所および配布資料を読んだ上で、問題集に取り組む（資料と問題集は予め配布する）。復習：授業内容を踏まえて小テストに取り組む（実施方法は初回授業時に説明する）。疑問点は授業時やオフィスアワーなどに質問し解決する。				
成績評価の方法・基準	期末試験50%、平常点（小テストへの応答）20%、学期中に2回実施する中間テストの得点30%（各回15%）。評価方法の詳細は初回授業の際に示す。				
オフィスアワー	金曜日14時25分～17時35分（事前に予約してください）。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（A） この授業の狙いは、学生の皆さんが法の世界の概要を知悉すること、そして法的思考に必要不可欠な基礎知識を習得し、それを不自由なく活用できるようになるための訓練を行うことです。しっかり勉強しましょう。				

授業科目名	刑法各論				
担当教員名	山本 雅昭	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文社会学部 A 棟 6 0 3		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	主な犯罪の個別的成立要件について理解を深める。				
学習内容	犯罪ごとに固有の成立要件を把握するとともに、隣接する犯罪どうしの関係についても注意を払うことが肝要である。				
授業計画	1 回 刑法各論の位置づけと犯罪の分類 2 回 殺人 3 回 自殺関与 4 回 傷害と暴行 5 回 過失致死傷と危険運転致死傷 6 回 脅迫・強要、逮捕・監禁、住居侵入 7 回 名誉毀損と業務妨害 8 回 財産犯一般、窃盗 9 回 強盗と恐喝 10 回 詐欺 11 回 横領と背任 12 回 文書偽造 13 回 放火 14 回 賄賂の罪 15 回 公務執行妨害				
受講要件					
テキスト	配付するレジュメに即して授業を進める。なお、六法を必ず持参すること。				
参考書	山口厚『刑法 第2版』有斐閣（平成23年）、曾根威彦『刑法各論[第4版]』弘文堂（平成20年）等				
予習・復習について	とくに、復習に際し、各単元について参考書の該当する記述を参照するほか、関連する判例を検索して学説と対比させてみるのが重要である。				
成績評価の方法・基準	原則として、定期試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	第1回の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	難易度は中程度。随所で「刑法総論」の論点を取り上げる予定である。「刑法総論」を履修した後に受講することになる場合が大半と思われるが、「刑法総論」を十分に復習しておいてほしい。				

授業科目名	行政学				
担当教員名	日詰 一幸	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 2 1		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 1・2,水 1・2
キーワード	行政システム、官僚制、ガバナンス、市民活動、NPO、新公共経営、行政評価				
授業の目標	現代行政学理論の内容を学び、現代日本の政治・行政を見る目を養います。				
学習内容	現代行政学理論の内容を紹介します。その際、近年欧米で研究されているガバナンス論の視角を用いて、行政機関ばかりでなく、市民活動やNPO、企業の活動等にも目を向けて、行政のあり方について考えていくことにします。また、政策過程の中でも、これまであまり論じられることのなかった行政評価についても、NPM (New Public Management、新公共経営) 論の立場から中央省庁や地方自治体レベルで行われている最近の動向を紹介します。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 行政学とは 3回 行政学理論の展開 (1) ～アメリカ行政学の形成と展開 4回 行政学理論の展開 (2) ～日本の行政学と最近の動向 5回 官僚制理論～M.ウェーバーの官僚制論を中心に 6回 組織理論の展開 (1) 7回 組織理論の展開 (2) 8回 政策過程とは 9回 政策の立案・決定過程 10回 政策実施過程 11回 行政評価 (1) 12回 行政評価 (2) 13回 行政組織の編成 14回 組織決定の構造 15回 行政組織の発展過程				
受講要件	法学科で開講されている政治学関連の講義と関連がありますので、それらも受講して下さい。				
テキスト	今村都南雄、武藤博己他『改訂版 ホーンブック 基礎行政学』北樹出版				
参考書	講義の中で、その都度紹介します。				
予習・復習について	毎日、新聞を読んでください。				
成績評価の方法・基準	成績は期末試験で評価します。				
オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00 (事前に連絡してください。)				
担当教員からのメッセージ	広く政治・行政に関心のある学生の履修を期待します。				

授業科目名	法律系特殊講義Ⅱ				
担当教員名	横濱 竜也	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟619室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	法概念論、遵法責務問題（悪法問題）、自然法論、法実証主義、法の支配				
授業の目標	法とは何か。私達が法に従うのは何故か。裁判官が行う法的判断はいかにしてなされるか。そのような法的判断にどのような価値があるか。これらの問いに答える法概念論を、遵法責務問題（悪法問題）への応答という関心から体系的に捉える視角を提示する。またこのような法概念論からいかなる法改革の構想が引き出されるかを明らかにする。				
学習内容	下記の授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>本特殊講義では、正義論と並ぶ法哲学のもう一つの分野である法概念論を扱う。法概念論は主に以下のような問題群に対して哲学的に応答することを目指している。法が存在すると言えるための条件が何であるか、法の拘束力の本質が何であるか、法の存在条件や法の拘束力と道徳とはどのような相関関係にあるか、さらに主に裁判官の判断を典型とする法的推論がどのような構造を有しているか、法的推論は道徳判断とどのように違うのか。従来これらの問いはあらゆる法のあり方を描くことのできる一般的法概念の探究のなかで答えられるべきものとされてきた。しかし私見によればかかる態度には重大な欠陥がある。法概念論はその根本に何故法に従うべきかの問い、つまり遵法責務問題が存在してはじめて成り立つものである。そして遵法責務は法が法である限り必ず持つべき一定の価値（法の内在的価値）によって根拠づけられる。その意味で法概念論は本質的に価値中立的な法の観察ではありえず、一定の規範的立場に与することを免れえない。</p> <p>本講義では、法概念論上の主要な議論を紹介し、逐一批判的検討を加えていく。その上で私見について説明し、さらに法の内在的価値がいかなる法の支配のあり方（特に立法、行政、司法の分業のあり方）を支持するかを述べることとしたい。</p> <p>* 予定している主な授業内容は以下の通り。（1）自然法論（ネオアリストテレス的自然法論／形而上学的自然法論）、（2）法実証主義（ベンタムの法実証主義／オースティンの法実証主義／グレイの法実証主義）、（3）リアリズム法学（アメリカンリアリズム、スカンジナビアンリアリズム）、（4）ハートの法実証主義の再編、（5）ドゥオーキンの法実証主義批判、（6）規範的法実証主義の再定位、（7）遵法責務問題の解決、（8）法の支配の諸構想</p>				
受講要件					
テキスト					
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	予習：事前に配布する資料を読む。 復習：授業内容について曖昧なところがないか確認し、疑問点は授業の際などに質問し解決する。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	初回授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（C）</p> <p>本講義で扱う法概念論は、「法哲学」の講義で学ぶ正義論に比しても、抽象的で、またかなり高度な概念枠組みを用いる必要があるため、少なくとも初めのうちは馴染みにくく感じる方が少なくないと思います。しかし法概念論は、法による社会統制のあり方を考える上でなくてはならない知見を私達に与えてくれるものです。積極的な受講を期待しています。</p>				

授業科目名	物権総論				
担当教員名	田中 克志		所属等	人文社会科学部	
			研究室	A 4 2 5	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	民法、物権				
授業の目標	民法総論の学習を前提に、物（不動産及び動産）の所有、移転、利用に関する民法上の基本的な制度（それを目的とする権利＝物権）を理解し、利用することができる基本的能力を身につける。				
学習内容	最初に、講義の全体像を理解したのちに、物権の客体である物（不動産・動産）の意義を明らかにし、ついで、物権（と債権）の意義、物権の代表かつ典型である所有権の意義、所有権の移転、所有物の利用という順とする。教科書の叙述と順序が異なることもあり、別途、レジュメを配布する。				
授業計画	<p>1回 講義の全体像： 不動産・動産の所有、移転、利用に関する基本的な法制度の全体像を理解する。 ・民法典の大きな柱である「物権」と「債権」の意義と違いについて理解する。</p> <p>2回 不動産・動産の意義・物権法の原理： 所有権その他の物権の対象である「不動産」・「動産」の意義、物権の内容、物権法定主義などに関わる基本原理を理解する。</p> <p>3回 不動産取引の安全を図る登記制度など： 不動産・動産の取引の安全を図る登記制度などについて、その仕組みを理解する。</p> <p>4回 所有権の内容とその保護： 所有権を始め、物権の侵害に対する保護の制度としての占有訴権・物権的請求権の種類と内容、権利濫用について理解する。</p> <p>5回 所有の形態： 所有の形態としての単独所有と共同所有を取り上げ、共有をめぐる法律問題、建物の区分所有（いわゆる分譲マンション）について現代的問題を理解する。</p> <p>6回 不動産と動産の移転システム（1）： 契約など「意思」による不動産・動産の所有権移転と対抗要件主義を理解する。</p> <p>7回 不動産と動産の移転システム（2）： 「時効」による不動産・動産の所有権移転について理解する。</p> <p>8回 不動産取引の安全と登記（1）： 登記がなければ対抗できない物権変動について理解する。</p> <p>9回 不動産取引の安全と登記（2）：登記がなければ対抗できない物権変動について理解する。</p> <p>10回 不動産取引の安全と登記（3）： 登記がなければ対抗できない第三者について理解する。</p> <p>11回 動産取引の安全と即時取得： 動産取引の安全を図る制度である即時取得について理解する。</p> <p>12回 不動産の利用（1）： 不動産の利用を目的とする地上権、永小作権などを理解する。</p> <p>13回 不動産の利用（2）： 不動産利用に不可欠の道路・通行に関し、隣地通行権、通行地役権などを理解する。</p> <p>14回 不動産の利用（3）： 不動産利用の制限に係る公法と私法：境界付近の建築制限を具体例として理解する。</p> <p>15回 授業のまとめ：</p>				
受講要件	民法総論を受講していることが望ましい。				
テキスト	永田眞三郎・松本恒夫・松岡久和・中田邦博・横山美夏『物権 エッセンシャル民法2』（有斐閣）：『判例プラクティスⅠ総則・物権Ⅰ』（信山社）、いわゆる『六法』、なお 永田他『総則 エッセンシャル民法1』（有斐閣）も授業中に適宜利用する。				
参考書	教科書に記載の参考文献、その他、必要があれば、授業中に提示する。				
予習・復習について	あらかじめレジュメを配布するので、これを参考に教科書を読み、授業後も復習を行い、学習したこの定着を心がけること。				
成績評価の方法・基準	学年末の試験期間に実施する筆記試験でもって評価する。授業で扱った基本的な制度を理解しているか、また、授業で取り上げた簡単な事例について、論ずべき問題を抽出し（問題発見能力）、事実に法を適用して結論をだす（問題解決能力）基本的な能力を修得しているか、でもって評価する。				

オフィス アワー	初回の授業において指定する。
担当教員か らのメッセ ージ	1 県立大学単位互換（認める） 2 科目等履修生（認める） いずれも、「民法総論」を受講していることが望ましい。3 難易度（B'） 民法は、実定法を中心に占めるため、これをしっかり理解する（ものにする）ことが、他の法律を学ぶ上で重要です。継続は力なりです。コツコツとやりましょう。

授業科目名	行政救済法				
担当教員名	高橋 正人	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A613		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード					
授業の目標	①行政争訟制度、②国家補償制度の習得を目指す				
学習内容	①行政争訟（不服申し立て・行政訴訟－2004年の改正と前後して重要判例が毎年出されている） ②国家補償（国家賠償・損失補償）				
授業計画	1回 苦情処理・行政不服申立制度（1） 2回 行政不服申立制度（2） 3回 行政訴訟（1）－司法権との関係/ 民事訴訟との関係 4回 行政訴訟（2）－行政事件訴訟法改正/ 訴訟要件 5回 行政訴訟（3）－処分性（取消訴訟の対象） 6回 行政訴訟（4）－原告適格 7回 行政訴訟（5）－（狭義の）訴えの利益/ 取消訴訟の審理 8回 行政訴訟（6）－取消訴訟の判決/ 執行停止 9回 行政訴訟（7）－その他の抗告訴訟（1） 10回 行政訴訟（8）－その他の抗告訴訟（2）/ 当事者訴訟 11回 国家賠償法1条（1）－公権力の行使 12回 国家賠償法1条（2）－違法性・規制権限の不行使 13回 国家賠償法2条 14回 損失補償（1）－損失補償の要否と内容 15回 損失補償（2）－損失補償その他/ 国家補償の谷間				
受講要件	行政法総論、行政作用法の講義を受講していることが望ましい。				
テキスト	稲葉馨＝人見剛＝村上裕章＝前田雅子『行政法（第2版）』（有斐閣、2010年）				
参考書	小早川光郎ほか『行政判例百選Ⅱ（第5版）』、なお、六法は毎回持参するのが望ましい。				
予習・復習について	救済法では条文と判例の双方が重要になるので、再度確認するようにして下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート3割、期末試験（7割）で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に伝える。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B）				

授業科目名	刑法総論 I				
担当教員名	神馬 幸一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 516		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	刑法総論				
授業の目標	初学者を対象に、刑法総論の基礎を講じ、刑法の理解を深める。				
学習内容	本講義では、刑法総論の基本的な問題（基本原理から、構成要件論・違法性論の領域まで）について、下記の授業計画に基づき進行することにする。講義では、適宜、新しい判例及び刑法関連の改正内容についても採り上げる。				
授業計画	1回 授業案内 2回 刑法の史的展開 (1)：刑罰論の展開 3回 刑法の史的展開 (2)：犯罪論の展開 4回 刑法の基本原則 (1)：罪刑法定主義・法益保護主義・責任主義 5回 刑法の基本原則 (2)：刑法の体系的思考 6回 客観的構成要件論・未遂犯論 (1)：実行行為・不作為犯 7回 客観的構成要件論・未遂犯論 (2)：障害未遂・中止未遂 8回 客観的構成要件論・未遂犯論 (3)：中止未遂・因果関係 9回 客観的構成要件論・未遂犯論 (4)：因果関係 10回 主観的構成要件論 (1)：故意 11回 主観的構成要件論 (2)：過失 12回 主観的構成要件論 (3)：構成要件の錯誤 (1) 13回 主観的構成要件論 (4)：構成要件の錯誤 (2) 14回 違法性論 (1)：一般的正当行為・正当防衛 15回 違法性論 (2)：正当防衛・緊急避難				
受講要件	初学者向けであるので特になし				
テキスト	追って指定する。				
参考書	追って指定する。				
予習・復習について	第1回目の講義の際に、指摘する。				
成績評価の方法・基準	第1回目の講義の際に、指摘する(基本的に、期末の試験による)。				
オフィスアワー	追って指定する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B) 法律学を学ぶときには、法令と並んで、裁判所の判例も重要である。追って指定されるテキスト・参考書に掲載されているような代表的な判例に関しては、その概略のみならず、実際に、判例集を自分なりに調べてみて、何故、そのような結論に至ったのかを考えてほしい。				

授業科目名	法哲学				
担当教員名	横濱 竜也	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟619室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	正義、国家、市場、共同体、公共性				
授業の目標	法のあるべき姿を示す正義とは何か。この問いに応答する正義の一般理論を網羅的に概説する。授業を通じて、正義を論じる上で踏まえるべき思考枠組みを習得し、この問いに応答する現代正義論の様々な立場（特に英米政治哲学上の諸議論）とその限界について知悉することにより、受講者が法改革のための基本的ヴィジョンを自力で描けるようになること、また規範理論を構想する哲学的思考に慣れ親しむことが目標である。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>* 以下の授業計画は暫定的なものであり、授業の進展の仕方により変更の可能性がある。また各項目の括弧内の内容は講義で扱うトピックの一部にとどまる。詳細な計画は初回授業の際に示す。</p> <p>(1) イントロダクション：我々は何故正義を論じるべきか</p> <p>(2) 正義とは何か（相対主義とその克服／正義の普遍主義的要請とは何か／正義の限界は存在するか）</p> <p>(3) 功利主義（功利主義の内容とそれぞれへの批判：帰結主義、総和主義、最大化主義／行為功利主義とルール功利主義）</p> <p>(4) ロールズの正義論とその批判（ロールズの正義の二原理の導出／主要なロールズ批判／平等主義的正義論の諸構想：資源平等論、潜在能力平等論／卓越主義的リベラリズム）</p> <p>(5) リバタリアニズム（自然権論リバタリアニズム、帰結主義的リバタリアニズム、契約論的リバタリアニズム／リバタリアニズムの現代政治思想上の重要性）</p> <p>(6) 共同体論（共同体論の諸特徴、リベラル・コミュニタリアン論争、ロールズの「後退」、普遍主義の限界）</p> <p>(7) グローバルな正義（国内的正義と世界正義の相克とその克服、ナショナリズムに関わる諸問題）</p>				
受講要件					
テキスト					
参考書	毎回の授業で詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。W・キムリッカ『新版 現代政治理論』（日本経済評論社、2005年）、伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』（名古屋大学出版会、2008年）、井上達夫『共生の作法－会話としての正義』（創文社、1986年）、平井亮輔編『正義－現代社会の公共哲学を求めて』（嵯峨野書院、2004年）。				
予習・復習について	予習：事前に配布する講義案と資料を読み、毎回の授業のポイントを理解する。 復習：授業内容について曖昧なところがないか確認し、疑問点は授業の際やオフィスアワーで質問し解決する。また授業中に挙げる文献を読み、理解を深める。				
成績評価の方法・基準	受講人数、授業の進度などにより変更がありうるが、学期中に語彙説明を求める小テスト（20点満点）を行うことを予定している。この小テストの成績と学期末試験の成績（80点満点）で成績の評価を行う。なお、学期末試験は事前に問題の一部を公表する。				
オフィスアワー	金曜日14時25分から17時35分（訪問する際は事前に予約してください）。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B) 現代正義論の主要な議論とその正当化根拠の検討、そしてそれらの議論がどのような思想史的、社会的背景を有しているか、また現代日本政治においてどのような意味を持つか、など多くの内容を半期の講義で一通り扱うので、講義の進捗はかなり速くなります。難しく感じたり、わからないところがあれば、ためらわずに積極的に質問してください。				

授業科目名	法制史 I				
担当教員名	橋本 誠一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 0 9		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	ローマ法、ゲルマン法、近世自然法、パンデクテン法学				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現行法体系をより深く理解するためには、その背後に積み重ねられた歴史的な「地層」に分け入る必要があります。そして、現代日本法の場合、その成立の由来からして、たんに日本法の歴史だけでなくヨーロッパ法の歴史も学ぶ必要があります。そこでこの授業では、古代ローマ法に始まるヨーロッパ法の歴史的歩みを中心に学んでいきたいと考えています。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・近代西欧法は、古代ローマ法、ゲルマン法、キリスト教などの歴史的産物です。そこでこの授業では、これらの論点に即して近代西欧法の成立過程を辿っていきたいと思います。 ・授業では、歴史資料（英文、独文、日本文、画像）を用いて自分で分析し仮説を立てるという訓練を行います。 				
授業計画	1回 はじめにー授業の内容と進め方 2回 ローマ法 3回 十二表法を読む 4回 ガーイウス「法学提要」を読む 5回 ゲルマン法 6回 サリカ法典を読む 7回 フランク王国の法 8回 中世ドイツの法 9回 ザクセン・シュピーゲルを見る 10回 “Das Volkacher Salbuch” (1504) を見る 11回 近世ドイツの法 1 12回 近世ドイツの法 2 13回 近代ドイツの法 1 14回 近代ドイツの法 2 15回 小テスト				
受講要件	<ul style="list-style-type: none"> ・法的知識（憲法、民法、刑法、民刑訴訟法など）と世界史（とくにヨーロッパ史）の基礎知識があれば、ということありません。 				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に資料を配布します。 				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介します。 				
予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> ・法学や歴史学の基礎的知識について説明する時間はあまりありませんので、分からないところは自分でも学習するよう心がけてください。 				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト（1回×40点）とレポート（1回×60点）をもとに成績を評価します。 ・わずかに評価が合格点に達しなかった場合に限り、Enma カードを評価に加味することがあります。 ・レポートの作成にあたっては、授業内容から問題（たとえば、「□□はなぜ○○○なのか？」という疑問）を見つけ、それに関する資料や文献を図書館などで調査した上で、自分なりの答え＝仮説（「□□は△△△である」）を提示してください。 ・レポート作成にあたって使用した文献資料はすべて注記してください。注記のないものは無条件で「不可」とします。 				
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・水曜日 3・4 時限（10:20～11:50） 				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・県立大学との単位互換の可否（○）、科目等履修生の可否（○）、難易度（やや難） 				

授業科目名	憲法総論・統治機構				
担当教員名	小谷 順子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 1 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	憲法、法の支配、立憲主義、権力分立、人権保障、基本的人権、自由、権利、統治				
授業の目標	国家の最高法規である「憲法」の歴史的背景、意義、及び機能に関する基礎知識を習得した上で、日本国憲法の基本原則及び統治機構をめぐる各種論点（時事的な論点も含む）に関する詳細な知識・応用力を習得することを目標とする。				
学習内容	まず、「憲法」の歴史的背景・近代的意義を確認した上で、日本における「憲法」の変遷、「日本国憲法」の基本的原理について学ぶ。その後、国会・内閣・裁判所を主軸とする統治機構に関する日本国憲法の規定を確認した上で、この分野における憲法学上の各種問題点について、国内の判例・学説や外国の例を参照しつつ学ぶ。				
授業計画	1回 法とは何か、憲法・憲法学とは何か 2回 憲法と立憲主義（憲法の意味・分類） 3回 憲法と立憲主義（憲法の特質・立憲主義） 4回 日本憲法史（明治憲法、日本国憲法） 5回 国民主権の原理（国民主権） 6回 国民主権の原理（天皇制） 7回 平和主義の原理 8回 国会（権力分立、政党） 9回 国会（国会の地位・組織・活動） 10回 国会（国会の地位・組織・活動） 11回 内閣 12回 裁判所（裁判所の組織・権能、司法権の意味と範囲） 13回 裁判所（司法権の意味と範囲、裁判員制度） 14回 憲法の保障（違憲審査制） 15回 憲法の保障（憲法改正）				
受講要件	とくになし				
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）				
参考書	六法： 出版社問わず 判例集（例）： 野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集』（有斐閣新書）、『憲法判例百選 II(第5版)』（有斐閣）など 用語集（例）： 大沢秀介編『確認憲法用語 300』（成文堂）など				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	授業支援システムの「小テスト」の成績 20・40%程度、期末試験 60・80%程度で評価する。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、授業中に説明する。				
オフィスアワー	木曜 1 コマ目の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(O) 2. 科目等履修生(O) 3. 難易度(A) 難易度(A)は高校の公民（現代社会、政治経済）レベルの知識を当然に修得していることを前提としています。				

授業科目名	手形小切手法				
担当教員名	小林 道生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文社会学部 A 棟 5 1 1		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	手形、小切手、約束手形、為替手形				
授業の目標	手形・小切手の経済的機能および法理論について基本的な理解を得る				
学習内容	<p>手形法・小切手法は、その特徴として、とりわけ理論的整合性を重視しているといわれる。本講義では、手形法理論の基礎に関わる学説の構造を前提に、各論として位置づけられる諸論点の検討に入ることとする。</p> <p>手形には約束手形と為替手形とがあるが、国内取引において利用されているのは前者であり、本講義においても約束手形を基本に解説する。</p>				
授業計画	1回 総説 2回 有価証券 3回 手形行為 4回 約束手形の振出 5回 白地手形 6回 裏書 7回 善意取得 8回 抗弁の制限 9回 特殊の裏書 10回 手形保証 11回 支払 12回 遡求 13回 手形の権利の消滅 14回 利得償還請求権 15回 授業のまとめ				
受講要件					
テキスト	初回の授業の際に指示する				
参考書	初回の授業の際に指示する				
予習・復習について	授業に毎回出席すれば当然にすべての受講者が理解できるわけではないので、ある程度、各自の自発的な対応も必要となる。				
成績評価の方法・基準	筆記試験による				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	1. 県大との単位互換 認める 2. 科目等履修生の受講 認める 3. 難易度 人によって不向き（不得手）と感ずることのある分野かもしれない。				

授業科目名	刑事政策				
担当教員名	神馬 幸一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 516		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	刑事政策				
授業の目標	初学者を対象に、刑事政策の基礎を講じ、その理解を深める。				
学習内容	近年、我が国の犯罪は、社会生活の複雑化に伴い、情報化・高齢化・国際化というような急激な社会情勢の変化を反映した犯罪が生起しているところに特色があるといわれている。こうした犯罪現象に対し、どのような政策で臨むべきかを検討するのが刑事政策の当面する課題である。本科目においては、こうした問題に取り組むために、犯罪現象論・刑事制裁論・刑事処遇論・被害者学を中心に講義を進めていく。				
授業計画	1回 授業案内：刑事政策とは何か？ 2回 刑事政策総論：わが国の犯罪情勢 3回 刑事政策総論：刑事制裁の体系（刑罰と処分） 4回 刑罰論：死刑（1） 5回 刑罰論：死刑（1） 6回 刑罰論：自由刑 7回 刑罰論：財産刑 8回 刑事処遇論：司法的処遇（1） 9回 刑事処遇論：司法的処遇（2） 10回 刑事処遇論：施設内処遇（1） 11回 刑事処遇論：施設内処遇（2） 12回 刑事処遇論：社会内処遇（1） 13回 刑事処遇論：社会内処遇（2） 14回 被害者学：日本における犯罪被害者対策 15回 被害者学：海外における犯罪被害者対策				
受講要件	刑法の知識を前提とするので、刑法を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	基本的に、配布レジюмеを使用して講義を展開する。特に必要なテキストがある場合に関しては、講義開始時に指定する。				
参考書	守山正＝安部哲夫（編）『ビギナーズ刑事政策（第2版）』成文堂（2011）				
予習・復習について	担当教員と相談すること。				
成績評価の方法・基準	授業初回において案内する。				
オフィスアワー	担当教員と相談すること				
担当教員からのメッセージ	最近数年間は「刑事立法の時代」と呼ばれています。従来からの刑事政策に大きな変革が求められています。そのような時代に学生の皆さんは生きています。この時代の流れをリアルタイムで正確に把握することは困難です。新しい情報とその解釈の必要性は、以前にも増して高まっています。その意味で現代の「刑事政策」を学ぶ意義は、非常に大きいのです。				

授業科目名	行政法総論				
担当教員名	高橋 正人	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A613		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	行政法、行政法の基本原理、行政組織、情報公開・個人情報、行政手続				
授業の目標	行政法の基礎知識の体系的修得および行政法学への学問的興味を高めること				
学習内容	本講義では、行政法の基本原理、行政組織法、行政手続法、情報公開・個人情報保護制度に関する理解を深めてもらい、行政法を学ぶ上での基礎固めをしてほしい。				
授業計画	1回 1 行政法で学ぶこと－作用法・救済法・組織法 2回 2 行政法と憲法・民法/ 行政活動の分類 3回 3 行政法の基本原理－法律による行政の原理 4回 4 行政法の基本原理－適正手続の原理 5回 5 その他の一般原則（1） 6回 6 その他の一般原則（2） 7回 7 行政組織法（1） 8回 8 行政組織法（2） 9回 9 行政手続法（1）－概要 10回 10 行政手続法（2）－申請に対する処分 11回 11 行政手続法（3）－不利益処分 12回 12 行政調査 13回 13 個人情報保護制度 14回 14 情報公開制度 15回 15 行政の行為形式				
受講要件	とくに憲法、民法について履修し、基本的な理解力を有すること。				
テキスト	稲葉馨＝人見剛＝村上裕章＝前田雅子『行政法（第2版）』（有斐閣、2010年）				
参考書	小早川光郎ほか『行政判例百選Ⅰ（第5版）』、なお六法は毎回持参するのが望ましい。				
予習・復習について	事後の復習が重要なので、教科書・資料に引用した判例などを読み返し、わかりにくいことは、後日、積極的に質問する。				
成績評価の方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価を行う。				
オフィスアワー	最初の授業の際に伝える。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	国際経済法				
担当教員名	板倉 美奈子	所属等	法務研究科		
		研究室	人文学部 A 棟 5 3 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 9・10
キーワード	世界貿易機関 (WTO)、グローバル化、発展途上国				
授業の目標	現在の国際経済体制の基本的な法的枠組みについての知識を修得し、この枠組みが日本や私たちの日常生活に及ぼす影響やこれからの課題等について学ぶ。				
学習内容	主に、国際経済に関わる法的枠組みのうち、とくに国際貿易に関する基本的枠組みである WTO 体制を取り上げ、その概要と歴史、主要協定の内容、関連する諸問題や今後の課題を概観する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後国際経済体制の概要と歴史 2. GATT/WTO の基本原則 3. WTO の紛争処理手続 4. 農業協定 5. サービス貿易協定 6. 知的所有権協定 7. セーフガード協定／アンチダンピング協定／補助金・相殺措置協定 8. WTO の課題－環境、労働、開発 				
受講要件	特になし。内容的には、「国際法」「経済法」に関連する部分があるので、これらの科目も履修することが望ましい。				
テキスト	田村次朗『WTO ガイドブック【第2版】』(弘文堂、2006年)。このほか、授業中にレジュメ・資料を配布する。				
参考書	特になし。詳細については、授業時間中に紹介する。				
予習・復習について	予習は不要。まず授業中にしっかりとノートを取り、授業後にテキスト、ノート、配布資料をもとに復習をすること。				
成績評価の方法・基準	試験（論述式）は学期末の試験期間中に実施する予定。 このほか授業期間中にレポートの提出を求めることもある。 成績評価は期末試験の結果に基づいて行う。 上述のレポートを課した場合には、これを加点要素として評価に組み込む。				
オフィスアワー	初回講義時に指示する。事前のメール連絡が必要（jmitaku@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 国際経済法で取り上げる諸問題は、いまや私たちの日常生活にも深く関わりをもつようになってきました。この授業を履修する人は、日頃から、経済に限らず、ひろく国際情勢に目を向け、自分自身の問題として、関心を持つようにしてください。				

授業科目名	マクロ経済学Ⅱ				
担当教員名	浅利 一郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟313		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火3・4,木3・4
キーワード	国際マクロ経済、景気変動、経済成長、マクロ動学				
授業の目標	マクロ経済学経済Ⅰの履修を前提に、国際マクロ経済学の基礎、経済成長理論、景気変動理論を学ぶ。特に、マクロ動学の数学的方法については詳しく解説する。				
学習内容	マクロ経済学Ⅰの習得を基礎に、より進んだ以下の内容を講義する。 国際経済関係を含むマクロ経済学の理基礎論 マクロ動学の数学的方法 経済成長の基礎理論 景気変動の基礎理論				
授業計画	第1/2回 国際マクロ・モデル1/2 第3/4回 国際マクロ・モデル3/4 第5/6回 国際マクロ・モデル5/6 第7/8回 経済動学の方法1 経済量の変化と動学の方法 第9/10回 経済動学の方法2 差分方程式 第11/12回 経済動学の方法3 微分方程式 第13/14回 ケインズ派の経済成長論 第15/16回 新古典派経済成長理論 第17/18回 景気循環の乗数・加速度モデル 第19/20回 貨幣的景気循環の理論 第21/22回 均衡論的景気循環の理論 第23/24回 新ケインズ派の景気循環理論 第25/26回 非線形動学とカオス理論 第27/28回 グッドウィンの景気循環理論 第29/30回 カオスと景気循環				
受講要件	経済理論入門Ⅰ・Ⅱ、経済数学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰを履修していることが望ましい。				
テキスト	浅利一郎『IT時代のマクロ経済学』実教出版株式会社、2001年				
参考書	N.グレゴリー マンキュー『マンキュー マクロ経済学 第2版〈2〉応用篇』東洋経済				
予習・復習について	理論経済であるマクロ経済学の学習には、予習と復習だけでなく、講義中に配布される演習問題や市販されている「マクロ経済学演習」などの本で演習問題に取り組むことが必要である。				
成績評価の方法・基準	講義の切れ目毎に行う小テストと、期末に行う試験で成績を評価する。成績判定基準は学部の基準に従う。				
オフィスアワー	最初の講義時伝える。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	地域政策				
担当教員名	太田 隆之	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通教育L棟 328号室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月3・4,水3・4
キーワード	地域経済、地域社会、地域環境の保全、地域開発、地方自治、持続可能な発展				
授業の目標	講義を通じて、地域が直面する問題に対する視点を得るとともに、それらの問題に取り組むための基礎的思考力を習得することを目指す。				
学習内容	<p>地域政策は我々にとって身近な政策であり、日常生活に大きく影響する。更に、地域経済や地域社会の形成やそれらの維持・発展のあり方にも影響を及ぼす。それゆえに、地域政策が何を目的とし、誰が推進主体となって、どういう手段で実施されるのかということは、地域の経済や社会で生じている問題を考える上で重要な論点であり、これまでの地域政策がどうであったのか、今後の地域政策はどうあるべきかということは、今後の経済・社会のあり方を決定する主要な論点である。</p> <p>本講義では、こうした問題意識から、まずこれまでに行われた地域開発政策を検証しながらこれらの政策の意義と限界を明らかにする。その上で、内発的発展や持続可能な発展に注目しながら、これらの理念を積極的に取り入れている欧州の地域政策を概観し、あるべき地域政策像や今後の経済・社会のあり方を議論する。</p>				
授業計画	<p>1回 ガイダンス</p> <p>2回 地域政策の課題は何か1 ―地域経済の不均等発展1―</p> <p>3回 地域政策の課題は何か2 ―地域経済の不均等発展2―</p> <p>4回 地域政策の課題は何か3 ―地域経済の不均等発展論に対する批判―</p> <p>5回 「地域経済の不均等発展」に対する中央政府のアプローチ1 ―全国総合開発政策概論―</p> <p>6回 「地域経済の不均等発展」に対する中央政府のアプローチ2 ―一全総を中心に―</p> <p>7回 「地域経済の不均等発展」に対する中央政府のアプローチ3 ―四全総を中心に―</p> <p>8回 全総のまとめと全総のオルタナティブ</p> <p>9回 大都市における地域政策1 ―全総実施下の東京圏における都市問題―</p> <p>10回 大都市における地域政策2 ―シビルミニマム論と都市政策―</p> <p>11回 大都市における地域政策3 ―昨今の東京圏の状況と都市政策―</p> <p>12回 大都市における地域政策4 ―関西圏に注目して―</p> <p>13回 地方都市における地域政策1 ―地方都市概論―</p> <p>14回 地方都市における地域政策2 ―「地方中枢都市」を事例に―</p> <p>15回 地方都市における地域政策3 ―「企業城下町」を事例に―</p>				
受講要件	本講義では多くのトピックを扱うことから、他講義の内容とも重なる。他の科目も積極的に受講すること。				
テキスト	講義内容が多岐にわたるためレジュメを中心に進めていく予定である。詳しくは開講時に説明する。				
参考書	<p>テーマに応じて下記を中心に利用する予定である。参考書については随時講義の中で説明する。</p> <p>淡路剛久他(2006),『持続可能な発展』,有斐閣 (ISBN 9784761523200)</p> <p>中村剛治郎編(2008),『基本ケースで学ぶ地域経済学』,有斐閣(ISBN 9784641183544)</p> <p>小田切徳美(2009),『農山村再生』,岩波書店 (ISBN 9784000094689)</p> <p>諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』,中央公論新社 (ISBN 9784120041044)</p>				
予習・復習について	参考書等を利用しながら可能な限り予習・復習を行うことを望む。さしあたり、講義で取り上げた図書や論文で関心を持ったものは実際に手にとって読んでみることを。				
成績評価の方法・基準	2回の中間レポートと最終試験により評価を行う。詳しくは開講時に説明する。				
オフィスアワー	開講時に説明する。				
担当教員からのメッセージ	<p>県立大学単位互換(認める)科目等履修生(認める)難易度(B)</p> <p>今地域で起きていることには常に注目し、日々の報道に注視してほしい。地域政策は我々が日常生活を営む地域に影響するため、理念や理論だけではなく、その実際も重要である。また、地域経済・地域社会は日々ダイナミックに変化しており、現前に起きていることがそのまま地域政策の課題となる。こうした地域で起きる課題とそれらの報道に対して、自分ならどう考え、どう対応するかを常に考えながら本講義を受講してほしい。</p>				

授業科目名	労働経済論				
担当教員名	布川 日佐史	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟407		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月5・6,金9・10
キーワード	非正規雇用、ミスマッチ失業、新規学卒労働市場、アクティベーション				
授業の目標	現代日本の雇用・失業に関する論点を理解し、今後の方向性について考察することが授業の目標である。				
学習内容	最初に、現在の日本の労働市場の状況を概観し、課題を確認する。 次に、日本の労働市場の特徴を理解する上でポイントとなる概念や理論の基礎を学ぶ。 その上で、労働市場政策の概要と今後の方向性を検討する。				
授業計画	はじめに (ガイダンス) 1 労働市場の現状 (1) 正規雇用・非正規雇用の推移 ・多様な雇用形態—定義と推移 ・給与・賞与支払総額と世帯所得への影響 (2) リーマンショック後の失業の推移 ・完全失業の定義 ・失業の時間 (3) 失業構造分析と雇用対策—「ミスマッチ失業」— ・UV分析をめぐって 2 日本の労働市場分析 (1) 外部労働市場—離職・入職 (フロー) 分析 ・労働供給と受給のメカニズム ・入職経路・職探しの理論 (2) 内部労働市場と新規学卒労働市場 ・内部労働市場 (「メンバーシップ契約」に基づく長期雇用) の趨勢 ・新規学卒労働市場の変容 ・若年雇用対策の展開 (3) 労働市場改革の動きと方向 ・「多様な正社員」・「ジョブ型労働市場」へ 3 積極的労働市場政策とセーフティネット (1) 雇用保険と生活保護 (2) 第2のセーフティネット —「基金訓練」「住宅手当」 (3) 職業訓練・キャリア形成 (4) アクティベーション政策の展開 おわりに				
受講要件	なし				
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料は配布します。				
参考書	OECD『日本の労働市場改革』(明石書店、2011年)、清家篤『労働経済』(東洋経済新報社、2007年)、遠藤・木下他『労働、社会保障政策の転換を』(岩波ブックレット、No.746、2009年)など。その他の文献や資料は、授業時に紹介します。				
予習・復習について	区切りごとに、授業のまとめと小テストを行います。				
成績評価の方法・基準	出席 (50%)、小テスト・期末試験 (50%)				
オフィスアワー	初回授業時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	質問と意見にこたえながら授業を進めます。				

授業科目名	世界経済論				
担当教員名	安藤 研一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水1・2,金1・2
キーワード	世界経済、国際経済機関、貿易、直接投資				
授業の目標	国際貿易，多国籍企業，地域主義などを中心に，現代世界経済の展開について理論的，実証的に学ぶ．貿易，直接投資といった実態経済に即した理論の初歩を学ぶが，高度な数学を使うことはしない．				
学習内容	戦後世界経済は，GATT/WTO体制の下でより自由な国際貿易の発展を見てきた．このような発展の背後には，企業の国際的な展開も同時に見られたところである．更に，EU，NAFTA，ASEAN等に代表される地域主義の潮流も近年顕著になってきている．このような状況を理論的，実証的に学んでいくこととする．				
授業計画	概ね以下のようなテーマを取り上げながら，理論と具体的現実の関係に留意しながら，授業を進める． 1. 資本主義経済の特徴と世界経済． 2. 世界経済と国家． 3. 国際貿易の利益と課題． 4. 外国為替の役割と意義． 5. 国際資本移動の原因と意義． 6. 直接投資の利益と課題． 7. 地域主義の経済学． 8. GATT/WTO体制． 9. IMF体制と機軸通貨問題． 10. 多国籍企業の歴史的展開． 11. EUの形成・発展． 12. 現代世界経済の問題．				
受講要件	『アジア経済論』をあわせて受講することが望ましい．				
テキスト	特に，指定しない．毎回の授業に合わせたレジメ・資料を配布する．				
参考書	特に，指定しない．				
予習・復習について	授業で配布するレジメ，資料を使った予復習と合わせて，新聞・テレビなどのニュースをフォローし，現在の世界経済でどのようなことが起きているのか，ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である．				
成績評価の方法・基準	出席は取らないが，中間試験を課し，学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する．中間試験，学期末試験では，論理的思考表現能力についてみる．単純な選択式の問題などは出さず，ある程度の記事を書くことを求める．				
オフィスアワー	水曜日 17:30～18:30				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国，社会があり，そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に，国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更，修正を迫るものでもあります．そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます．				

授業科目名	会計学 I				
担当教員名	永田 守男		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 2 4	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	会計制度、資産会計、負債会計、純資産会計、損益会計				
授業の目標	財務会計の基本を把握し、損益計算書と貸借対照表の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	財務諸表に現れる基本的な項目の意味を、ついでその理論的な背景について理解する。これらを踏まえて、受講生の理解度に応じで高度な会計処理について学習する。				
授業計画	1回 インTRODクシヨンー複式簿記原理の確認ー 2回 会計計算の基本的な構造 3回 基本的な会計処理基準 1 4回 基本的な会計処理基準 2 5回 収益の認識と測定 1 6回 収益の認識と測定 2 7回 費用の認識と測定 1 8回 費用の認識と測定 2 9回 費用の認識と測定 3 10回 小テスト+資産概念 11回 流動資産 12回 固定資産 1 13回 固定資産 2 14回 固定資産 3(固定資産の評価) 15回 繰延資産				
受講要件	1年次の簿記 I・II を履修していること。かつその単位を修得していることが望ましい。				
テキスト	加藤盛弘・志賀理・上田幸則・川本和則・山内高太郎著『会計学の基本』森山書店、2009年。				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	会計学はテクニカルタームがたくさん出てきます。とくに復習を欠かさないことが大切です。				
成績評価の方法・基準	講義期間中におこなう中間テスト(40点相当)+期末テスト(60点相当)の合計によって評価します。				
オフィスアワー	火曜日 10:30~11:30				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 B 各自 1年次の簿記 I・II の内容を復習すること。				

授業科目名	経済統計学				
担当教員名	上藤 一郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟 326		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水3・4,金5・6
キーワード	公的統計、統計の真実性、調査統計、業務統計、加工統計				
授業の目標	公的統計（政府統計）を中心としたミクロ経済およびマクロ経済に関する経済統計の体系・種類・特徴とその利用方法について学習します。				
学習内容	本講義では、経済分析に不可欠な、ミクロ経済やマクロ経済に関する経済統計（データ）を取り上げ、それらの体系・種類・特徴などについて学習します。経済統計の多くは政府機関によって作成・公表されたものが多く、利用に当たってはそのことによる問題点を理解しておく必要があります。このためまず公的統計（政府統計）の作成過程について概略を講述した後、ミクロ経済並びにマクロ経済に関するさまざまな統計を取り上げ解説していきます。				
授業計画	1. 経済統計の作成過程 (1) 経済統計の体系と統計制度 (2) 経済統計の信頼性と正確性 2. 経済統計各論Ⅰ－ミクロ経済に関する統計－ (1) 人口統計 (2) 家計統計 (3) 物価統計 (4) 労働統計 3. 経済統計各論Ⅱ－マクロ経済に関する統計－ (1) 国民経済計算 (2) 景気統計 (3) 財政・金融統計 (4) 国際収支統計				
受講要件	必要条件ではありませんが、統計情報入門、統計学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望まれます。				
テキスト	御園謙吉・良永康平編『よくわかる統計学Ⅱ－経済統計編－』第2版，ミネルヴァ書房，2011年。				
参考書	講義時に随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読（毎回の講義終了時に次回講義時まで読んでおくべき範囲を指示します） 復習：テキストに示されている EXCEL による計算問題				
成績評価の方法・基準	成績は，①平常点（10%），②各単元毎の課題（30%），③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				

授業科目名	ミクロ経済学 I				
担当教員名	山下 隆之		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、生産者行動				
授業の目標	まずは基礎的な理論を正確に理解することを期待しています。市場の運行法則に関するスタンダードな考え方を身につけて、現代の経済事象を分析する力を養ってもらいたいと考えています。				
学習内容	<p>経済についての基本的な原理や考え方には、マルクス経済学と近代経済学の2つの系統があります。近代経済学は、さらに、国民所得や国民総生産など経済全体の運動を巨視的に捉える「マクロ経済学」と、経済活動の主体である個々の消費者や企業の活動から経済の法則性を考える「ミクロ経済学」の二本立てで構成されています。</p> <p>近代経済学の性格についての全体的な展望をした後に、ミクロ経済学の概要を講義します。消費者（家計）と生産者（企業）の動きから完全競争市場のメカニズムを学習します。</p>				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 近代経済学の歴史 3回 需要と供給 4回 市場均衡と価格決定 5回 市場の安定性 6回 需要・供給の変動 7回 弾力性とその応用 8回 社会的余剰 9回 市場と課税 10回 市場と価格規制 11回 生産者行動：生産関数 12回 生産者行動：費用関数 13回 生産者行動：利潤最大化 14回 生産者行動：損益分岐点 15回 生産者と供給				
受講要件	科目の性格上、高校数学Ⅱ（微分法）に関する知識が必要です。「経済数学Ⅰ」を履修すると効果的です。なお、平成16～22年度入学者は履修不可です。（月曜1・2を履修すること。）				
テキスト	N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第2版』東洋経済新報社、2005年。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。 復習…ノートの整理。				
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験（100%）				
オフィスアワー	月曜日 10:20-11:20（前学期）／月曜日 14:25-15:25（後学期）、研究室（L312）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） ミクロ経済学の題材は、TVや新聞の経済ニュースはもちろんのこと、小説、スポーツ、音楽など、私たちの身の回りに沢山見出すことができます。そうした事例を紹介しながら、授業を展開したいと考えています。				

授業科目名	統計学 I				
担当教員名	上藤 一郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 326		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	データサイエンス、データ解析、統計データ、統計的記述、多変量データ解析				
授業の目標	データサイエンスの視点に立った記述統計学の基本について学習します。				
学習内容	本講義では、統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）の要約を目的とした記述統計学の方法について学習します。社会・経済分析において記述統計学の果たす役割は、データに含まれるさまざまな情報を要約することにより、データから意味ある情報を読み取ることにあります。そこで本講義では、特にデータサイエンスの視点（データ重視の視点）から、①統計データの持つ特徴や問題点を理解できる能力、②データから何か言えて何が言えないかを判別できる能力を習得してもらうために、記述統計学の諸方法を具体的な事例を用いながら解説していきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを科学する 2. 統計調査の体系－全数調査と一部調査－ 3. 統計調査の実際－さまざまな調査の実施方法－ 4. 統計データの構造－変数とデータ－ 5. 統計データの分布－集計と分類－ 6. 分布の中心の尺度－さまざまな代表値－ 7. 分布のバラツキの尺度－散布度と集中度－ 8. 量的関係の探索－相関と回帰－ 9. 量的現象の予測－重回帰分析－ 10. 質的関係の探索－カテゴリカルデータ解析－ 11. 質的現象の計測－数量化の方法－ 12. 複雑な事象の計測－多変量データ解析の体系－ 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	上藤一郎・森本栄一・常包昌宏『調査と分析のための統計－社会・経済のデータサイエンス－』丸善，2007年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②各単元毎の課題（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A）				

授業科目名	微分積分学基礎 (B組)				
担当教員名	大田 春外	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 402		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 1・2
キーワード	極限、連続、微分				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、微分積分学の講義を行う。				
授業計画	1回 準備と復習 2回 関数の極限 3回 連続関数 4回 微分の基本公式 5回 合成関数の微分 6回 三角関数 7回 三角関数を含む式の極限 8回 三角関数の導関数 9回 逆関数 10回 逆三角関数 11回 逆三角関数の微分 12回 自然対数 13回 対数関数の微分 14回 指数関数の導関数 15回 対数微分法				
受講要件	数学教育専修の学生以外				
テキスト	「微分積分」矢野健太郎、石原繁編 裳華房 ISBN978-4-7853-1071-4				
参考書	初回の講義で紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	期末試験, 小テスト, レポート, 出席状況から総合的に判断をする。				
オフィスアワー	初回の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				

授業科目名	代数学 I				
担当教員名	谷本 龍二		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	1次結合、1次従属、1次独立、基、次元、線形写像、核、像				
授業の目標	本講義の主題は、基と線形写像にある。この2つの概念を習得できるよう、以下3つの目標を立てている。第1の目標は、線形代数学の基礎的概念の定義を記憶し再生できることである。第2の目標は、具体的なベクトル空間の基を計算できることである。第3の目標は、具体的な線形写像の表現行列が計算できることである。				
学習内容	視覚的に述べれば、ベクトル空間内の、原点を通るまっすぐな図形は、座標軸を持つ。このことを正確に述べれば、ベクトル空間内の、部分空間は、基を持つである。それゆえ、いろいろな具体的な部分空間についての基を計算し、また、具体的な線形写像の表現行列も計算する。				
授業計画	1回 1次結合 2回 有限個のベクトルで生成される部分空間 3回 まとめ 4回 1次関係 5回 1次従属と1次独立 6回 1次独立なベクトルの最大個数 7回 まとめ 8回 ベクトル空間の基と次元 9回 解空間の基と次元 10回 有限個のベクトルで生成される部分空間の基と次元 11回 まとめ 12回 線形写像 13回 線形写像の表現行列 14回 線形写像の核と像 15回 総まとめ				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること。				
テキスト	三宅敏恒著『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』培風館 定価（本体 1900 円＋税）				
参考書	必要があれば適宜紹介する。				
予習・復習について	予習・復習とも電子メール等により適宜連絡する。				
成績評価の方法・基準	小テスト（合計20点）とレポート（合計20点）と試験（60点）を用いて成績評価をする。小テストにより、第1の目標の達成状況についての評価をする。レポートにより、第2、第3の目標の達成状況についての評価をする。試験は、第1、第2、第3の目標の達成状況についての評価をする。なお、試験の実施日時は、断りがない限り、行事予定表の通りとする。				
オフィスアワー	水曜日 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	イメージしつつテキストを読むと、得るところが大きい。				

授業科目名	基礎生物学				
担当教員名	伊藤 富夫	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部C棟505		
分担教員名					
クラス	理科	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月1・2
キーワード	新しい生物学、複合の生物学、バイオテクノロジー、ライフサイエンス				
授業の目標	大学で初めて専門を受ける学生を対象に、高校時代、生物学を学んできたか否かに関わらず、楽しく聞けるようにした。				
学習内容	現在、生物学は著しい発展をとげ、連日のように、バイオテクノロジー、ライフサイエンス、遺伝子移植、ガンやエイズの征圧などの話題が新聞紙上ににぎわし、21世紀は生物学の時代だといわれている。本講義では、新しい生物学をわかりやすく、楽しく紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物とは何か 2. 生物学の歴史 3. バイオテクノロジー 4. 細胞の構造と行動 5. 細胞の一生 6. セントラル・ドグマ 7. 物質の合成、毒の話 8. 遺伝の話 9. 組織 10. 体型(体制)、器官 11. 恋のしくみ 12. 外界の影響、花の話 13. 環境の話Ⅰ (パワーポイント) 14. 環境の話Ⅱ (ビデオ) 15. 社会の話 				
受講要件					
テキスト					
参考書	胚という名の宇宙から(サイエンスハウス) 複合の生物学(杉山書店) 海と生物の世界が人間に教えてくれること(サイエンスハウス)				
予習・復習について	1時間ほどの予習、1時間ほどの復習を期待します。				
成績評価の方法・基準	出席と試験				
オフィスアワー	上記研究室へ				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	幾何学 I				
担当教員名	山田 耕三		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 407	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 9・10
キーワード	座標系、放物線、楕円、双曲線、2次曲線				
授業の目標	大学受験に当たり、すでに円、放物線、楕円、双曲線等の方程式や、基本的な性質については学習していると思うが、この講義では、復習もかねてもう一度これらの2次曲線について調べてみる。もちろん、これまで知らなかった新たな性質についても調べ、さらには、平面上の2次曲線の分類も行う。				
学習内容	直交座標、斜交座標、極座標等の座標軸を持つ平面上で、ある方程式で表される図形について学ぶ。特に、2次方程式で表される2次曲線、円、放物線、楕円、双曲線等について学び、さらにはこれらの2次曲線の分類を行う。また時間があれば、空間上に表される曲面についても調べる。				
授業計画	1 平面上の座標軸（直交座標、斜交座標、極座標） 2 方向数、方向比、方向余弦 3 平面上の座標軸の変換 4 平面上の直線の方程式 5 直線の持っている性質 6 予備 7 円の方程式、円の持っている性質 8 放物線の方程式、放物線の持っている性質 9 楕円の方程式、楕円の持っている性質 10 双曲線の方程式、双曲線の持っている性質 11 2次曲線の分類（1） 12 2次曲線の分類（2） 13 2次曲線の分類（3） 14 2次曲線の分類（3） 15 予備				
受講要件	集合と論理基礎および集合と論理を履修していること。				
テキスト	特に使用しない。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回、講義の復習としてレポート（練習問題）を出すので、それらの問題を解くことによって十分な復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、小テスト、及び期末試験の成績				
オフィスアワー	初回の講義のときに説明する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	集合と論理基礎				
担当教員名	大田 春外		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火 9・10
キーワード	命題、心理値、限定記号、集合、集合族、集合算、積集合、同値関係				
授業の目標	人は言葉を使って考え、自分の考えを言葉で伝える。数学においても、定理や問題やその解答は、すべて言葉を使って表現される。言葉を正確に使うためには、我々の言葉の基本的な構造 (= 論理) について知る必要がある。論理と、数学を記述するための便利な道具である集合について学ぶ。				
学習内容	論理と集合に関する基本的事項について講義をする。目標は、与えられた文章 (= 命題) の否定形を正確に作ることにあり、集合、関係などの用語を理解し正しく使えるようになること。例えば「犯人は男性かまたは背の高い女性である」を否定した文章を作ることができますか。初めて学ぶ内容なので出席が必要。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 命題と真理値 2. 論理演算とその基本公式 1 3. 論理演算とその基本公式 2 4. 限定記号と限定命題 1 5. 限定記号と限定命題 2 6. 限定記号と限定命題 3 7. 定理と証明 8. 集合の演算 1 9. 集合の演算 2 10. 集合の演算 3 11. 集合族 12. 積集合 1 13. 積集合 2 14. 同値関係 15. 同値類 				
受講要件					
テキスト	最初の授業知らせます。				
参考書	最初の講義で紹介します。				
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理しておくこと。練習問題を課題として出すので、それらを解きレポートとして提出する。				
成績評価の方法・基準	レポート及び試験のそれぞれの成績				
オフィスアワー	最初の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	解析学 I				
担当教員名	大和田 智義		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 9・10
キーワード	不定積分、定積分				
授業の目標	この授業では、不定積分の様々な計算方法を習得します。また、微分積分の基本定理を通じて、定積分と不定積分の関係を正しく理解します。				
学習内容	この授業は 1 年生の微分積分学の続きです。高校の授業では学習しなかった複雑な計算が正しく出来る力を身につけます。また、定積分の定義を正しく理解して、その図形的な意味を理解します。				
授業計画	1 回 不定積分の計算 (基本公式 1) 2 回 不定積分の計算 (基本公式 2) 3 回 不定積分の計算 (分数式、無理式) 4 回 不定積分の計算 (部分積分) 5 回 不定積分の計算 (三角関数) 6 回 不定積分の計算 (無理関数) 7 回 総合演習 1 8 回 不定積分の計算 (有理関数 1) 9 回 不定積分の計算 (有理関数 2) 10 回 不定積分の計算 (有理関数 3) 11 回 定積分の定義 12 回 定積分の性質 13 回 微分積分の基本定理 (その 1) 14 回 微分積分の基本定理 (その 2) 15 回 総合演習 2				
受講要件	1 年生の微分積分学の授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」矢野 健太郎, 石原 繁 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	授業中に行う小テストを中心として、レポートおよび出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	火曜日の午後。				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、復習に時間をかけて学習した理論展開をよく理解するようにしてほしい。				

授業科目名	欧米学校史				
担当教員名	菅野 文彦	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 103		
分担教員名					
クラス	実践	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	公教育、国民教育制度、「新教育」運動				
授業の目標	この講義は、教育実践学専修の学生のための選択専門科目です。欧米における学校教育の成立と展開、それに関わる教育思想の歴史を学ぶことを通して、今日的な学校教育の姿とそこに内在する諸課題や諸問題をとらえるための歴史的な視座を得ることをねらいとします。				
学習内容	(古代・)中世社会における教育の(社会史的)状況や学校の出現から始め、近世、近代を経て近代学校・近代教育の成立、そして「新教育」運動から現代までに至る通史的な講義の構成をとる予定です。制度史、政策史、運動史的な視点とともに、思想史さらには社会史の視点をもとり入れることをめざします。				
授業計画	1 導入 2 前近代の教育状況と学校の出現 3 近代の学校と教育思想 4 近代公教育の構想と学校の制度化 5 近代の学校と教育思想(1) 6 近代の学校と教育思想(2) 7 近代の学校と教育思想(3) 8 近代の学校と教育思想(4) 9 国民教育制度の成立 10 「新教育」運動(1) 11 「新教育」運動(2) 12 「新教育」運動(3) 13 現代の教育改革 14 予備日 15 試験				
受講要件	教育実践学専修の学生のための選択専門科目です。				
テキスト	なし。適宜、プリント資料等を配布します。				
参考書	講義の中で適宜、紹介します。				
予習・復習について	予習・復習の仕方については、授業のなかで話したり相談に応じたりします。				
成績評価の方法・基準	出席状況および提出物と最終試験(レポート)を通し、授業の目標が達せられた度合いを判断します。				
オフィスアワー	質問・相談等は原則として各回の授業終了後に受け、その他は適宜、連絡のうえ。				
担当教員からのメッセージ	できれば文献購読的な作業も一部交えていきたいと考えています。積極的な参加を希望します。				

授業科目名	書写基礎				
担当教員名	杉崎 哲子	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部A棟602		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水9・10
キーワード	書写、字形、字体、筆順				
授業の目標	小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。				
学習内容	「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本点画 3. 字形のとり方①(長短、画間、方向) 4. " ②(交わり方、接し方) 5. " ③(組立て方・左右) 6. " ④(" ・上下) 7. " ⑤(" ・内外) 8. 平仮名 9. 片仮名 10. 行書の特徴①(変化・連続) 11. " ②(省略) 12. 文字の大小 13. 配置・配列 14. 書式 15. テスト 				
受講要件	中学校国語免許取得予定者。原則として、火5・6は国語教育専修と書文化専攻、水9・10は他の専修・専攻。				
テキスト	『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編				
参考書					
予習・復習について	適宜宿題を課す				
成績評価の方法・基準	毎時の提出課題(毛筆・硬筆)の質と最終回の筆記試験による。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。				

授業科目名	線形代数学基礎 (B組)				
担当教員名	山田 耕三	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 407		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前期		必修選択区分 必,選択
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金 9・10
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	線形代数学は、比例 $y=ax$ の高次元化である $y=Ax$ 、さらにそのベクトル空間への一般化である線形写像を扱う学問である。ここで、 x, y はベクトル、 A は行列である。この講義では、その線形代数学の基礎として、行列、連立1次方程式、行列式について学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学C を履修していないことを前提にして、線形代数学の講義を行う。				
授業計画	1. 行列の定義 2. 行列の演算 (1) 3. 行列の演算 (2) 4. 行列と連立1次方程式 5. 行列の基本変形 6. 簡約な行列 7. 連立1次方程式の解法 (1) 8. 連立1次方程式の解法 (2) 9. 正則行列であるための必要十分条件 10. 置換 11. 行列式の定義と性質 (1) 12. 行列式の性質 (2) 13. 行列式の余因子展開 14. クラームルの公式 (1) 15. クラームルの公式 (2) 16. 期末試験				
受講要件					
テキスト	三宅敏恒著 『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』 培風館 ISBN-13: 978-4563003814				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	最初の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	離散数学 I				
担当教員名	保坂 哲也	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟 606 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	集合論、組合せ論、グラフ理論				
授業の目標	離散数学の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合論、組合せ論、グラフ理論の初歩を用いて、身近なところにある疑問・問題を数学的に解決することを学ぶ。また時間があれば代数的構造についても学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 関係 3. 順序と組合せ 5. グラフ理論 6. RSA 暗号 				
受講要件					
テキスト	パワーアップ離散数学 (大山達雄著) 共立出版、1997、ISBN: 4320015290				
参考書					
予習・復習について	テキストに沿って講義をするので、必ず予習・復習をするように。				
成績評価の方法・基準	レポートなどにより評価する。				
オフィスアワー	授業開始後通知する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計学				
担当教員名	板津 誠一	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 605		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	検定、十分統計量				
授業の目標	「数理統計学」について講義する。ある現象を観測したり、ある集団を推測するため、標本をもとにもとの集団についての解析をすることが統計的推測である。推測する対象について実際のデータをもとにどのように分析し、どのように判断するかという問題を考えることを目標とする。				
学習内容	数理統計学の基本的な考え方がどのように定式化され基礎付けられることを解説する。講義では確率分布・条件付平均値などをもとに統計的推測の基礎である仮説検定、推定、統計量を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率空間と確率分布 2. 確率, 確率変数, 期待値 3. 条件付確率 4. 条件付密度関数, 条件付頻度関数 5. 条件付期待値の定義 6. 条件付期待値の性質 7. 多次元確率変数の変換 8. 統計的推測 9. 仮説検定 10. ネイマン-ピアソンの基本定理 11. 十分統計量 12. 因子分解定理 13. 推定 14. 推定量 15. クラメール・ラオの定理 				
受講要件					
テキスト	テキストはとくに指定しない。				
参考書	柳川堯「統計数学」近代科学社 ISBN: 4-7649-1014-4				
予習・復習について	配布するレジュメおよび各自のノートで予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、レポートおよび演習問題を加えて評価します。				
オフィスアワー	月曜 9・10時限				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	幾何学				
担当教員名	保坂 哲也	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟 606 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 5・6
キーワード	微分可能多様体、ベクトル場、写像の微分、テンソル場、微分形式、外微分				
授業の目標	微分可能多様体について基本的なことを学ぶ。				
学習内容	微分可能多様体について基本的なことを学ぶ。				
授業計画	(1) 多様体の定義と例 (2) 接ベクトルとベクトル場 (3) テンソル場 (4) 微分形式と外微分				
受講要件	偏微分を思い出そう。				
テキスト	村上信吾(著) 多様体 (共立出版)				
参考書					
予習・復習について	教科書に沿って授業を行うので、予習復習を良くして下さい。				
成績評価の方法・基準	レポート、試験等を総合的に判断する。				
オフィスアワー	授業時間中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	一見、新しいことをやっているように見えるが、授業では、2年生の微積分の延長に過ぎないことがわかると思う。しかし、実はもっと勉強すると、多様体上では、解析学・代数学・(一変数・多変数)複素関数論・ホモロジー論・ホモトピー論が交差し、さまざまな様相をそこに見ることができるのである。				

授業科目名	シミュレーション数理科学 I				
担当教員名	田中 直樹	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 602		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 7・8
キーワード	偏微分方程式、差分解法、作用素半群、半群の積公式				
授業の目標	熱伝導という物理現象を題材に、1. 現象の数学モデル化の方法、2. 数学モデルへの実解析的な立場からの接近方法、3. 数学モデルへの数値解析的な接近方法、に関する基本的な考え方を身につける。				
学習内容	微分積分学の知識をもとに、熱伝導という物理現象の数学モデル化から始める。このモデルは偏微分方程式で与えられる。この授業では、偏微分方程式の数値解法の代表的な方法である差分解法、および、シミュレーションにより現象の可視化について学習する。その際、偏微分方程式を近似する差分方程式をどのように構成するのか、また、どのような場合に差分方程式の解が偏微分方程式の解に収束するのか、などの直面する数学的問題への解決法を作用素半群の近似理論を題材とし講義する。				
授業計画	次の計画を進めるが、受講生の理解状況に応じて変更することがある。 1. 熱伝導の現象の数学モデル化 2. 必要な数学用語の準備 3. 作用素半群の積公式 4. 差分法による偏微分方程式の解法 5. Mathematica によるシミュレーション				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について	授業中にすべてを理解することは一般的に不可能である。予習と復習を必ず行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	受講態度と小テスト（20%）および最終試験（80%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の授業の時に、曜日と時限を決めるが、随時質問に応じる。但し、事前に在室を確認すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	解析学				
担当教員名	田中 直樹	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 602		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数、ルベーグの収束定理、Fubini の定理				
授業の目標	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、ルベーグ積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解する習慣を身につける。積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理・ルベーグの収束定理、および積分の順序交換に関する Fubini の定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。				
学習内容	ルベーグ積分は、リーマン積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとにルベーグ積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、ルベーグの収束定理、Fubini の定理など）を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Riemann 積分と面積 2. σ 集合体 3. 測度の定義と諸性質 4. 測度空間の完備化 5. 外測度 6. Hopf-Kolmogorov の拡張定理 7. Lebesgue 測度 8. 可測関数の定義と諸性質 9. 積分の定義 10. 積分に関する諸性質 11. 収束定理 12. 直積測度 13. Fubini の定理 				
受講要件	微分積分学 I、II の内容を理解していることが望ましい。				
テキスト	測度と積分、鶴見茂、理工学社、4-8445-0115-1				
参考書	ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房				
予習・復習について	予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の講義の際に時間を設定する。				
担当教員からのメッセージ	測度論は、解析学 I で学ぶ L^p 空間（ p 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。				

授業科目名	線型代数学Ⅲ				
担当教員名	久村 裕憲	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 603		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード	内積、正規直交系、2 次形式、ジョルダン標準形				
授業の目標	線型代数で重要なジョルダン標準型を理解する。				
学習内容	線形代数学 II の続きとして内積、正規行列の対角化、2 次形式、ジョルダン標準型などについて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内積の定義 2. エルミート行列とユニタリ行列 3. 正規直交系 4. 正規行列の対角化 5. 実正規行列の標準形 6. 正規変換とスペクトル分解 7. 2 次形式 8. ジョルダン標準型 				
受講要件	線形代数学 I・II の内容を理解していること。				
テキスト	基礎講義 線形代数学（二木昭人、培風館）ISBN978-4-563-00275-6				
参考書					
予習・復習について	授業を受ける前には前回までの内容を確実に理解してくること。また授業が分かりにくい学生はテキストを授業前に読むなどして予習すること。				
成績評価の方法・基準	レポート・試験などにより評価する。				
オフィスアワー	年度の初めに掲示する。				
担当教員からのメッセージ	学期が始まる前に線型代数学 I・II の内容を復習しておくこと。				

授業科目名	微分積分学Ⅲ				
担当教員名	清水 扇丈		所属等	理学部	
			研究室	理 C510	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	火 7・8
キーワード	偏微分、全微分、テイラーの定理、陰関数の定理、逆関数の定理、条件付極値問題				
授業の目標	多変数関数の微分積分学のうち、主に多変数関数の微分についての基本的内容を学ぶ。				
学習内容	数学科では1・2年次に微分積分学全般を必修科目として学習する。1年次では主に実数論と1変数関数の微分積分学を、2年次では多変数の微分積分学を学ぶ。この流れの中で微分積分学では主に多変数の微分法に関する基本的内容を、テイラーの定理などを初めとし、陰関数の定理、陰関数の定理、条件付極値問題までを解説することを目指して講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユークリッド空間の点列と部分集合 2. 連続写像 3. 線形写像、写像の微分 4. 全微分 5. 偏微分 6. 高次導関数 7. テイラーの定理 8. 極値問題 9. 逆関数定理 10. 陰関数定理 11. 条件付極値問題 				
受講要件	微分積分学 I,II および線形代数学 I,II を学習していること。さらに、集合・位相を並行して学ぶこと。				
テキスト	白岩謙一 著「解析学入門」学術図書 ISBN4-87361-114-8				
参考書	笠原皓司 著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ数学 12）				
予習・復習について	多変数関数の微分積分学は、1変数の場合と異なり、大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や2年次に並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされるので予習復習〔主に復習〕が不可欠である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。出席状況および関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。 試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	最初の授業時に述べる。				
担当教員からのメッセージ	1変数の場合と異なり、これらは大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされる。講義内容の難易度も上がるが、具体例を挙げて解説するので、難しさを感じるのみでなく、理論の巧みさの一端も味わって新しい知識を習得して欲しい。				

授業科目名	複素解析学				
担当教員名	奥村 善英	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 613		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標	<p>正則関数と有理型関数の理論を中心に解説を行います。はじめに「関数論入門」の続きとして、Cauchy の積分定理を用いて、正則関数の性質を導きます。Taylor 展開、正則関数の一致の定理、逆関数定理そして解析接続を扱います。次に、有理型関数の説明として、Laurent 展開、孤立特異点（特に極、真性特異点）、留数定理を説明します。さらに、これらの応用として、実定積分の計算、偏角の原理と Rouché の定理を説明します。</p>				
学習内容	<p>複素解析学（関数論）は微分積分学に続いて学習される数学の基礎的な分野です。純粋数学の多くの美しい結果や驚くべき結果をうみ出す肥沃な領域です。純粋数学の中心をなす諸分野（例えば、リーマン面論、複素多様体論、タイヒミュラー空間論、代数幾何学、整数論等）は、複素解析学の上に築かれていると言えます。また、複素解析学は物理学等の自然科学諸分野にも、広く応用されています。</p> <p>本学科における複素解析学の授業は四部から成っています。第一部は「関数論入門」、第二部は「複素解析学」、第三部は「複素解析学 I」、そして第四部は「複素解析学 II」です。</p> <p>第一部および第二部では、複素解析学の基礎の習得を目標とします。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積分定理. 2. 正則関数の性質. 3. 一致の定理. 4. 逆関数定理. 5. 解析接続. 6. Laurent 展開. 7. 孤立特異点. 8. 有理型関数. 9. 有理関数. 10. 留数定理. 11. 留数定理の応用—実定積分の計算. 12. 偏角の原理. 13. Rouché の定理. 				
受講要件	「関数論入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	<p>林一道著, 初等関数論 (改訂版) (裳華房).</p> <p>洲之内治男著, 演習 関数論 (サイエンス社).</p>				
参考書	<p>神保道夫著, 複素関数入門 (岩波書店)</p> <p>野口潤次郎著, 複素解析概論 (裳華房)</p> <p>L.V.アールフォルス著, 複素解析(現代数学社).</p> <p>佐藤宏樹著, 複素解析学(近代科学社).</p> <p>谷口雅彦・奥村善英共著, 双曲幾何学への招待(培風館).</p> <p>辻正次・小松勇作共編, 大学演習関数論(裳華房).</p>				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	出席、レポート、テスト等で評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第二部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。				

授業科目名	代数学				
担当教員名	浅芝 秀人	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 615		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 5・6
キーワード	環、イデアル、単項イデアル整域、一意分解整域、ネーター環、多項式環、加群				
授業の目標	環、環のイデアル、剰余環等の基本的な事項を習得し、環上の加群に関する基本事項に慣れることを目標とする。				
学習内容	環および環上の加群について講義する。環について基本的な事項を解説した後、重要な例として多項式環を取上げる。次に環上の加群について基本的な事項を解説し、時間があれば単項イデアル整域上の有限生成加群を決定する。				
授業計画	1. 環 1.1 環，整域，体の定義 1.2 イデアル，剰余環 1.3 準同型写像 1.4 素イデアル，極大イデアル 1.5 単項イデアル整域 2. 多項式環 2.1 可換環上の多項式 2.2 体上の多項式環 2.3 多変数多項式 3. 加群 3.1 加群の定義 3.2 $\text{Hom}(A, B)$ 3.3 単項イデアル整域上の加群				
受講要件	代数学入門を履修していること。				
テキスト	代数学入門（東郷重明著，サイエンス社）あるいは下記の参考書等				
参考書	現代代数学（服部昭著，朝倉書店） 代数学系入門（松坂和夫著，岩波書店）				
予習・復習について	教科書や参考書で予習，授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは，できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席，レポートなどの平常点 20%，および試験 80%で評価する。				
オフィスアワー	月曜日 17:00-18:30 の予定（変更の可能性あり）				
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら，できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	数理論理学				
担当教員名	鈴木 信行	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 601		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード	古典命題論理、古典述語論理、完全性定理				
授業の目標	数理論理学の基礎となる古典論理とその完全性を理解する。				
学習内容	<p>近代的論理学としての数理論理学は、19 世紀中葉の George Boole をその嚆矢とし、前世紀の前半に、哲学・数学の基礎付け・コンピュータの基礎理論等との関連の中で大きく進歩した。その後、哲学・理論計算機科学・社会科学などのさまざまな分野の基礎および応用と関連を増しつつ、ますます発展してきている。本講義では、数理論理学の基礎となる古典論理について概説する。</p>				
授業計画	<p>下記の 2 までを目標に講義し、余裕があれば 3 まで言及したい</p> <p>1.古典命題論理 構文論：命題計算 NK 意味論：付値と真理表 古典命題論理の完全性定理 真理関数・標準形・Boole 代数</p> <p>2.古典述語論理 構文論：述語計算 NK 意味論：第 1 階構造とモデル Godel の完全性定理とその応用</p> <p>3.Sequent Calculi Gentzen の LK、LJ 基本定理とその応用</p>				
受講要件	数学科 2 年までの授業が一通り理解できていること（単位取得は不問）				
テキスト	なし（プリント配布の予定）				
参考書	A mathematical introduction to logic, Enderton, Academic Press, 2000, 978-0122384523 数理論理学、鹿島亮、朝倉書店、978-4-254-11765-3 数学基礎論、新井敏康、岩波書店、978-4-00-005536-9 ほかにも良書があるので講義中に適宜指示する。				
予習・復習について	この講義は、数学科の専門科目である。2 年までの講義に比べたとき、難しくなるのは当然である。予習・復習などをしっかりやって欲しい。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。(適宜、レポートの評価を加算する。)				
オフィスアワー	開講時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	予習・復習などの自宅での自発的かつ積極的勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提としている。				

授業科目名	線型代数学 I				
担当教員名	毛利 出		所属等	理学部	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	木3・4
キーワード	行列、行列式、連立1次方程式、行列の階数				
授業の目標	行列の計算とその応用に親しむ。				
学習内容	線形代数学は微分・積分学と並んで、大学初年度で学習する最も基本的な数学である。線形代数学 II 以降に学習する抽象的な代数学の準備として、線形代数学 I では行列の演算を中心とした具体的な計算力を養う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 群と写像 2. 行列 3. 正則行列 4. 置換 5. 行列式 6. 余因子展開 7. 基本変形と連立1次方程式 8. 行列の階数 9. 連立1次方程式 				
受講要件	理学部数学科1年生の必修科目です。				
テキスト	二木昭人著、『基礎講義 線形代数学』, 培風館, 1999, 978-4-563-00275-6				
参考書	線形代数の図書はたくさんあります。図書館へ行って、いろんな本を手にとってみてください。				
予習・復習について	概ね教科書に沿って講義する予定です。予習と復習を必ずしてください。特に復習が大切です。				
成績評価の方法・基準	授業参加度、レポート、期末試験などで評価します。				
オフィスアワー	授業の始めにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	数学は積み重ねの学問なので、前回の授業の内容を確実に理解したうえで授業に参加してください。また概ね教科書どおりに授業を進めていきますので、事前に教科書に目を通して授業に参加してください。				

授業科目名	集合・位相				
担当教員名	横山 美佐子	所属等	理学部		
		研究室	理 C614		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	集合、関数、写像、連続、開集合、閉集合、コンパクト性、連結性				
授業の目標	現代数学の基礎である集合や写像、位相の概念を学ぶ。				
学習内容	集合論と位相空間論の基本的事項について講義します。 写像と集合について学んだ後、ユークリッド空間、距離空間上の位相について講義します。				
授業計画	<p>おおむねテキストに沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理 2. 集合 3. 写像 4. 2項関係 5. 基数と濃度 6. ユークリッド空間 7. ユークリッド空間の開集合・閉集合 8. ここまでのまとめ 9. ユークリッド空間上の連続写像 10. ユークリッド空間の点列 11. ユークリッド空間でのコンパクト性 12. ユークリッド空間での連結性 13. 距離空間の定義と例 14. 距離空間の開集合・閉集合 15. ここまでのまとめ 				
受講要件					
テキスト	理工基礎 演習 集合と位相 鈴木晋一著、サイエンス社				
参考書	・集合と位相, 内田伏一, 裳華房, 2009, 9784785314019				
予習・復習について	毎回復習してください。				
成績評価の方法・基準	テストや授業への取り組みを総合的に評価して判断する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	演習の授業で積極的に問題を解いてください。				

授業科目名	物理数学 I				
担当教員名	鈴木 淳史	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A棟 502		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換				
授業の目標	物理で登場する基礎的な微分方程式が解けるようになること。また、フーリエ級数、フーリエ変換の考え方を理解すること。				
学習内容	授業の前半は基礎的な微分方程式を取り上げ、その解法を説明する。後半ではフーリエ級数、フーリエ変換について学ぶ。なるべく物理における具体的な応用例に即して議論をすすめる。				
授業計画	<p>主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微分方程式について、一般解と特殊解 2. 1階微分方程式、変数分離型、同次型 3. 1階線形微分方程式、定数変化法、ベルヌーイ方程式、リカッチ方程式 4. 定数係数線形微分方程式の解空間、線形独立性、ロンスキアン 5. 線形非斉次微分方程式、共鳴 6. 特異点、形式解、フロベニウスの方法 7. フーリエ級数とフーリエ変換 8. フーリエ変換の応用 				
受講要件	基礎物理学 I, 基礎物理学 II, 力学 I, 力学 II の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「物理のための数学」 岩波 和達三樹 ただし、高校のときのような、いわゆる「教科書」としては使用しない。				
参考書	「理工系の数学入門コース 微分方程式演習」 岩波書店 和達・矢嶋 著				
予習・復習について	自ら手を動かし問題を解いて復習すること。				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー	学生諸君と相談の上決める。				
担当教員からのメッセージ	この授業で学ぶことは物理学科のすべての授業で使うことになるので、しっかりと理解してください。				

授業科目名	基礎物理学 I				
担当教員名	溜瀧 継博	所属等	理学部		
		研究室	理 A 5 0 5		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期 (前半)		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6,水 5・6
キーワード	力学、微分、積分				
授業の目標	物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら、力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微分積分の復習 2. 複素数、スカラーとベクトル、ベクトルの内積、ベクトルの外積 3. ベクトルの微分、速度ベクトル、加速度ベクトル 4. ニュートンの運動の 3 法則 5. テイラー展開 6. 偏微分、全微分 7. 多変数関数のテイラー展開 8. 微分方程式 9. 簡単な運動の解析 <p>この講義は週に 2 回開講され、前期の前半 16 回分をもって終了する。前期の後半は、「基礎物理学 I I」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	吉岡 大二郎著 「力学(朝倉物理学選書)」 (朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
参考書					
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	演習への積極的参加の状況、定期試験の結果等を評価する。				
オフィスアワー	随時 (不在の時は何度でも訪ねてきてほしい)				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	基礎物理学Ⅱ				
担当教員名	溜瀧 継博	所属等	理学部		
		研究室	理 A 5 0 5		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期（後半）		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6,水 5・6
キーワード	微分、積分、力学				
授業の目標	基礎物理学Ⅰに引き続き、物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら、力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 線積分と仕事 2. 保存力と力学的エネルギー保存則 3. 重積分 4. 万有引力のポテンシャルエネルギー 5. 角運動量と力のモーメント 6. 中心力と角運動量保存則 7. 力積と運動量保存則 <p>この講義は週に2回開講され、前期の後半16回分をもって終了する。前半は、「基礎物理学Ⅰ」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	基礎物理学Ⅰの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	吉岡 大二郎著 「力学(朝倉物理学選書)」 (朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
参考書					
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	演習への積極的参加の状況、定期試験の結果等を評価する。				
オフィスアワー	随時 (不在の時は何度でも訪ねてきてほしい)				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	物理数学Ⅱ				
担当教員名	土屋 麻人		所属等	理学部	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標					
学習内容	複素関数論				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複素関数とその解析性 2. 等角写像 3. コーシーの積分定理 4. コーシーの積分公式 5. テイラー級数とローラン級数 6. 特異点と留数 7. 留数の定理の積分計算への応用 8. コーシーの主値積分 9. 解析接続と多価関数 				
受講要件	微分、積分、ベクトル解析を理解していること。				
テキスト					
参考書	寺沢貫一「数学概論」岩波書店、松下貢「物理数学」裳華房、中山恒義「物理数学(II)」裳華房、スミルノフ「高等数学教程 第6巻、第7巻」共立出版				
予習・復習について	復習をすること。				
成績評価の方法・基準	期末試験とレポート。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	電磁気学 I				
担当教員名	富田 誠	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	理学部 A棟 510		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	電磁気学、 静電場				
授業の目標	電磁気学の初歩的項目に関して学ぶ。				
学習内容	電磁気学 I では主に静電場について学ぶ。 具体的には以下の内容について議論する。				
授業計画	0. 電磁気学 I の内容について 1. 電荷に働く力 2. 静電場の性質 (積分形) いろいろな静電場 ガウスの法則 静電エネルギー 3. 静電場の微分法則 div、rot、ポアソン方程式 4. 導体と静電場 コンデンサーと電気容量				
受講要件	一年次の学習内容を復習しておくこと				
テキスト	長岡洋介、電磁気学 I、II (岩波) ただし高校の時のような「教科書」として使う訳ではない。				
参考書	授業初回に紹介する				
予習・復習について	毎回の授業の復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、および定期試験				
オフィスアワー	授業の終了後に来てください。				
担当教員からのメッセージ	ベクトル解析など技術的に難しいことを用いるが、それにとらわれて物理を見失わないように注意したい。				

授業科目名	電磁気学Ⅲ				
担当教員名	鈴木 淳史		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の振る舞いを理解する。				
学習内容	電磁波にかかわる様々な現象を、Maxwell 方程式に基づいた論理体系によって記述し、理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Maxwell 方程式 2. 電磁場のエネルギーと運動量 3. 電磁波の伝搬, 反射, 屈折 4. ベクトルポテンシャルとゲージ対称性 5. 電磁輻射 (荷電粒子) 6. 多重極輻射, 磁気双極子輻射 				
受講要件	原則として、数学 I,II,III,IV, 力学 I,II, 物理数学 I, 電磁気学 I,II が履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	必ず復習すること。				
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー	学生諸君と相談して決定する。				
担当教員からのメッセージ	電磁気学は概念的にも技術的にも簡単なものではありませんが、光ファイバーやアンテナなどわれわれに身近な豊かな応用をもちます。				

授業科目名	統計力学 I				
担当教員名	青山 昭五	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 402		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	温度、エントロピー				
授業の目標					
学習内容	マクロな立場で構築された熱力学をミクロな立場から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計力学の基礎 2. ミクロカノニカル分布とエントロピー 3. カノニカル分布と自由エネルギー 4. 古典統計力学の近似 				
受講要件					
テキスト	「統計力学」 岩波書店 長岡洋介 著				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 「統計力学」 共立出版 久保亮五 著				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射線物理学概論				
担当教員名	奥野 健二	所属等	放射科学研究施設		
		研究室	理学部 A 棟 204		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 5・6
キーワード	放射線、放射性核種、取扱主任者				
授業の目標	全学科の 2・4 年生を対象に放射線取扱主任者試験に向けて必要となる放射線物理学の基礎の理解				
学習内容	原子核の構造、各種放射性崩壊、各種核反応および各放射線と物質の相互作用等を解説するとともに逐次演習を行い、理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造 原子模型、励起と電離、X 線、オージェ効果 2. 原子核の構造 原子質量単位、結合エネルギー、原子核の形と大きさ 3. 放射性核種 放射性崩壊、放射性崩壊の式、α 崩壊、β 崩壊、γ 崩壊、崩壊図表 4. 粒子加速装置 コッククロフト・ワルトン加速器、ファン・ド・グラーフ加速器、直線加速器、サイクロトロン、ベータトロン、シンクロトロン、AVF サイクロトロン等 5. 核反応、核分裂、核融合反応 核反応、粒子フルエンス、エネルギーフルエンス、核反応断面積、核分裂、核融合反応 6. 荷電粒子と物質の相互作用 放射線、β 線、電子線と物質の相互作用、重荷電粒子と物質の相互作用 7. γ 線、X 線と物質の相互作用 単一エネルギーの光子の減弱、光電効果、コンプトン効果、電子対生成、カーマ、エネルギー吸収係数、照射線量、単一エネルギーでない光子の減弱、空気カーマ率定数 8. 中性子と物質の相互作用 中性子、物質との相互作用 				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論（飯田 博美 編、通商産業研究社）				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第 1 種、第 2 種（発行：通商産業研究社）				
予習・復習について	ホームページ（ http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~srkokun/ ）に公開している教材を活用して、予習・復習をすること				
成績評価の方法・基準	期末試験および演習を重視				
オフィスアワー	8 : 00-21 : 00				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を目指す学生は、放射化学概論（化学科の学生には別途放射化学の講義があり）、放射線生物学概論、放射線計測・管理概論等を受講する事が望ましい。 放射線主任者資格を取り、自らに付加価値を付けよう!!				

授業科目名	量子力学 I				
担当教員名	松本 正茂	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 A501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	波動、波動関数、確率振幅、Schrodinger 方程式、エネルギー固有状態、トンネル効果				
授業の目標	量子力学の考え方を習得し、基本的な問題を解いて、量子力学の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	実験事実をもとに量子力学の基本的な考え方を説明し、典型的な問題について解説しながら、量子力学の基本的な理論形式を学ぶ。				
授業計画	<p>指定しているテキストにそって講義する。授業内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 波動について 2. 量子力学的世界観 3. 平面波 4. 調和振動子 5. 波束 6. 量子力学の理論形式 				
受講要件	基礎物理学 I・II、力学 I・II、解析力学、電磁気学 I・II、物理数学 I・II を履修していることが望ましい。				
テキスト	「量子力学」 小形正男／著 (裳華房) 2900 円				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	現代物理学は量子力学を抜きに語ることはできない。量子力学の考え方は、これまで勉強してきた古典の物理学（力学や電磁気学）とは大きく異なるが、柔軟に対応して、この考え方を習得してほしい。量子力学を理解するためには、自ら手を動かして問題を解くことが不可欠である。物理学演習 III の授業には量子力学の演習が含まれているので、よく勉強してほしい。				

授業科目名	量子力学Ⅲ				
担当教員名	嘉規 香織		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A 棟 405号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	4年	難易度	C	曜日・時限	金 3・4
キーワード	量子力学				
授業の目標	量子力学をより深く理解し、使いこなせるようにする。				
学習内容	量子力学の重要な概念を発展させ、具体的な問題に応用する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 磁場中の荷電粒子 2. 摂動論 (時間による摂動論) 5. WKB 近似 4. 同種粒子 5. 散乱問題 6. 原子・分子・原子核・素粒子 7. 電磁場の量子化 8. Dirac 方程式 				
受講要件	量子力学 I、II を履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	提出物と学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理実験学Ⅱ				
担当教員名	三重野 哲	所属等	理学部		
		研究室	三重野研究室。理学部 A408 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	実験や開発に取り組む時、どのようにすれば短時間で正確に目標に達することができるか学ぶ。実験計画時、実施時および実験後のデータ処理に必要な種々の知識を学ぶ。				
学習内容	研究・開発の場面でしばしば実験が必要となるが、ここでは物理学実験の場合を考える。実験結果から目的の現象が証明されたか？再現性・信頼性は有るか？定量的に値は正しいか？時間や実験装置は有効に使えたか？などの実験方法の適切さについて学習する。また、実験準備を合理的に行い、短期間で人々の評価を得るにはどうしたら良いか検討する。ビデオと配布資料を利用する。				
授業計画	1) 序論 2) 実験の目的、意義 3) 実験計画法 4) 文献・資料の集め方 5) 実験の取り組み方。安全な実験。 6) 実験材料、試料、装置。試料や装置の準備。 7) 授受の物理量の測定方法、観測方法。 8) データ処理、コンピュータ利用 9) 実験のまとめ方。公表の仕方。				
受講要件	「物理実験学Ⅰ」の知識。物理実験の経験				
テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。				
参考書	物理実験指導書。物理実験者の為の 13 章（兵藤、東大出版会）。あなたも狙えノーベル賞（石田、化学同人）。セレンディピティ（化学同人）など。				
予習・復習について	復習を重視する。興味ある内容は自主的に調べて欲しい。				
成績評価の方法・基準	受講状況、レポートにて成績を出す。レポートは複数回課す。レポートは、自分の力で調べてまとめてください。				
オフィスアワー	月曜日、夕方、16 時~18 時を予定しています。				
担当教員からのメッセージ	多くの卒業生が物理の基礎知識を身につけて、社会で活躍しています。研究や開発の現場で、実験知識は役立つでしょう。				

授業科目名	物理実験学 I																				
担当教員名	三重野 哲		所属等	理学部																	
			研究室	三重野研究室。理学部 A408 室																	
分担教員名																					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必																
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 7・8																
キーワード																					
授業の目標	物理学科 2 年生から始まる物理学実験と対応し、物理学実験方法とエレクトロニクスの基礎を習得する。																				
学習内容	物理学実験に必要な実験方法、測定方法、データ処理方法、誤差処理、レポート作成方法などを学ぶ。実験に必要なエレクトロニクスを学ぶ。																				
授業計画	<p>前半は「物理実験指導書」に沿う講義。後半は、テキスト「電子回路 1」に沿う講義。</p> <table border="0"> <tr> <td>1) 物理学生実験の目的</td> <td>2) 実験の準備</td> </tr> <tr> <td>3) 実験ノートとグラフの書き方</td> <td>4) レポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>5) 結果の考察</td> <td>6) 器械の使用と単位</td> </tr> <tr> <td>7) 読み取り</td> <td>8) 測定器具の扱い方</td> </tr> <tr> <td>9) 測定値の誤差</td> <td>10) 電気信号</td> </tr> <tr> <td>11) 4 端子回路</td> <td>12) 受動素子と LCR 回路</td> </tr> <tr> <td>13) 半導体素子</td> <td>14) トランジスタ回路</td> </tr> <tr> <td>15) オペアンプ</td> <td></td> </tr> </table>					1) 物理学生実験の目的	2) 実験の準備	3) 実験ノートとグラフの書き方	4) レポートの書き方	5) 結果の考察	6) 器械の使用と単位	7) 読み取り	8) 測定器具の扱い方	9) 測定値の誤差	10) 電気信号	11) 4 端子回路	12) 受動素子と LCR 回路	13) 半導体素子	14) トランジスタ回路	15) オペアンプ	
1) 物理学生実験の目的	2) 実験の準備																				
3) 実験ノートとグラフの書き方	4) レポートの書き方																				
5) 結果の考察	6) 器械の使用と単位																				
7) 読み取り	8) 測定器具の扱い方																				
9) 測定値の誤差	10) 電気信号																				
11) 4 端子回路	12) 受動素子と LCR 回路																				
13) 半導体素子	14) トランジスタ回路																				
15) オペアンプ																					
受講要件	物理学科 2 年生の必修科目。																				
テキスト	静岡大学物理教室編「物理実験指導書」(実験時に購入)と滑川ら「電子回路 1」森北出版社・電気工学入門シリーズ 5。																				
参考書	宮代 彰一、「自然系実験」日本放送出版協会。伊藤 敏ら、「入門物理学実験」コロナ社。霜田 光一ら、「エレクトロニクスの基礎」・新版、掌華房。																				
予習・復習について	復習を重視すること。講義内容を、実際の物理実験時に参考にすること。必要な部分は、図書館等で調べことを勧める。																				
成績評価の方法・基準	受講状況、小レポート及び期末試験による。必修科目なので最後まで手を抜かないように注意。																				
オフィスアワー	月曜日の 16 時～18 時を予定している。場所は、理 A408 室。																				
担当教員からのメッセージ	物理学実験を適切に行って行く為の基礎を学ぶ。その為、実学的・技術的内容が含まれる。実験に必要なエレクトロニクスの基礎をこの講義で学ぶ。																				

授業科目名	放射線計測・管理学概論				
担当教員名	大矢 恭久	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月1・2
キーワード	放射線計測、放射線管理、主任者試験				
授業の目標	放射線計測・管理についての基礎知識を習得する。				
学習内容	放射線取扱主任者試験受講生のために必要な放射線測定および管理技術に関する基礎知識を演習問題を解きながら講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線量と単位 2. 気体の検出器 3. 固体・液体の検出器 4. 個人被ばく線量の測定 5. その他の測定器 6. 放射線測定の実際 7. 演習(1) 8. 放射線管理と防護の基準 9. 防護量と実用量・防護の基準 10. 体外放射線に対する防護 11. 体内に取り込まれる放射性物質の防護、健康診断 12. 場所の管理、個人被ばく管理、取扱施設 13. 個人被ばく管理～放射性廃棄物の処理 14. 放射性物質の保管～平成17年度法令改正の要点 15. 演習(2) <p>ただし、講義の進捗により前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論（飯田博美、通商産業研究社）				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種（通商産業研究社）				
予習・復習について	ホームページ(http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~srkokun)で公開している講義資料にあらかじめ予習しておくことが望ましい。また、テキストの各章末問題は適宜復習を兼ねて行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席(40%)および試験(60%)。講義の途中で演習をやることもある。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験希望する人は放射線物理学概論、放射化学概論、放射線生物学概論も受講することをお勧めします。ただし本授業の受講要件ではありません。				

授業科目名	構造有機化学				
担当教員名	山中 正道	所属等	理学部		
		研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	構造有機化学、立体化学、有機反応機構論、アルカン、シクロアルカン、立体異性体、ハロアルカン				
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	1 年次の基礎有機化学 I および II では有機化学の全体像を概説した。これを踏まえて、2 年次以降は有機化合物の構造とその反応について、より詳しく講義する。有機化合物の構造を理解するため、まず、結合の電子状態について学ぶ。次いで、最も基礎的な化合物であるアルカンおよびハロアルカンについて、分子構造と反応性の関係を学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1 章 有機分子の構造と結合 2 章 構造と反応性 3 章 アルカンの反応 4 章 シクロアルカン 5 章 立体異性体 6 章 ハロアルカンの性質と反応 7 章 ハロアルカンの反応</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	特に定めない。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	情報生化学				
担当教員名	瓜谷 眞裕	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 312 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	核酸、遺伝子発現、転写、翻訳、DNA 複製、DNA 組み換え、染色体、染色体分配				
授業の目標	生命を情報という視点から学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	生命の遺伝情報という視点から解説します。生物の性質および形態を決定するのが遺伝情報であり、この遺伝情報の本体とは何か、どのようにしてこの情報を利用しているのか、そしてどのような仕組みで子孫へこの情報を受け継いでいくのかを解説します。また現代社会ではこの仕組みを応用した遺伝子操作技術が発展し、多大な変化をもたらしていますが、この技術についても解説します。				
授業計画	<p>テキストにそって、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヌクレオチド代謝 2. 核酸の構造 3. DNA の複製、修復、組み換え 4. 転写と RNA プロセッシング 5. 翻訳 6. 遺伝発現の制御 				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学 I・II を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第 3 版 (東京化学同人)				
参考書	細胞の分子生物学・第 4 版 (ニュートンプレス)、アメリカ版大学生物学の教科書 1～3 巻 (講談社ブルーバックス)				
予習・復習について	テキスト、ノートの前習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験 (70%) とレポート (30%) により評価する。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも OK。				
担当教員からのメッセージ	DNA の構造が解かれてから 50 年間の分子生物学の歴史と基礎を学んでください。ちなみに、アメリカ版大学生物学の教科書は、高校で生物を学ばなかった人にも理解できる内容なので参考書としておすすめで				

授業科目名	熱化学 I				
担当教員名	小堀 康博		所属等	理学部	
			研究室	総合研究棟 513 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	熱力学第 2 法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、相平衡、化学平衡				
授業の目標	化学熱力学を理解・体得し、どんな問題にも応用できるような基礎をつくる。				
学習内容	熱力学第 2、第 3 法則を学び、熱力学の理論体系の成り立ちを理解する。法則に関連する熱力学関数が、どのようにして実測データから求められるかを学び、法則の応用に習熟する。				
授業計画	<p>以下の要領で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱力学第 2 法則、エントロピーの定義、およびエントロピー変化。 2. エントロピーと自発性の関係、第 2 法則のエントロピーによる表現。 3. エンジンとその効率。 4. 状態量としてのエントロピー。 5. 絶対零度でのエントロピー変化。 6. 熱力学第 3 法則および化学変化の方向とエントロピーの関係。 7. エントロピーの分子論的基礎。 8. エントロピー計算および Trouton の法則。 9. 自由エネルギーと自発性の関係、自由エネルギー変化の意味、および標準生成自由エネルギー。 10. 自由エネルギーと圧力の関係。 11. 熱力学関係式。 12. 自由エネルギーと平衡条件。 13. 自由エネルギーと温度の関係および相平衡の温度・圧力依存性。 14. 自由エネルギーと化学平衡の分子論的解釈。 15. 非理想気体の平衡の取扱い。 				
受講要件	基礎熱化学の知識を前提とする。				
テキスト	G. M. Barrow 著「バーロー物理化学 (上)」(東京化学同人)、第 4, 5 章。				
参考書	章末問題を解く時間がないので「バーロー物理化学問題の解き方」第 6 版 (東京化学同人) 参照。				
予習・復習について	一読程度でよいから予習をしてほしい。予習で生じた疑問や不明の部分が授業時にわかると学習効果が大きい。また、速やかな復習は学習効果を上げるのに役立つ。				
成績評価の方法・基準	期末試験、レポート、および出席状況による。				
オフィスアワー	口頭かメール (scjaiha@yahoo.co.jp) でアポを取ってほしい。出来るだけ受講生と対応できるように努める。				
担当教員からのメッセージ	エントロピーという不可思議な物理量の役割を実感してほしい。				

授業科目名	放射化学Ⅱ				
担当教員名	矢永 誠人		所属等	放射科学研究施設	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火1・2
キーワード	天然放射性核種、人工放射性核種、放射化学分離、放射化分析、R I の利用				
授業の目標	原子核の性質を理解するとともに、同位体、特に放射性同位体を利用した化学の実際を修得する。				
学習内容	<p>I. 元素を構成している同位体について、安定同位体と放射性同位体に分けて考え、これらがどのような過程によって生成・分布しているのかという点を目指して概説する。これを理解するために必要な放射性同位体および安定同位体の物理的性質、化学的性質および放射性同位体をつくる核反応についても述べる。</p> <p>II. きわめて類似した同位体どうしの化学的性質は、同位体をトレーサーなどとして利用できる。他方、わずかながら検出される同位体間の性質の差を利用して、同位体の分離はもちろん、他の方法では難しい研究にも特色を生かして応用されている。それらの典型的なものおよび基礎を学ぶ。</p>				
授業計画	<p>以下の項目について、基礎的・基本的な事項を解説する。</p> <p>1. 核反応 1) 核反応 2) 核反応断面積と生成放射能 3) 核反応の種類 4) 核分裂反応 5) 核融合反応</p> <p>2. 元素の起源 1) Hubble の法則 2) 宇宙温度変化と物質の創成</p> <p>3. 年代測定法 1) 宇宙年代学 2) 放射性壊変を利用する年代測定の原理 3) 年代測定</p> <p>4. 核・放射化学的分析 1) 放射化学的分離法 2) 放射化分析 3) 放射分析 4) 同位体希釈分析</p>				
受講要件	放射化学Ⅰ、放射化学概論、放射線物理学概論のいずれかを受講していることが望ましい。				
テキスト	放射化学概論（富永健、佐野博敏著、東京大学出版会）				
参考書	資料を配布する				
予習・復習について	予習および復習、特に復習は重要である。聞いたこと、あるいは、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べることにより、さらに実力が養成される。				
成績評価の方法・基準	期末試験 80 点と授業時の課題 20 点の合計点により評価する。				
オフィスアワー	午前 9 時頃から午後 6 時頃まで、随時、質問等を受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射化学Ⅰなど、要件に記した科目を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				

授業科目名	基礎量子化学				
担当教員名	村井 久雄	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟503室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火5・6
キーワード	量子数、波動関数、原子構造、元素の周期表、化学結合、分子軌道、状態方程式、結晶構造				
授業の目標	化学のすべての分野の基礎としての量子化学の入門である。この講義においては、原子構造、周期律、化学結合、気体の性質、固体の構造などを量子化学的見地から理解を深める。				
学習内容	基礎的な量子化学を、分かりやすく解説し、化学における最新の基本的量子論の理解と、物質の成り立ちに関する概念を確立する。この講義においては、原子の構造、元素の周期的性質、化学結合、気体の性質、固体と結晶構造をテキストに沿って学習する。適宜レポートを課し、具体的問題を解いてもらう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全般的な解説 2. 原子の構造_1 3. 原子の構造_2 4. 原子の構造_3 5. 元素の周期的性質_1 6. 元素の周期的性質_2 7. 元素の周期的性質_3 8. 化学結合_1 9. 化学結合_2 10. 化学結合_3 11. 化学結合_4 12. 気体の性質_1 13. 気体の性質_2 14. 固体と結晶構造_1 15. 補充授業・演習 16. 期末考査 <p>授業の進捗状況により。授業計画の変更はありうる。</p>				
受講要件					
テキスト	「物理化学の基礎」、柴田茂雄著、共立出版（株）（ISBN4-320-04351-0）				
参考書	バーロー物理化学、Gordon M. Barrow、大門寛、堂免一成訳、東京化学同人				
予習・復習について	各自、授業の前にテキストに目を通しておくこと。テキストの章末の演習問題を各自解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験および課題提出による				
オフィスアワー	できるだけ電話かEメールにて、前もって連絡を取ってから訪問してください。				
担当教員からのメッセージ	内線4753、Eメールアドレスは講義時間にお知らせいたします。積極的に質問をしてください。また、研究室にもお立ち寄りください。				

授業科目名	基礎有機化学 I				
担当教員名	塚田 直史	所属等	理学部		
		研究室	理 B312		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、混成軌道、有機電子論、反応機構、立体化学				
授業の目標	有機化合物の構造化学と反応機構の基礎を理解する。				
学習内容	<p>有機化合物は生命体の主要な構成要素として重要である。また、現代社会ではいたるところで有機化合物が用いられている。例えば、医薬品や食品や衣料・プラスチック・液晶などの素材などが挙げられる。これら有機化合物を取り扱うのが有機化学である。</p> <p>有機化学は、化合物の構造と反応の両面から体系化されている。有機化合物の構造は量子力学を基礎として理解することが可能である。また、有機反応の多くは様々な官能基の分極と反応剤がもつ電荷との組合せで理解することが出来る。</p> <p>本講義では、共有結合、混成軌道と立体化学、有機電子論に基づく反応機構の考え方、置換反応と付加反応の基礎について学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 有機化合物の電子結合と化学結合 2 有機化合物の分類・命名法および有機反応の基礎 3 有機化合物の立体構造 4 脂肪族化合物の基本骨格と反応 5 芳香族化合物の基本骨格と反応 6 有機ハロゲン化物 				
受講要件					
テキスト	山口良平・山本行男・田村類共著 「ベーシック有機化学」(化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習と復習を必ず行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎生化学				
担当教員名	大吉 崇文	所属等	理学部		
		研究室	大吉研究室（理学部A棟 310）		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水1・2
キーワード	生体分子、分子構造、タンパク質、糖、核酸、脂質、生体膜、酵素				
授業の目標	タンパク質、糖、脂質、核酸などの生物特有の物質の構造、働き、および生物学の基礎を学ぶ				
学習内容	生物はタンパク質、糖、脂質などの生物特有の物質から構成される複雑で精巧な機械といえます。そしてこの機械はDNAという核酸にコードされた情報にしたがって作られ、またその機能が制御されています。この生物機械の働きはすべて生体物質間の化学反応に依存しています。この講義では化学の視点から生体物質の構造と働きを学ぶとともに、生物を理解する上で必要な生物学の基礎を学びます。				
授業計画	1回 生化学の基礎 2回 核酸およびその構造（1） 3回 核酸およびその構造（2） 4回 アミノ酸 5回 タンパク質の一次構造 6回 タンパク質の高次構造 7回 タンパク質の機能 8回 糖と多糖（1） 9回 糖と多糖（2） 10回 脂質 11回 生体膜 12回 酵素触媒 13回 酵素の反応速度論 14回 生体分子反応の熱力学 15回 生体分子構造と機能				
受講要件	特になし。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学 第4版（ニュートンプレス）				
予習・復習について	テキストやノートをよく読むなど、予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法・基準 単位の認定と成績の評価は、期末試験の点数で判断する。ただし、単位の認定にあたっては、原則として3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	午後1時から5時。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機反応論				
担当教員名	坂本 健吉	所属等	理学部		
		研究室	理学部B棟 301号室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水1・2
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する。				
学習内容	2年次の反応有機化学の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに講述する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	15章 ベンゼンと芳香族性：芳香族求電子置換反応 16章 ベンゼン誘導体への求電子攻撃：置換基による位置選択性の制御 17章 アルデヒドとケトン：カルボニル基の化学 18章 エノール、エノラートとアルドール縮合： α, β -不飽和アルデヒドおよびケトン 19章 カルボン酸 20章 カルボン酸誘導体				
受講要件	特になし。				
テキスト	ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下巻（第4版） （古賀憲司・野依良治・村橋俊一監訳）（化学同人）				
参考書					
予習・復習について	予習・復習は必須である。どのような反応にも反応機構がある。置換・付加・脱離・転位という素反応の組み合わせで反応を考えてみよう。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り対応する。質問があったら気軽に居室に来てほしい。				
担当教員からのメッセージ	ボルハルト・ショアー「現代有機化学 下巻」の旧版（第4版）を引き続き使用します。昨年出版された新しい判（第6版）ではないので、注意して下さい。				

授業科目名	量子化学Ⅱ				
担当教員名	三井 正明	所属等	理学部		
		研究室	三井研究室 (共通教育 C 棟 303)		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	化学結合、分子軌道法、シュレーディンガー方程式、共有結合、イオン結合、分子の対称性、群論				
授業の目標	分子軌道法の考え方を理解する。さらに分子軌道や分子振動について群論を用いた考察ができるようになることを目指す。				
学習内容	「量子化学Ⅰ」で学んだ原子に関する量子力学的考察の結果をもとにして、化学結合の成り立ちと分子軌道法について学ぶ。さらに群論の基礎を学ぶことにより、分子の形 (対称性) から分子の性質に関する有益な情報を得ることができることを学ぶ。				
授業計画	0. はじめに 1. 化学結合と分子軌道法 1.1 水素分子イオン 1.2. 原子価結合法と分子軌道法 1.3. 等核二原子分子の分子軌道 1.4. 異核二原子分子の分子軌道 1.5. 混成軌道 1.6. 分子軌道法と永年方程式 2. 分子の対称性と群論 2.1. 対称要素と対称操作 2.2. 点群 2.3. 対称操作と表現行列 2.4. 可約表現と既約表現 2.5. 相似変換と表現行列の簡約 2.6. 指標と指標表 2.7. 指標表を用いた表現の簡約 2.8. 分子軌道と既約表現 2.9. 混成軌道と既約表現 2.10. π 分子軌道と既約表現 2.11. 電子遷移の選択則と既約表現 2.12. 分子振動と既約表現				
受講要件	「量子化学Ⅰ」の内容程度の知識、行列や行列式に関する初歩的知識があることが望ましい。				
テキスト	「バーロー物理化学 (下)」第 10 章後半 (二原子分子)、第 11 章、第 12 章 (12. 5)				
参考書	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)、「初等量子化学 その計算と理論」(化学同人)、「分子の対称と群論」(東京化学同人)、「物質の対称性と群論」(共立出版)				
予習・復習について	予習・復習合わせて、週 1 時間程度はテキスト・ノートを読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポート (10%) と期末試験(90%)で評価する。				
オフィスアワー	特に定めないが、なるべく講義の直後に質問してください。				
担当教員からのメッセージ	群論に対して、最初は抽象的な印象を持つかもしれませんが、分子のいろいろな性質について具体的な結論を明快に与えてくれます。分子軌道や分子スペクトルを理解する上でとても有用な道具となりますので、よく復習して内容の理解に努めてください。自分でよく考えても分からない事があれば、質問してください。				

授業科目名	溶液化学				
担当教員名	加藤 知香		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟 307	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	溶液内化学平衡、酸塩基平衡、沈澱平衡、錯体平衡、酸化還元平衡				
授業の目標	溶液内イオン平衡の厳密な取り扱いの習得を目的としている。平衡定数を基に、反応物および生成物の平衡濃度の計算方法を学ぶ。				
学習内容	分析化学においては溶液内反応が最もよく利用されている。水と電解質溶液の性質、溶液内化学平衡の基礎理論、各種の化学反応とその分析化学への応用など、主として分析化学を学ぶために必要な溶液化学の基礎を解析する。				
授業計画	1回 第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度) 2回 第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製) 3回 第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度) 4回 第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質) 5回 第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー) 6回 第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算) 7回 第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液) 8回 第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線) 9回 第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡) 10回 第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線) 11回 第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響) 12回 第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線) 13回 第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位) 14回 第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線) 15回 第8章 溶液内イオン平衡とグラフ				
受講要件					
テキスト	小倉興太郎著 「溶液内イオン平衡と分析化学」(丸善)				
参考書					
予習・復習について	テキストの例題は、予習・復習で必ず解いておくこと。				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験で判断するが、受講態度や小テストも加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	講義には関数電卓を持って来てください。				

授業科目名	構造錯体化学				
担当教員名	菅野 秀明		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟3階 A306室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木3・4
キーワード	錯体化学、錯体の命名法、錯体の立体構造、配位子場理論、電子スペクトル、磁気的性質、第一遷移元素の化合物				
授業の目標	配位化合物を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	金属原子または金属イオンが、陰イオンや中性分子の無機化合物、あるいは有機化合物との組み合わせから、多様な金属錯体（配位化合物ともよばれる）を生成する。金属錯体や、金属を含む化合物が様々な色を出すしくみ、さらに、その制御された立体構造や種々の化学的・物理的性質がどのような原理で発現するのかを学ぶ。錯体化学の基礎となる命名法や異性現象、配位結合の理論と構造および性質との関係、さらに個々の第一遷移金属の性質について解説する。				
授業計画	1回 6章 配位化学：序論、配位数と立体構造 2回 6章 配位化学：配位子のタイプ 3回 6章 配位化学：配位化合物の異性現象 4回 6章 配位化学：配位化合物の命名法 5回 6章 配位化学：配位化合物の安定度 6回 23章 遷移元素入門：結晶場理論 7回 23章 遷移元素入門：配位子場理論 8回 23章 遷移元素入門：分子軌道理論 9回 23章 遷移元素入門：遷移金属錯体の磁気的性質 10回 23章 遷移元素入門：電子吸収スペクトル 11回 23章 遷移元素入門：配位子場安定化エネルギー 12回 24章 第一遷移系列元素：チタン、バナジウム 13回 24章 第一遷移系列元素：クロム、マンガン 14回 24章 第一遷移系列元素：鉄、コバルト 15回 24章 第一遷移系列元素：ニッケル、銅				
受講要件	「無機化学Ⅰ」で学ぶ無機化学の基礎が理解されているものとして解説する。				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gauss 著／中原勝儼 訳 「基礎無機化学（原著第3版）」（培風館）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。また、復習のための課題を与えるのでレポートとして提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容（20%）と期末試験の得点（80%）で評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない。				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	無機化学Ⅱ				
担当教員名	近藤 満	所属等	機器分析センター		
		研究室	総合研究棟 501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	無機化学、溶媒の性質、酸と塩基、典型元素の性質、無機化合物				
授業の目標	酸と塩基、典型元素の性質など無機化学を理解するための基礎を習得する。				
学習内容	「無機化学Ⅰ」で学習した無機化学の基本的な法則や原理を踏まえ、無機化合物の反応において重要な溶媒の種類と性質および酸と塩基の定義を解説した後、主に典型元素の単体と化合物について、同族元素に共通する性質と各元素に特有の性質を解説する。				
授業計画	<p>「無機化学Ⅰ」に引き続き、元素の構造と性質について解説する。 酸と塩基の概念と定義、水素や酸素の電子状態や反応性など、無機化合物の性質について紹介する。 テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>7章：溶媒の性質、酸と塩基の定義、酸の種類と性質 9章：水素 10章：1族元素 11章：2族元素 12章：ホウ素 13章：13族元素 14章：炭素 15章：14族元素 16章：窒素 17章：15族元素 18章：酸素 19章：16族元素 20章：ハロゲン元素 21章：貴ガス元素</p>				
受講要件	無機化学Ⅰを履修していること。				
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton,他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義につき1時間程度の予習・復習が望ましい。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。（欠席が多い場合は、試験を受けても成績の評価対象としない）				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学 I				
担当教員名	徳元 俊伸	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 625 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	配偶子形成、転写因子、誘導シグナル、モデル生物				
授業の目標	近年解明が進んでいる動物の発生の分子機構、その研究手法について理解する。				
学習内容	発生生物学は分子生物学の手法を用いることにより、近年めざましい進展を果たした。その発展の原動力となったのは発生過程で重要な機能を担う分子の同定法（遺伝子配列の決定）が確立されたことにある。さらにその遺伝子の導入、除去などの手法を駆使することで発生過程を実験的に改変する技術が確立され、今ではこれらの技術を基礎とした様々な研究から発生機構が分子のレベルで理解できるようになってきた。本講義では近年明らかになった発生の分子機構を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生生物学の隆盛 2. 発生における一般的な問題 3. 発生に関わる重要な分子群(1) 4. 発生に関わる重要な分子群(2) 5. 発生における共通現象(1) 6. 発生における共通現象(2) 7. 発生における共通現象(3) 8. 発生遺伝学 9. 実験発生学(1) 10. 実験発生学(2) 11. 発生研究に必要な技術(1) 12. 発生研究に必要な技術(2) 13. モデル生物・アフリカツメガエル(1) 14. モデル生物・アフリカツメガエル(2) 15. モデル生物・ゼブラフィッシュ 16. 試験 				
受講要件	「発生生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト	エッセンシャル発生生物学、羊土社、 Jonathan Slack 著 大隈典子 訳 5,700 円（生協で販売）				
参考書	ウィルト発生生物学、東京科学同人				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限（2 時 25 分-3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより分子レベルの発生学の概略が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	植物生理学				
担当教員名	塩井 祐三		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	総合研究棟 7 1 3	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	光合成、エネルギー変換、光化学系、電子伝達系、炭酸固定反応、ATP合成、光呼吸、糖代謝				
授業の目標	植物の光合成反応、葉緑体のバイオジェネシスなどの基礎について学び、植物のエネルギー獲得について理解を深める。また、植物の炭酸固定反応と糖代謝についても学ぶ。				
学習内容	植物の光合成反応、葉緑体のバイオジェネシスなどの基礎について解説する。植物の生化学および生体光反応の基本法則、測定法などの基礎知識を基盤として、光合成の電子伝達構成成分、光合成電子伝達系、ATPの生成反応、炭酸固定反応と糖代謝を学び、エネルギー獲得を中心とした植物の基本的な反応の仕組みについて理解する。				
授業計画	1回 序論：光と生物の光利用・エネルギーおよび情報としての光 2回 分光測光法と作用スペクトル 3回 光合成1：光合成の意義、研究小史、光合成の型 4回 光合成2：光合成器官の構造と電子伝達構成成分 5回 光合成3：光合成電子伝達系の構成と酸化還元電位 6回 光合成4：電気化学ポテンシャルと光リン酸化反応 7回 光合成5：炭酸固定 8回 光合成と呼吸：電子伝達系の構成とATP合成系の比較生化学 9回 植物色素の生合成：クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド 10回 植物の光情報伝達1：クリプトクロム 11回 植物の光情報伝達2：フィトクロム 12回 トピックス1：植物生理学における分子生物学的アプローチと最近の成果 13回 植物における糖の代謝I 14回 植物における糖の代謝II 15回 植物によるエネルギーおよび情報としての光の利用の総括				
受講要件	他の植物学系の講義も履修することが望ましい。				
テキスト	植物の生化学・分子生物学。ベーシックマスター植物生理学（オーム社）、必要があればそのつど紹介する。				
参考書	プリントを適宜配布する。				
予習・復習について	毎回、出欠の代わりに前回の復習を兼ねた小テストをするので、予習・復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席、レポートの提出および試験の結果より総合的に判断する 試験は、期末試験1回で終了する予定。プリント、自筆ノートは持ち込み不可。講義した植物生理学の基本的な理解ができているかを判断する。				
オフィスアワー	月曜日 7-8時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、生体の工場としての葉緑体や生態系でのエネルギーの流れなど、単に植物の持つ機能だけでなく、地球上のすべての生物と環境を含めた諸問題と関連しているので、その意味も含めて学んで欲しい。				

授業科目名	生化学				
担当教員名	天野 豊己	所属等	理学部		
		研究室	総 721		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようにする。				
学習内容	生化学は、生体物質の性質を解明する研究と、それらが生体内でどのように結びつき合っているのかを明らかにする研究の2つから成り立っている。前者の研究によって、アミノ酸、ビタミン、タンパク質などが分かり、後者の研究によって、アルコール発酵などの代謝系のメカニズムが解明された。この講義では生化学の歴史をふまえて、生体内の化学反応にどのような物質が関与しており、どのようなメカニズムで反応が進行しているのかを学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH と緩衝液 2. 炭水化物 3. 脂質 4. アミノ酸とタンパク質 5. 核酸とその成分 6. 生体反応とエネルギー 7. 酵素 8. ビタミンと補酵素 9. 炭水化物の嫌氣的代謝 10. ペントースリン酸経路 11. トリカルボン酸サイクル 12. 電子伝達と酸化的リン酸化 				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート生化学(東京化学同人)、ストライヤー生化学(東京化学同人)、コーンスタンプ生化学(東京化学同人)、細胞の分子生物学 (Newton Press)、など。				
予習・復習について	高校で生物もしくは化学を学習していない人は、細胞の分子生物学 (第4版) の第2章と第3章に目を通して、分子の世界に慣れておくと良い。また、自分に合った生化学の入門書で全体像をつかんでおくことも勧める。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	適宜質問に応じる。質問の前に電子メールで sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	見えないものが見えるようになると、生化学は面白くなります。				

授業科目名	基礎生物学 I				
担当教員名	丑丸 敬史	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 702		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	遺伝子と細胞、ヒトゲノム、遺伝子診断、遺伝子治療、癌とタバコ、エイズウイルス、組換え植物、クローン				
授業の目標	細胞とゲノムについての基礎を学んだ後に、現代生命科学の進展のキーワードを理解する。				
学習内容	学習計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球上の全ての細胞の共通点。 2. ゲノムの多様性と生物の多様性。 3. 真核生物の遺伝情報。 4. ヒトのこんなことまで遺伝子で決定されている。 5. 男と女（遺伝子が違えば行動も違う）。 6. ヒトゲノムが決定されると社会は、個人はどう影響を受けるか。 7. 遺伝子治療はどこまで進んでいるのか。 7. 遺伝子組換え植物は必要なのか、本当に危険なのか。 8. クローンと臓器移植。 9. 癌とタバコ。 10. 生物はなぜ老化して死ぬのか。 11. 寿命の生物学。 12. 生物は遺伝子の乗り物 				
受講要件	特に定めない。				
テキスト	『細胞の分子生物学』（第1章）				
参考書	参考書『科学でわかる男と女の心と脳 男はなぜ若い子が好きか？女はなぜ金持ちが好きか？』ソフトバンククリエイティブ 麻生一枝 必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、午後がありがたい。いない場合もあるので、来る前には連絡を下さい。				
担当教員からのメッセージ	質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	内分泌学				
担当教員名	鈴木 雅一	所属等	理学部		
		研究室	理 A616		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	脊椎動物、内分泌、ホルモン、進化、病気				
授業の目標	脊椎動物の内分泌現象の原理と多様性を理解する。				
学習内容	人間の身体の中では多様な器官が機能しているが、それぞれの器官やそこで働く分子システムには生命の進化とともに歩んだ歴史がある。本講義では、哺乳類の内分泌系の機能を中心に解説しながら、内分泌器官やホルモン等の多様性および進化の道筋についても比較動物学的観点から考察する。また、折に触れてホルモンの関わる病気についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌学の歴史 2. 内分泌学研究の技術 3. 内分泌腺とホルモン I 4. 内分泌腺とホルモン II 5. 性と性分化、生殖周期 I 6. 性と性分化、生殖周期 II 7. ストレスとホルモン 8. 水・電解質調節 9. カルシウムの調節 10. 甲状腺ホルモン 11. 糖分の調節 12. 消化管とホルモン 13. 妊娠・出産・授乳とホルモン 14. 松果体とホルモン 15. 無脊椎動物とホルモン 16. 試験 				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	<p>生命をあやつるホルモン（編；日本比較内分泌学会：講談社）</p> <p>比較内分泌学序説（編；日本比較内分泌学会：学会出版センター）など</p>				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。その際、出席回数も考慮する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	内分泌に関連した本を一冊でも読んで欲しい。				

授業科目名	細胞生物学				
担当教員名	丑丸 敬史	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 702		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	細胞周期、シグナル伝達、細胞老化、アポトーシス、癌、DNA 複製、染色体分離分配				
授業の目標	細胞の増殖のしくみに焦点をあてるとともに、細胞の積極的な死のしくみも学ぶ。				
学習内容	授業計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普遍的な真理とモデル生物 2. モデル生物としての酵母 3. 細胞内のシグナル伝達 4. G1 期に起きるイベント (中心体の複製開始。中心体の細胞周期を通じた挙動) 5. S 期に起きるイベント (DNA 複製。なぜ複製は一回しか起こらないか) 6. DNA 複製チェックポイント (DNA 複製が遅れた場合に S 期から脱出しない機構) 7. M 期に起きるイベント・1 (染色体の分離。正確に 1 コピーずつ分配する機構) 8. M 期に起きるイベント・2 (染色体分離の完了と M 期からの脱出) 9. DNA ダメージチェックポイントと細胞周期 (DNA ダメージを修復するまで次の細胞周期に進まない機構) 10. 細胞分化と細胞周期 (増殖か分化か? G1 期での選択) 11. アポトーシス 12. 癌 (癌発症の機構) 				
受講要件	分子生物学、生化学をすでに受講していることが望ましい。				
テキスト	『細胞の分子生物学』(第 15, 17, 18 章)。				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、夕方以降がありがたい。いない場合もあるため、来る前にはメール等で連絡をして欲しい。 sbtushi@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	授業に積極的に参加して、質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	植物系統分類学				
担当教員名	徳岡 徹	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 517		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	被子植物、系統、形態、進化				
授業の目標	地球上には非常に多様な植物が生育している。この多様な形態を学び、この多様性を生み出した進化を理解する。				
学習内容	被子植物は地球上におよそ25万種ある。これらを進化の順序に従って整然と分類することを目標に研究者は植物の様々な形態から始まり DNA データまでを詳細に観察してきました。これらの知見を紹介し、様々な植物それぞれの特徴を学び、現在見られる膨大な多様性を生み出した進化がどのように起こったのかを考える。				
授業計画	1回 ガイダンス：植物の多様性 2回 分類とは 3回 系統解析の基礎 1 4回 系統解析の基礎 2 5回 系統解析の基礎 3 6回 生活環、藻類、コケ類 7回 シダ植物 1 8回 シダ植物 2、裸子植物 1 9回 裸子植物 2 10回 被子植物の共有派生形質 11回 原始的被子植物 12回 単子葉植物 13回 離弁花植物 14回 合弁花植物 15回 まとめ				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。資料は随時配布します。				
参考書	Plant Systematics: A Phylogenetic Approach, Walter S. Judd (ed.), Sinauer, 2002, 0878934030 被子植物の系統、田村道夫、三省堂、1974、BN01321887 (NCID)				
予習・復習について	関連する事項について、参考書などを活用して予習・復習するようにしてください				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験により評価する				
オフィスアワー	特に定めていないが、随時受け入れます				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学				
担当教員名	山内 清志	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟602		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金1・2
キーワード	ゲノム情報、転写調節、転写後調節、機能解析技術				
授業の目標	遺伝情報の発現調節機構を理解する。				
学習内容	染色体遺伝子の可変性を理解し、その発現調節を転写や翻訳および翻訳後レベルで学習する。また、種々のRNAを介した調節に触れ、ゲノム進化についての理解を深める。				
授業計画	1回 ゲノム解析からわかること 2回 遺伝子調節蛋白質 3回 DNA結合モチーフ 4回 オペロン説 5回 原核生物の遺伝子発現制御 6回 λファージの溶菌・溶原コントロール 7回 真核生物の転写 8回 RNAプロセッシング 9回 転写制御 10回 シグナル伝達系 11回 翻訳後修飾 12回 タンパク質にならないRNAの機能 13回 DNAのメチル化とヒストンのアセチル化 14回 遺伝子発現と機能解析技術 15回 まとめ				
受講要件	「分子生物学」(1年・後期)と履修していることが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学(第5版)」(ニュートンプレス)				
参考書	指定しない				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し(33%)、試験において到達度を評価する(66%)。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	生物環境科学概論 I				
担当教員名	生形 貴男	所属等	理学部		
		研究室	共通 C 棟 312		
分担教員名	塚越 哲				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>進化古生物学の背景（生形が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進化古生物学の概要（化石とは何か、進化の定義、進化古生物学の方法、関連諸分野） 2. 進化学関連学史（自然神学、自然哲学、進化論の登場、集団遺伝学の確立、総合説） 3. 化石の保存と記録の不完全性（保存の条件、化石化作用、自生・他生、化石の発見確率） <p>個体レベルの進化古生物学（生形が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 成長と個体発生（成長型、絶対成長と相対成長、アロメトリー） 5. 生活様式と個古生態（生活型、摂食様式、古生態と地質学的情報、機能形態） <p>化石記録と進化（生形が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 化石に見られる進化速度（系統的速度と分類学的速度、生きた化石、断続平衡論争） 7. 多様性変遷史の解釈（大量絶滅と適応放散、完全性と多様性の補正、分類群生存曲線） 8. 中間試験 <p>初期生命の記録（塚越が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ストロマトライト、真核生物の出現 10. 多細胞生物の出現 <p>進化のバタンと化石生物（塚越が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. エディアカラ化石群 12. カンブリア紀の化石群と進化の大爆発 <p>地球環境と大量絶滅（塚越が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 大量絶滅の認識、主な大量絶滅 14. 大量絶滅の要因 15. 先カンブリア時代の地球環境 <p>16. 期末試験</p>				
受講要件	なし				
テキスト	特に定めないが、塚越担当分受講の際は、地球科学入門 II（塚越担当分）で配布したプリントを持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。試験で合格点に達しなかった場合、出席優良者に限って、再試験代わりのレポートを課すなどの救済措置を取る。				
オフィスアワー	なし				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	多様性生物学				
担当教員名	塚越 哲	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟 507		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期 (前半)		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物多様性、分類、分類学、個体発生、形態、進化				
授業の目標	生物のもつ分類学的、形態学的多様性の認識と理解を深める				
学習内容	ヒトはどのようにして生物を分類しその多様性を把握するのか、またその多様性はどのように創出されるのかについて基礎から学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の種数 ・ヒトの認識と分類 ・個体発生と系統発生 以上の内容をオムニバス形式で行う。				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	キーワードについて、あらかじめ文献やインターネット等で学習しておくことが望ましい。また、授業でわからないことは放置せず、各自よく復習すること。質問も歓迎する。				
成績評価の方法・基準	筆記試験またはレポート、もしくは両方。				
オフィスアワー	下記参照。				
担当教員からのメッセージ	席をはずすことが多いので、来室の際は電子メール<<satukag@ipc.shizuoka.ac.jp>>もしくは電話054-238-4800 (直通) であらかじめ連絡をください。特に重要な質問などがあれば、授業で取り上げることもあります。それから、授業中の飲食は慎んでいただきたい (当たり前のことですが)。				

授業科目名	層序学				
担当教員名	北村 晃寿	所属等	理学部		
		研究室	共通教育 C 棟 311		
分担教員名	生形 貴男				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	地層に保存された地質記録や化石記録の理解に不可欠な層序学を習得する。				
学習内容	層序学の体系と理論と基本概念を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 層序学とは何か（地層体系化の手順，様々な層序学，層序学関連小史）（生形） 2. 層序学の基本原理（公式層序单元，岩相層序单元各説）（生形） 3. 層序区分の標準化（年代層序尺度，地質年代单元，GSSPと“黄金の楔”）（生形） 4. 層序单元の命名（模式，国際層序ガイド，地層命名法，先取権の原則）（生形） 5. 生層序学の基礎（生層準(FAD, LAD)，誘導・導入化石，異時性，生層序帯各説，示準化石各説）（生形） 6. 生層序学の実際（CSRS，グラフ対比法，AEO，CONOP，RASC，生層準の区間推定）（生形） 7. 層序と編年（GSSA，複合年代尺度の構築，年輪・骨格編年，交差年代決定）（生形） 8. 中間試験（生形） 9. 微化石層序・古地磁気層序（概念，事例）（北村） 10. 火山灰層序学（概念，事例）（北村） 11. サイクル層序 1（サイクル層序の概念，生態層序，海洋酸素同位体層序）（北村） 12. サイクル層序 2（海洋酸素同位体層序）（北村） 13. 第四紀の層序（北村） 14. シーケンス層序 1（シーケンス層序の原理）（北村） 15. シーケンス層序 2（海水準変動）（北村） 				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適時，プリントを配布する。				
予習・復習について	ノート，配布プリントを使って，予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と試験の結果から，成績評価を行う。				
オフィスアワー	教員ごとに異なるので，授業で個々に通知する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球科学入門 I				
担当教員名	和田 秀樹	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 501 室		
分担教員名	増田 俊明				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード					
授業の目標	副題として「プラネットアースの誕生と進化」、人間は、地球と地球を取り巻く自然から何を考え何を理解してきたかを俯瞰し、地球の形成過程と構造や組成、進化過程をどのような方法で明らかにしてきたかをたどる。				
学習内容	宇宙のオアシス地球はいかにして作られ、進化してきたかを講義する。地球は何からできていて、太陽系の他の惑星とどう違うか、宇宙に存在する 92 の元素の系譜、宇宙の年齢・地球の年齢と地質学的出来事の年代、そして地球のルーツをたどる。				
授業計画	<p>1.地球は何からできている(4回) 和田 原子の世界・分子の世界・結晶の世界、周期律表と原子・分子、結晶構造と岩石を作る鉱物 地球の構造と化学組成、地球と太陽系の構造とその起源 地殻・マントル・核の化学組成の求め方</p> <p>2.太陽系と地球の誕生(3回) 和田 太陽系と地球の誕生のシナリオ、原子の壊変と年代測定の原理、地球最古の岩石・鉱物 隕石からみた太陽系・地球の年代と化学組成 隕石に残された初期太陽系および他惑星の情報</p> <p>3.地質時代の変遷.(4回) 増田 地質区分と地質年代表、大陸の成長、大気組成の変遷 地球に起きた天変地異? (1)造山運動 (2)隕石の衝突</p> <p>4.地球の進化.(3回) 増田</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	浜島書店 新詳地学図表 ニュービジュアル版				
参考書					
予習・復習について	テキストはきれいなイラストや写真から成り見て楽しめるを端から端まで熟読することです。授業で紹介する地球科学に関する一般的な概説書を紹介するので併用してください。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト・小レポート（40%）、期末の試験（60%）の成績により総合的に評価する。				
オフィスアワー	授業終了後				
担当教員からのメッセージ	我々の住む地球というある面では小さい出来事、ある面ではとてつもなく大きな自然の出来事がどのように成り立っているか、どのような歴史を経てきたのかを知るための方法を学んでいく、知ることの楽しさを覚えていただきたい。				

授業科目名	地球環境学				
担当教員名	鈴木 款		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	共通教育C棟604	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水1・2
キーワード	気候変動、大気環境、海洋環境、生物圏、地球環境問題				
授業の目標	地球環境の様々な問題に対する論理的考え方、見方を養い、問題解決への能力を磨くこと。				
学習内容	人間をとりまく環境は、文明の発展とともに変貌し、また悪化してきた。地球環境問題と言われる「地球温暖化」「オゾン層の破壊」「酸性雨」「砂漠化」「熱帯林の破壊」「海洋汚染」等は地球規模の気候変動あるいは生態系変動に大きな影響を及ぼしている。2000年11月にオランダのハーグで開かれた「第6回気候変動枠組み条約締結国会議」での議論に見られるように地球温暖化の原因物質とされている二酸化炭素の削減に関して、十分な削減方式が合意されなかった。本授業では現在の地球環境問題の科学的側面を中心として解説する。				
授業計画	<p>(1)地球環境を決める要因 エネルギー循環(放射平衡温度、温室効果、顕熱、潜熱) 気候変動と異常気象(異常気象、エネルギー収支、氷期と間氷期のサイクル) エルニーニョと南方変動(海面水温、貿易風、気圧の逆転、湧昇、ENSO)</p> <p>(2)大気の化学 大気の構造と循環(大気構造、気温分布、大気循環の四つの基本パターン) 大気の化学組成(空気の組成、大気組成の変遷、水蒸気の役割) 雲の形成と降水(凝結核、雨滴の成長、エアロゾル)</p> <p>(3)海洋の化学 海洋水の循環(塩分、水温の分布、密度、風成循環、熱塩循環) 海水の化学成分(主成分、微量成分) 海洋における生物過程(生物生産、食物網、生物ポンプ、クロロフィル)</p> <p>(4)地球環境問題 酸性雨(酸性雨の原因物質、pH、広域汚染、酸性雨の影響) オゾン層破壊と紫外線(オゾンの生成と消滅、フロン、極渦、オゾン層の役割) 地球温暖化ガスとその変動(温室効果気体、温暖化指数、放射強制力) 海洋汚染(油汚染、放射性物質、環境ホルモン、汚染の広がり要因)</p>				
受講要件	出席回数を極めて重視する。				
テキスト	プリント				
参考書	「地球の大気と環境」田中・竹内共著、三共出版 「海洋生物と炭素循環」鈴木 款編、東大出版会、1997 「水の科学」北野著、NHKブックス、1995				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読む。				
成績評価の方法・基準	成績はレポートと試験による。				
オフィスアワー	水曜日昼休み、5・6時限(12時45分-14時15分)を予定				
担当教員からのメッセージ	地球環境および地球環境問題は極めて複雑で、かつダイナミクスである。これらの問題を考える力を通じて未来思考を養い、将来の環境、人生等の設計に自信を持って欲しい。私の授業は生きる力の源の一つになると思う。				

授業科目名	地球ダイナミクス概論 I				
担当教員名	里村 幹夫		所属等	理学部	
			研究室	共通教育 C 棟 310	
分担教員名	道林 克禎				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	地球物理学的に固体地球を概観し地球物理学の基礎を学ぶとともに、地球をはじめとする固体惑星を構成する最も基本的な単位である鉱物と岩石の性質と産状について学習する。				
学習内容	講義の前半では、固体地球物理学の分野である、測地学と地震学の基礎的な事柄について概説する。また、鉱物は地球をはじめとする固体惑星を構成する最も基本的な最小単位であり、岩石は鉱物の集合体である。後半では、鉱物と岩石の性質と産状について概説する。				
授業計画	1回 地球の形 2回 重力 3回 重力と地下構造 4回 地震とは、震度とマグニチュード 5回 地震波、地震の発生機構 6回 地震に伴う現象 7回 地震波でみた地球内部構造 8回 地磁気 9回 結晶の幾何学、鉱物の結晶化学 10回 造山鉱物の構造と分類 11回 鉱物の物理的・化学的性質 12回 鉱物の組成変化と構造変化 13回 熱力学と相平衡 14回 鉱物の融解と結晶作用、流体からの結晶化 15回 地球を構成する岩石・鉱物				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	新版地学教育講座 1 巻, 地球をはかる, 東海大学出版会 新版地学教育講座 2 巻, 地震と火山, 東海大学出版会 新版地学教育講座 3 巻, 鉱物の科学, 東海大学出版会 新版地学教育講座 4 巻, 岩石と地下資源, 東海大学出版会				
予習・復習について	レポートと合わせて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める。授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートと試験。講義の期間に複数のレポートを課す。成績は、試験結果とレポートの内容で総合評価。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	堆積学				
担当教員名	北村 晃寿	所属等	理学部		
		研究室	共通教育 C 棟 311		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期 (前半)		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動				
授業の目標	堆積学についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	生物進化や地球環境の変遷を明らかにする際に、地層中に残された様々な記録は大変に役立つ。それらの記録から正しい情報を引き出すためには、地層がどのように形成されたかを理解する必要がある。そこで、本講義では堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動に関して解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 堆積作用—碎屑物の運搬と沈降 2. 堆積構造とベッドフォーム 3. 堆積重力流 4. 生物攪拌 5. 岩相解析・河川とデルタの堆積物 6. 浅海・海底扇状地の堆積物 7. 海水準変動 				
受講要件	なし				
テキスト	なし。				
参考書	岩相解析および堆積構造 (八木下晃司著・古今書院)。 毎回プリントを配布する。				
予習・復習について	配布資料とノートをもとに予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を加味して評価をする。ただし、出席 70%未満の場合は不可とする。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、まずメールで連絡下さい(アドレス : seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	地球環境微生物学				
担当教員名	加藤 憲二	所属等	理学部		
		研究室	共通教育C棟 602		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	多様な地球環境、微生物生態系、物質循環				
授業の目標	地球生態系を動かす微生物の働きを、多様な地球環境の中で理解するための基本を学ぶ。				
学習内容	原核生物（細菌）は地球上に最初の生命として登場してから37億年の間に地球環境を変え、また新たなエネルギー生産系を作り出し、その分布域を地球のあらゆる空間へと広げた。研究は、暗黒で無酸素の地下圏にも広大な微生物による生命圏が存在することを明らかにしはじめた。生命の持続的維持装置である生態系には、必ず原核生物が主要メンバーとして含まれており、その維持に重要な役割を果たしている。さまざまな地球上の生態系で、原核生物がどのような活動をしているかを水圏から地下圏にわたって講義し、地球環境における原核生物の位置づけを、その役割と生態と進化から明らかにする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原核生物の特徴； <ul style="list-style-type: none"> ・どこにでもいる、<小さい>、<早い>、ウイルスと細菌の違い 2. バクテリアの四態； <ul style="list-style-type: none"> ・ Free-living, Aggregated and Biomat, Infection, Symbiosis. 3. 研究の流れと方向 <ul style="list-style-type: none"> ・ Robert Koch と Louis Pasteur, 自然界は未知の原核生物であふれている。 4. 水圏生態系の構造と微生物ループ：炭素循環と好気性従属栄養細菌、トップダウンとボトムアップ 5. 窒素循環と脱窒細菌 <ul style="list-style-type: none"> 窒素は地球内部に大きなリザーバーを持たない、ほか 6. 温泉バイオマットとシアノバクテリア：イオウ酸化と硫酸還元菌 7. 極限環境と独立栄養細菌：化学合成細菌と光合成細菌 8. 地下圏における微生物の分布と地球化学作用：メタン生成古細菌 9. 地球圏外生命 				
受講要件	化学と生物学について必要に応じて高等学校程度の知識は整理、理解しておくこと。				
テキスト	特に定めない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	配付された資料を次回までに理解すること。講義の前に前回の講義内容を見直すこと。これらは必須。また次に語られる内容について自分なりに少しイメージを持つことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と期末試験によって行う。				
オフィスアワー	講義終了後と月曜日の昼休み時間があるがたい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球物理学				
担当教員名	里村 幹夫	所属等	理学部		
		研究室	共通教育 C 棟 310		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード	測地学、地震学、地球内部物理学、重力				
授業の目標	固体地球物理学についての基礎的な知識を理解する。				
学習内容	地球ダイナミクス概論 I で学んだこと、および数学と物理学を基礎として、固体地球物理学に関する知識を伝える。				
授業計画	1回 国際単位系、ジオイド 2回 地球楕円体、世界測地系 3回 水準測量、三角測量、光波測距、VLBI、SLR、GPS 4回 万有引力、遠心力、重力、正規重力 5回 重力測定、フリーエア異常、ブーゲー異常 6回 重力と地球の形 7回 地震計、P波、S波、表面波 8回 震度、マグニチュード、震源と震源断層面、地震モーメント 9回 世界の震源分布、深発地震面、プレートテクトニクスと地震 10回 P波の初動分布、P軸・T軸 11回 余震、地震に伴う地殻変動 12回 津波、地震予知 13回 走時曲線、地殻、マントル 14回 上部マントル、下部マントル、外核、内核、低速度層 15回 大陸地殻・海洋地殻、アイソスタシー				
受講要件					
テキスト					
参考書	大久保修平編著『地球が丸いってほんとうですか』朝日選書 752 (朝日新聞社) 日本測地学会「測地学テキスト」 http://www.geod.jpn.org/web-text/ 安藤雅孝・ほか『地震と火山』新版地学教育講座 2 (東海大学出版会) 防災科学技術研究所 HP「地震の基礎知識とその観測」 http://www.hinet.bosai.go.jp/about_earthquake/				
予習・復習について	予習、復習をきちんとやること。とくに数学や物理が苦手な人にとっては予習、復習が重要。				
成績評価の方法・基準	レポートとテストの成績				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	地球ダイナミクス概論 I では、数式を使わずに地球物理学を説明しましたが、この授業ではある程度は使います。				

授業科目名	地球変動学				
担当教員名	林 愛明	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	総合研究棟 312		
分担教員名	道林 克禎				
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	地球表層の変動から地球内部のダイナミクスまでの「地球変動」について理解する				
学習内容	『地球ダイナミクス概論 II』に引き続き、プレートテクトニクスによる造山運動・変動地形から地球内部のダイナミクスについて解説する。				
授業計画	<p>予定している授業計画は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球変動学について 2. 変動地形学とテクトニクス 3. 断層による山脈の形成 4. 地球の屋根：ヒマラヤの造山運動 5. プレートテクトニクスと河川の変遷（1）：黄河 6. プレートテクトニクスと河川の変遷（2）：揚子江 7. プレートテクトニクスと河川の変遷（3）活断層により河川の変遷 8. 地震波解析：地下構造の探索ツール 9. プレートの形成場 1：マントルダイアピルと海洋地殻の形成 10. プレートの形成場 2：高速拡大軸と低速拡大軸 11. プレートの収束場 1：サブダクションファクトリー 12. プレートの収束場 2：マントルウェッジダイナミクス 				
受講要件	特になし				
テキスト	指定なし				
参考書	随時指定				
予習・復習について	随時指示				
成績評価の方法・基準	レポート、授業中の態度、小テスト、出席状況などを総合して評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	遺伝学				
担当教員名	大村 三男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 339 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	遺伝子・ゲノム				
授業の目標	最近のゲノム解析の進展により、遺伝現象を遺伝子の発現と機能から解明する研究が急速に進んでおり、生命現象の解明や作物育種の進展に大きく関わってきている。古典的な遺伝解析から最近のゲノム解析研究情報を加えながら、植物中心に幅広く講義することで、生命現象の基礎としての遺伝学を理解するとともに、育種学及びゲノム科学履修のための基礎知識を得る。				
学習内容	近代遺伝学は、メンデル遺伝法則の再発見後急速な発展をとげ、突然変異、分子生物学、進化生物学など生命科学の基盤に関わる幾多の輝かしい成果を上げている。遺伝学をめぐるこれらのトピックスを紹介しながら、遺伝学各分野の進歩などを概説する。また、イネ、シロイヌナズナなどのゲノム解析は、最近の遺伝学や生命科学に大きな影響を与えてきているため、その手法や進展、応用などと関連させて講義する。				
授業計画	1 回 講義の概要 2 回 遺伝の仕組みと古典遺伝学 3 回 遺伝分離の検証 4 回 表現型と遺伝子 5 回 多様な遺伝現象 6 回 連鎖とその検定 7 回 DNA 多型の解析 8 回 DNA 多型と遺伝地図 9 回 連鎖地図と物理地図 10 回 遺伝子診断 11 回 ポジショナルクローニング 12 回 ゲノムの解析特徴 13 回 ゲノムのもつ情報の解析 14 回 ゲノムダイナミズムとゲノム分化 15 回 まとめ				
受講要件	関連科目：分子生物学序論、植物分子生物学、育種学、植物ゲノム科学				
テキスト	プリントを準備する。				
参考書	植物遺伝学入門（三上哲夫編著）朝倉書店 ほか 講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義内容が多岐にわたるので、上記参考書を含めた遺伝学関連の教科書、一般向け著書など事前の一読しておく。				
成績評価の方法・基準	期末試験の得点を主に、小レポート、アンケートなどを加味して評価する。				
オフィスアワー	(月・木曜日)				
担当教員からのメッセージ	興味・疑問があれば、遠慮せずに研究室を訪問してください。不在ならメール質問可。				

授業科目名	植物繁殖学				
担当教員名	原田 久	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 433 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	種子繁殖、栄養繁殖、種苗生産				
授業の目標	植物の種子繁殖および栄養繁殖について理解し、種苗生産に関する基本的な知識を得ることを目標とする。				
学習内容	種苗生産や採種の基礎となる植物繁殖・生殖の一般的な現象を説明した後、種子繁殖と栄養繁殖の原理と技術について講義する。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス、種苗生産の歴史と現状 2 回 生殖器官の構造と発育 3 回 受粉 4 回 受精 5 回 自殖性植物の採種 6 回 他殖性植物の採種 7 回 一代雑種品種の採種 8 回 種子の発育と収穫 9 回 種子の取り扱いと貯蔵 10 回 種子の発芽と休眠 11 回 さし木繁殖 12 回 接ぎ木繁殖 13 回 組織培養による繁殖 14 回 その他の栄養繁殖 15 回 品種の保護と種苗法				
受講要件	組織培養については植物細胞工学で主に講義する。				
テキスト	使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	園芸種苗生産学（朝倉書店）				
予習・復習について	授業後に専門用語を復習し覚えること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験（90%）と小テスト（10%）の成績で評価する。 評価基準は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	随時（事前にメール等で連絡してください）				
担当教員からのメッセージ	授業中、授業後に積極的に質問してください。				

授業科目名	植物病理学					
担当教員名	平田 久笑	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 338 研究室			
分担教員名	瀧川 雄一					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	植物の病気、病原微生物、病原性（病原力）、抵抗性、遺伝子・タンパク質、病原体感染に伴う植物生理学、植物保護、病気の診断と管理、農薬					
授業の目標	植物病原微生物（細菌、糸状菌、ウイルスなど）と、それらの感染メカニズムについて理解を深める。植物の病気の防除や診断方法について学ぶ。					
学習内容	植物病原微生物が、どのように植物に感染し、病気をもたらすのか。植物と病原体のどのような遺伝子やタンパク質が関わっているのか。どのようにして病気を防ぐことができるのか。					
授業計画	1 回 植物病理学と植物の病気ー1 2 回 植物病理学と植物の病気ー2 3 回 糸状菌の感染機構 4 回 細菌の感染機構 5 回 ウイルス・ウイロイドの感染機構 6 回 ファイトプラズマの感染機構 7 回 感染と防御応答のサイエンス（病原性と抵抗性）ー1 8 回 感染と防御応答のサイエンス（病原性と抵抗性）ー2 9 回 病原性関連遺伝子の解析と耐病性植物の作出ー1 10 回 病原性関連遺伝子の解析と耐病性植物の作出ー2 11 回 病気の診断と管理ー1 12 回 病気の診断と管理ー2 13 回 病気の診断と管理ー3 14 回 農薬ー1 15 回 農薬ー2					
受講要件	植物微生物学（共生バイオサイエンス学科 2 年次 後期）を受講済みであることが望ましい。					
テキスト	植物病理学（大木理 著、東京化学同人）					
参考書	講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	期末筆記試験と授業態度（出席、積極的な質問等）で評価する。					
オフィスアワー	研究室に直接、または電子メール等で予定を確認・相談する。					
担当教員からのメッセージ	新しい研究事例や知見も紹介しながら進めます。積極的に学ぶ姿勢で臨んでください。					

授業科目名	栄養化学				
担当教員名	杉山 公男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 605 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	栄養素、代謝、食、ヒトの健康維持				
授業の目標	栄養学の一分野である栄養化学の基礎を理解していただく。				
学習内容	栄養素と生体との相互作用について、各栄養素ごとに理解し、栄養素ならびにそれらを含む食品の役割を考える。				
授業計画	1 回 序論 2 回 栄養素の消化・吸収・代謝 3 回 代謝調節と分子栄養学 4 回 糖質 5 回 脂質 (1) 6 回 脂質 (2) 7 回 タンパク質・アミノ酸 (1) 8 回 タンパク質・アミノ酸 (2) 9 回 タンパク質・アミノ酸 (3) 10 回 ビタミン (1) 11 回 ビタミン (2) 12 回 ミネラル (1) 13 回 ミネラル (2) 14 回 食物繊維 15 回 日本人の食事摂取基準				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新栄養化学」野口忠編 (朝倉書店)				
参考書	授業時に紹介する。				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	定期試験の成績と出席率を総合的に評価する。				
オフィスアワー	特に指定なし				
担当教員からのメッセージ	ヒトの必須栄養素は約 50 種類あるが、これらは食事から摂取する必要がある。これら栄養素の働きについて正しく理解していただき、食に関する怪しげな情報を見分ける力を養って欲しい。				

授業科目名	森林土木工学					
担当教員名	近藤 恵市	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 511 研究室			
分担教員名						
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	林道、路線測量、林道規程、幾何構造、路体構造					
授業の目標	地形の急峻な山岳地に建設されることの多い林道を周辺環境と調和させながら作設できるよう、林道設計に関する基礎的な知識・技術の獲得をめざす。					
学習内容	森林の管理・経営の基盤施設である林道について、まず基本的な配置計画を述べ、さらに林道規程で定められた林道幾何構造の理論を概説し、林道の測量・設計法について論述し、林道の路体構造や施工法について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)、(D) に対応する。					
授業計画	1 回 授業ガイダンス、運材方法の歴史 2 回 林道の機能と分類 3 回 林道密度理論 4 回 周辺環境との調和を考慮した林道配置計画 5 回 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 6 回 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 7 回 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 8 回 曲線設定法 9 回 曲線設定法 10 回 縦断測量、横断測量 11 回 縦断測量、横断測量 12 回 林道の路面と路体 13 回 林道の施工法・土工機械 14 回 林道の施工法・土工機械 15 回 排水施設、のり面保護					
受講要件	本科目は森林利用学実習と密接に関連しており、実習と合わせて受講することが望ましい。					
テキスト	森林土木学 小林洋司 他 (朝倉書店)					
参考書	酒井秀夫：作業道 (全国林業改良普及協会)					
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。					
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート (合計 30%)、学期末試験 (70%) の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。					
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール (afkkond@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。					
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。					

授業科目名	育種学				
担当教員名	大村 三男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 339 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	品種、DNA マーカー、遺伝資源、交雑、選抜、遺伝子組換え				
授業の目標	人類は、自然に対する営みから品種を選び、改良することを学び、育種として発達させてきた。そして、品種の改良を通じて農業の生産構造に大きな影響を与えてきている。品種育成に関わる技術と理論について幅広く講義することで、品種改良の方法と意味を理解するとともに、その基盤となる遺伝資源の保存を考える				
学習内容	育種学は、品種を作り出す育種という技術を理論化するユニークな研究分野である。作物ごとの生殖様式、繁殖法により特徴的な育種技術が発達してきているので、作物品種の育成事例を紹介しながら、育種を進めるために開発されてきた技術やその理論を概説する。また、ゲノム育種や遺伝子診断など DNA マーカーを利用した最近の育種トピックスを組み込みながら講義を進める				
授業計画	1 回 講義概要 2 回 品種と育種 3 回 育種の歴史 4 回 遺伝資源の多様性と探索 5 回 遺伝資源の保存と技術 6 回 交雑育種の原理 7 回 交配の技術 8 回 選抜の理論 9 回 育種技術 10 回 交雑限界の拡大 11 回 突然変異と育種 12 回 細胞工学と育種 13 回 遺伝子組換え育種 14 回 ゲノム育種 15 回 まとめ				
受講要件	関連科目として、遺伝学、分子生物学、遺伝子工学、植物繁殖学、植物組織培養学などがあります。				
テキスト	プリント配布				
参考書	鵜飼保雄『植物育種学』東京大学出版、藤巻宏『植物育種原理』養賢堂など				
予習・復習について	講義をよく理解するために、参考書を事前によく読んでおく				
成績評価の方法・基準	期末試験の得点を主に、小レポート、アンケートなどを加味して評価する。				
オフィスアワー	(月・木曜日)				
担当教員からのメッセージ	興味・疑問があれば、遠慮せずに研究室を訪問してください。不在ならメール質問可				

授業科目名	測量学				
担当教員名	近藤 恵市	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 511 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必,選択
対象学年	2年,3年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	距離測量、コンパス測量、トランシット測量、水準測量				
授業の目標	測量及び測量器械に関する基本的な知識を理解するとともに、測量結果の数値的な処理方法と作図方法を理解する。				
学習内容	<p>地表における相対的な位置関係の決定や、地形の具体的な把握に必要な測量技術を取得するため、その基本となるトランシット、レベル、コンパス等の測量器械の構造的特性及び作動原理と、器械の利活用技術等について講義を行う。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 距離測量の基礎概念について 2. 水準測量の基礎概念について 3. コンパス測量の基礎概念について 4. トランシット測量の基礎概念について 5. トラバース測量の基礎概念について 6. 測量による観測値の精度と誤差について 				
受講要件	本科目は、「測量学実習」と密接な関係にあるので、「測量学実習」と併せて受講する必要がある。				
テキスト	測量学 大木正喜著 森北出版				
参考書	長谷川昌弘：基礎測量学（電気書院）				
予習・復習について	受講前にテキストの該当部分を読んでおくこと。また復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（20%）、学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部A511室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	生化学概論				
担当教員名	村田 健臣	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 713 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生化学、生体分子、生命科学				
授業の目標	生化学は、化学的立場から生命現象を究明することを目的とする分野で、ここでは生化学の動的諸原則を学ぶ前段階として、基本となる分子レベルでの構造と特性に関する知識を得ることを目標とする。				
学習内容	この講義では生化学を理解する上で基礎となる生物を構成する生体成分（タンパク質、糖質、核酸、脂質）の構造と特性について学び、生物学の背後にある化学現象を理解するための礎とする。				
授業計画	1. 序論、生化学入門（1回） 2. タンパク質の構造と機能（4回） アミノ酸の構造と特性、タンパク分子の構造と特性 3. 糖質（3回） 単糖とオリゴ糖の構造と性質、多糖の構造と特性 4. 核酸（3回） ヌクレオシドとヌクレオチドの構造、DNAとRNAの構造と特性 5. 脂質（3回） 脂肪酸の構造、脂質（中性脂質、グリセロリン脂質、スフィンゴ脂質）の構造と機能				
受講要件	この科目は、後に続く生化学、分子生物学、酵素科学と関連を持たせており、順番に従って履修されることを望む。				
テキスト	「ホートン生化学」 Horton ら著、鈴木絃一ら訳				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	定期試験評価する。筆記試験は講義内容の理解度を試す。				
オフィスアワー	火曜日 12:45~14:15 農学部A棟 714 室				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	応用微生物学					
担当教員名	徳山 真治	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 630 研究室			
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	微生物、バイオテクノロジー、発酵、遺伝子、酵素					
授業の目標	微生物機能の基礎を習得し、微生物バイオテクノロジーを遺伝子を通して理解する。					
学習内容	生物学の共通語である遺伝子から多様な微生物機能を理解し、微生物機能を利用した物質生産、環境保全技術などについて紹介する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の発見からニューバイオテクノロジーまで 2. 微生物細胞と機能発見：二重らせんから物質生産へ 3. 微生物遺伝学と遺伝子工学 4. 微生物の細胞構造 5. 細胞の調節とシグナル伝達 6. 微生物の分類 7. 微生物の分離と増殖 8. 微生物の代謝 9. タンパク質と酵素 10. 微生物の多様な栄養形態 					
受講要件	生化学					
テキスト	応用微生物学：熊谷英彦ら編著、朝倉書店					
参考書	授業で紹介。					
予習・復習について	予習・復習は基本的に必要。本授業の受講は基礎微生物学および分子生物学の履修をを前提とし、微生物代謝工学の履修に必要。					
成績評価の方法・基準	期末試験と出席率で評価する。					
オフィスアワー	月・金：9-21 時					
担当教員からのメッセージ	欠席、遅刻をしないこと。					

授業科目名	植物バイオサイエンス入門				
担当教員名	切岩 祥和		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 343 研究室	
分担教員名	山脇 和樹,本橋 令子,西東 力,田上 陽介,平田 久笑				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	園芸学、植物保護、バイオテクノロジー				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科において専門教育を履修するための導入科目で、特に農学バイオサイエンス講座で履修する園芸学、バイオテクノロジーおよび植物保護について広く学び、農学バイオサイエンスを学ぶための動機づけとする。				
学習内容	農業関連産業の発展に欠かすことのできない植物の多様な機能について理解し、農業、バイオ、食品産業等自然科学関連産業の基盤として発展を続ける基礎と応用研究の実情に触れる。				
授業計画	<p>ガイダンス (切岩 祥和)</p> <p>植物の不思議 ～ミクロの世界から環境応答まで～ (山脇 和樹)</p> <p>植物保護 ～作物の病気と害虫防除～ (西東 力・田上 陽介・平田久笑)</p> <p>遺伝子組み換え技術の基礎と応用 ～GM作物と機能解析～ (本橋 令子)</p> <p>園芸作物生産 ～果樹・野菜・花卉の生産とその利用～ (切岩 祥和)</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科の専門科目への導入科目である。				
テキスト	特に使用しない。				
参考書	講義の中で適宜紹介する。				
予習・復習について	植物の基本構造、光合成や呼吸の仕組み、植物の環境応答などの高校生物の知識についてきちんと理解しておくこと。				
成績評価の方法・基準	受講態度やレポート評価による。 レポートでは各講義に関する理解度と関心度に加え、応用力についても評価する。				
オフィスアワー	特に設けないので、随時メールにて問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	「農学バイオサイエンスってなんだろう？」って講義を通じて一緒に考えてみましょう。				

授業科目名	保全生物学					
担当教員名	山下 雅幸	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 239 研究室			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	生物多様性、保全、生態学、農業生態系					
授業の目標	生物多様性の危機的現状およびその保全の必要性を理解する。また、農業生態系（たとえば棚田）など、人間との関わりの深い 2 次的自然の重要性についての認識も深める。					
学習内容	「生物多様性の保全」という社会的な目標の実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学について学ぶ。生物多様性の意味、その危機的現状、保全の必要性および対策事例などを紹介する。					
授業計画	1 回 ガイダンス（保全生物学とは何か？） 2 回 生物多様性の意味（生物多様性とは何か？） 3 回 生物多様性の仕組み 4 回 生物多様性の増大（進化） 5 回 生物多様性の危機①（生息地の破壊） 6 回 生物多様性の危機②（持続不能な利用） 7 回 生物多様性の危機③（侵略的外来種） 8 回 生物多様性の危機④（絶滅） 9 回 生物多様性の保全①（種の保全 1） 10 回 生物多様性の保全②（種の保全 2） 11 回 生物多様性の保全③（生態系の保全） 12 回 生物多様性の保全④（保全と持続的利用 1） 13 回 生物多様性の保全⑤（保全と持続的利用 2） 14 回 生物多様性の保全⑥（生態学的復元） 15 回 まとめ					
受講要件	基礎生態学を受講し、その内容を理解しておくことが望ましい。					
テキスト	使用しない。適宜、資料を配付する。					
参考書	Andrew S. Pullin（2004）保全生物学．丸善 Richard B. Primack（1997）保全生物学のすすめ．文一総合出版 樋口広芳編（1996）保全生物学．東京大学出版会 鷺谷いつみ・矢原徹一（1996）保全生態学入門．文一総合出版 その他、講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について	予習・復習のために、ほぼ毎回宿題（あるいは小テスト）を課す。					
成績評価の方法・基準	出席率（小テスト・レポート含む）60%、定期試験 40%の合計で評価する。 評価基準は講義内容の理解度等をみる。					
オフィスアワー	火曜日の授業終了後および他の曜日は 16:00～17:00（ただし、他の曜日は事前にメール連絡してから）					
担当教員からのメッセージ	授業中の私語と欠伸はしないように。					

授業科目名	室内環境学				
担当教員名	渡邊 拓	所属等	農学部		
		研究室	共通教育 C 棟 307-2 号室、農学部 A 棟 506 号室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	住宅、居住性、環境、健康、資源				
授業の目標	日本人の暮らしには「木」が深く関わっており、古くから多く木を利用してきた。木材は建築材料の中でも大きな位置を占め、日本の風土に合った伝統的材料であり、木造住宅に住むことを望む人は少なくない。人間が日常生活を送るうえで重要である室内環境について、木造住宅を中心に講義をする。				
学習内容	住宅や建造物の種類や安全性についての考え方を説明した後に、住宅の工法及び住宅内環境の評価について講義を行う。				
授業計画	1回 住宅の種類、安全性 2回 建築材料の種類 3回 建築材料の種類 4回 建築材料の種類 5回 住宅の工法 6回 住宅の工法 7回 住宅内の温度、湿度、音 8回 住宅内の温度、湿度、音 9回 住宅内の光、視覚 10回 住宅内の光、視覚 11回 住宅内の空気 12回 住宅内の空気 13回 住宅と健康 14回 住宅と健康 15回 建築材料に関わる環境問題				
受講要件					
テキスト	なし。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席（50%）及びレポート2回（50%）の合計で評価する。 レポートは講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	E-mailで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	講義に関する質問はE-mailで受けます。				

授業科目名	人間環境科学論				
担当教員名	鈴木 恭治		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 503 研究室	
分担教員名					
クラス		学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 7・8
キーワード	環境問題、農業環境問題、地域環境問題、環境保全、環境倫理、資源、循環				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科に入学した学生を主な対象にした初年次教育科目と位置づけている。入学後、人間と自然環境の関わり、農業環境問題、地域環境問題などの幅広いテーマについて段階的に学習できるようにカリキュラムを構成している。その起点となるのがこの科目である。前半は主に農業環境問題の入門編、後半は地域環境問題の入門編となるように構成している。				
学習内容	人間環境科学講座各教員により、下記授業計画に沿って講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス（講義責任者） 2. 第1章 エネルギーと食料生産（澤田 均） 3. 第2章 生物多様性（山下雅幸） 4. 第3章 持続可能型農業科学（南雲俊之） 5. 第4章 土壌環境（鮫島玲子） 6. 第5章 微生物と環境（小川直人） 7. 第6章 水環境（釜谷保志） 8. 第7章 バイオマス及びリサイクル（鈴木恭治） 9. 第8章 住環境の健康論（渡邊 拓） 10. 第9章 農業の近代化と環境問題（柴垣裕司） 11. 第10章 人間 - 自然系における社会の作用（富田涼都） 12. 第11章 武谷三段階論と環境問題 - 実体論(もの)と実証論(こと)（野上啓一郎） 13. 第12章 生命環境倫理学 - スウェーデンで考えたこと（竹之内裕文） 14. 第13章 生命環境倫理学 - ポスト 3.11 の社会構築へむけて（竹之内裕文） 15. 第14章 総括（講義責任者） <p>なお、上記はあくまでも予定であり、変更することもある。</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科カリキュラムの起点科目である。				
テキスト	特になし。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	実施前の章及び実施後の章について、本やインターネット検索等により情報を収集、整理すること。				
成績評価の方法・基準	レポートと授業への取り組み(遅刻・欠席を含む)で評価する。レポートは4回課す(ガイダンスで担当者を紹介)。配点はそれぞれ20%。4回以上の欠席は落第とする。評価基準は、科目の目標に沿って、特にレポートは講義テーマの理解度と関心度、論理的思考力、文章表現力をみる。				
オフィスアワー	各教員の開講科目のシラバスにオフィスアワーを記載してある。				
担当教員からのメッセージ	初回は欠席しないこと。				

授業科目名	園芸生産学					
担当教員名	向井 啓雄	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 412 研究室			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 7・8	
キーワード	園芸、栽培、生理					
授業の目標	園芸学の基礎を理解し、園芸各分野（果樹園芸学、野菜園芸学、花卉園芸学、園芸利用学等）への橋渡しを行う。					
学習内容	園芸植物生産の基礎となる理論、とくに植物の成長と発育、物質生産についてテキストに沿って講義する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 園芸と園芸作物 1 園芸の特色, ガイダンス 園芸と園芸作物 2 生産と消費の動向 種類と分類 形態 1 栄養器官 形態 2 生殖器官 育種 繁殖 発育の生理 1 植物の生活環 発育の生理 2 開花の生理 発育の生理 3 果実の発育と成熟 生育環境と栽培 1 気象条件と水分生理・光合成 生育環境と栽培 2 土壌環境と養分吸収・施肥 生育環境と栽培 3 立地と栽培環境 施設園芸 園芸生産物の利用 定期試験 					
受講要件	受講要件は特にないが、植物に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。					
テキスト	『園芸学入門』、今西英雄編著、朝倉書店、2006、9784254405422 テキストの購入を義務付けないが、講義はテキストに沿って進める。また、試験はテキストの文章を用いて出題される。					
参考書	『栽培学』、森田茂紀・大門弘幸・阿部淳編著、朝倉書店、2006、9784254410280 『園芸学』、金浜耕基著、文永堂出版、2009、9784830041150 その他の参考書については授業中に紹介する。					
予習・復習について	予習： テキスト・参考書を読んで内容を理解する。 復習： 講義において生じた疑問を調べる。					
成績評価の方法・基準	定期試験により 100% 評価する。試験ではテキストの内容の理解度を判断する。 試験： 5 択 50 問のマークシート方式。1 問 1 点で 50 点満点。 テキストの記述から出題され、出題箇所は授業支援システム等で示される。 評価点： （試験の得点から求められる）偏差値+30。 共生バイオサイエンス学科 2 年生の受験者における平均値と標準偏差を偏差値の計算に用いる評価点の上限を 100 点とする。 試験を受けなかった人の評価点を 0 点とする。					
オフィスアワー	火曜日 16:00~20:00 授業終了後、当該講義室あるいは研究室（A412、入り口は A413） 電子メールでの質問は随時（返信メールあるいは次回の講義において回答する）。 abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	疑問があればできるだけ授業中に質問してください。 園芸生産学の過去の試験結果・授業アンケート結果が果樹園芸学研究室オリジナル HP に記載されているので、参考にしてください。 http://www.agr.shizuoka.ac.jp/b/pomology/index.html					

授業科目名	細胞生物学				
担当教員名	笹浪 知宏	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 232 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	細胞小器官、細胞膜、核、リボソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞周期				
授業の目標	細胞生物学は生物体の基本単位である細胞が活動するしくみを明らかにしようとする学問であり、生命現象の理解には欠かせない。本講では、細胞に関する基礎的知識を修め、生命現象を細胞生物学的に解釈できる能力を身につけることを目標とする。				
学習内容	本講では、細胞の構造とその機能について、細胞を構成する分子とそれらの働きに重点を置いて講義し、細胞生物学の基礎を学ぶ。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス、細胞生物学分野の実験手法 2 回 原核細胞と真核細胞 3 回 細胞膜、細胞外被の分子構成と機能 4 回 核、クロマチン、染色体 5 回 核、クロマチン、染色体のつづき 6 回 リボソーム、核小体 7 回 内膜系：細胞の分泌と消化作用 8 回 内膜系：細胞の分泌と消化作用のつづき 9 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：ミトコンドリア 10 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：ミトコンドリアのつづき 11 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：葉緑体 12 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：葉緑体のつづき 13 回 細胞骨格 14 回 細胞周期と細胞分裂 15 回 定期試験				
受講要件	特になし				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学（南江堂）				
参考書	細胞の分子生物学、教育社				
予習・復習について	授業内容について復習をすること。不定期に小テストを行う。				
成績評価の方法・基準	期末試験（80%）および不定期に課すレポートや小テスト（20%）を総合して評価する。また、1/3 以上の欠席をした者は期末試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	事前に電子メールにて確認を取り、研究室に来ること。				
担当教員からのメッセージ	生物学概論 A・B の内容を理解していること。				

授業科目名	バイオマス利用論				
担当教員名	鈴木 恭治	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 503 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	バイオマス、地球温暖化、化石資源、循環型社会				
授業の目標	石油等の化石資源に換わる持続可能型資源としてバイオマスが注目されている。そこでバイオマスの特性、種類を理解し、地球環境並びに地域の環境との係わりを学ぶとともに、バイオマスの変換技術および利用技術を習得することを目標とする。				
学習内容	まず近年の地球温暖化についてその経緯と問題点を把握し、バイオマス利用の意義を学ぶ。次にバイオマスの種類、構成成分を理解した上で、バイオマスの生産技術、変換技術並びに各種利用技術を学ぶ。				
授業計画	1 回 地球温暖化について 2 回 なぜ今バイオマスか 3 回 バイオマスの種類 4 回 バイオマスの特性 5 回 バイオマスの構成成分 (その 1) 6 回 バイオマスの構成成分 (その 2) 7 回 キチン・キトサンについて 8 回 バイオマスの変換技術 (その 1) 9 回 バイオマスの変換技術 (その 2) 10 回 バイオマスの変換技術 (その 3) 11 回 バイオマスの利用 (その 1) 12 回 バイオマスの利用 (その 2) 13 回 バイオマスタウン並びにエコタウン構想 14 回 地域のバイオマス利用状況 15 回 バイオマスの将来				
受講要件	関連科目：化学概論 A 及び B、生物学概論、有機化学概論				
テキスト	プリントを配布				
参考書	環境白書、その他は講義の過程で適宜紹介する。				
予習・復習について	板書内容やプリントを読み返すこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況と定期試験により評価する。出席状況を重視する。秀 90 点以上、優 90 未満～80 点、良 80 点未満～70 点、可 70 点未満～60 点、不可 60 点未満				
オフィスアワー	月曜日 16 時から 17 時をオフィスアワーとする (農学部 A 棟 503 室にて)。				
担当教員からのメッセージ	質問がある場合は予め E-mail にて日時を予約してください。				

授業科目名	生物工学				
担当教員名	朴 龍洙	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	共通教育C棟 211 号室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	遺伝子、遺伝子発現、ゲノム、タンパク質、細胞膜輸送、情報伝達、幹細胞、がん				
授業の目標	1) 生命科学における細胞の仕組みを理解すること。2) 生命現象を営む分子（遺伝子、タンパク質）の理解をすること。3) 遺伝子の発現とタンパク質の細胞内輸送の基本的なシステムを理解すること。				
学習内容	生物、化学、及び工学の融合による学際的なバイオテクノロジーは、現在の新産業を形成し、多くの医薬品を生み出している。本講義は、バイオテクノロジーのなかで有用遺伝子の発現、タンパク質の分泌などライフサイエンスの基礎について講義し、さらに最近の幹細胞やがんについても紹介する。				
授業計画	1 回 遺伝子の発現機構 2 回 遺伝子の調節機構 3 回 遺伝子とゲノム 4 回 ゲノムの進化 5 回 ゲノムの解析 6 回 タンパク質の輸送 7 回 タンパク質の分泌経路 8 回 細胞間シグナル伝達 9 回 Gタンパク質共役型受容体 10 回 酵素共役型受容体 11 回 細胞間マトリックス 12 回 細胞の組織 13 回 幹細胞 14 回 がん 15 回 ライフサイエンスのトピック				
受講要件	2年前期「細胞生物学」、2年後期「分子生物学」の受講者				
テキスト	Essential 細胞生物学 原書第3版（監訳 中村桂子・松原謙一）				
参考書					
予習・復習について	授業の前、次回の講義内容について予習してくるよう。				
成績評価の方法・基準	2/3以上の出席、筆記試験で評価する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の午後・共通教育C-211へ直接又は電話、E-mail等				
担当教員からのメッセージ	積極的に授業に参加し、一緒に授業を盛り上げてほしい。				

授業科目名	森林生態管理学				
担当教員名	水永 博己	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 612 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	森の健康、樹木の健康、攪乱と多様性				
授業の目標	<p>樹木と森林の保全技術に必要な基礎的考え方を身につける 森林生態系が動的で多様な存在であることを理解する。 持続的に生態機能を発揮できる森林管理に必要な考え方を身につける レンジャー・河川・森林管理技術者など自然環境に携わる者に求められる「自然環境への尊厳」や「自然に携わる者としてのプライドと責任」の重要性を理解する</p>				
学習内容	<p>森林へのニーズが資源から環境へ変遷した社会の中で、樹木・森林の保全方法を学ぶ。森林の多様性を維持しているメカニズムや森林の機能と空間的・時間的構造の関連を学ぶ。 本科目は技術者教育プログラムの学習教育目標 B と D に対応する</p>				
授業計画	<p>1：ガイダンス 森林の分布と各森林生態系の特徴 日本の森林の位置づけ 2：樹木の形態とストレス防御 & 世界的樹木の流行病 3：マツ枯れ病に学ぶ/ マツ枯れのメカニズム と 様々な防除方法 4：マツ枯れ病に学ぶ/ 何が悪かったのか？侵入生物と生態系保全 5：マツ枯れ病に学ぶ/ 何が悪かったのか？侵入生物と生態系保全 6：マツ枯れ病に学ぶ/ 何故枯れるのか？ 樹木の中の水の流れ 7：ナラ枯れ病に学ぶ/ ナラ枯れ病のメカニズム 8：マツ枯れ・ナラ枯れ病に学ぶ/ アカマツ亡国論・マツタケの栄枯盛衰・マツ枯れのあと・里山の取り扱いと保全 9：樹木のストレス診断法 1 10：樹木のストレス診断法 2 11：森林の保全/ 森林と二酸化炭素蓄積 12：森林の保全/ 攪乱と生物多様性 13：森林の保全/ 更新とカーボンニュートラルの真相 14：森林の保全/ 更新 15：熱帯雨林の保全</p>				
受講要件	関連科目：森林生態学、造林学、森林計画学実習、森林環境学 樹木実習				
テキスト	なし、プリントによる。				
参考書	講義中に随時紹介する				
予習・復習について	講義時間以外に合計約 70 時間の学習が求められている。				
成績評価の方法・基準	<p>質問内容 (50%) 小テスト (50%) 成績の秀は 90%以上、優は 80%以上、良は 70%以上、可は 60%以上とする。</p>				
オフィスアワー	メール等でアポイントをとれば随時可 (フィールドに出ていることが多い)				
担当教員からのメッセージ	<p>「覚える」という態度は捨てて、「考える」という態度で講義に臨んでほしい。 講義中にしゃべる「嘘」をみぬいてほしい。 受身にならずに積極的に反応してほしい。</p>				

授業科目名	山地保全学				
担当教員名	逢坂 興宏	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 507 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	砂防、緑化、土砂災害				
授業の目標	山地斜面における土砂移動現象とその発生機構について理解し、その対策に関する知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
学習内容	主として日本の森林山地に生じている土砂移動現象の実態とその発生機構、およびそれによって引き起こされる土砂災害を軽減する方策について講義する。 講義を通じて、動植物及び人間の生存基盤である自然環境の、特に水と土と緑のダイナミックな関係に興味を持ってもらい、時間・空間スケールを意識した災害防止と自然環境の保全を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、森林の多面的な機能 2. 日本の自然災害 3. 土砂災害とその対策の歴史 4. 地形過程に伴う自然災害 5. 斜面における土砂移動現象の分類 6. 表面侵食と植生の効果 7. 表層崩壊（森林と山崩れ） 8. 山腹緑化工 9. のり面緑化工 10. 地すべり、大規模崩壊 11. 地すべり対策 12. 土石流 13. 火山活動に伴う土砂移動現象 14. 雪崩 15. 斜面安定解析 				
受講要件	「森林環境水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。 「溪流環境学」、「砂防学実習」の基礎科目となる。				
テキスト	保全砂防学入門（電気書院） また、随時プリントを配布する。				
参考書	新砂防工学（朝倉書店）、環境緑化工学（朝倉書店）、山地保全学（文永堂出版） その他適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の進行にあわせて、テキストおよび参考書の該当箇所を予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート（10%）および期末筆記試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後、または随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	世界各地で頻発する自然災害に関心を持ち、日頃から防災意識を高めておきましょう。				

授業科目名	収穫後生理学				
担当教員名	加藤 雅也	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 408 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	園芸作物、生理変化、成熟（追熟）、老化、エチレン、栄養成分				
授業の目標	園芸作物（果実、野菜、花）は、収穫後急速な代謝変動を伴い成熟（追熟）・老化する。収穫後生理学では、収穫後の園芸作物の生理変化やそれに関わる酵素の遺伝子発現、活性、性質、誘導、さらに栄養成分の変動について理解を深める。				
学習内容	園芸作物（果実、野菜、花）の成熟（追熟）・老化に深く関わる植物ホルモンのエチレンの生合成、作用、調節機構を中心に講義する。また、栄養成分（ビタミン A やビタミン C）の生合成や収穫後の園芸作物における成分の生合成、変動についても述べる。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス（授業概要、背景、意義） 2 回 園芸作物の成熟（追熟）・老化における代謝変動 3 回 クライマクテリック呼吸と果実の追熟 4 回 呼吸 1 5 回 呼吸 2 6 回 エチレンの生合成機構 1 7 回 エチレンの生合成機構 2 8 回 エチレンのシグナル伝達 1 および中間テスト 9 回 エチレンのシグナル伝達 2 10 回 エチレン生合成・作用の調節、制御 11 回 エチレン以外の植物ホルモンの生合成と生理的役割 12 回 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 1 13 回 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 2 14 回 アスコルビン酸（ビタミン C）の生合成、変動 15 回 まとめ				
受講要件	関連科目：植物生理学，園芸利用学				
テキスト	使用しない。 資料は印刷して配布する。				
参考書	植物ホルモンハンドブック下巻（倍風館），兵藤宏・楊祥発著「エチレン」				
予習・復習について	出来るだけ授業時間内で理解し，専門用語も憶えるように努める。 授業毎に簡単に復習することが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各回の小テスト（30%），中間テスト（35%），最終テスト（35%）による評価で行う。				
オフィスアワー	随時（昼休み時間，夕刻等）				
担当教員からのメッセージ	身近な果物，野菜，花の生理現象に関心を持ち，講義に臨んで欲しい。				

授業科目名	基礎微生物学					
担当教員名	瀧川 雄一	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 236 研究室			
分担教員名	小川 直人, 鮫島 玲子					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6	
キーワード						
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。					
学習内容						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 					
受講要件						
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人					
参考書	講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	中間と期末に 2 回の試験を行う。その成績の合計で評価する。					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	基礎微生物学				
担当教員名	徳山 真治	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 630 研究室		
分担教員名	朴 龍洙,小谷 真也				
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に 2 回の試験を行う。その成績と出席率を総合して評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	花卉園芸学				
担当教員名	大野 始	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 342 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	品種改良、繁殖、生育・開花調節、鮮度保持、流通、ライフサイクル、花色				
授業の目標	花卉の生産と利用に必要な基礎知識を得ることを目標とする。				
学習内容	花卉の生産と利用に必要な生理・生態学的基礎知識と主要な花卉についての品種形態、生理、生態や開花調節、繁殖法について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 序論：花と花卉園芸、生産の状況、花の消費と国民性 3. 種類と分類：学名と命名規約、人為分類 4. 産地形成の条件と生産および経営形態：生産形態、産地形成の条件、経営形態 5. 花卉の形態と構造：花の器官と構造、花の器官の相互関係 6. 育種と新品種の保護：花卉のライフサイクルと育種の役割、日本の花卉育種、育種の目的・方法 7. 繁殖：種子繁殖、栄養繁殖、組織培養 8. 種苗生産：組織培養と種苗生産、プラグ苗生産 9-13. 生育と開花の調節 14. 花卉の鮮度保持と貯蔵、品質評価：切り花の鮮度保持と品質評価、鉢物の鮮度保持 15. 花色：花色と花色素 16. 筆記試験 				
受講要件	関連科目：植物分類および形態学、土壌学、植物病理学、応用昆虫学、育種学、遺伝学、造園学 施設園芸学、植物組織培養学				
テキスト	使用しない。				
参考書	花卉園芸総論（養賢堂）、園芸事典(朝倉書店)、花卉園芸学（朝倉書店）、花卉入門(実教出版)、球根の開花調節（養賢堂）				
予習・復習について	多くの種類の花卉が出てくるので、どのようなものかを確認しておくこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト(30%)および定期試験(70%)により評価する。				
オフィスアワー	随時（できれば事前にメールでコンタクトをとって下さい。）				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	食品分析化学				
担当教員名	河岸 洋和		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部 A 棟 711 研究室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード					
授業の目標	食品に含まれる成分の分析のための基礎を学ぶ。				
学習内容	食品分析に必要な方法（クロマトグラフィー，機器分析）の理論と実例を解説する。				
授業計画	1 回 食品分析学の意義と概観 2 回 各種クロマトグラフィーの理論と実際 3 回 各種クロマトグラフィーの理論と実際 4 回 各種クロマトグラフィーの理論と実際 5 回 UV の解説 6 回 IR の解説 7 回 MS の解説 8 回 MS の解説 9 回 NMR の解説 10 回 NMR の解説 11 回 NMR の解説 12 回 NMR の解説 13 回 NMR の解説 14 回 最新のトピックスの紹介 15 回 最新のトピックスの紹介				
受講要件	化学を基礎とするので，化学概論 AB，有機化学概論，生化学概論，生物有機化学,分析化学を受講すること。				
テキスト	未定 開講時に指示する。				
参考書	未定 開講時に指示する。				
予習・復習について	授業各回で指示する。				
成績評価の方法・基準	定期試験（約 75%）と出席（約 25%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	木材接着学				
担当教員名	山田 雅章	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 535 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	接着、接着剤、レオロジー、ホルムアルデヒド・VOC、接着試験法、試験評価法				
授業の目標	身近にある接着製品、木質材料、いろいろな接着剤、とくにものもものがなぜ接着するかを学ぶ際には木材のみならず、高分子科学、物理化学、材料科学など幅広い知識と探求が必要であることを認識して欲しい。				
学習内容	接着に関する基礎理論、接着にするレオロジー、各種接着剤の名称・分類と主要な特徴と性質、木材及び建築材料の接着に関する基礎、木材接着試験法および評価法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス 木質製品・木質材料のサンプル観察 2 回 木材接着の基礎 3 回 接着理論 4 回 接着の界面科学 5 回 接着のレオロジー 6 回 接着剤の分類と固化様式 7 回 木材接着に関する因子 その1 木材の因子 8 回 木材接着に関する因子 その2 接着剤の因子 9 回 木材接着に関する因子 その3 接着操作・装置 10 回 木材用接着剤 熱硬化性樹脂系 11 回 木材用接着剤 熱可塑性樹脂・エマルジョン系 12 回 接着装置・機械 13 回 木質材料の接着 14 回 接着試験・評価法 15 回 ホルムアルデヒド・VOC 放散、リサイクルについて				
受講要件	2 年生で学ぶ高分子材料学、木質材料学や 3 年生前期で行う環境木質化学実験など関連の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	プリント				
参考書	木材の接着 (日本木材加工技術協会)、木材接着の科学 (海青社)				
予習・復習について	毎回授業の予習、とくに復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小レポート (30%)、期末筆記試験結果 (70%) を総合して評価する。成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	木曜日の昼食時 17 時 30 分～18 時 30 分。農学部 A 棟 534 室				
担当教員からのメッセージ	1・2 限目の授業であるので遅刻しないで出席すること。また、卒業後住宅企業、接着剤メーカー、住器メーカー、家具メーカー等に就職を考える学生に受講して欲しい。				

授業科目名	基礎生態学				
担当教員名	澤田 均	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 306 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	群集、生態系、生物多様性、生態現象、生態学の方法				
授業の目標	主な目標は次の 2 点である。(1)実際の研究例をとおして、生態学とはどのような学問でどんなことを研究対象とするか、どのような方法を使うのか、社会とどのように関係しているのかを理解すること。(2)生態系及び群集レベルの基本的な概念を理解すること。				
学習内容	この講義は生態学の入門編である。前半部では実際の研究例を紹介しながら、生態学という学問の特徴、研究対象、研究方法、社会との関係を学ぶ。後半部では生態系レベルと群集レベルの基礎を学ぶ。				
授業計画	1. 授業ガイダンス、生態学とは何か 2, 3.生態学の実例 1－生物階層 4. 生態学の実例 2－時間スケール 5. 生態学の実例 3－長期研究 6. 生態学の実例 4－数理モデル 7, 8.生態系 1－一次生産力 9, 10.生態系 2－物質の流れ 11. 群集 1－種の豊かさ 12. 群集 2－種の豊かさに影響する要因 13. 群集 3－種の豊かさのパターン 14. 群集 4－食物網 15. 群集 5－安定性 16. 筆記試験				
受講要件	生態学の入門編のため、特に受講要件はない。本講義は 2 年生後期の「応用生態学」を受講するために必要である。				
テキスト	特に使用しないが、概ね、Townsend,C.R.(2008) Essentials of Ecology (3rd ed.). Blackwell.に沿う内容である。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験で理解度をみる。				
オフィスアワー	講義に関する質問等は授業終了後に講義室にて。それ以外は、電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので、必ず出席するように。また遅刻はしないように。遅刻すると、最初から聴けない分、授業内容を理解しにくい、また他の受講生の集中力を低下させるなど悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	環境微生物学				
担当教員名	小川 直人	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 708 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B - C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	微生物の多様性、微生物の代謝、環境問題、微生物の環境応答				
授業の目標	微生物の多様な代謝活動等の基礎知識を習得し、環境中における微生物の活動、微生物と環境問題の関係、微生物による環境修復などに関する専門知識を理解することを目指す。				
学習内容	微生物の種類・代謝・生息環境などの多様性を中心に基礎的な知識を学ぶ。その上で環境中での微生物の活動の生物学的機構、及び環境問題との関わりを学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の研究史 2. 微生物の細胞構造の特徴 3. 微生物の基本代謝と増殖 4. 微生物の代謝の多様性 1 5. 微生物の代謝の多様性 2 6. 微生物の代謝の多様性 3 7. 微生物の進化と系統学 8. 微生物生態学の方法 9. 地球環境における物質循環と微生物 10. 微生物の機能を利用したバイオレメディエーション <ol style="list-style-type: none"> 1 1. 微生物の環境応答 1 1 2. 微生物の環境応答 2 1 3. 微生物遺伝子の環境中での動態 1 4. 微生物のゲノム解析研究 				
受講要件	関連科目：基礎微生物学、物質循環学、資源生態科学論、生化学概論、土壌学				
テキスト	とくに指定しない				
参考書	Brock 微生物学（オーム社（原書第 9 版））、環境微生物学（久保幹・他著、化学同人）、ベーシックマスター微生物学（オーム社）、微生物生態学入門（日科技連）、Brock Biology of Microorganisms（Pearson（第 12 版））				
予習・復習について	とくに指定しない				
成績評価の方法・基準	講義内容の理解を期末テストで評価する。				
オフィスアワー	応対可能時間は午前 9 時から午後 5 時まで。事前にメールで確認を取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。				

授業科目名	動物生命科学				
担当教員名	高坂 哲也	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 241 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生殖科学、哺乳動物				
授業の目標	本講では、食資源動物を含む哺乳動物を中心に、動物の生命科学、すなわち命の誕生までの生殖プロセスとその仕組みについて学ぶ。				
学習内容	動物の生殖戦略、性の決定と分化、配偶子（精子、卵子）の形成、受精と発生、妊娠と分娩などについて講義し、哺乳動物の生命科学、とくに生殖生理全般について理解を深める。				
授業計画	1 回 生殖とは 2 回 生殖細胞系列 3 回 性の決定と分化 4 回 雄の生殖：精巣の構造とその機能 5 回 精子形成 6 回 精液と精漿 7 回 精子の構造と機能 8 回 雌の生殖：卵巣の構造と卵胞 9 回 卵子形成・成熟と排卵 10 回 精子の受精能獲得について 11 回 受精 12 回 初期胚の発生 13 回 妊娠：胚と子宮のコミュニケーション（母体の妊娠認識）と着床 14 回 分娩 15 回 試験				
受講要件	関連科目：動物生理学				
テキスト	「動物生殖学」佐藤英明編（朝倉書店）				
参考書					
予習・復習について	とくに復習を忘れずに。				
成績評価の方法・基準	期末試験（90%）、授業への積極的な取り組み・出席状況（10%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	適宜対応（事前にメール等で知らせてください）。				
担当教員からのメッセージ	命の誕生までのプロセスとその仕組みについて総合的に理解してほしい。				

授業科目名	木質材料学				
担当教員名	鈴木 滋彦		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 403 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	循環型社会、木質資源、再生利用技術				
授業の目標	再生産可能な木質資源を人類の生活に必須な材料として有効に利用するための手法を、科学技術的な視点から理解することを目標とする。				
学習内容	木質材料開発の歴史と今後の方向性、環境と木質資源、各種木質系材料の製造技術と材質の特徴、耐久性等について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(B)および(D)に対応する。				
授業計画	1) 木質資源利用のあり方 2、3) 木質材料の基礎技術 4、5) 材料開発の方向とエンジニアードウッド 6～9) 軸材料：集成材、単板積層材、PSL 軸材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。 10～11) 面材料：合板、OSB、パーティクルボード、MDF 面材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。エレメントの形状と種類による材質の違いを説明する。 12～13) 面材料：ハードボード、インシュレーションボード湿式と乾式製法の相違点を材質の違いを説明する。 面材料：窯業系ボードについて解説する。 14) 木質材料技術開発と倫理 15) 木質材料の世界の生産動向と今後の方向性 16) 筆記試験				
受講要件	関連科目：木質バイオマス科学、木質機能科学、木材接着学、環境木質材料学実験				
テキスト	鈴木正治他編： 「木材科学講座 8 木質資源材料」海青社				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	・5 回のレポートは復習が中心です。レポートのとりまとめを行うことで、技術的な課題全体が理解できるように配慮してあります。				
成績評価の方法・基準	・履修態度 (15%)、5 回のレポートおよび学期末試験 (合計 85%) の結果を総合して評価する。評価基準は、科目の目標に沿って行い、筆記試験は講義内容の理解度を判断基準とする。 ・「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み、木曜日の昼休み 農学部 A 棟 403 号室				
担当教員からのメッセージ	資源の利用と環境との関連を考える良い機会であると思います。海外の最新の資料も提供しますので、質問等はメールで：s-suzuki@agr.shizuoka.ac.jp までお寄せ下さい。				

授業科目名	木質利用化学					
担当教員名	西田 友昭	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 531 研究室			
分担教員名	河合 真吾					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4	
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、パルプ化、パルプ漂白、生理活性					
授業の目標	パルプ製造法と木材成分の関係、抽出成分の生理的機能と特性を理解し、主体的関心を持つことを目指す					
学習内容	木材主要成分のセルロース、ヘミセルロース、リグニンを取り上げ、パルプ化および漂白工程における化学反応性、生物反応を利用するパルプ製造に関する最新知見を詳述する。 さらには、樹木の生理および木材の特性に関与している副成分の抽出成分を取り上げ、その生合成、理化学的性質、生物有機化学的な利用法について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. パルプ原料とその化学 2. 機械パルプの製造(1) 3. 機械パルプの製造(2) 4. 化学パルプの製造(1) 5. 化学パルプ（クラフトパルプ）製造(2) 6. 機械パルプおよび化学パルプの漂白(1) 7. 機械パルプおよび化学パルプの漂白(2) 8. 授業 1～7 回目のまとめ 9. 抽出成分の化学構造決定法(1) 10. 抽出成分の化学構造決定法(2) 11. 抽出成分の化学構造決定法(3) 12. 抽出成分の生合成（フェニルプロパノイド経路） 13. 抽出成分の生合成（メバロン酸経路） 14. 抽出成分の生理活性とその利用 15. 授業 9～14 回目のまとめ 16. 筆記試験 					
受講要件	2 年生前学期の「樹木生化学」、2 年生後学期の「樹木成分化学」と関連する。					
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。					
参考書	木材学会編：木質の化学（文永堂）、中野準三ら：リグニンの化学（ユニ出版） 日本木材学会抽出成分と木材利用研究会：樹木の顔（海青社） 福島和彦ほか 編集：木質の形成・バイオマス科学への招待（海青社）					
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。					
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 					
オフィスアワー	農学部 A 棟、531 室（西田）、527 室（河合）で随時受け付ける。					
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。					

授業科目名	造園学				
担当教員名	藤本 征司		所属等	フィールド科学教育研究センター	
			研究室	農学部 A 棟 113 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	景観、出会いの集合、ガーデニング、森林整備、無主・無縁、物象化批判				
授業の目標	人間の自然との関わりの総体史としての造園史の概略の習得。 次世代的な自然-人間関係論の伝達・習得。 ガーデニング、森作りを事例とした、自然の親しみかたの伝達。				
学習内容	造園学の対象領域、造園空間（自然生活空間）の史的変遷とその背景にある思潮・思想史との関連、造園学の現況や今後の造園学の課題・方法について概説する。また、実際の自然生活空間作りの事例として、ガーデニングと森林景観の造成・整備問題を取り上げ、基礎、実践の両面から、いくつかの話題を提供する。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の（B）、（D）に対応する。				
授業計画	Introduction 現代における自然と人間、造園学とは？ 「造園学」の対象領域 I. 造園空間（自然生活空間）の史的変遷 自然生活空間（景観）としての造園空間、自然生活空間の原型（無主・無縁）、庭園・公園史、近代自然生活空間の成立と展開など II. 現代における自然生活空間と造園学の課題と方法 現代における自然生活空間（自然景観）のレベル（個人・趣味のレベルから地球レベルまで）ごとの特徴、課題など。方法論の検討（特に、既存の風景論、自然-人間関係論、環境倫理学、廣松哲学とドゥルーズの生命哲学・倫理学の検討）に基づくランドスケープ学の体系化。 III. 趣味の造園学—ガーデニング入門 ガーデニングブームを探る、私のガーデニング、庭造りと栽培・鑑賞法など。 IV. 森林景観の造成・整備—その理論と実践 「出会いの連続」としての森林景観、森林景観の生態学的・文化的基本構造、自然景観モデル 林の造成・整備など おわりに				
受講要件					
テキスト	特になし。プリント配布				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	3 年次後期に開講されている「森林学」は本講義と密接に関わりあっており、予習的意味を持つ講義である。特に、「森林学」において展開される、自然の総体を「景観(landscape)」として把握する考え方の習得は、「造園学」習得の基礎となる。				
成績評価の方法・基準	履修態度（30%）とレポート（70%）。履修態度は出席率と授業への積極的参加度合いにより評価。レポートは、講義内容の理解度、授業目標の達成度によって評価する。成績評価は、これらを総合し、「秀」は 90%、「優」は 80%、「良」は 70%、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	木、金の昼休み。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	食料経済学				
担当教員名	柴垣 裕司	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 326 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 1・2
キーワード	フードシステム、食の需給、食料政策、食料問題				
授業の目標	学生が経済学の理論を習得し、毎日口にする食料の経済的性質とそれらがもたらす経済的諸問題についての理解を深めることを目指す。				
学習内容	我々が毎日口にしている「食料」が、どのように生産され、どのようにして食卓にのぼってくるのかについて、各段階の問題点を交えながら講義する。また、「食料」の持つ様々な経済的性質が、その需要と供給の両面に及ぼす様々な影響について言及するとともに、世界や日本における「食料」に関する諸問題について改めて考えてもらうよう問題提起を行う。				
授業計画	1 : ガイダンス、フードシステムの概要 2 : 食生活の変遷と特徴 3・4 : 食の需給 5・6 : 食生活の外部化 7・8 : 農畜水産物の生産 9・10 : 食品製造業・農産加工 11・12 : 食品の流通 13 : 世界の食料問題 14・15 : 我が国の食料政策と食料問題 16 : 期末試験				
受講要件	特になし。				
テキスト	なし。プリントを配布する。				
参考書	高橋正郎『フードシステム学全集』農林統計協会				
予習・復習について	学問の性格上、講義内容が広範囲にわたるので、特に復習をしっかりと講義内容を理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）で評価する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の理論を援用して食料の経済的側面について講義しますが、経済活動を説明する理論に関心を持って下さい。経済学の理論は社会に出てからはもちろん、皆さんの現在の生活にも応用可能な理論です。 ・経済学には興味がないという人がいますが、経済と無関係の技術はあり得ません。技術者（研究者）を目指す人も技術が経済や社会に与える影響について考えてください。 				

授業科目名	植物栄養学				
担当教員名	森田 明雄	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A棟 704室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	必須元素、有用元素、肥料、環境				
授業の目標	人間生存にとって必要な食糧、資源、環境や植物バイオテクノロジーの基本となる植物の栄養の営みを理解することを目標とする。				
学習内容	植物における必須元素等の吸収、同化、代謝とそれらの制御について述べる。さらに、肥料の種類、性質、施肥の原理、肥料の施与法、栄養診断等についても講義する。				
授業計画	1回 植物科学と植物栄養学 2回 窒素の代謝Ⅰ 3回 窒素の代謝Ⅱ 4回 多量必須元素Ⅰ 5回 多量必須元素Ⅱ 6回 多量必須元素Ⅲ 7回 微量必須元素Ⅰ 8回 微量必須元素Ⅱ 9回 植物の生育に関連深い元素 10回 肥料の種類と選択Ⅰ 11回 肥料の種類と選択Ⅱ 12回 施肥の原理と施与法 13回 植物の栄養診断 14回 環境、農業および肥料Ⅰ 15回 環境、農業および肥料Ⅱ				
受講要件	本科目は「植物生理学」より引き継いで講義する。両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。				
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	「植物栄養・肥料学」山崎耕宇ら編（朝倉書店） 「現代植物生理学（全5巻）」宮地ら編（朝倉書店） 「植物生化学」金井龍二訳（シュブリンガー・フェアラーク東京）				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験で評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	授業終了後教室にて				
担当教員からのメッセージ	小テストは毎回授業開始時に行います。				

授業科目名	材料力学				
担当教員名	安村 基	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 426 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	応力、ひずみ、弾性体、はり、たわみ				
授業の目標	弾性体に作用する応力と変形の関係を理解することを目標とする。				
学習内容	木造建築の構造設計、木質材料の評価などの基礎となる、力のつりあい、弾性体の応力と変形について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	1 回 材料力学の歴史 2 回 環境問題と力学 3 回 応力とひずみ (1) 4 回 応力とひずみ (2) 5 回 軸力を受ける棒 (1) 6 回 軸力を受ける棒 (2) 7 回 曲げを受けるはり (1) 8 回 曲げを受けるはり (2) 9 回 断面の性質と材料の特性 10 回 応力とたわみ (1) 11 回 応力とたわみ (2) 12 回 応力とたわみ (3) 13 回 トラスの解法 14 回 柱の座屈 15 回 材料力学の応用				
受講要件	木質機能科学、3年後学期の「住環境構造学」との関連が深い。				
テキスト	裳華房「基礎演習シリーズ・材料力学」				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	材料力学は、毎回の講義内容の積み重ねなので、過去の講義内容をしっかりと理解しないと、新しい内容が理解できない。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果による。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A426 室。メール (afmyasu@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。				

授業科目名	一般昆虫学					
担当教員名	田上 陽介	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 334 研究室			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	昆虫、分類、形態、発生、生理、生態、遺伝					
授業の目標	昆虫は、人にはない驚くべき能力を秘めています。その一端に触れてもらい、一般生物学では学べない「昆虫学」に慣れ親しんで頂く授業にします。					
学習内容	昆虫とはどのような生き物であるかを理解してもらうため、その特徴（起源、分類、形態、生理など）を詳しく解説します。					
授業計画	1回 昆虫の起源 2回 昆虫の分類 3回 昆虫の形態Ⅰ 4回 昆虫の形態Ⅱ 5回 昆虫の発生Ⅰ 6回 昆虫の発生Ⅱ 7回 昆虫の生態Ⅰ 8回 昆虫の生態Ⅱ 9回 昆虫の生態Ⅲ 10回 昆虫の生理Ⅰ 11回 昆虫の生理Ⅱ 12回 昆虫の遺伝Ⅰ 13回 昆虫の遺伝Ⅱ 14回 昆虫の内部共生 15回 環境保全と昆虫					
受講要件	2年後期の「応用昆虫学」に向けての予備知識の習得を目指しています。					
テキスト	「新応用昆虫学」（朝倉書店）を予習、復習に活用して下さい。 必要に応じて資料を配布します。					
参考書	「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店）					
予習・復習について	適宜テキストや配付資料を用いて、予習・復習を行ってください。					
成績評価の方法・基準	筆記試験と出席回数で評価します。					
オフィスアワー	昼休み等に応用昆虫学研究室やA334に直接来るか、電話やE-mailで連絡してください。					
担当教員からのメッセージ	私たちの身のまわりにはたくさんの昆虫がいます。よく観察すると、それら昆虫の興味深い暮らしぶりが見えてきます。					

授業科目名	生物有機化学 1				
担当教員名	渡辺 修治		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部 A 棟 703 研究室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	分子軌道法、反応の遷移状態、求核置換反応、脱離反応、付加反応、立体化学				
授業の目標	有機化学概論で学んだ内容を基礎として、有機化学反応の仕組みを電子論的に解説し、多様な化学反応が統一された理論に基づいて整然とおこっていることを理解させる。				
学習内容	有機化学反応の基礎となる反応各論とその反応機構の考え方、生物現象との関連など。				
授業計画	1 回 有機化学反応における遷移状態、活性化エネルギー 2 回 有機化学における酸と塩基・分子軌道 1 3 回 分子軌道と置換反応 4 回 1 分子置換反応と 2 分子置換反応 5 回 置換反応におけるアルキル基、脱離基、求核剤の役割 1 6 回 置換反応におけるアルキル基、脱離基、求核剤の役割 2 7 回 置換反応における溶媒の役割 8 回 共鳴安定化 9 回 1 分子脱離反応と 2 分子脱離反応 10 回 脱離反応におけるアルキル基の役割と反応の配向性 11 回 脱離反応における脱離基、求核剤の役割と反応の配向性 12 回 2 分子脱離反応における立体化学 13 回 求電子付加反応 1 14 回 求電子付加反応 1 15 回 まとめと復習				
受講要件	化学概論 A, B, 生物有機化学概論を基礎としている。また生物有機化学 II に引き継がれるのでここで学ぶことがらを確実に身につける必要がある。				
テキスト	ジョーンズ有機化学 上・下 東京化学同人				
参考書	マクマリー・生物有機化学 I 有機化学編, 丸善, 分子模型				
予習・復習について	授業中に課すクイズに沿った内容の宿題を必ず課すので復習が必須である。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (70 %) および講義中に実施するクイズ (30 %)				
オフィスアワー	授業終了時、事前にメール等で連絡があれば時間を調整する。				
担当教員からのメッセージ	式を書きながら考えること。授業は聞いているだけではなく参加すること。				

授業科目名	樹木生化学				
担当教員名	西田 友昭	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 531 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、生合成、生分解				
授業の目標	樹木および森林微生物（木材腐朽菌）の生化学的機能を理解し、主体的関心を持つことを目指す。				
学習内容	樹木主要成分であるセルロース、ヘミセルロースおよびリグニンの生合成と生分解機構について講述し、これらの機構を解明することでどのような工業的応用が期待されているのかについて概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	1 回 バイオテクノロジーと森林資源、樹木成分の種類、含有量、化学構造および生理的役割 2 回 光合成機構(1) 3 回 光合成機構(2) 4 回 セルロースおよびヘミセルロースの生合成機構(1) 5 回 セルロースおよびヘミセルロースの生合成機構(2) 6 回 リグニンの生合成機構(1) 7 回 リグニンの生合成機構(2) 8 回 樹木成分生合成のまとめ 9 回 セルロースおよびヘミセルロースの生分解機構(1) 10 回 セルロースおよびヘミセルロースの生分解機構(2) 11 回 リグニンの生分解機構(1) 12 回 リグニンの生分解機構(2) 13 回 リグニンの生分解機構(3) 14 回 リグニン生分解技術の工業的応用とそのあり方 15 回 樹木成分生分解のまとめ				
受講要件	2 年生後学期の「樹木成分化学」、3 年生前学期の「木質利用化学」と関連する。				
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	樋口隆昌ら：木質生化学（文永堂出版） 日本木材学会編：木質の化学（文永堂出版）				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 531 室で随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	樹木・組織学				
担当教員名	小島 陽一	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 402 研究室		
分担教員名	角張 嘉孝				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	針葉樹、広葉樹、形態、分布、生態、材の形成、細胞、構造				
授業の目標	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について解説する。また木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等を中心に講義する。樹木の形態・生態および成長・組織に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について学ぶ。木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等について学ぶ。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	<p>1. 木材組織学 (8 回) 木材の組織学・解剖学的見地から樹木の生長・細胞構成、さらには細胞壁微細構造について学ぶ。 樹木の成長と樹幹の形成 (2 回) 針葉樹の細胞構成 (1 回) 広葉樹の細胞構成 (2 回) 木材のマクロ構造と細胞壁の微細構造 (1 回) 木材の欠点と材質 (1 回) 筆記試験 (1 回)</p> <p>2. 樹木学 (8 回) 講義では森林分布論、植物分類法、裸子植物を中心に解説する。樹木に親しむとともに樹木の生活を理解する。 樹木の知識を身につけるには、講義だけでは不十分なので、土曜日あるいは日曜日を利用して、5 回のエクスカージョンを実施する。詳細な日程とそれぞれの目的は平成 24 年度実習日程表を参照ください。 推奨：夏休み中に帰省などで 故郷の山に登り植物採集などをしたり、あるいは各大学の演習林（森林フィールド）見学等も望ましい。11 月に開催される大学祭等を利用して、キャンパス内の樹木の案内を行うことなども推奨される。 2 年生の夏休みに 3 泊 4 日の予定で、中川根フィールドで樹木学実習を行う。「樹木学実習 (F116)」を参照のこと。 野外実習 (1 回目：身近な自然：有度丘陵、2 回目：三国山、ハリモミ純林、富士吉田アカマツ林、青木ヶ原樹海、朝霧高原、3 回目：富士山 5 合目の植生、亜高山帯常緑針葉樹林、ブナ帯)、4 回目：2 年生 照葉樹林、浜岡海岸林、5 回目：中川根フィールド</p>				
受講要件	「造林学」・「森林生態学」・「木質機能科学」等の講義、「樹木学実習」等の実習、「環境木質材料学実験」等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	自作 および 古野・澤辺 編「木材科学講座 2 組織と材質」(海青社)				
参考書	矢頭 著「樹木学」(朝倉書店)、島地・伊東 著「図説 木材組織」(地球社)、島地・須藤・原田 著「木材の組織」(森北出版)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	レポート・中間テスト・学期末試験の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	毎週木曜日の昼休み・農学部 A 棟 402 室 (小島)				
担当教員からのメッセージ	樹木学および木材組織学の両者を総合して成績評価します。				

授業科目名	フランス語学概論				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 9・10
キーワード	基礎力				
授業の目標	1年間フランス語初級を学んだ人を対象に、中級以上のレベルに到達できるよう指導する。				
学習内容	語学力の核は語彙と文法の正確な知識です。これらは継続的で地道な努力によってのみ獲得しうるものです。今年は、少し高度な文法書と豊富な読書（もちろんフランス語の）量でこの目標を達成したいと思います。通年の授業なので、易しめのテキストから始め、徐々にレベルを上げていくようにします。				
授業計画	<p>通年の授業ですが、前半と後半の二つに分けてそれぞれの課題を達成したいと思います。</p> <p>この授業は1年間（またはそれ以上）フランス語を学んである程度の基礎ができている人を対象としますが、（おそらく今まで使ってきたものよりは）少しだけレベルの高い文法書を用いて中級レベルの基礎をしっかりと身につけたいと思います。今年は「仏作文をしながら文法を身につける」教材を選択したので、下記のテキストを生協で調達しておいてください。</p> <p>量が多いので勉強の仕方が正しければ相当の効果が期待できると思います。</p>				
受講要件	フランス語を1年（以上）学習した人。				
テキスト	『初歩のテーマ』（石井晴一、三修社）を生協で購入してください。				
参考書	フランス語の辞書。				
予習・復習について	予習が大切。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月 14 : 20 ~ 15 : 30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	比較文化概論Ⅲ				
担当教員名	今野 喜和人	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 2 6		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	心身観、自然観				
授業の目標	心と身体の関係について、比較文化的に考察する。				
学習内容	人間における心と身体の間をめぐる種々雑多なテキスト（文学、宗教、自然科学等）を読みながら東西の心身観・自然観の違いについて考える。				
授業計画	<p>私たちの心身観はどのようなものに規定されているのだろうか。明治以来、近代科学精神の圧倒的流入によって、西洋的な心身二元論がすっかり浸透したように見えるが、その実、伝統的な「気」の概念は未だに力を持っているように思える。一方の西洋人も東洋的心身概念（ヨガ・禅・武道など）に対して並々ならぬ関心を示し、現代は東洋対西洋の対比がかつてほど意味をなさなくなっている。</p> <p>この授業では、18・19世紀の西洋、および明治大正期の日本を主な対象として、近代科学に抵抗したマージナルな疑似科学的・疑似宗教的文献を読むことから始め、現代人をも規定している「こころとからだ」、「東と西」、「近代と前近代」、「モダンとポストモダン」等々の対立の間（あわい）に生じた問題を比較文化的に考えて行きたい。</p> <p>また、特に身体技法の問題については受講生による発表の機会を設けたいと考えている。</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキストについては毎回コピーの形で配布する。英語のものもある。				
参考書	その都度指示する。				
予習・復習について	前もって配られたテキストには必ず目を通して授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	前後期1回ずつ、最終授業時にレポートを仕上げて提出する。それ以外に何回か小レポートあり。授業中に発表を行ってくれた場合は成績評価に組み入れる。				
オフィスアワー	火曜 3・4 限。できればメールで前もってアポイントメントを取る方が望ましい (jjkkonn@ipc.shizuoka.ac.jp)。				
担当教員からのメッセージ	難易度 B				

授業科目名	一般音声学				
担当教員名	森口 恒一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 0 9		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B - C	曜日・時限	水 9・10
キーワード	音声学、調音音声学、音響音声学				
授業の目標	この授業は、言語学の最も基本である音声学（調音音声学、音響音声学）の基礎を理解することを目標とする。言語学コース所属の学生は、必ず履修すること。				
学習内容	前期は、調音音声学を中心に、国際音声字母をもとに、発音の産出と聞き取りの訓練を行う。また、フィールドワーク的な観点から、実際の言語の発音の観察を行い、更に、それを音韻論的にどのように分析するかということを考察する。後期は、前期の基礎知識を基により高度なことばの聞き取り・記述・規則化と共に調音の実習を行う。また、後半は音の物理的な面に着目して、音響音声学の基本概念を学び、ソナグラフで記録されたものを読みとる訓練をする。				
授業計画	<p>[前期：堀]</p> <p>第 1— 2回 音声学とは／調音音声学／調音器官／国際音声字母とその他の音声字母</p> <p>第 3— 4回 子音Ⅰ：始動（initiation）と発声法（phonation）</p> <p>第 5— 6回 子音Ⅱ：調音点と調音方法</p> <p>第 7— 8回 母音Ⅰ：第1次基本母音</p> <p>第 9—10回 母音Ⅱ：第2次基本母音</p> <p>第11—12回 音節，フット，ストレス，声調</p> <p>第13—14回 音韻論の基礎と音素の設定</p> <p>第 15回 弁別的特徴と音韻規則</p> <p>[後期：森口]</p> <p>第16—17回 音声の聞き取り実習 I</p> <p>第18—19回 音声の聞き取り実習 I I</p> <p>第20—21回 音声の調音実習 I</p> <p>第22—23回 音声の調音実習 I I</p> <p>第24—25回 弁別的特徴を基にした規則化実習</p> <p>第26—27回 音響音声学入門（ことばの物理的分析） I</p> <p>第28—29回 音響音声学入門（ことばと物理的分析） I I</p> <p>第 30回 ソナグラフ実習</p>				
受講要件	言語学コース所属の学生は全員受講すること。				
テキスト	前期:テキストなし(プリントを配布する)。後期:Peter Ladefoged: A Course in Phonetics.(Harcourt Brace Jovanovich)及びプリント。				
参考書	服部四郎：『音声学』； Catford, John C. : A Practical Introduction to Phonetics（日本語訳あり）；その他の参考書は、開講時に指示。				
予習・復習について	前期の授業では、復習をしっかりとしておくこと（特に、授業で習った発音は正確に聞き取り、かつ発音できるようになること）。後期の授業では、原則的に英文の教科書を使うが、予習、復習のために日本語の翻訳を参照して理解しておくこと。				
成績評価の方法・基準	出席を重視する。年数回の大きいペーパー・テストと小テスト、発音・聞き取り試験の結果等を総合して成績の評価を行う。				
オフィスアワー	随時。ただし、前もって連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、特殊な音を取り扱うのではなく、人間であるならば必ず訓練により発音可能なもののみ取り扱う。 言語学における基礎学科であるので、音声学は、言語学コース所属のすべての学生の必修とする。また、他コース所属の学生でも、特に国語や英語の教員免許、また、日本語教師を目指す学生の受講も歓迎したい。				

授業科目名	民法総論				
担当教員名	米谷 壽代	所属等	人文社会科学部		
		研究室	A 4 2 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	民法、民法総則、民法総論				
授業の目標	民法総則の対象とする範囲の基礎的な知識の修得を前提とした上で、判例の学習等を通じて、実社会における多様な問題に対して、いかなる紛争が生じ、それに対する解決策としてどのような解釈論が提示できるのかを、具体的な事例ごとに議論し、多角的に考える姿勢を身に付ける。				
学習内容	民法総則についての基本的な理解と現在の理論状況を学修する。				
授業計画	1回 民法の全体像（1） 2回 民法の全体像（2） 3回 権利能力の始期と終期 4回 失踪宣告制度 5回 意思能力と行為能力（1）未成年者 6回 同上 （2）成年後見制度ほか 7回 法律行為と意思表示 （1）概要 8回 同上 （2）不完全な意思表示 9回 同上 （3）心裡留保 10回 同上 （4）虚偽表示 11回 同上 （5）錯誤 12回 同上 （6）詐欺と強迫 13回 同上 （7）応用編 14回 消費者契約法 15回 法律行為の有効要件（90条、91条）				
受講要件	特になし				
テキスト					
参考書	佐久間毅『民法の基礎 1 総則』（有斐閣）、田山輝明『民法総則（第三版）』（成文堂）、山川一陽『民法総則講義 [第4版]』（中央経済者）ほか。詳細は授業時に指示する。				
予習・復習について	講義内容が広範囲にわたり、かつ初学者には理解が容易でない分野も多いので、講義の内容については、必ず毎回予習・復習をすること。（講義に関連する項目の新聞記事の切り抜きなど、受講生の関心に応じて課題を出すこともある。）				
成績評価の方法・基準	原則として、学期末の試験期間内に実施する試験で評価する。講義期間内に法律用語の理解等を問う小テストを課すこともあるが、詳細は講義時に指示する。				
オフィスアワー	初回講義時に指定する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	労働法				
担当教員名	本庄 淳志	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 601 号		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	労働法、雇用関係、労働契約、働く、労働組合、非正規雇用、格差社会				
授業の目標	<p>労働法と呼ばれる法領域の基本的で重要な概念を理解したうえで、雇用をめぐる最近のニュースについて、法的にどのような問題があるのか説明することができる。</p> <p>1. 労働法に関する基本的で重要な概念を理解し、説明できる。</p> <p>2. 雇用社会の変化とその背景にある事情を学び、雇用に関する最近のニュースについて法的な観点から分析・検討し、説明することができる。</p> <p>3. 日々の授業を通して、就職や職業キャリアを意識する。</p>				
学習内容	<p>労働法とは、「働く人」をとりまく基本ルールです。現代社会では、よほどのお金持ちか、自分で会社等を経営する場合、あるいは年金生活者などを別にすると、多くの人は会社に雇用されて生計をたてます。これは、労働契約に基づくものであり、労働者と使用者との間には、一定の法的関係が生まれます。労働者と使用者は法理念的には対等な関係にありますが、現実にはさまざまな格差があり、法による利益調整が不可欠となります。この講義では、こうした労働者と使用者をとりまく労働法上のテーマを扱います。</p>				
授業計画	<p>第一部 労働法総論</p> <p>① 日本的雇用システムの特徴</p> <p>② 日本的雇用システムの変化</p> <p>③ 労働法の現代的課題 - 雇用における格差問題</p> <p>第二部 個別的労働関係法</p> <p>① 労働契約の基本的内容</p> <p>② 労働契約の成立 - 採用, 試用期間</p> <p>③ 労働契約の終了 - 解雇, 退職</p> <p>④ 労働条件の決定・変更 - 就業規則と労働契約</p> <p>⑤ 賃金</p> <p>⑥ 労働時間</p> <p>⑦ 雇用平等 - 非正規雇用 (有期雇用, パート, 派遣) と労働法</p> <p>⑧ 人事異動 (配転, 出向, 転籍)</p> <p>⑨ 企業秩序と労働法 - 懲戒</p> <p>⑩ 労働災害, 安全衛生</p> <p>第三部 集団的労使関係法</p> <p>① 労働組合法の概要</p> <p>② 不当労働行為</p> <p>③ 労働協約, 協約自治の限界</p> <p>④ 組合活動</p> <p>第四部 労働法の現代的課題</p> <p>働く未来 - 労働法の将来像</p>				
受講要件	憲法、民法の基本的な知識を修得していることが望ましい。しかし、まずは意欲ある学生の受講を望みません。				
テキスト	下井隆史『労働法 (第 4 版)』(有斐閣, 2009 年)。				
参考書	<p>大内伸哉『労働法学習帳 (第 2 版)』(弘文堂, 2010 年)。</p> <p>濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』(日経文庫, 2011 年)。</p>				
予習・復習について	1 回の授業につき予習・復習をあわせて 2 時間程度、テキスト等による自習が必要です。細かな知識習得と確認のために、小テストを実施します。				
成績評価の方法・基準	期末試験を中心に、小テストの結果もふまえて成績評価する。				
オフィスアワー	火曜日 12:45~14:00 (事前にメール等で連絡すれば他の時間帯でも可)。				
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (C)</p> <p>きびしい雇用情勢のなかで、多くの皆さんにとって「就職 (活動)」は何よりも気になる事柄だと思います。現実問題として、多くの人は人生の大部分を「仕事」に費やすのであり、仕事の充実、人生そのものの充実と密接な関係がありそうです。いま、日本の雇用社会は大きな変革期にあり、従来の常識は必ずしも通用しません。少子高齢化やグローバル化のなかで、雇用社会はこれからも日々、常に変化していくでしょう。こうした変化を敏感にくみ取り、変化をふまえた戦略を持つことこそ、皆さんの職業人生を充実させる一助となるはずで、いまこそ、教育の職業的意義を真剣に再考すべきときであり、社会が大学</p>				

／教育に求める内容も変化してきました。

現在、労働法上の紛争が著しく増加するなかで、皆さん自身にとって、「雇用社会の基本ルール」として、労働法の知見がきわめて重要となっています。この授業では、細かな知識の習得とともに、大きなシステムの変化にも目を配ることで、皆さんの目前に迫る雇用社会の全体像をイメージしてもらうことを目指します。皆さんの将来に直結することでもありますし、ぜひ、主体的／積極的な受講を希望します。

授業科目名	社会保障法				
担当教員名	国京 則幸	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 1 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	社会保障、医療、年金、福祉、生活保護、雇用保険				
授業の目標	日本の各種社会保障制度を理解し、社会保障における法学的思考方法を涵養する。				
学習内容	1. 社会保障各種制度の構造・しくみを制定法に基づいて理解し、あわせて社会保障法の理論を学ぶ。 2. 政策動向を踏まえ、各種制度の立法政策論的検討を行う。 3. 社会保障をめぐる各種裁判例の検討を行う。 4. 社会保障のしくみを踏まえて、社会実態的な問題を検討する。				
授業計画	1回 <ガイダンス> 社会保障法講義ガイダンス－履修案内、講義概要 ／教育支援システムの解説・デモンストレーション 2回 <社会保障とは何か その1> 社会保障の制度や問題を考えていく上でおさえておくべき社会の状況について ／「社会保障」の捉え方について ／社会保障の目的と機能 ／社会保障の保障方法・保障水準、費用負担 3回 <社会保障とは何か その2> 社会保障の保障方法・保障水準、費用負担 4回 <社会保障の歴史と現在 その1> ／社会保障の歴史 ／日本の社会保障（制度）の歴史と展開 5回 <社会保障の歴史と現在 その2> ／日本の社会保障（制度）の歴史と展開 6回 <社会保障の組織と財政・社会保障の権利擁護と救済> 社会保障の実施主体、法主体 ／社会保障の法理論 7回 <医療保障法 その1> 医療保障制度の意義 ／健康保険と国民健康保険－健康保険制度の構造 8回 <医療保障法 その2> 健康保険と国民健康保険－国民健康保険制度の構造 9回 <医療保障法 その3> 高齢者医療、その他の関連制度 ／公費負担医療 10回 <医療保障法 その4> 医療制度 ／医療保障の課題 ／外国の医療保障－イギリスの医療保障制度 11回 <福祉サービス法・介護保険法 その1> 社会福祉の意義－社会福祉総論 ／社会福祉法制の展開 ／社会福祉の給付方式とサービス利用の法律関係 12回 <福祉サービス法・介護保険法 その2> 社会福祉法の成立とその基本理念 ／社会福祉事業の運用と規制				

	<p>／福祉サービスの実施運営体制</p> <p>13回 <福祉サービス法・介護保険法 その3> 高齢者福祉 ／高齢者介護保障の法体系 ／介護保険のしくみ</p> <p>14回 <福祉サービス法・介護保険法 その4> 高齢者介護と介護法制の課題</p> <p>15回 <福祉サービス法・介護保険法 その5> 高齢者介護と介護法制の課題</p>
受講要件	学務情報システム上の「授業支援システム」の活用および同システム上実施する小テスト（内容理解小テスト）を受けてもらうことが条件となる。
テキスト	加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子 [著] 『社会保障法』有斐閣アルマの最新版
参考書	岩村正彦・菊池馨実・嵩さやか編著 『目で見ると社会保障法教材 第4版』有斐閣（2007）
予習・復習について	参考書の『教材』は、具体的な資料なども掲載されているので適宜活用して予復習する。 また、講義初回で指摘・解説する授業支援システム上の小テスト（内容理解小テスト）を受験しながら、ポイントを復習する。
成績評価の方法・基準	授業支援システム上の小テスト（内容理解小テスト）の成績および講義（内容）への主体的な参加状況30%＋期末の試験70%で評価する。 この際、小テスト（内容理解小テスト）は教科書および配布物等の利用可。期末の試験は持ち込み等一切不可。
オフィスアワー	講義の前後。ただし、メールでアポイントをとれば、それ以外でも対応可。 「学務情報システム」上では随時可。
担当教員からのメッセージ	受講者の予復習など自習支援のために、コンピュータおよびインターネットを活用した「授業支援システム」によるレジュメの配布、内容理解小テストを実施します。詳細は講義初回で解説します。

授業科目名	財政学				
担当教員名	櫻井 良治	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通L棟413		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	財政の三つの役割、一般会計、特別会計、財政投融资、財政赤字、税制、消費税				
授業の目標	国家財政制度の基本構造を学ぶことにより、日本が抱える財政赤字、税制、社会保障、国債累積などの財政問題を理解する。特に、消費税増税問題について、時間をかけて詳しく学ぶ。				
学習内容	財政理論に偏らず、データ・図表を活用し、現代日本の財政問題を理解できるようにする。公務員試験の基礎となる知識が多いが、大学の学術的な授業なので、直接試験問題を取り扱うことはしない。受講者の関心度合いにより多少の変更もありえる。				
授業計画	<p>※ 以下は学ぶ内容の概要であり、特定の項目を深めたり、順序が変わることがある。</p> <p>1. 2. 「財政とは何か」 経済主体としての政府の役割と市場経済 3. 4. 「資源配分機能」 市場の失敗など 5.6. 「所得分配機能」 7. 「経済安定機能」 8. 「戦後日本の財政構造」 なぜ国債はここまで累積したか 9. 10. 「財政赤字」 大きな政府と小さな政府 11. 12. 13. 14. 「政府支出」 予算編成（一般会計・特別会計）、特殊法人問題、公共投資、無駄な支出？など 15. 16. 「国と地方の財政関係」 国と地方の役割分担と財政調整 17. 18. 19. 「公債の負担」 財政破綻の理論、世代間の公平不公平、金融市場と国債 20. 21.22. 「税制」 税の論理、現代日本の税 23.24. 25. 「社会保障」 制度の趣旨、持続可能な制度 26. 27 「持続可能な財政」 今後の財政問題など 28. まとめ</p>				
受講要件	新聞やテレビの報道をよく見て、社会の動向に関心があり、質問や応答の出来る学生を歓迎する。				
テキスト	櫻井良治（2005）『コスト大国日本の財政』勁草書房（前期）などを予定 櫻井良治（2004）『政府債務の世紀』新評論（後期）などを予定				
参考書	櫻井良治『消費税は「弱者」にやさしい』言視社、2011年11月 〃 『消費税の公平性（仮題）』文真堂、2021年3月を予定、 『最新版（平成23年度版）図説日本の財政』東洋経済新報社 『最新版（平成23年度版）図説 日本の税制』財経詳報社				
予習・復習について	財政学は専門用語が多いので復習を要する				
成績評価の方法・基準	前期末試験（50%）、そして後期末試験（50%）で評価する。 試験は予告したうえで、授業時間内に小テスト形式で実施する可能性が高い。 ※試験に代えて、レポートを実施する場合もある。 ※評価方法は、受講生を確認したうえで少し変えることがある。				
オフィスアワー	月曜日の7. 8時限				
担当教員からのメッセージ	財政学、特に消費税を中心とした税制に関心のある受講生を歓迎します。				

授業科目名	電磁気学				
担当教員名	藤間 信久	所属等	工学部		
		研究室	共 307		
分担教員名					
クラス	工C 2	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月 1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラディの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得				
授業計画	1回 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる） 2回 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述） 3回 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる） 4回 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す） 5回 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる） 6回 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する） 7回 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる） 8回 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる） 9回 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる） 10回 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる） 11回 ビオ・サバールの法則、ソレノイド（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、およびソレノイドコイル内に発生する磁場について述べる） 12回 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる） 13回 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる） 14回 回路の過渡現象（抵抗R、コンデンサーC、コイルLからなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる） 15回 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す）				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」（前田和茂，小林俊雄 著，森北出版）ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」（霜田・近角 編，裳華房）ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」（砂川重信著，岩波書店）ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が70%程度、演習・レポート等が30%程度である。				
オフィスアワー	毎週木曜日の9・10時限に研究室でオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				

担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを、藤間、中島がそれぞれ担当する。
--------------	---------------------------------------

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	梅本 宏信	所属等	工学部		
		研究室	共 504		
分担教員名					
クラス	IED2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人）ISBN4-8079-0334-9；絶対わかる量子化学、齋藤勝裕（講談社）ISBN4-06-155056-X</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	平川 和貴	所属等	工学部		
		研究室	共 503		
分担教員名					
クラス	IED 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9；絶対わかる量子化学、齋藤勝裕（講談社） ISBN4-06-155056-X</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	微分積分学 I				
担当教員名	赤堀 公史		所属等	工学部	
			研究室	共 4 0 5	
分担教員名					
クラス	工 4	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	逆三角関数、連続、微分、テイラーの定理、ロピタルの定理、定積分、原始関数				
授業の目標	項目としては高等学校で学んでいるものもかなりある。それらの理論を再度学習し、その概念を理解することに努め、それらを発展させる。特に、新しい内容である逆三角関数、テイラーの定理については十分理解できるようになること。				
学習内容	微分積分学については既に高等学校でかなり学んできているが、それらをさらに発展させた 1 変数関数の微分積分学についての学習。				
授業計画	1 回 ガイダンス、極限・連続性 2 回 三角関数・逆三角関数 3 回 指数関数・対数関数、微分可能性・導関数 4 回 合成関数の微分法、逆関数の微分法 5 回 高次導関数 6 回 テイラーの定理 7 回 テイラー級数 8 回 ロピタルの定理 9 回 定積分の定義とその性質 10 回 不定積分・微分積分学の基本定理 11 回 部分積分法 12 回 置換積分法 13 回 有理関数の積分 14 回 無理関数・三角関数の積分 15 回 まとめと演習				
受講要件					
テキスト	「工学系の微分積分学」 星賀彰 他著 (学術図書出版社)				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	この講義の内容は多く、また数学は聞いているだけでは身につかないので、必ず予習・復習を行うこと。課題が課せられることも多い。				
成績評価の方法・基準	次の基準に基づき評価する。 秀 = 1 変数の微分積分学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。 優 = 1 変数の微分積分学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。 良 = 1 変数の微分積分学の基礎を十分理解している。 可 = 1 変数の微分積分学の基礎をおおよそ理解している。 不可 = 1 変数の微分積分学の基礎を理解していない。 期末試験を行う。期末試験では、全クラス同じ問題を出題する。 前期試験の成績によって、後期は習熟度別のクラス編成を行う。				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	力学・波動 I				
担当教員名	藤間 信久		所属等	工学部	
			研究室	共 307	
分担教員名					
クラス	工 5	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	運動の 3 法則、力、運動量、運動エネルギー、位置エネルギー、力のモーメント、角運動量				
授業の目標	1. 力学の基礎概念を数学的に表現する方法の修得 2. 運動の 3 法則と 1 質点の運動の理解				
学習内容	1. 位置、速度、加速度、力など、力学における基本的概念の、ベクトルおよび微分積分法を用いた表現方法を修得する。 2. 運動の 3 法則と 1 質点の運動の理解。基本的な法則を理解し、これを工学の各分野で応用するためには、力学・波動の概念を自分のものにすることが必要である。 この講義では高校の物理学で学んだ内容を、より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ。それを基礎的な問題に適用することや、運動の 3 法則から様々な物理法則が導かれることも学ぶ。				
授業計画	1 回 概要（講義の目的、必要性。高校での物理学および数学の復習） 2 回 質点の位置、速度、加速度とそのベクトル表示（ベクトル関数の微分・積分） 3 回 簡単な運動の表現。位置から速度、加速度、あるいはその逆を求める 4 回 運動の 3 法則（慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則）、慣性系 5 回 運動量と力積。運動量保存則 6 回 物体に働く力と運動方程式 I（重力、摩擦力） 7 回 物体に働く力と運動方程式 II（ばねの力） 8 回 運動方程式を解く I（等加速度運動） 9 回 運動方程式を解く II（2 階常微分方程式の解法） 10 回 運動方程式を解く III（振子の運動） 11 回 仕事と保存力（位置エネルギー） 12 回 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 I 13 回 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 II 14 回 角運動量と力のモーメント（ベクトル積による表現） 15 回 角運動量保存則と中心力				
受講要件	特になし。ただし、講義内容をスムーズに理解するためには、高校での数学(微分・積分・ベクトル等)や物理学の修得が必須。				
テキスト	テキスト：「力学・波動」（浅田他著，日新出版）ISBN978-4-8173-0196-3				
参考書	物理入門コース 1「力学」（戸田盛和著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000076418 同「例解 力学演習」（戸田盛和・渡辺慎介著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000077910				
予習・復習について	本授業はある概念を理解し、それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である。各項目は別々に理解できるものではないので、その意味でも予習・復習は欠かせない。 特に教科書の例題・章末問題、授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	1. 講義の際に行われる演習問題（小テスト，レポートを含む） 20% 2. 全クラス統一期末試験 80%				
オフィスアワー	教員によって異なります。講義時間中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	この講義は、学科単位ではなく、センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う。受講クラス・教室などをよく確認すること。				

授業科目名	哲学				
担当教員名	吉田 寛	所属等	情報学部		
		研究室	J-2735		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期	必修選択区分	選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード					
授業の目標	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <h1 style="margin: 0;">校正中</h1> </div>				
学習内容					
授業計画					
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	国際社会と日本				
担当教員名	杉山 茂	所属等	情報学部		
		研究室	J-2717		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	原子爆弾、原子力発電、テロ、予防原則、水俣病、日米関係、被曝、差別				
授業の目標	「廃炉」については最短でも受講生の孫の世代まで、そして放射能汚染物質については生物学的な人類史を超える時間の枠組みで、そして汚染の広がりについては、全地球レベルで考察しなければならない原子力発電所の事故について基礎的な知識と論点の獲得を目指す。				
学習内容	原子力発電を生み出し、そしてそれが生み出すものを、放射性物質のサイクルを中心に、国際政治とりわけ日米関係および労働問題、地域問題と関連させながら学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウランの採掘と地域・先住民 2. 原子爆弾と被曝——原子爆弾の開発 3. 原子爆弾と被曝——ヒロシマ・ナガサキ・ロンゲラップと日米関係 4. 日本における原子力開発の始まりと日米関係 5. 日本の核武装論 6. 商業的原子力発電と地域社会——電源三法と地域社会 7. 商業的原子力発電と地域社会——地域社会にもたらしたもの 8. 原子力発電所の事故がもたらすもの——TMI、チェルノブイリ 9. 1980年代の反核運動——「科学」と社会運動 10. 核燃サイクル問題——高速増殖炉、青森県六ヶ所村 11. 老朽化と廃炉、使用済み燃料、核廃棄物の行方 12. 予防原則——グアンタナモ収容所と水俣病 13. 低線量被曝をめぐる問題——ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ、イラク、セルビア 14. 低線量被曝をめぐる問題——ICRPとECRR 15. 原子力発電と労働問題——「犠牲のシステム」としての原子力発電 				
受講要件	特になし。ただし、講義で紹介するウェブ・サイトを参照、視聴することを勧める。				
テキスト	指定しない。				
参考書	高木仁三郎『市民科学者として生きる』岩波新書、1998年；矢部史郎『原子力都市』以文社、2010年；景浦峯『3.11後の放射能「安全」報道を読み解く——社会情報リテラシー実践講座』現代企画室、2011年；高橋哲哉『犠牲のシステム——福島・沖縄』集英社新書、2011年；武藤一洋『潜在的核保有と戦後国家——フクシマ地点からの総括』社会評論社、2011年；吉岡斉『新版原子力の社会史——その日本的展開』朝日選書、2011年；関根博『「フクシマ」論——原子カムラはなぜ生まれたのか』青土社、2011年など。さらに講義中に紹介する。				
予習・復習について	予習・復習について：図書およびウェブ・サイトの参照				
成績評価の方法・基準	各講義の最後に提出する小レポートと学期末レポートを4：6で評価する。				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	1000兆円を超える公的債務、「少子化」と呼称される子育てが困難で若者が生きにくい社会制度など次世代への「つけ回し」が膨大になる中で、その最たるものが福島県にある東京電力の原子力発電所の事故です。受講生が子育てや孫の世話をするようになったとき、何がなぜ起きたのかを説明する一助になるような講義となれば幸甚です。				

授業科目名	地域と文化				
担当教員名	西原 純	所属等	情報学部		
		研究室	J-2723		
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	ステーブル理論、中心・周辺理論、地域主義、多民族社会、カトリック、プロテスタント				
授業の目標	ステーブル産出国の経済的劣位や、経済の統合化と社会・文化の分裂化という相反する潮流について、カナダを事例として、世界の仕組みを理解する				
学習内容	ステーブル開発によるカナダ発展の非常に特徴的な歴史とその結果形成された現代カナダの地域構造を、社会科学の基本的理論を用いて学習する				
授業計画	1) カナダの自然的特徴 - 広大さと寒冷さ 2) カナダの経済・政治を分析する枠組み - 「ステーブル理論」「中心・周辺論」 3) ステーブル開発とカナダの発展 - 「ステーブル理論」の展開 4) ステーブル開発と先住民社会の崩壊 - 「ステーブル理論」の展開 5) カナダの植民開拓とケベック「私は忘れない」 - 「民族・文化の抗争」 6) カナダの連邦建設と現代カナダの経済構造 - 「中心・周辺論」の展開 7) 寒冷地の開発と地域的・社会的不平等 - 「中心・周辺論」の展開 8) 二言語・多文化主義、カナダ分裂のシナリオ - 「民族・文化の抗争」				
受講要件	授業に積極的に参加できる学生に受講してほしい				
テキスト	特になし				
参考書	日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』、有斐閣、2009年発行 日本カナダ学会編『新版資料が語るカナダ 1535-2007』、有斐閣、2008年発行				
予習・復習について	授業時間と同じ程度の時間の復習が必要				
成績評価の方法・基準	方法：中間レポートと期末レポートで評価する 基準：授業内容の理解の程度（特に、歴史的な事実・地理的事実の相互関連性が理解されているか）				
オフィスアワー	授業時に指示する				
担当教員からのメッセージ	担当教員は日本カナダ学会の会員で、この授業を聞くとカナダへ行きたくなるはず！ ただしカナダのみの特殊事例としてではなく、できるだけ世界・日本で発生している現象と関連づけて講義するので、柔軟な思考の持ち主に受講してほしい				

授業科目名	数理の構造				
担当教員名	赤堀 公史		所属等	工学部	
			研究室	共405	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選択,選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	確率空間、確率分布、大数の法則、中心極限定理、確率過程				
授業の目標	Kolmogorovからはじまる“確率”の公理主義的なアプローチと、そこから展開される基本的内容について概観する;つまり、現代の“確率論”がどんなものかを知る事を目標とする。				
学習内容	“確率論”の基礎的内容について学ぶ. 具体的には, 確率空間, 確率変数, 確率分布, 大数の法則, 中心極限定理などの概念や定理について学ぶ. また, ランダムウォークやブラウン運動の簡単な紹介をはじめ, 確率過程の一端にも触れる.				
授業計画	1回 Introduction～確率とは?～ 2回 確率空間 3回 条件付き確率と事象の独立性 4回 確率変数 5回 期待値と分散～確率変数の積分～ 6回 確率分布 7回 確率変数の分布と独立性 8回 確率分布と特性関数 9回 確率変数列の収束 10回 大数の法則 11回 中心極限定理 12回 ランダムウォーク, ブラウン運動 13回 マルチンゲール1 14回 マルチンゲール2 15回 マルチンゲール理論の応用例				
受講要件	微分積分学に関する知識は前提とする.				
テキスト	特に指定しない				
参考書	「確率論」福島正俊著, 裳華房 「確率と確率過程」楠岡成雄著, 岩波出版 講義中にも適宜参考文献などを紹介する.				
予習・復習について	数学は積み重ねの学問です. 毎回学んだ内容が次の講義の前提となります. そのため, 予習は特に必要ありませんが, 学んだ概念は忘れないように復習しましょう.				
成績評価の方法・基準	講義中に出した課題およびレポートによって評価する.				
オフィスアワー	月曜日の14:25--15:55. これ以外の時間でも用事がない限りいつでも質問などは受け付けます.				
担当教員からのメッセージ	数学的に難しい内容も含まれる場合がありますが, 頑張りましょう.				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	梅本 宏信		所属等	工学部	
			研究室	共 504	
分担教員名					
クラス	情	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	基礎工学、自然科学、環境科学、科学哲学				
授業の目標	担当者が専門とする「化学」は、基礎工学という実学としての側面と自然哲学という純粋科学としての側面をもっている。本講義では、この両方の側面から「化学(科学)」について考えていきたい。また、特に、地球環境を例にとって、現代化学(科学)の果たすべき役割について考える。				
学習内容	銅、鉄、水銀といった身近な物質の化学から始め、「地球温暖化対策」などの複合科学である環境科学まで、具体的な事例をその背後に存在する哲学を交えて講義する。同時に、我々の実生活に欠かせない「化学(科学)の知識」、「科学的ものの考え方」を身に着ける。なお、本講義では、一部を除き、数式の使用は避ける方針であるが、化学式は使用する。				
授業計画	<p>以下に授業内容を掲げる。具体的内容は、受講生の希望によって、変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、基礎工学としての化学と純粋科学としての化学 2. 銅と酸化還元(10円玉とブロンズ像の化学) 3. 鉄と磁性(磁石は日本のお家芸) 4. 水銀と環境問題(科学進歩の立役者との惜別) 5. 環境問題パート2(公害問題から環境問題へ) 6. エネルギーに関する基本法則 7. エネルギー資源1(化石燃料) 8. エネルギー資源2(核エネルギー) 9. 新エネルギー1(太陽光発電) 10. 新エネルギー2(燃料電池) 11. 地球環境問題(地球大気の変遷、酸性雨、温暖化、オゾン層の破壊とフロン) 12. 化学反応動力学と薄膜堆積技術(ちょっと我田引水) 13. みえるものとみえないもの(走査型トンネル顕微鏡からみえてくるもの、みえないものは存在しないか?) 14. 科学と似非科学(カール・セーガンの遺書) 15. 科学者の直感と倫理(メンデル、ミリカン、そしてファン・ウソク(黄禹錫)) 				
受講要件	特に定めないが、本講義では、自ら考え、発言することを求める。				
テキスト	なし				
参考書	<p>芝哲夫「化学物語25講」 化学同人 ISBN4-7598-0776-4</p> <p>今中利信、廣瀬良樹「環境・エネルギー・健康20講」 化学同人 ISBN4-7598-0849-3</p> <p>カール・セーガン「カール・セーガン 科学と悪霊を語る」 新潮社 ISBN4-10-519203-5</p>				
予習・復習について	随時、レポートの課題を示すので、それを期限内に提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、期末試験50%。期末試験は、ノート、参考書持込可で行い、論述式とする。学習度が60%を満たしている者を合格とする。				
オフィスアワー	月曜日の午前8時から9時。これ以外でも受け付けるが、事前にメールで予約することを勧める。				
担当教員からのメッセージ	哲学はすべての学問の基本である。工学も化学も例外ではないことを認識して欲しい。				

授業科目名	生命科学				
担当教員名	杉浦 敏文		所属等	電子工学研究所	
			研究室	電子工学研究所 303	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選択,選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	生理、解剖、生体、医療機器				
授業の目標	<p>“人間とは何か”という、古来より哲人達はその答えを求め続けてきた命題は依然として我々の眼前に屹立している。「考える」ためには身体が必要であるが、身体内部の調整はホルモンと神経で行われており、その指示を出しているのは“脳”である。脳からの指令によって身体状態は良くも悪くもなる。一方で脳自体は脳以外の全ての臓器の働きによって支えられており、それらの状態が脳の働きを左右する。持ちつ持たれつ、である。脳の中で我々の情動、感情、意識及び意志が作られるのであれば、それらを理解するには脳を支えている身体を理解することが大切になる。本講義は身体の働きを知ることを通して生き方を学び、学生諸君が単なる知識人ではなく真の教養人となるきっかけとなることを目標にしている。</p>				
学習内容	<p>生理学 身体各部の構造と働きを解説する。 骨格系、筋肉系、消化器系、呼吸器系、循環器系、神経系等。 随時ビデオ教材を使用する。</p>				
授業計画	<p>1回 ガイダンス (授業の目標, 内容の解説, 成績評価法の説明, 注意事項など) 2回 骨格系と筋肉系 3回 神経系 I ニューロンとシナプス, 自律神経 4回 神経系 II 自律神経, 中枢神経 5回 神経系 III 中枢神経, ビデオ 6回 心臓 I 構造と働き 7回 心臓 II 電気伝導他 8回 呼吸 I 構造と働き 9回 呼吸 II 血液ガス交換他 10回 消化器 I 消化器全般, 胃, 十二指腸 11回 消化器 II 膵臓, ビデオ 12回 消化器 III 肝臓他 13回 消化器 IV 小腸, 大腸, 直腸, 肛門 14回 血液と免疫 15回 胎児の世界</p>				
受講要件	身体に興味のある人、生き方に関心のある人				
テキスト	プリントを用意する。				
参考書	<p>人体生理学ノート (真島英信著、松村幹郎改訂、金芳堂)、標準生理学 (豊田順一監修、医学書院)、図書館にもさまざまな書籍を用意してあるのでそれらも併せて参考にして欲しい。</p>				
予習・復習について	<p>身体に関して興味のあることを予め考えて疑問点を整理しておき、できる限り授業中に質問すること。講義をよく聴き、その日のポイントをしっかりと復習しておくことと良い。</p>				
成績評価の方法・基準	70%以上の出席者に対して試験を行い、60点以上を合格とする。				
オフィスアワー	毎週月曜日午後 4 時～5 時半				

担当教員からのメッセージ	毎回出席し、よく聴き、よく訊き、納得しながら最後まで聴講して欲しい。 自分の頭で考えて、分からないことは質問して欲しい。
--------------	---

授業科目名	電磁気学				
担当教員名	岡部 拓也	所属等	工学部		
		研究室	共通 303		
分担教員名					
クラス	工A	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得				
授業計画	1回 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる） 2回 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述） 3回 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる） 4回 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す） 5回 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる） 6回 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する） 7回 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる） 8回 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる） 9回 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる） 10回 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる） 11回 ビオ・サバールの法則（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、および応用例について述べる） 12回 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる） 13回 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる） 14回 回路の過渡現象（抵抗R、コンデンサーC、コイルLからなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる） 15回 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す）				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」（前田和茂，小林俊雄 著，森北出版）ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」（霜田・近角 編，裳華房）ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」（砂川重信著，岩波書店）ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が70%程度、演習・レポート等が30%程度である。				
オフィスアワー	毎週木曜日の9・10時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				

担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを、藤間、中島がそれぞれ担当する。
--------------	---------------------------------------

授業科目名	哲学				
担当教員名	芳賀 直哉		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育C棟601	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	死生観、自然観、死の理解、尊厳死、生命倫理、ソクラテス、キリスト教、環境倫理、南方熊楠				
授業の目標	生命医療倫理の問題点、死生観の変化、科学技術の将来と人類、地球環境問題など、わたしたちが直面する現代的問題を考えることを通して、哲学という学問がこれまで積み上げてきた知的遺産に誘い、そこから思想史的源泉を汲みながら、自己の生き方・考え方を探究する機会とする。				
学習内容	生物医学技術の進歩の光と闇を認識するとともに、西洋哲学における「生と死」の思想史をひもとき、現代人としての死生観・自然観を形成するための知識を獲得できる学習内容とする。				
授業計画	<p>1. 授業ガイダンス：現代の思想的状況と緊急の課題について</p> <p>< I > 生命倫理と死生観</p> <p>2. 先端生殖技術の問題点・・・体外受精、代理出産、出生前診断など</p> <p>3. 脳死・臓器移植といのちの商品化の問題と患者の権利（インフォームドコンセント）</p> <p>4. 高齢化社会の到来と安楽死・尊厳死について</p> <p>< II > 西欧における死生観の歴史的変遷と現代</p> <p>5. ギリシャ人の死生観・・・ソクラテスの死</p> <p>6. エピクロス、ストア派の死生観</p> <p>7. ユダヤ・キリスト教の死生観</p> <p>8. キリストの死とパウロ、アウグスティヌス、ルター</p> <p>9. 近代における死生観・・・パスカルとモンテーニュ</p> <p>10. 現代思想における死・・・ハイデッガー</p> <p>11. 実存主義とサルトルの死理解</p> <p>12. 宗教とは何か・・・パウル・ティリッヒの“ultimate concern”</p> <p>< III > 自然観と環境倫理</p> <p>13. 自然はどのように観られてきたか・・・自然観の歴史</p> <p>14. 環境思想小史・・・land ethic、自然の権利、deep ecology</p> <p>15. 南方熊楠の環境哲学</p> <p>16. 筆記試験</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。必要な印刷資料等は配付する。				
参考書	授業の中で適宜紹介する。				
予習・復習について	各講義テーマに関する関連図書等を授業レジュメに紹介するので、予め読んでおくと理解の助けとなる。テーマごとに簡単な小レポートを課すので翌週までに作成すること。				
成績評価の方法・基準	各テーマ小レポート（授業内に書くもの含む）40%、期末筆記試験 60%の総合点で評価				
オフィスアワー	研究室が静岡キャンパスなので質問等は授業終了後かメールで。onhaga@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	遅刻をしないで、毎回出席を心がけてほしい。				

授業科目名	ことばと表現				
担当教員名	森本 隆子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時空なのだろう？</p> <p>文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹、ジブリ、ハチクロのサブカルチャーに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。</p> <p>偉大なる人気作家たちは、規範に閉塞せず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが長く近代社会の約束事であった。</p> <p><血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。</p> <p>近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と読んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。</p> <p><幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。</p> <p><アイデンティティ>とは、何だったのだろうか？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情… — 「近代小説」の発生</p> <p>第2～6回 夏目漱石『こころ』— 2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <私的空間>の発生— 純白の愛と性欲と ・ 男たちの絆— 三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・ 「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮— 愛と友情の連続体 <p>第7, 8回 「新しい女」の生成と流通— 夏目漱石 vs. 森鷗外</p> <p>第9, 10回 小津安二郎『麦秋』と家族神話— 性・テキストの見えない中心</p> <p>第11, 12回 村上春樹『ノルウェイの森』— 「まとも」であることの断念・社会からの逃走=闘争</p> <p>第13回 サブカルの世界像— 「ナウシカ」から「ポニョ」へ、国家の退場・女による救済？</p> <p>第14回 女性作家の時代— ばなの「夢のキッチン」と江国の「流しのした」</p> <p>第15回 現代文化の基底— ハチクロの古典性、「やおい」と「セカイ系」が展望するもの</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋をコピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて提示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ること、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	静岡キャンパスからの出講となりますので、授業終了時に声をかけて下さい。				
担当教員からのメッセージ	「作品」を「鑑賞」するのは、高校までの「国語」です。時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」を読解する楽しさを知ってほしい。				

授業科目名	国際社会と日本				
担当教員名	杉山 茂	所属等	情報学部		
		研究室	J-2717		
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	理論、国の「際」、男らしさ、人権、安全保障と治安、人種主義と文化還元主義、敵対的共犯、構造的暴力、フェミニズム国際関係論				
授業の目標	地域生活においてもビジネスにおいても、国民国家の枠組みで人生を全うすることはますます困難になっている。「日本が一番」だと夢想したり幻想のなかに安住したりするのではなく、自分の従来の視点や視野を捉え返し、それを超えて日本社会と海外の問題の同時性に関心を開く契機を提供したい。また、自慰的な日本原理主義・夢想主義を批判する現実主義について、軍事還元主義を批判しつつ評価するとともに、これらに対置する新しい諸視点を気づいてもらう。これらがこの講義の目的である。				
学習内容	国の際に生きるために必要な多様なものの見方、国際問題を見る多様な視点、日本と海外を貫く諸問題(記憶、忘却、連累)に関するさまざまな考え方を触れながら、日本原理主義や国家安全保障マニア——戦争の危機を煽ることによって食い扶持を得ている人々——の言説や、「男らしさ」をめぐる自己憐憫の共同体、敵対的共犯の言説、政治的・経済的・社会的問題を文化や民族、宗教でごまかす言説を批判できる作法を学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抽選ほか雑務 2. 20世紀末の国際情勢の変化と日本社会：東アジアにおける「日本の平和」の終焉 3. 人文・社会科学における理論 4. 現状追認と現実主義：「現実」の多様性・可塑性と既成事実 5. 夢想としての日本原理主義：「現実主義」－「理想主義」と「妄想主義」、統整的理念の役割 6. 新しい国際関係論：「安全保障」に対する批判的国際関係論——「安全・安心」が排除と不安を生み出す逆説 7. 新しい国際関係論：フェミニズム国際関係論——国際関係の中の「女性」 8. 新しい国際関係論：フェミニズム国際関係論——「男らしさ」の操作 8. 人種・民族・文化をめぐる言説と国際関係論——「異」・「文化」・「理解」をめぐる問題と「脱政治化」という政治性 9. 人種・民族・文化をめぐる言説と国際関係論——肌の色によらない人種主義と日本 10. 人種・民族・文化をめぐる言説と国際関係論——「伝統」と「タテ社会論」について <ol style="list-style-type: none"> 11. 敵対的共犯論 12. 「暴力」をめぐる——「暴力装置」および権力 13. 「暴力」をめぐる——構造的暴力・予感としての暴力・抵抗の暴力 14. 国際人権問題と日本——国民の権利と人権 15. 原子力発電・沖縄と日米関係 				
受講要件	特になし。中学校・高等学校における日本史・世界史の学習および新聞を読んだりテレビドキュメンタリー（特にNHKスペシャルやE TV特集）を視聴するように心がけてください。				
テキスト	なし。参考文献を読むようにしてください。				
参考書	国際関係論の新しい視点を知る著作として土佐弘之 『安全保障という逆説』（青土社、2003年）やシンシア・エンロー『策略—女性を軍事化する国際政治』（岩波書店、2006年）を薦める。				
予習・復習について	講義の予習となる短いレポートの提出を求めることがある。				
成績評価の方法・基準	講義中に提出された小レポートと学期末レポートを4：6で評価する。				
オフィスアワー	TBA				
担当教員からのメッセージ	他の講義の中で、国際関係論などの分野に関する最新の研究動向に接触できる機会がほとんど存在しないので、文系の学生の受講／聴講を歓迎します。自分の「生きられた世界」でおきる諸問題が、国境を越えた普遍性を持つテーマにかかわる問題に連なるものであることを考えるようにしてください。				

授業科目名	地球科学				
担当教員名	岩崎 一孝		所属等	情報学部	
			研究室	J-2721	
分担教員名	岩田 太				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	自然地理学、気候学、大気大循環、降水量分布、砂漠、オーストラリア				
授業の目標	大気大循環によってもたらされる様々な気候地域について、自然地理学の立場から解説することをこの授業の第一の目的とする。全陸地面積の3分の1を占めると言われ、砂漠化などの環境の劣化が問題になっている乾燥地域、半乾燥に焦点を当て、オーストラリアを例として、最近の環境問題について解説を試みる。				
学習内容	大気大循環と世界の降水量分布。オーストラリアの自然環境。				
授業計画	1回 授業内容、評価の仕方などの説明。 2回 大気の鉛直構造と水平構造。 3回 大気の大循環と世界の気候分布。 4回 前線帯、気団とアリソフの気候区分。 5回 地図実習。世界の降水量分布。 6回 熱帯の気候 アフリカの気候地域。 7回 地図実習。アフリカの降水量分布。 8回 中緯度の気候 「日本の季節は6つある」。－日本の気候 その1－ 9回 日本の気候 その2 冬季の気候。 10回 乾燥の大陸としてのオーストラリア大陸。 11回 地図実習。オーストラリアの降水量分布。 12回 オーストラリアの自然環境。海洋島としてのオーストラリア大陸。特異な生物相。 13回 オーストラリアの自然環境。平坦な大陸。 14回 オーストラリアの土地利用と砂漠化問題。 15回 授業のまとめ。				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキスト 指定しない。プリントを配布。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	レポート作成においては、授業内容を理解していることを前提にした課題を課します。				
成績評価の方法・基準	学期末のレポートに、授業中に行う3回の地図実習を加味して判断します。評価基準については、第1回目の授業時に説明します。				
オフィスアワー	火曜日昼休み～第5/6時限目、変更の場合は授業中に明示します。				
担当教員からのメッセージ	受講生が授業に毎回出席していることを前提に授業を進めます。				

授業科目名	科学と技術				
担当教員名	平田 邦夫		所属等	工学部	
			研究室	R504	
分担教員名	岩田 太				
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	「科学と技術」では、科学（物理界を支配する理論や原理を明確にする）と技術（科学的な知識を基にして実用的な機械を生産する）の実例を学ぶことにより、科学と技術のかかわりについて学生の理解を深め、今日の高度に発達した科学技術社会に対応する力を養うことを目的とします。				
学習内容	この授業では、機械分野の「ロケットの宇宙飛行」と「光とレーザーの精密計測」を取り上げ、先端技術のロケット、光やレーザーについて、科学（理論：唯一解）の観点と技術（実用：多様解）の観点から解説し、科学や技術に関する教養的基礎知識を習得します。				
授業計画	1. ロケットの宇宙飛行（担当：平田） <ul style="list-style-type: none"> 0.0 受講者の決定・・・抽選作業 1.1 軌道力学・・・宇宙空間とは、人工衛星の飛行軌道 1.2 重力飛行・・・ロケットの飛行経路、誘導制御、打上げ運用 1.3 ロケット・・・ロケットの飛行原理、実用ロケットの技術 1.4 エンジン・・・エンジンの推進原理、実用エンジンの技術 1.5 信頼性・・・ロケットの故障、信頼性の向上 1.6 水素燃料・・・液化水素（未来エネルギー）の特徴、取扱技術 1.7 開発手法・・・ロケット（大型プロジェクト）の技術開発 2. 光とナノテクノロジー（担当：岩田） <ul style="list-style-type: none"> 2.1 光とは・・・光とはどうゆうものか 2.2 反射・屈折・分散・・・身の回りの光の現象から 2.3 干渉・回折・散乱・・・身の回りの光の現象から 2.4 幾何光学・・・レンズと目 2.5 光の放出・・・光はどうやって発生するか？ 2.6 ナノテクノロジー・・・超微小領域での科学技術 2.7 ナノ計測・ナノ加工・・・超微小領域でのモノづくり 				
受講要件	授業に出席し、受講、議論参加、レポート提出に積極的に取り組むことを約束できること。				
テキスト	特にテキストは使用せず、随時プリントを配布します。				
参考書	ロケットを飛ばす（上條謙二郎・平田邦夫共著、オーム社） 光とレーザー（陳・山本、オーム社）				
予習・復習について	授業に関連して予習および復習のレポートを課すので、レポートに十分な時間を費やすことが求められます。				
成績評価の方法・基準	学習に積極的に取り組んだか、教養的基礎事項を理解できたかを評価基準として、記述試験およびレポート提出を勘案して総合的に評価します。				
オフィスアワー	毎週木曜日の5・6時限をオフィスアワーとして設けています。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、現代社会に溢れる高度な科学技術上の事柄を理解する力を養うために、学生が主体的に自らの力で考えて理解する習慣を身に付けることに重点を置きます。				

授業科目名	ドイツ語B-a				
担当教員名	中尾 健二		所属等	情報学部	
			研究室	J-2811	
分担教員名					
クラス	情1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火5・6
キーワード	楽しいドイツ語				
授業の目標	運用能力に力点をおいたドイツ語能力初級の習得。				
学習内容	平易な会話とテキストにもとづいて、日常生活で使用される頻度の高いドイツ語表現を中心に学習する。さらにCDによる聴取訓練を繰り返すことにより、基礎的な聴く・話す能力の獲得を目指す。文法項目の出現は、ほぼドイツ語Aとシンクロしているが、この科目では運用能力に力点をおく。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 ドイツ語はどんな音？（1） 3回 ドイツ語はどんな音？（2） 4回 互いに紹介 5回 何をするのが好き？ 6回 友達を紹介する 7回 duとSie 8回 部屋で 9回 中間まとめと中間試験 10回 きょうだいはいますか？ 11回 誕生日に 12回 買い物 13回 StudentとSchueler 14回 ドイツ語圏の文化と社会1 15回 ドイツ語圏の文化と社会2				
受講要件	とくになし。この科目は選択ですが、必修のドイツ語をとった学生は、必ずこの科目も履修することが望ましい。				
テキスト	近藤弘他『Dialog-ドイツ語へのキックオフVer. 5』郁文堂 2, 500円				
参考書	とくに必要なし。ただしドイツ語Aと同様独和辞典は必須。書籍版を購入すること。				
予習・復習について	予習は必須。それを前提に授業は展開されます。教科書についているCDを活用してください。				
成績評価の方法・基準	日常点（中間試験等を含む）50%+期末試験50%				
オフィスアワー	火曜日と金曜日の昼休み、その他メールでアポイントメントをとってください。				
担当教員からのメッセージ	英語だけからは世界は見えません。少なくとももう一つ。				

授業科目名	線形代数学 I および演習				
担当教員名	中島 徹	所属等	工学部		
		研究室	共 403		
分担教員名					
クラス	工 6	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6,火 7・8
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。 2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。 3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。 4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。 5、平面上の一次変換と2次正方行列との関係を理解する。 6、2次および3次の行列式の取り扱いに慣れる。 7、固有値・固有ベクトルを求め、2次対称行列の対角化ができるようになる。 				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な2本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 平面ベクトル・平面図形 2回 空間ベクトル、外積とその性質 3回 ベクトルの一次独立・一次従属 4回 空間内の直線 5回 空間内の平面 6回 一次変換の定義と例 7回 より複雑な一次変換 8回 一次変換の像 9回 逆変換と行列式 10回 一次変換と連立一次方程式 11回 面積・体積と行列式 12回 2次対称行列の固有値・固有ベクトル 13回 2次対称行列の対角化 14回 2変数の二次形式 15回 2次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」「数学 C」のすべてを履修していること。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。</p> <p>秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。</p> <p>優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。</p> <p>良＝線形代数学の基礎を十分理解している。</p> <p>可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。</p> <p>不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の2回試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	原田 伸一郎	所属等	情報学部		
		研究室			
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	立憲主義、リベラル・デモクラシー、個人主義、人権、統治機構				
授業の目標	この講義は、日本国憲法の内容や、それにまつわる議論の紹介を通じて、日本国憲法の全体像を理解することと、およそ憲法とは何か、憲法がなぜ必要なのかを原理的に思考することをねらいとしています。到達目標は、憲法について、中学・高校での学習よりも理解を深めるとともに、新しい見方・パースペクティブをも獲得することです。				
学習内容	下記の予定で、ほぼテキストの構成に沿って授業を行います。テキストの内容を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。授業では、テキストの内容を踏まえたうえで、その問題意識や議論の争点を、より正確に、多面的に理解できるよう、さまざまな素材を提供します。それらを思考のヒントとして、憲法が個人の生き方とどう関わるのか、自分なりに考えていただきたいと思います。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 オリエンテーション／立憲主義 3回 表現の自由 4回 学問の自由／信教の自由と政教分離 5回 財産権／職業選択の自由 6回 人身の自由 7回 社会権 8回 参政権 9回 平等 10回 包括的基本権 11回 誰の権利を保障するのか 12回 代表民主政の原理 13回 代表民主政の機構 14回 平和主義 15回 憲法の改正				
受講要件	特にありません。				
テキスト	長谷部恭男、『憲法入門』、羽鳥書店、2010、9784904702055、2200円＋税				
参考書	授業時にその都度紹介します。				
予習・復習について	テキストの該当する部分を読んでください。1回につき10ページ前後です。テキストを読んでから授業を受けるか、授業を受けてからテキストを読むか（あるいはその両方か）は自由です。				
成績評価の方法・基準	平常点40%、学期末試験60%とします。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーの提出により評価します。試験では、憲法に関する知識・理解度と、思考力・論述力の双方を評価します。				
オフィスアワー	メールで連絡していただければ随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	この授業をきっかけとして、どうか自分なりの「憲法観」を築いてください。それが私の望みです。				

授業科目名	歴史と文化				
担当教員名	伊藤 宏二		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟611	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	西洋史、近世、国家形成				
授業の目標	ヨーロッパ諸国の国家・国境の形成を歴史的に振り返り、ヨーロッパという空間が多様な世界として成り立っている現状の背景や本質を理解する				
学習内容	ヨーロッパ世界において、それまで曖昧なものであった国境線を明確化しようとする動きが激しくなるのは近世（16～18世紀）であった。それは主権が及ぶ領域の確定を意味し、近代国家の枠組みを生み出す運動であったため、多数の対立を引き起こした。しかしその中からヨーロッパ世界の多様性も生み出されたのである。本講義ではそうした多様なヨーロッパ諸国の成立状況を概観する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス絶対主義 3. ハプスブルク帝国 4. 大西洋帝国スペイン 5. 経済大国オランダ 6. 未生の近代国家神聖ローマ帝国 7. 貴族の共和国ポーランド 8. オスマン帝国とバルカン 9. 軍事国家スウェーデン 10. 入欧するロシア帝国 11. ヘゲモニー国家イギリス 12. 孤立した島国アイスランド 13. 移植されたヨーロッパ世界アメリカ 14. 三十年戦争 15. ヴェストファーレン条約 				
受講要件	歴史、国際社会に興味を持つ者				
テキスト	特に使用せず、プリントを配布する				
参考書	毎回の授業用プリントに記載するので、興味を持った国・テーマを深く知りたい時には図書館や書店を通じて利用・購入すべし。				
予習・復習について	予習については、ヨーロッパの国名・地名に詳しくない者は、地図帳等を携行するか、講義を受ける前に国名・地名等を確認しておくこと。また、高校時代の世界史よりは踏み込んだ内容になるので、世界史の教科書で関連する部分を確認し、講義の内容がどう深まっているか、あるいはどう違うかについて、考えられる準備をするのが望ましい。復習については、配布プリントに記載された参考文献に目を通すのが望ましいが、最低限、理解できなかった部分を高校世界史の教科書や参考書等で確認すること。				
成績評価の方法・基準	毎時間実施する小課題と期末レポートから総合的に判断する				
オフィスアワー	講義者が静岡からの出張になるため、授業直後に申し出るか、メール（ ekitou@ipc.shizuoka.ac.jp ）で連絡をすること				
担当教員からのメッセージ	歴史というと暗記というイメージを持つ人が多いかもしれませんが、用語や人物を覚えることが目的ではなく、本講義でもそれを求めません。しかし聞きなれない人名・地名や用語が出てきて馴染みにくくわかりにくい部分があるのも確かで、遠い国の無関係な過去としてただ聞くだけになってしまうとつまらないものになってしまうでしょう。講義では日本について直接触れることはほとんどないですが、講義の内容を各自が日本の歴史と比較したり、現在の国際社会やその中で日本の位置付けなどを考えていく材料にしてほしいと願っております。要は皆さんにとって身近な問題と関連付けて考える意識を持って聞いてもらい、小課題で自分の考えを述べたり疑問をぶつけてくれればそれでよいのです。				

授業科目名	経済と社会				
担当教員名	高口 鉄平	所属等	情報学部		
		研究室			
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	経済問題、さまざまな政策、経済学				
授業の目標	日々、経済に関するさまざまな政策が立案、施行されている。それらの政策はどういう考えに基づいて立案されているのか。それらの政策はほんとうに望ましいのか。この授業では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする政策に対して自分なりの検討ができるようになることを目指す。				
学習内容	経済学と一口に言っても、考え方を異にするさまざまな経済学が存在する。また、歴史的に見ると、これまで支持される経済学は変わってきた。この授業では、現在中心的な存在となっているミクロ経済学・マクロ経済学を中心にその考え方を解説するが、その他の経済学についても可能な限り取り上げる。特定の経済学を深く学ぶよりも、さまざまな経済学を幅広く知ることができるような内容とする。また、理論的な解説に終始することなく、時事問題を取り上げ、経済学が現実の問題を考えるうえで一定の有効性があることを実感できるような内容とする。				
授業計画	<p>授業の構成はつぎのとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（1回） ・経済学とはなんだろうか（1回） ・ミクロ経済学の考え方（4回） ・マクロ経済学の考え方（4回） ・新たな経済学①：組織の経済学（3回） ・新たな経済学②：行動経済学、実験経済学（1回） ・経済学に対する批判（1回） <p>回数の割り当ては、授業の進行により適宜調整する。</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	毎回、復習および授業内容に対する自分なりの検討を行うことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	数回実施するレポートにより評価する。				
オフィスアワー	随時対応しますが、事前にアポイントメントをとってください。				
担当教員からのメッセージ	関心の中心は他にあるかと思いますが、経済にも興味を持ってくれることを期待しています。				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	中 正樹	所属等	情報学部		
		研究室	J2831		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	社会問題、現代社会、社会学				
授業の目標	<p>私たちは社会について「知っている」つもりでいる。けれども、「それでは社会とは何か」と質問されたら、恐らくは返答に困るのではないだろうか。社会にはかたちがなく、実感することができない。私たちは個人的な経験とマスメディアから得た知識をもとに社会を想像しているに過ぎない。以上のような前提のもと、本授業においては「社会とは何か」の答えを探す学問である「社会学」を学ぶことを通して、現代の社会についての理解を深めることを目標とする。</p>				
学習内容	<p>社会学は日常化された「ものの見方」からではなく、新しい「ものの見方」から社会を理解することを試みる。授業では、そうした新しい「ものの見方」を紹介しつつ、社会学の基本的な知識と理論について社会のさまざまな領域における身近なトピックを通じて学んでいく。</p>				
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 2回 社会学の視点 3回 意思決定と行為 4回 集団と規範 (1) 5回 集団と規範 (2) 6回 家族と結婚と性 7回 職業と就職 8回 都市と人間 9回 社会階層と社会移動 10回 権力と参加 11回 科学時代の宗教 12回 スポーツの社会学 13回 メディアと疑似現実 14回 高齢化と社会福祉 15回 国際化と日本</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	中野秀一郎『ソシオロジー事始め』[新版] (有斐閣ブックス、2005年)				
参考書	伊藤公雄・橋本満『はじめて出会う社会学』(有斐閣アルマ、1998年)				
予習・復習について	毎回の授業において、テキストの該当箇所をあらかじめ目を通しておくこと。				
成績評価の方法・基準	<p>①期末試験の配点を70%、随時実施する小レポートの配点を30%とする。 ②期末試験は自筆ノートのみを持込可とする。複写、印刷物は認めない。 ※毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。 ※出席にあたり、代返行為が認められた場合には厳しく対処する。</p>				
オフィスアワー	水曜日 5・6限 (12時45分～14時15分) を予定。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	心理学				
担当教員名	漁田 武雄	所属等	情報学部		
		研究室	J-2525		
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	自己理解、学習、自己、自我				
授業の目標	この講義では、「自分を知る」ということをテーマとして、心理学の基礎理論やそれを実証するために行われた実験を理解することを目的とする。				
学習内容	<p>心理学は「こころ」の科学である。すなわち、研究対象が「こころ」、研究方法が「科学」という学問である。科学とはいうものの、「こころ」という得体の知れないものを対象としているだけに、なかなか一筋縄では行かない。またそれが心理学の楽しさでもある。</p> <p>また、これらの基礎理論や実験とともに、現実場面へのさまざまな応用例も取りあげる。まだまだわからないことだらけの心理学であるが、これまでに明らかになってきた「こころ」の法則は、教育や治療などの世界で応用され、着実な成果をあげている。</p>				
授業計画	<p>オリエンテーション この講義について、評価の方法、レポートの書き方、受講のQ&A</p> <p>第1章 自分の心 自分の感情 感情の認知説、デートはつり橋で 自分の心と体 空腹感、ダイエット、拒食症 自分の目と他人の目 ごほうびの効果、勉強しなさい</p> <p>第2章 心の形成 パブロフの条件反射 因果関係スキーマ、恐怖の学習、恐怖症の治療 オペラント条件づけ ほめること叱ること、無気力の学習、トイレット・トレーニング 観察学習 テレビと暴力、体罰 学習と目標 算数嫌いがなおった</p> <p>第3章 自己と自我 自我の機能 認知、適応、統合 適応 ストレス、防衛機制 自我同一性 アイデンティティ、多重人格 自己概念 ロジャースの理論、カウンセリングの基礎</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	テキストは使用せず、資料としてプリントを配布する。				
参考書	参考書は、オリエンテーションの際に、参考図書リストを配付して解説する。				
予習・復習について	毎回復習することが望ましい。そうすればレポート作成も楽になる。				
成績評価の方法・基準	3回のレポートによって評価する。各レポートのテーマ、配点、書き方のポイント等は、オリエンテーションの際に、プリントを配布して解説する。				
オフィスアワー	原則として随時。電子メールによる質問も可。詳細は、オリエンテーションの際に紹介する。				
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。				

授業科目名	数学の世界				
担当教員名	白井 靖人		所属等	情報学部	
			研究室	J-2605	
分担教員名					
クラス	情	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	数学、論理的思考、方程式、ガロア理論				
授業の目標	<p>日本では、数学はどちらかといえば嫌われ者です。それは、英語圏でも同じです。恐らく、他の文化圏でも同様なのでしょう。それなのに、どの国の教育課程にも数学が含まれています。ということは、数学というのは、忍耐を身につけるための苦行の場なのでしょう？</p> <p>そんなことはありません。人類の歴史で、これだけ長い間（一部の？）人々を魅了してきた学問はないかも知れません。そう、数学は魅力的なものなのです。それに、信じられないかも知れませんが、（入試で点を稼ぐ以外にも）大いに役に立つのです。</p> <p>この授業の目標は、皆さんに、点数を稼げるようになってもらうことではなく、数学の楽しさを感じてもらうことです。</p>				
学習内容	<p>中学生になり算数が数学になった頃、新しく登場したのが“方程式”でした。「2次方程式の解は、ニエーブンノマイナスビープラスマイナス・・・」などと、おまじないのように覚えたものでした。</p> <p>そういえば、1次方程式と2次方程式については解の公式を習ったけど、3次方程式や4次方程式、それに5次方程式なんかは、どうなっているんだろう・・・と思ったことはありませんか？</p> <p>今年の「数学の世界」では、方程式と解との関係を考えてみることにします。（希望があれば、その他のテーマについても取り上げてみたいと考えています。）</p>				
授業計画	<p>教科書やその他の書籍等を参考に、対称性、群、複素数などといった話題を交えつつ、ガロア理論の世界をさまよってみたいと思います。</p> <p>授業の進め方については、講義を中心とした形、または受講者による発表を中心とした形などを考えています。どちらにするかは、受講者数や受講者の意見を基に決めることにします。</p>				
受講要件	数学に対する興味と関心、遊び心、明るさ、積極性、そして忍耐力を備えていること				
テキスト	初回授業時に指示します。				
参考書	<p>小島寛之「天才ガロアの発想力」技術評論社</p> <p>金 重明「13歳の娘に語るガロアの数学」岩波書店</p>				
予習・復習について	<p>授業方法によって異なります。</p> <p>講義中心であれば復習が、発表中心であれば予習が主として必要になるでしょう。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>授業の進め方によって変わってきます。</p> <p>講義中心であれば、試験またはレポートによって行うことになるでしょう。</p> <p>発表中心であれば、主として、発表や討論をとおしての授業への参加を考慮して行うことになるでしょう。なお、その場合でも、必要と判断すれば、試験またはレポートを課すことがあります。</p>				
オフィスアワー	初回授業時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	数学が得意である必要はありません。しかし、数学に関心がある人、そしてその関心のためなら色々調べたり考えたりすることを厭わない人の受講をを期待します。				

授業科目名	線形代数学 I および演習				
担当教員名	中島 徹	所属等	工学部		
		研究室	共 403		
分担教員名					
クラス	工 4	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6,水 7・8
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。 2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。 3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。 4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。 5、平面上の一次変換と2次正方行列との関係を理解する。 6、2次および3次の行列式の取り扱いに慣れる。 7、固有値・固有ベクトルを求め、2次対称行列の対角化ができるようになる。 				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な2本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 平面ベクトル・平面図形 2回 空間ベクトル、外積とその性質 3回 ベクトルの一次独立・一次従属 4回 空間内の直線 5回 空間内の平面 6回 一次変換の定義と例 7回 より複雑な一次変換 8回 一次変換の像 9回 逆変換と行列式 10回 一次変換と連立一次方程式 11回 面積・体積と行列式 12回 2次対称行列の固有値・固有ベクトル 13回 2次対称行列の対角化 14回 2変数の二次形式 15回 2次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」「数学 C」のすべてを履修していること。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。</p> <p>秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。</p> <p>優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。</p> <p>良＝線形代数学の基礎を十分理解している。</p> <p>可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。</p> <p>不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の2回の試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	梅本 宏信	所属等	工学部		
		研究室	共 504		
分担教員名					
クラス	工M2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	木1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に应用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9；絶対わかる量子化学、齋藤勝裕（講談社） ISBN4-06-155056-X</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	植田 一正	所属等	工学部		
		研究室	共通棟 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)		
分担教員名					
クラス	EM1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験 (8 回目) を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田真吉 共著 (培風館) ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1 「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2 「物理化学」、関一彦著 (岩波書店) シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著 (化学同人) ISBN4-7598-1020-X ; 化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳 (東京化学同人) ISBN4-8079-0334-9 ; 絶対わかる量子化学、齋藤勝裕 (講談社) ISBN4-06-155056-X				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員 (植田、梅本、平川) が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	植田 一正	所属等	工学部		
		研究室	共通棟 5 階 507 室（不在時は 511 室も）		
分担教員名					
クラス	工 C 2	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置（1） 原子と分子 2 原子の構造と電子配置（2） 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性（1） 周期律 4 元素の周期性と属性（2） 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門（1） 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門（2） 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合（1） 共有結合と電子式 9 共有結合と配位結合（2） 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造（1） 混成軌道 11 共有結合分子の構造（2） 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合（1） イオン結合 13 イオン結合と水素結合（2） 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学（1） 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学（2） 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人）ISBN4-8079-0334-9；絶対わかる量子化学、齋藤勝裕（講談社）ISBN4-06-155056-X</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	電磁気学				
担当教員名	岡部 拓也	所属等	工学部		
		研究室	共通 303		
分担教員名					
クラス	工M2	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得 				
授業計画	<p>1回 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる）</p> <p>2回 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述）</p> <p>3回 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる）</p> <p>4回 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す）</p> <p>5回 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる）</p> <p>6回 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する）</p> <p>7回 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる）</p> <p>8回 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる）</p> <p>9回 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる）</p> <p>10回 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる）</p> <p>11回 ビオ・サバールの法則（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、および応用例について述べる）</p> <p>12回 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる）</p> <p>13回 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる）</p> <p>14回 回路の過渡現象（抵抗R、コンデンサーC、コイルLからなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる）</p> <p>15回 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す）</p>				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」（前田和茂，小林俊雄 著，森北出版）ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」（霜田・近角 編，裳華房）ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」（砂川重信著，岩波書店）ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が70%程度、演習・レポート等が30%程度である。				
オフィスアワー	毎週木曜日の9・10時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				

担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを、岡部、中島がそれぞれ担当する.
--------------	---------------------------------------

授業科目名	離散数学				
担当教員名	中谷 広正	所属等	情報学部		
		研究室	J-1605		
分担教員名					
クラス	情CS	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金1・2
キーワード	集合、関数、論理、関係、順序、グラフ、代数系				
授業の目標	集合・写像・論理・関係・グラフ理論・代数系などの概念を講義し、離散数学の考え方・証明法を教授する。集合論を理解した上で、その上に定義された概念を理解し、定義・定理・原理の抽象的表現から共通の性質を見いだす能力を養成する。これにより、情報の分析能力および論理的思考能力・理解力・表現力・問題解決能力の養成の基盤を形成することが本科目の目的である。情報科学専門家として問題を表現するときや解決法を表現するときに基本的な道具としてそれらを使えるようになることが目標である。				
学習内容	1. 集合と論理 集合・集合の演算・要素の個数・命題・論理演算・論理式・証明 2. 関係と写像 関係・直積集合・関係の表現・同値関係・写像・置換・可付番集合 3. 代数系 代数系・交換律と結合律・単位元と逆元・半群・群・巡回群・対称群・環・体・多項式環 4. 順序集合と束 半順序と全順序・ハッセ図・上限と下限・束・ブール代数 5. グラフ グラフ・経路・いろいろなグラフ・平面的グラフ・オイラーグラフ				
授業計画	1. 論理計算 2. 離散集合 3. 写像 4. 剰余演算 5. 離散代数 6. 離散代数 7. (試験) 8. (復習) 9. 離散関係 10. 離散関係 11. 離散グラフ 12. 木グラフ 13. 順序の数学 14. (試験) 15. (復習)				
受講要件					
テキスト	小倉久和, はじめての離散数学, 近代科学社, 2011. ISBN978-4764910546				
参考書	石村園子, やさしく学べる離散数学, 共立出版株式会社, 2007. ISBN978-4-320-01845-4 Seymour Lipschutz, マグロウヒル大学演習 離散数学, オーム社, 1995. ISBN4-274-13005-3 M. A. アービブ他, 計算機科学入門, サイエンス社, 1984. ISBN 978-4-7819-0375-0				
予習・復習について	復習: 学習項目に関して教科書にある演習問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	小試験・定期試験・報告書の成績を合計する。				
オフィスアワー	木金 12:30-13:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	こころの深層				
担当教員名	太田 裕一	所属等	保健センター		
		研究室	浜松合同棟 1 号館 1 F		
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード					
授業の目標	臨床心理学、民俗学、社会学などの学問を借りつつ、いつも違う視点からものを眺め、考えてみることを通じて、与えられた問題に対する解答を見つけ出すのではなく、「問題」そのものを発見することの重要性について学びたいと思います。 学習内容 主にアニメーションを題材にして、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを新たな角度から解釈し直します。				
学習内容	主にアニメーションを題材にして、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを新たな角度から解釈し直します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「アルプスの少女ハイジ」の象徴表現 2. 「アルプスの少女ハイジ」とヒステリー 3. 「となりのトトロ」の象徴表現 4. 「パンダコパンダ」と異類婚 5. 「千と千尋の神隠し」と父親はなぜ暴走する 6. 「おジャ魔女どれみ」における鏡の役割 7. 「おジャ魔女どれみ」と情緒的恒常性の確立 8. 「秒速5センチメートル」における幻想の北関東 9. 戦隊ヒーローの名乗りの意味 10. 「デジタルモンスター」におけるずれの表現 11. 「ぼくらの」と家族/集団療法 12. 「新世紀エヴァンゲリオン」とトラウマ 13. 「魔法少女まどか☆マギカ」と罪悪感 <p>内容は皆さんの毎回のレポートの希望を取りいれて適宜、変更します。</p>				
受講要件	アニメーションが好きで、レポートを毎回提出する意欲のある人。				
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	<p>毎回電子メールによる小レポート(400字以上)、学期末に最終レポートを提出してもらい評価します。最終レポートが提出できるのはミニレポートを2/3以上提出している人に限ります。成績の比率はS:A:B:C:D=1:2:5:1:1を目安にしています。レポートをきちんと提出すれば単位はとれますが、よい成績がほしい場合はレポートに力をいれないと難しいでしょう。</p> <p>学期末レポートの題は「自分の好きなアニメの分析」などを考えています。</p> <p>自分自身のオリジナルなものの見方や感覚を評価します。講義のまとめをレポートに書く必要はありません。インターネットのコンテンツを無断転載(コピー&ペースト)した人は基本的に不可とします。</p>				
オフィスアワー	オフィスアワーは学生相談室の太田担当の開室日(月曜と金曜 1:30-5:00の予定)とします。カウンセリングの予約がはいっていることも多いので、できれば電子メール(hyoota@ipc.shizuoka.ac.jp)で連絡を取ってからの方が確実です				
担当教員からのメッセージ	過去の抽選状況は抽選がある年が半分くらいありました。優先シールを使えば受講できる可能性が高いですが、使わない人は抽選になるかもしれません。新鮮な視点を提供してくれる受講生の方をお待ちしています。				

授業科目名	エネルギーと環境				
担当教員名	大矢 恭久		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (奥野) 2. エネルギー・環境問題(2) (奥野) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (奥野) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電：豊住) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電：豊住) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電：豊住) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：東) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) 				
受講要件	特になし				
テキスト	【基礎講座】エネルギーと地球環境				
参考書	原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	ことば				
担当教員名	近藤 真	所属等	情報学部		
		研究室	J-1313		
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード	コミュニケーション、言語学、自然言語処理、認知科学				
授業の目標	ことばは人間が生得的に備えている能力のひとつであり、すべての人々のあらゆる知的活動にことばが関わっていると言える。この講義では、私たちの日常生活に遍在することばにあらためて関心を向けることによって、ことばについての認識を深めることを目標とする。				
学習内容	授業では、ことばの本質についての理論的取り組み、情報技術的取り組み、コミュニケーションにおけることばの働きなどに焦点をあて、各講師が言語学、情報科学、認知科学といった視点から、ことばの諸側面について概説する。				
授業計画	<p>北澤（工学・音声処理）、竹内（認知科学）、田村（言語学）、近藤（言語学）、の4名が分担して講義を担当する。</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回・第3回：コミュニケーションにおけることばの役割とその特徴（近藤）</p> <p>第4回・第6回：言語のリズムについての情報科学的アプローチ（北澤）</p> <p>第7回・第9回：ことばの文法についての理論的アプローチ（近藤）</p> <p>第10回・第12回：ことばの意味についての理論的アプローチ（田村）</p> <p>第13回・第15回：ことばのコミュニケーションについての認知科学的アプローチ（竹内）</p> <p>※各講師の順序および担当回数は変更される場合がある。</p> <p>【各教員への連絡方法について】</p> <p>各教員への連絡は、メールを利用すること。直接、話をしたい場合でも、まずメールでアポイントを取ること。</p> <p>北澤： kitazawa@inf.shizuoka.ac.jp</p> <p>竹内： takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp</p> <p>田村： tamura@inf.shizuoka.ac.jp</p> <p>近藤： mkondo@inf.shizuoka.ac.jp</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	各講師が必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介する。				
予習・復習について	各トピックの講義では、そのトピックに関する前回の講義内容を理解していることが前提となって講義が進められる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するよう努めること。				
成績評価の方法・基準	各トピックごとにレポートを課し、各レポートをそれぞれ20%とし、それらの合計点で評価する。 ※未提出のレポートがある場合には、提出されたレポートの合計点に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは水曜5・6時限。各教員への連絡方法は授業計画欄を参照。				
担当教員からのメッセージ	普段、あたりまえのように使っていることばを見直すことが、みなさんの知的好奇心を刺激することを願っています。				

授業科目名	浜松市の交通を考える				
担当教員名	戸田 三津夫		所属等	工学部	
			研究室	C 西 4 0 6	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード					
授業の目標	これから出生数の減少により若年人口が減り、日本国民の年齢構成が変化することにより高齢化が進む。産業構造の変化、CO2削減圧力、石油枯渇など、日本と浜松市を取り巻く環境はこれから激変する。それを乗り越えるには何が必要だろうか。この講義では、政令指定都市となった浜松市が、行政の効率化と自動車に頼らなくても大丈夫な交通を実現するためにコンパクトシティと公共交通の拡充を目指す必要があることなどを紹介する。受講生諸君にそれらを学んだのちに、講義の最終回までに自由な発想で今後の浜松や日本の未来を考え、活発に論じてもらうことを目標とする。				
学習内容	浜松を取り巻くさまざまな状況：産業や交通の歴史、技術、エネルギー、経済、環境に関する事柄を学ぶ。そのことから将来の浜松市を予測し、想定される問題点をいかに解決してゆくべきかを考え、交通を軸とした都市デザインを各自が考え発表する。				
授業計画	1回 講義内容とスケジュールの紹介（戸田） 2回 交通と文明、近代都市と交通が支える物流、経済と環境への影響（戸田） 3回 動力の歴史と交通（人力、風、家畜、エンジン、モータ）（松田） 4回 交通がもたらす災い：社会的費用：交通事故、環境被害（武田） 5回 日本と浜松の交通史（戦前くらいまで）（戸田） 6回 日本と浜松の交通史（戦後くらいから現在まで）（塩川） 7回 交通装置の主役たち：自動車とは、鉄道とは、航空機とは、船舶とは（戸田） 8回 浜松市の現状と将来予測：高齢化、工場の移転、モータリゼーション、高齢ドライバー、中心市街地空洞化、大型ショッピングセンター乱立、交通事故政令市ワースト、財政の不安、浜松市の将来ビジョン（戸田） 9回 西遠都市圏の都市計画と交通：パーソントリップ調査をふまえて（未定） 10回 交通と環境負荷（松田） 11回 世界のLRTとその機能と可能性（栗田） 12回 浜松型次世代交通システムの提案（内田） 13回 浜松型交通のデザイン（河岡） 14回 浜松と日本の未来を語る1（受講生によるアイデア、プランの発表と討論1） 15回 浜松と日本の未来を語る2（受講生によるアイデア、プランの発表と討論2）				
受講要件	浜松市の市政に関心のある学生の受講を望む。都市の運営や計画に関心のある人、地元公務員志望、鉄道だいすき人、自動車産業への就職希望者、自転車ツーガキスト（造語）など、歓迎です。				
テキスト	定めません。				
参考書	テーマが非常に多岐にわたるため、各自が探して下さい。問い合わせをいただければ紹介もします。浜松分館には交通や都市運営の関連書籍を用意しました。和地山公園の城北図書館も利用して下さい。				
予習・復習について	日ごろから講義内容に関することに問題意識を持って生活して下さい。自転車交通、高齢者の交通事故、インフラの維持、第二東名、中央リニア、東海地震、富士山噴火、地方財政逼迫ほか。				
成績評価の方法・基準	期末試験はしませんが、随時小テストなどを行います。				
オフィスアワー	特に定めません。メールしてから来て下さい。tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	自動車など輸送機メーカーへの就職を希望している人、公務員となって都市政策にたずさわりたいことを希望している人には役立つと思います。浜松市広報物（広報 はままつ、HP パブリックコメント情報など）、電車やバス・駅の広告、新聞記事、雑誌など情報に気を配っておいて下さい。				

授業科目名	異文化と出会う				
担当教員名	許山 秀樹		所属等	情報学部	
			研究室	J-2805	
分担教員名	中尾 健二				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード	多言語、多文化、自言語、自文化、多文化共生社会、方言				
授業の目標	英語のみに偏らず、さまざまな言語と文化を知ること、グローバルな視野の獲得をめざすと同時に、地球社会の中にある日本語と日本文化に関する認識を深めます。				
学習内容	下記学習計画を参照。()内は担当教員名。				
授業計画	<p>【1】 ガイダンス (許山、中尾)</p> <p>【2】 英語圏1 (浜村) [テーマ: 米国の宗教と学問 内容: 米国の宗教の歴史を概観して、宗教と学問の関係を探る。]</p> <p>【3】 英語圏2 (堀内) [テーマ: ことばと文化の比較対照 内容: 英語と日本語の対照的特徴を手がかりに英語圏と日本語圏の文化的特徴を探る。]</p> <p>【4】 ドイツ語圏 (中尾) [テーマ: ヤスクニとノイエ・ヴァッヘ 内容: 日独の記念碑や追悼施設を比較することによって、日独の政治文化の差異を意識化する。]</p> <p>【5】 フランス語圏 (田中) [テーマ: アルザス地方の歴史と文化 内容: フランスとドイツの支配を交互に受けながら、独自色を培ってきたアルザス地方の歴史と文化を紹介します。]</p> <p>【6】 ケルト語圏1 (森野) [テーマ: ブリテン諸島の少数言語と少数民族 内容: ゲール語とウェールズ語をとりあげ、それら言語の成り立ち、歴史的・社会的背景を知る。]</p> <p>【7】 ケルト語圏2 (森野) [テーマ: 多言語と多文化 内容: アイルランドとウェールズにおける二言語併用 (英語と少数言語) の意味について考える。]</p> <p>【8】 中国語圏1 (許山) [テーマ: 漢字の伝来と日本語 内容: 中国から漢字がもたらされて日本語はどのような影響を受けたか、音声・文化面などから考える。]</p> <p>【9】 中国語圏2 (許山) [テーマ: 新文化と新語 内容: 西洋から新しい文化がもたらされた時、漢字文化圏はどのように対応したかを学ぶ。]</p> <p>【10】 韓国語圏1 (金) [テーマ: ハングルと韓国語の日常会話 内容: ハングル文字の成り立ちと仕組みを知り、現在韓国で使われている簡単な日常会話を学ぶ。]</p> <p>【11】 韓国語圏2 (金) [テーマ: 日本と朝鮮半島の交流史 内容: 古代から現在にいたる日本と朝鮮半島間のヒト、モノ、情報を介した繋がりを概観する。]</p> <p>【12】 ポルトガル語圏1 (鈴木) [テーマ: ポルトガル語の挨拶と基本文型 内容: 挨拶や自己紹介などの簡単なフレーズからポルトガル語の基礎的な文型を学ぶ。]</p> <p>【13】 ポルトガル語圏2 (鈴木) [テーマ: ブラジル社会での日系人の歴史と役割 内容: 伯国社会で信頼高い日系人、歴史的背景やその足跡から多文化共生社会に役立つものを学ぶ。]</p> <p>【14】 日本語圏1 (袴田) [テーマ: 日本人にとっての日本語 内容: 自分がどんな日本語を知っているか、どうやって身につけたかを意識化する。]</p> <p>【15】 日本語圏2 (袴田) [テーマ: 方言と文化 内容: 自分が使う方言を振り返り、どんな文化が影響を与えるのかを考える。]</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	各担当教員の指示に従ってください。				
予習・復習について	ガイダンス時における注意事項に留意し、各担当教員の指示に従ってください。				
成績評価の方法・基準	各担当教員が授業時間内に10点満点でミニ・レポートを課す。担当する教員は全員で9名ですので、ミニ・レポート分が小計90点満点となります。これに期末レポート60点満点を加算し、合計150点満点を100点満点に換算し、最終評価とします。				
オフィスアワー	各担当教員にメールで問い合わせてください。				

担当教員からのメッセージ	特に許可された場合を除き、パソコン・携帯電話・その他、授業に関係ない物を授業中に使用しないこと。授業内容が多彩、多岐にわたるので、欠席せずにしっかり内容を理解してください。なお担当教員の事情により順番が入れ替わる可能性があることを予めご了解ください。
--------------	---

授業科目名	地震防災				
担当教員名	前田 恭伸	所属等	工学部		
		研究室	A423		
分担教員名					
クラス		学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地震災害、防災、減災、災害対策、地震予知、危機管理、防災教育				
授業の目標	地震防災は、さまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは、必要不可欠である。地震に備えて普段から何をしておくべきなのか、また地震発生時には何をすべきなのか、地震発生時に生き延び、さらに社会に貢献できるように、地震防災科学を総合的に学ぶ。				
学習内容	東海地震の想定震源域内にある静岡大学で作られた体系的地震防災教育プログラムであり、東海地震とその防災に関する基礎知識を学際的に学ぶことができる。本講義の特徴をまとめると以下の2点になる。(1) 地震防災はさまざまな学問分野が関連する横断的な課題であるため、理学、工学、行政学、経済学、医学、心理学、地理学、危機管理、市民防災といった幅広い内容をもつ、(2) 専門分野の異なる複数の学内教員だけでなく、研究機関や行政機関、災害ボランティアコーディネータなどからも講師を招く。				
授業計画	1回 地震防災科学の基礎 2回 災害と情報 3回 東海地震とはどんな地震か 4回 地震による災害1：津波災害 5回 地震による災害2：建築物の地震被害と対策 6回 地震・災害のリスクコミュニケーション 7回 災害ボランティア活動 8回 災害時のこころのケア 9回 災害時の医療 10回 震災と経済 11回 災害リスクガバナンス 12回 災害ボランティア活動 13回 地震に対する備え 14回 地理情報と地震防災 15回 リスク社会に生きる				
受講要件					
テキスト					
参考書	「地震防災」 里村幹夫（編著） 学術出版社 2008年発行				
予習・復習について	予習・復習合わせて週1時間程度は参考書や配布資料を読み、不明な点は図書館やネット検索するなどして自分で調べてほしい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の最後に試験または小レポートを出題し、それを採点する。欠席の場合その回は0点となる。最後にレポートの点数を合計し、評価を決める。				
オフィスアワー	木曜 9・10時限（前田恭伸）				
担当教員からのメッセージ	2004年度から始まった本学独自のユニークな授業です。地震防災の実現のためには、幅広い分野にまたがる文理融合的な知識が必要であることがよく理解できると思います。				

授業科目名	ドイツ語A-1				
担当教員名	中尾 健二		所属等	情報学部	
			研究室	J-2811	
分担教員名					
クラス	情1	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金5・6
キーワード	ドイツ語初歩、発音、文法				
授業の目標	ドイツ語の基礎を文法中心に学習していきます。このドイツ語A-1とドイツ語A-2は科目としては別個になっていますが、事実上は連続していて、1年間でドイツ語文法の基本を全体的に把握することを目指しています。				
学習内容	下記授業計画を参照。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 アルファベットと発音1 3回 アルファベットと発音2 4回 発音練習・基数の習得 5回 動詞の現在人称変化1 6回 格変化とは何か？ 7回 定冠詞と名詞・複数形 8回 不定冠詞と冠詞類・並列接続詞 9回 これまでのまとめと中間試験 10回 動詞の現在人称変化2・命令形 11回 人称代名詞・前置詞 12回 形容詞の格変化 13回 動詞の3基本形・過去人称変化 14回 前期のまとめと練習1 15回 前期のまとめと練習2				
受講要件	とくになし。				
テキスト	西本美彦他著『文法システム15』（同学社、¥2,000）				
参考書	とくに必要なし。ただし独和辞典は必須。ガイダンス時に説明します。				
予習・復習について	予習は必須。予習してこないと授業が成り立ちません。復習では、どこが理解できていないかチェックして、次の授業で教員に質問しましょう。				
成績評価の方法・基準	中間試験＋期末試験：70% 日常点：30%				
オフィスアワー	火曜日と金曜日の昼休み。その他メールでアポイントメントをとってください。				
担当教員からのメッセージ	初めて学ぶ外国語は楽しいけれどハードでもあります。しっかり取り組みましょう。				

授業科目名	電気電子材料				
担当教員名	喜多 隆介		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	工学部 E 棟 3 2 0	
分担教員名					
クラス	共通	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	導電体材料、超伝導体材料、半導体材料、抵抗体材料、誘電体絶縁体材料、磁性体材料、IC プロセス				
授業の目標	電気・電子機器に使われている様々な材料について、その基本的な物性を理解し、その具体的な応用について学習する。				
学習内容	現代社会には様々な電気・電子機器があふれており、これらは電気・磁気・光エネルギー等を様々な形で運用して動いている。それらを支えているのは様々な電気・電子材料である。本講義では、膨大な電気・電子材料を導電体材料、抵抗材料、半導体材料、磁性体材料、誘電体絶縁体材料に大きく分け、その機能と具体的な応用例について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子材料の種類とその機能 2. 導電体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金属中の電気伝導とバンド理論 ・ 金属導電体材料の特性（導線材料） ・ 特殊導電材料（接触子材料、ヒューズ材料等） ・ 超伝導体材料（超伝導現象、金属系超伝導材料、酸化物超伝導体） 3. 抵抗材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電流による抵抗体の発熱機構 ・ 精密抵抗材料、電流調整用抵抗材料、電熱・照明用抵抗材料 ・ 特殊抵抗材料（サーミスタ、バリスタ、感ガス、感歪、感磁、感光抵抗材料） 4. 磁性体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 磁気モーメントと磁性、磁性体の種類 ・ 磁区と磁化、軟磁性材料と硬磁性材料 ・ 磁気記録材料 5. 誘電体絶縁体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誘電分極とその種類及びメカニズム、誘電分散 ・ 強誘電体材料の種類 ・ 圧電効果 ・ 焦電効果 ・ 絶縁体の電気伝導 6. その他の材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ ディスプレイ用材料 ・ 炭素材料 ・ レーザ材料他 				
受講要件	固体物理の初歩について理解していることが望ましい				
テキスト	特になし。授業中に適宜プリントを配布する。				
参考書	一ノ瀬 昇 編著、電気電子機能材料、オーム社 キッテル著、固体物理入門、丸善				
予習・復習について	授業の十分な理解のために、授業中指示された予習・復習を必ず行うこと。理解度の確認のため授業中適宜演習を行い、レポート提出を課す。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電気電子材料における基本的な理解がなされたかどうか評価する。評価の配分は、試験 80%、演習・レポート 20%である。評価点が 60 点以上である場合を合格とする。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントを取ってから来て下さい。 terkita@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	身の回りの電気電子関係の機器に、どのような電気電子材料が利用されているのか、関心をもって調べてみることを薦めます。				

授業科目名	リスク分析				
担当教員名	前田 恭伸		所属等	工学部	
			研究室	A423	
分担教員名					
クラス	A	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月3・4
キーワード	リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、環境リスク、技術リスク、災害リスク				
授業の目標	リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションの概念を理解し、それら概念を使えるようになる。				
学習内容	工学システムは様々なメリットを社会にもたらしてくれるが、同時にリスクをもたらす場合が少なくない。ここでは、環境リスクを中心に、さまざまなリスクを評価し、それらを社会的に管理していくための考え方について学ぶ。				
授業計画	1回 1：リスクとは 2回 2：リスク分析とは 3回 3：リスクアセスメント 4回 4：環境リスクアセスメントの方法 5回 5：環境リスクアセスメント演習（1） 6回 6：環境リスクアセスメント演習（2） 7回 7：技術リスクアセスメント 8回 8：技術リスクアセスメント演習 9回 9：リスクマネジメント 10回 10：リスクマネジメントと意思決定論（1） 11回 11：リスクマネジメントと意思決定論（2） 12回 12：リスクマネジメント演習 13回 13：リスクマネジメントとリスク認知 14回 14：リスクコミュニケーション 15回 15：リスクコミュニケーション演習				
受講要件					
テキスト	瀬尾佳美著：「リスク理論入門」，中央経済社，2005，4-502-25080-5.				
参考書	池田三郎ほか：「リスク、環境および経済」，勁草書房，2004，4-326-50245-2.				
予習・復習について	授業中に数回の演習を課す。演習をクリアするためには、少なくとも復習をまめに行っておく必要があるだろう。				
成績評価の方法・基準	数回の演習を予定している。この演習の成果と期末試験によって成績を評価する。内容は（a）授業内容の吸収、理解により取得できる点（80%）（b）授業内容を理解し、それらを応用して取得できる点（20%）とする。				
オフィスアワー	木曜日 9・10時限				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	制御工学 I				
担当教員名	伊藤 友孝	所属等	工学部		
		研究室	M365		
分担教員名					
クラス	機械宇宙	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フィードバック制御系、ラプラス変換、過渡応答、周波数応答、安定判別				
授業の目標	<p>制御システムの記述・特性表現・解析法を理解することによって、システム的な捉え方・解析法を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 動的システムの記述と伝達関数によるシステムモデルの表現を修得 2 ブロック線図によるシステムの図式表現と等価変換による入出力伝達特性の導出 3 動的システムの過渡応答および安定性の解析法を修得 4 フィードバック制御系の感度・定常特性を理解し、また根軌跡法を修得 5 伝達関数と周波数特性の関係を理解し周波数特性の図式表現法を修得 				
学習内容	<p>機械的システムに限らず、種々のシステムにおいて、制御が適切に行われなければシステムとしての機能を果たすことができない。システムが複雑化・高機能化して行く中で制御の役割はますます重要となっている。制御工学 I は制御工学の基礎として、伝達関数に基づく動的システムの記述、応答・周波数特性解析、安定性解析の手法を学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 制御工学概要 2回 制御系の基本構成と目的、ブロック線図の基礎 3回 ラプラス変換（利点と基本的性質） 4回 逆ラプラス変換 5回 動的システムと伝達関数 6回 過渡応答（インパルス応答とステップ応答） 7回 過渡応答（極配置と高次系の応答） 8回 ブロック線図の等価変換による特性解析 9回 ブロック線図の等価変換による特性解析 2 10回 効果的な制御法（PID制御手法） 11回 システムの安定判別法 12回 周波数応答 13回 ベクトル軌跡とボード線図 14回 周波数応答からの各種特性判別 15回 ナイキストの安定判別法 				
受講要件	<p>制御理論は数学的色彩の強い学問であり、本講義においても常微分方程式や複素関数論の基礎的理解が必要となる。特にラプラス変換は重要な数学的道具となるのでしっかり修得しておくこと。</p>				
テキスト	「改訂 制御工学 上」（深海、藤巻 著、東京電機大学出版局、ISBN4-501-10650-6）				
参考書	以前の教科書である「フィードバック制御入門」（杉江、藤田 著、コロナ社）を持っている人は、それを教科書として使うことも出来る。				
予習・復習について	講義中に演習問題を解いて学習内容の習熟を行うので、それらをしっかり復習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	<p>期末試験で成績を評価する。期末試験では、講義範囲の中から制御系の特性解析や計算問題、図の描画等について出題する。成績評価の基準は以下の通りとする。</p> <p>秀・・・制御工学 I の全般の理解に優れ、かつ応用に優れる。 優・・・制御工学 I の全般が理解でき、かつ応用できる。 良・・・制御工学 I の全般が理解できる。 可・・・制御工学 I の基本が理解できる。 不可・・・制御工学 I の基本が理解できない。</p>				
オフィスアワー	時間割決定後、最初の授業時にオフィスアワーを公知する。なお、質問はオフィスアワーにかかわらず随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	本科目は、ロボットや各種機械装置を制御する際の必須科目となる。現在は、どの分野に進んでも制御が必要となるので、きちんと学ぶことが望ましい。				

授業科目名	宇宙工学				
担当教員名	山極 芳樹	所属等	工学部		
		研究室	R501		
分担教員名					
クラス	機械宇宙	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	木5・6
キーワード	宇宙、ロケット、人工衛星、軌道、推進				
授業の目標	宇宙システムの設計の基礎事項を修得し、基礎工学の理論が設計にどのように応用されるのかを理解する。個別には、宇宙工学の基礎知識の理解、宇宙システムの運動力学の理解、ロケット推進原理の理解、ロケットエンジン設計理論の理解を目標とする。				
学習内容	宇宙工学は、機械、電気、材料、物理、化学といった基礎工学を基に、宇宙システムという複雑なシステムを設計するための学問である。この講義の目的は、宇宙システムを設計するために基礎工学の理論がどのように使われているか理解し、その設計手法を修得することである。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宇宙システムとは？、宇宙システムの種類、宇宙工学とは？、宇宙開発の歴史 2. 宇宙環境（超高層大気の状態、宇宙熱環境、スペースデブリ） 3. 宇宙航行の力学（衛星軌道の種類、ケプラーの軌道、第一宇宙速度、第二宇宙速度） 4. 宇宙航行の力学（速度増分、ホーマン軌道、軌道の6要素、軌道面の変更、日照と日陰） 5. ロケット推進の原理（ロケット推進の種類・構成、推力と比推力、全推力、構造係数） 6. ロケット推進の原理（ツオルコフスキーの式、有効排気速度、ロケットの多段化） 7. ノズルの理論（ノズルの種類、最適膨張、ノズル内の流速、流量） 8. ノズルの設計（推力係数、特性排気速度） 9. 燃焼室の設計（燃焼室特性長、燃焼温度、燃焼速度、燃焼圧力） 10. 液体推進剤 <ol style="list-style-type: none"> 11. 固体ロケットの種類 12. 固体推進剤 13. 電気推進の設計（電気推進機の種類、イオンスラスタの構造と性能評価） 14. 推進剤不要の推進システム（テザー、ソーラーセイル、ほか） 15. 人工衛星の制御（スピン安定方式、三軸制御方式） 				
受講要件	運動力学、材料力学、流体力学、熱力学、電磁気学、制御工学、化学反応の基礎理論を理解していること。				
テキスト	教科書は特に定めない。随時、プリントを配布する。パワーポイント、ビデオを併用する。				
参考書	「宇宙工学入門」、茂原正道著、培風館、「ロケット工学」、木村逸郎著、養賢堂				
予習・復習について	講義の最後に次回の内容の予告をするので、参考文献等の関連の部分に目を通しておくこと。各講義の復習は演習問題も含めてしっかりすること。				
成績評価の方法・基準	<p>評価は期末試験を主として、講義中に行う演習の点数を加味して行う。内容は、(a)宇宙工学の基礎知識の理解と応用により取り得る点(40%)、(b)宇宙システム設計手法の理解と応用により取り得る点(60%) 評価の基準は下記のとおりである。</p> <p>秀・・・「宇宙工学」の全般の理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・「宇宙工学」の全般が理解でき、かつ応用ができる 良・・・「宇宙工学」の全般が理解できる 可・・・「宇宙工学」の基本が理解できる 不可・・・「宇宙工学」の基本が理解できない</p> <p>再試については、期末試験において不合格者が半数以上の場合のみ、評価点が50点以上のものに対して実施する。</p>				
オフィスアワー	毎週木曜日の9・10時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知下さい。				
担当教員からのメッセージ	講義時間内に、その時間の内容を理解するための演習問題を行なうことがある。電卓持参のこと。				

授業科目名	博物館概論				
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部		
		研究室	J-2629		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月1・2
キーワード	博物館、学芸員、生涯学習、パブリック				
授業の目標	博物館が、近・現代社会においてどのような社会的役割を果たしているのかについて、博物館史、博物館の現状等から考察するとともに、博物館において果たすべき学芸員の使命・職務内容等について、総合的な理解を図る。				
学習内容	欧米、アジア、日本などの博物館の歴史を確認するとともに、現代社会の中で、博物館とはいかなる存在か、あるいはどのような機能を果たしているのかについて理解を図る。また、学芸員の職に就く場合、どのような心構えと使命感が必要か、一方、例えば学芸員の職に就かない場合でも、学芸員の資格を有するものが社会に対して果たすべき役割とは何か、などについて考察する。				
授業計画	<p>1回 博物館学と博物館学芸員資格 博物館学関連講義、博物館学芸員資格の概要を説明</p> <p>2回 博物館の分類 設置形態、館種等による分類をおこなうことで、博物館と称される文化施設はいかなるものかを考察</p> <p>3回 博物館の歴史1 ヨーロッパにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>4回 博物館の歴史2 アメリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>5回 博物館の歴史3 アジア・アフリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>6回 博物館の歴史4 日本における博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>7回 博物館関連法規 博物館法その他博物館関連法規の紹介、その現状における問題点の指摘</p> <p>8回 学芸員の職務 学芸員の多岐にわたる職務内容とその問題点を指摘。また学芸員資格取得に関する問題を検討</p> <p>9回 博物館の組織と設備 博物館における人事・組織とその業務に必要な設備のあり方について考察、ボランティア、友の会などの外部組織と博物館組織の連携についても論及</p> <p>10回 博物館の運営 博物館活動を活性化させるための人材、資料、資金、情報等のマネジメントのあり方について考察</p> <p>11回 博物館資料の収集と保存 博物館資料の収集、保管について論及</p> <p>12回 調査研究機関としての博物館 博物館における調査研究活動のあり方を考察</p> <p>13回 博物館における展示 博物館活動の中心である展示のあり方について検討</p> <p>14回 生涯学習機関としての博物館 博物館における教育普及活動の諸様態を紹介</p> <p>15回 まとめ コミュニティの拠点としての博物館の役割</p>				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	鈴木真理編『博物館概論』（大堀哲監修『博物館学シリーズ』第1巻）樹村房 1999				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である				
成績評価の方法・基準	講義期間中の小レポート（10%）、期末試験（90%）により評価する				
オフィスアワー	授業中に指示する				

担当教員からのメッセージ	受講者には積極的に周辺の各種博物館を見学することを勧めます。
--------------	--------------------------------

授業科目名	博物館資料論			
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部	
		研究室	J-2629	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限
キーワード	博物館資料、実物資料、複製資料、保存と活用、展示、文化財保護、マネジメント			
授業の目標	博物館資料の収集、保管、展示、調査研究等の諸業務に関する基礎的な理解を図るとともに、日本における文化財保護行政やその中で博物館が果たすべき役割について考察することを目的とする。			
学習内容	博物館における資料の収集・保管、展示、調査研究等の諸業務について具体的な例をあげながら論じる。また、博物館資料の多くは、文化財（遺産）としての性格を持つことから、文化財（遺産）保護に博物館、あるいは学芸員がどのような貢献ができるかについても、実例をあげながら考察する。			
授業計画	<p>1回 博物館資料とは 博物館資料の概念を明確化するとともに、実物資料と複製資料の関係について論及</p> <p>2回 博物館資料の収集 博物館における基幹業務のうち、資料収集に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>3回 博物館資料の整理 博物館における基幹業務のうち、実物資料および関連データの整理に関する諸業務の実例を紹介</p> <p>4回 博物館資料の保存 博物館における基幹業務のうち、資料保存に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>5回 博物館資料の修理 博物館における基幹業務のうち、資料の修理に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>6回 博物館資料の保存と展示 博物館資料の保存に配慮した展示の実際について実例を紹介</p> <p>7回 博物館資料の調査研究 博物館における基幹業務のうち、資料の調査研究に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>8回 博物館資料の教育普及事業等への活用 博物館資料を用いた教育普及活動事業等の実例を紹介</p> <p>9回 複製資料の意義と活用 博物館活動における複製資料の役割について紹介</p> <p>10回 電子資料化の現状と課題 博物館資料の電子化の現状と今後の課題について概観</p> <p>11回 文化財保護の歴史と現状 日本における文化財保護の歴史と現状、文化財と博物館の関わりについて概観</p> <p>12回 文化財としての博物館資料 保存と公開という文化財保護法の理念に基づいた博物館資料の運営</p> <p>13回 文化財保護に果たすべき学芸員の役割 博物館学芸員資格保持者が、文化財保護にいかなる貢献ができるかを考察</p> <p>14回 文化財マネジメント 保存と活用のためのマネジメント</p> <p>15回 まとめ</p>			
受講要件				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する			
参考書				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である。			
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。試験の内容は、講義内容の理解、講義内容の応用が各50%。			
オフィスアワー	授業中に指示する。			
担当教員からのメッセージ	博物館や文化財の現場に触れる機会をできるだけ設けられることをお勧めします。			

授業科目名	ジェンダー論			
担当教員名	笹原 恵	所属等	情報学部	
		研究室	J-2825	
分担教員名				
クラス		学期	前期	必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限
キーワード				
授業の目標	本講義では、現代社会を考えるにあたって必須の課題、ジェンダーエクイティ（ジェンダー平等、男女平等）をすすめるために必要な社会認識及びそのための方法論（ジェンダー論）を学ぶ。本年度は、ジェンダーの観点から、メディア、学校、職場、家族などさまざまな領域を分析し、男女平等とは何か、男女平等の社会とはどのような社会か、またその実現のためには何が必要なのかを考えていくことにしたい。受講生は、本講義を通し、「ジェンダー」の視点からの社会システム構築やコミュニティデザインを考えていくことができる。			
学習内容	<p>1. ジェンダーとは何か ジェンダーgenderとは、社会的・文化的に決定される性の側面を表す概念であり、「女らしさ」「男らしさ」や、性別役割分業（家事・育児・介護の分担のあり方）、性別職務分離（いわゆる「男性」職、「女性」職など）といった社会編成全体に関わる概念である。まずは極めて複雑で、重層的な概念である「性」について、セックスsex（生物学的・解剖学的性）、セクシュアリティsexuality（性自認、性指向）、ジェンダーgender（社会的・文化的性）の3つのレベルにおいて理解する。</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー 性教育や性暴力の問題等などセクシュアリティに関わる問題やセクシュアルマイノリティが抱える悩みなどから、身体と精神の両方にかかわるセクシュアリティsexuality概念を深く見つめる。これらの問題から現代社会を照射することによって、近代社会システムの限界やこれからあるべき姿について考えていくことにしたい。セクシュアルマイノリティとしては、主にトランスジェンダー（性同一性障害を含む）と同性愛者や両性愛者の抱える問題点を考える。</p> <p>3. 現代社会とジェンダー～現状と課題～ 現代社会を「ジェンダー」の視点から分析し、メディア、学校、職場、家族におけるジェンダーの実態をとりあげながら、ジェンダー研究の基礎視角を学ぶ。また女性差別撤廃条約をはじめとする世界的な男女平等の流れを振り返り、日本における男女共同参画政策について概観する。</p>			
授業計画	<p>ガイダンス：ジェンダーを学ぶ意味～なぜ「ジェンダー」を学ぶのか</p> <p>1. ジェンダーとは何か *多様な性概念 セックス/セクシャリティ/ジェンダー *女性の人権の歴史：フェミニズムの歴史</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー *性暴力とは何か *セクシュアリティの今日的課題 *セクシュアルマイノリティ</p> <p>3. ジェンダーの現状と課題</p> <p>1) ジェンダーの社会化～ひとはどのようにして女/男になるか *メディアの中のジェンダー</p> <p>2) 学校・教育とジェンダー *学校におけるジェンダー問題－隠れたカリキュラムを考える－</p> <p>3) 職場におけるジェンダー *女性・男性に向いている職業ってあるの？－ *性別職域分離とは</p> <p>4) 家族とジェンダー *女性は自然に母親になる？ *家事・育児は誰の仕事？ *夫婦別姓を考える</p> <p>まとめ：男女平等・男女の対等性とは何か ジェンダーの変革のために何が必要か</p>			
受講要件	特にありませんが、ジェンダーについて真摯に学ぼうとすることが要件です。			
テキスト	特に用いず、適宜、プリントを配付します。			
参考書	授業中に紹介します			
予習・復習について	最低限の予習・復習としては、①授業を受けた上での小レポート提出（出席票）、②単元毎に課すまとめの中レポート（アサインメント）などを課しますが、受講生それぞれが自分の関心に応じた予習・復習や関連図書を積極的に読むことを期待します。			

成績評価の方法・基準	予習・復習などの小レポート：4割（プレゼンなど授業での発表や発言なども含む） 単元毎のレポート：2割 中間レポート（冬休み課題）：2割 最終レポート（受講生が関心をもつテーマで作成）：2割
オフィスアワー	金曜5・6限
担当教員からのメッセージ	例年の受講生をみていると、「ジェンダー」というと女性の問題と思っている人が大変多いのですが、ジェンダーとは女性と男性の関係性の問題であり、両性関係性にかかわる重要な問題です。私たちは無意識のうちに「ジェンダー」<女らしさ・男らしさ、女だから・男だから>にとらわれていますが、性概念の多様性に気づき、さまざまな性の存在に気づくことができれば、社会のあり方が違ったものを感じられるようになり、現代社会を考える上での重要な視点を得られると思います。そのためには、自身のものの見方・考え方を相対化することが必要になります。その学びが、皆さんの人生に、豊かさと幸福とをもたらすことを願っています。

授業科目名	情報学概論				
担当教員名	渡辺 尚	所属等	情報学部		
		研究室	J-1414		
分担教員名	竹林 洋一、藤井 史朗				
クラス		学期	前期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水1・2
キーワード					
授業の目標	「情報学」って何？情報学部ではどんなことを勉強するの？この講義はこれらの疑問に答えることが目的である。すなわち、皆さんがこれから学んでいく「情報学」とは何かについて、3人の教員が分担して授業を展開していく。情報学の内容と範囲は幅広い。この講義によって皆さんが情報学のイメージをつかみ、それがこの学部における今後の学習への鳥瞰図の働きをすることを期待する。				
学習内容	この授業は次の3部から構成されている。 第1部：「情報技術の進歩と将来」急速な進歩を遂げた情報技術について、発展の歴史、今後の進歩の予測とさまざまな可能性を述べる。(竹林) 第2部：「情報と人間・コンピュータ」基礎として、情報とは何か、情報を扱う（伝える、処理する、記憶する）とはどういうことかを学ぶ。(渡辺) 第3部：「社会と情報」情報と社会との関係、さまざまな新しい可能性と問題点を取り上げ、情報の可能性と問題点を説明する。(藤井)				
授業計画	第1部：情報技術の進歩と将来 第1週 ヒューマンインタフェースの進化 第2週 ウェアラブルコンピュータ 第3週 情報環境の進歩の光と影 第4週 情報から人・社会へ 第5週 情報技術と新しい学問産業の創出 第2部：情報と人間・コンピュータ 第6週 情報とは何か、情報とは、「情報を扱う」とは 第7週 情報を伝える 第8週 情報を処理する(1) 第9週 情報を処理する(2) 第10週 情報を記憶する 第3部：社会と情報 第11週 社会の発展にとって情報とは何か 第12週 情報社会の変遷と情報社会論の諸論点 第13週 情報化と個人・社会・コミュニケーションの展望 第14週 ITの活用と、新たな情報社会コミュニティの形成 第15週 情報とシステム(まとめ) 第16週 全体のまとめ				
受講要件	なし。				
テキスト	各教員が必要に応じてプリントを配布する。参考書も各教員が授業中に適宜指示する。				
参考書	第1部の参考書：『ミンスキー博士の脳の探検 ー常識・感情・自己とはー』、共立出版 2009 第2部の参考書：『次世代データベースとデータマイニング』、CQ出版、2005 第3部の参考書：岡田・藤井編『情報社会の見える人、見えない人』、公人社、2000				
予習・復習について	1回の授業につき、予習と復習合わせて週1時間程度。				
成績評価の方法・基準	情報学について「初歩的な知識を得て理解する」ことや「考える」こと、「学習する習慣をつける」ということを目的としている。 竹林・渡辺の担当部分はレポートによる。藤井の担当部分は質問票及びレポート、小テストによる。最終的に3部を統合し、授業の出席数、授業態度を考慮して成績を評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					